

法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-07-28

理財學講義

ル, ヴヒリヨー

(出版者 / Publisher)

和佛法律學校

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

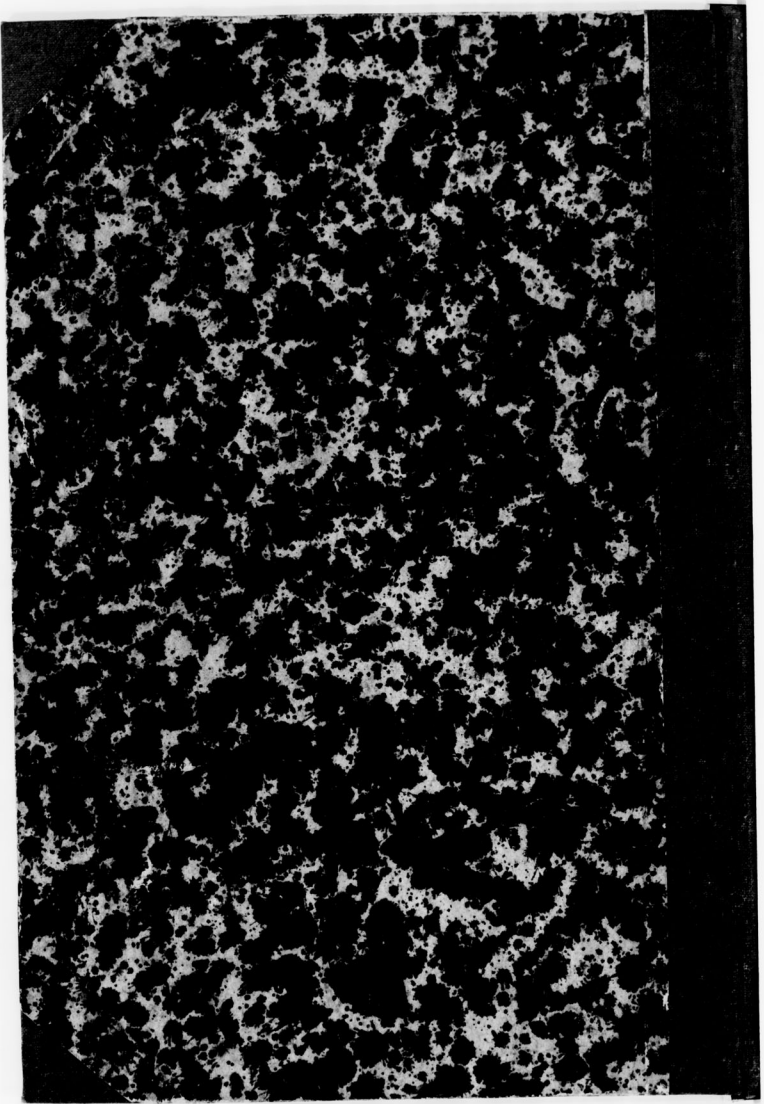
和佛法律學校講義録 / 和佛法律學校講義録

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

154



9000



0007

理財學講義目錄

緒言	二
第一章 產業組織	七
第二章 社會組織	十一
第一項 家族	十一
第二項 國家ノ工業ニ付キ生スル諸説	三十四
第三章 現今社會ノ顯象	九十三
第一項 會社	九十三
第二項 生産ト勞働トノ關係	百二
第三項 生産的勞働ノ結果	百十
第四項 生産ト消費トノ關係	百二十三
第五項 生産力	百二十七
第一款 土地及ヒ自然力	百三十三

(目錄)

二

第二款 勞働	百三十四
第三款 財本	百四十一
第四章 産業	百四十九
第一項 産業ノ種別	百四十九
第二項 産業規則	百五十六
第五章 奢侈及ヒ人口	百八十五
第一項 奢侈	百八十五
第二項 人口	百九十三
第六章 交易	二百八
第七章 貨幣論	二百十二
第一項 紙幣	二百二十三
第二項 單本位復本位ノ問題	二百三十八
第八章 國際商業	二百六十三
補遺 婦女ノ勞働	二百九十四

理財學講義

佛國法律博士
帝國大學教授
本校講師

ルヱリヨ 先生口述

本校佛語法律科
生徒

大橋日出生君翻譯筆記

本學科ノ講義ハ先生カ本校佛語法律科第二年生ノ爲メニセシモノナリ
蓋シ第一年級ニ於テ既ニ普通理財學ノ大意ヲ講セラレタル後ナレハ本
學科ノ初歩ニ當リ説明スヘキ定義解釋等ハ極テ簡單ニ説キ去レリ然レ
トモ簡單ナル説明ノ中ニ深意ノ存スルモノアリ且夫原書ヲ熟覽シテ之
ヲ翻譯スルモ猶其深義微旨ノ寫シ難キニ苦シムコトアリ況ンヤ其口述
セヨ所ヲ筆記シ又之ヲ翻譯セシモノナレハ或ハ先生カ講義ノ儘ヲ摸寫
スル能ハサルモノアラソ讀者幸ニ旨意ノ存スル所ヲ考察シテ輕々看過
スル無ンハ則チ可ナラン

筆記者 識

(理財學)

(再版) 一

緒言

理財學トハ吾人ノ實利ニヨリテ「(utilité)及ヒ吾人ノ天性ト欲望トヲ満足セシムヘキ方法ヲ攻究スルノ學ニシテ道德學法律學等ト共ニ社會學ノ範圍ニ入ルモノナリ」

理財學ニ於テ論スル所ノ實利ナル語ハ其意義甚タ汎濫濇博ナルモノナリ而シテ人カ此實理ヲ得ルノ難易ハ大ニ社會ノ制度如何ニ關スルモノトス故ニ理財學ハ社會ノ良好ナル法則秩序ヲ論定セント欲スルモノナリ

理財學ハ佛語ニテ「エコノミーポリチック」(economic politique)ト云フ「エコノミー」ナル語ハ一家經濟ナル意義ヲ有スル希臘語「オイコノミヤ」(oikonomia)ヨリ來リ之ニ「ポリチック」(Politique)即チ國家的ナル形容詞ヲ添ヘ以テ其意ヲ擴充シ國家經濟ノ義ヲ付シタルモノナリ

人ハ天然物ニ勞力ヲ加ヘ以テ産業ヲ營ムモノナリ太古ニ於テハ各人孤立シテ

産業ヲ營ミシモ社會文明ノ進歩スルニ從ヒ孤立主義ハ次第ニ消滅シ方今ニ於テハ産業悉ク協力的ノモノトナリタリ理財學者ハ宜シク此等産業ノ效力效果ヲ論究スヘキナリ

人ハ勞働スルコト非レハ萬般ノ需用「ブツワン」(besoin)ヲ充タスコトヲ得サルナリ而シテ需用ニ二種アリ一ヲ有形的「フシツク」(Physique)ノ需用ト云ヒ一ヲ無形的「モラル」(morale)ノ需用ト云フ蓋シ衣食住ノ如キハ有形的ノ需用品ニシテ智識才能ノ如キハ無形的ノ需用物ナリ夫レ需用ノ多少ハ一定不變ノモノニ非ス時ト處トノ異ナルニ從フテ差異ヲ生スルモノナリ例ヘハ歐米人ノ需用ハ亞非利加人ニ超ヘ野蠻時代人民ノ需用ハ小ニシテ文明人ノ需用ハ大ナルカ如シ又太古各人孤立シテ産業ヲ營ミシ時代ニ於テハ一人ノ需用ハ己レ一人ノ勞働ノミコト充タサレシモ今日ニテハ協全合力シテ以テ産業ヲ營ムコトナリタレハ一人ノ需用ハ他ノ數人ノ勞働ニヨリテ充タサルハニ至レリ是ニ於テ各人ノ間ニ相互ノ關係ヲ生セリ而シテ此關係ハ勞役セルヴィス「サービス」ト交換「エシヤン」(échange)トニ由リテ生ズ即チ人其勞役ヲ以テ他ノ勞役ニ換ヘ或ハ勞役ヲ

以テ價額「ヴァール」(Valeur)ニ換ヘ或ハ價額ヲ以テ價額ニ換フルカ如シ勞役トハ需用者ニ供給スヘキ才智藝能ヲ云ヒ價額トハ或ル有用物ノ交換力アルモノヲ云フナリ

人ノ勞役及ヒ價額ノ交換チナスハ通常ノ場合ニ於テハ己レチ利センカ爲メナリ然レトモ時トシテハ慈仁正直ノ感情之カ原因トナルコトモ往々之アルモノナリ

以上ハ理財學ニ於テ論究ス可キ主要ノ點ナリ而シテ茲ニ最モ注意スヘキコトアリ他ニアラス理財學ヲ論究スルニ當リテハ主トシテ人ニ付テ論スルコト是レナリ之ヲ換言スレハ富リシエツス」(Richesse)ヲ論スルニハ必ス人ニ關シテ論スヘクシテ決シテ富自體ノミヲ攻究ス可キモノニ非ルナリ

理財學ヲ攻究スルニ二箇ノ學派アリ其一ヲ純理學派(École philosophique)ト云フ此二學派ハ執レモ諸大家ノ主張スル所ナリ純理學派ハ專ラ理論ヲ以テ理財學ヲ論スルモノニシテ必シモ實際ノ事實ニ着眼スルコトナク先ツ理論上

一大原則ヲ定メ之ニ本ツキテ以テ純粹的ニ「デアクシオン」(Diction)衆多ノ疑問ヲ決定セントスルモノナリ之ニ反シテ沿革學派ニ在リテハ主トシテ過去及ヒ現在ノ事實ニ注目シ歸納的アンチエクシオン」(Induction)ヲ以テ未來ノ疑問ヲ決定セントスルモノナリ

此二學派ハ各長所ヲ有スルモノニシテ純理學派ハ社會ヲ改良シ人民ノ幸福ヲ増益スルニ適シ沿革學派ハ實行スヘカラサル空論ヲ斥ケ人ヲシテ平實穩當ノ方法ニ從ハシム此ノ如ク二學派各長所ヲ有スルヲ以テ若シ專ラ一方ニ偏スル時ハ未タ以テ完全ナルモノト爲スヘカラス故ニ理財學ヲ攻究スルモノハ此二學派ノ説ク所ヲ通觀シ其要點ヲ併論ス可シ是レ理財學ヲ進歩セシメ且空論ニ陷ラシメサル最良手段ナリ故ニ余ハ此折衷主義ニ依リテ以テ斯學ヲ講述セント欲スルナリ

理財學ハ決シテ孤立スヘキ學問ニアラサルナリ之ヲ攻究スルニ當リテハ必ス他ノ諸學科ノカヲ借ラサルヘカラス先ツ史學「イストワール」(Histoire)ニ通曉スルヲ要ス蓋シ歴史上ノ事實ハ大ニ一國ノ理財ニ關係ヲ有スルモノナリ又地理

「ゼオグラフィエ」(Géographie)地質「ジオロジー」(Géologie)農業「アグロノミー」(Agronomie)工業「テクノロジー」(Technologie)統計「スマチナスタツク」(Statistique)ノ諸學科ハ概略タリトモ之ヲ知ラサルヘカラス例ヘハ一國ノ地理形勢ヲ知ルトキハ彼ノ富ノ富ノ流通方法自由貿易保護貿易及ヒ産業組織ニ關スル問題ノ一部分ヲ決定シ得ヘキカ如シ之ヲ要スルニ人若シ前ニ掲ケタル諸學科ヲ熟知スルトキハ理財學ヲ論スルニ當リテ大ナル誤謬ヲ免レ得ヘキナリ

理財學ニ於テモ道德法律ノ原則タル正義「ジユスチース」(Justice)公平「エキテ」(Equité)ヲ考ヘ社會問題ヲ決スルニ當ツテ之ニ適合セシムルコトヲ勉メザル可ラス其レ理財上ニ於テ決定シタル處分ノ効力ヲ永遠ニ持續セシメントスルニ缺ク可ラサルノ要件ナレハナリ然リ而シテ人或ハ己ヲ利スルコトヲ以テ悉ク道德ニ反スルモノト思考スルモノアリト雖トモ決シテ然ラス苟モ不義ノ性質ヲ帶ヒサル以上ハ己ヲ利スルコトモ道德ニ反スルモノト謂フ可ラサルナリ

理財學ノ要用ナルコトハ今更辯ヲ費スヲ須タサルナリ立法者ハ益ス斯學ノ原則ヲ應用シ社會ノ進歩ヲシテ不斷ナラシムルコトヲ謀ラサルヘカラス方今人

産業組織

民ハ大ニ政治上ノ自由平等ヲ得タリト雖トモ退テ其内部ヲ窺ヘハ貧富ノ懸隔日ヲ追テ甚シク社會經濟上ノ自由平等ニ至リテハ之ヲ得ント欲スルコト益ス難シ夫レ此自由平等ヲ人民ニ與フルハ外觀上頗ル危險ナルカ如シト雖トモ是レ吾人ノ力ヲ盡シテ求メサル可ラサル所ノモノニシテ一日モ躊躇スヘキニ非ラサルナリ

第一章 産業組織オルガニザツシヨシ、エン

ジユストリエル「Organisation industrielle」

太古ノ孤立主義ハ既ニ消滅シテ今日ハ一般ノ勢力皆協同合力的ノ者トナレリ其協同勢力ノ結果トシテ勢力ノ分擔ヲ生セリ之ヲ今日産業組織ノ常態トス産業組織ニ二アリ一ハ自然ヨリ成ル産業組織ニシテ一ハ人為淘汰ヨリ成ル産業組織是レナリ此ノ如ク社會進歩シテ協同勢力ノ發達スルハ實ニ至要ノ事ナレトモ淺才ノ人ハ其効果ヲ知ラス屢ハ之ヲ排斥スルコトアリ然レトモ沈思熟考

セハ何人ト雖トモ其鴻益アルコトヲ知ルニ難カラサルナリ
 上文ニ所謂協同努力ハ分業「デヴ・ジョーン・デ・ニトラヴ・ハ・ネ」(Division du travail)ヲ
 生セリ分業トハ交換ノ目的物タル實利ヲ生センカ爲メ各人ノ間ニ努力ヲ分擔
 スルコト是レナリ而シテ分業ハ努力ノ効驗ヲシテ大ナラシムル一大要素ナリ
 トス凡ソ社會ノ生産ハ必シモ之ニ用ユル筋力ト正比例ヲ爲スモノニアラス今
 生産ニ用ユル筋力ハ同一ナルモ唯分業ノ一事アルカ爲メニ生産額以內ニ百倍
 セシコトアルハ屠ハ吾人ノ實驗スル所ナリ然リ而シテ分業ノ利益ハ管ニ此ニ
 止ラス分業ニヨリテ人ハ容易ニ其業務ニ從事スルコトヲ得ヘク又從テ同一ノ
 業務ヲ永ク繼續スルヨリ産業ノ熟練ヲ來タシ以テ幸福ヲ増進スルコトヲ得ヘ
 シ加之分業ハ生産ノ平均ヲ保持スルモノナリ夫レ一旦分業ノ起リシヨリ各種
 ノ職業ハ互ニ相牽連シ一職業ニ需用ヲ生スレハ他ノ職業モ亦直チニ需用ヲ感
 シ延テ一般ニ及ヒ決シテ一職業ノミ獨リ隆盛ヲ來シ他ノ職業ハ皆爲ニ衰退ス
 ルカ如キ危險アラサルナリ是レ大ニ發達改良シタル生産事業ニ於テ殊ニ其然
 ルヲ見ルヘキナリ

需用ニ
 必要ト
 奢的ト
 二種
 アリ

分業ハ生産「プロダクション」(Production) 増加シ從テ消費「コンソムマシオン」
 (Consumption)ヲ容易ナラシム消費ヲ容易ナラシムルニ因テ又人ノ需用ヲ増加
 スルモノナリ
 需用ニ二種アリ第一ヲ必要の需用「ブヅワンド、ブルミエール、チセシテ」(Besoin
 in de premiere necessité)ト云ヒ第二ヲ奢侈的ノ需用「ブヅワンド、ド、リニックス」(Besoin de luxe)
 ト云フ何ヲカ必要の需用ト云ヒ何ヲカ奢侈的ノ需用ト云フヤ此間ニ對シテ
 ハ決シテ絶對的ニ答ヲ爲スヲ得サルナリ蓋シ人ノ需用ハ時アリテ其多少ヲ異
 ニシ又其必要ノ度ヲ異ニスルモノナレハ往昔ニアリテハ奢侈品ナリト稱セラ
 レシモノモ今日ニアリテハ必需品ト爲ルモノアリ二十年前ト今日トハ既ニ異
 ナルアルヲ知ルヘシ然ラハ則チ今ヨリ後又二十年ヲ經タランニハ現今ニ於ケ
 ル奢侈品モ反テ必需品ト爲ルコトアルヲ知ルヘキナリ是故ニ必需品ト奢侈品
 トノ分界ニ關シテハ關係のノ斷定ヲ下サ、ル可ラス
 奢侈品ノ日チ進テ必需品ト變シ以テ人ノ需用ヲ増大ナラシムルコトハ是レ社
 會ノ爲メニ喜フ可キコトナルヤ將タ憂フ可キコトナルヤハ理財學者ノ問ニ於

大ニ議論ノアル所ナリト雖トモ余ハ謂ラク是レ喜フ可キコトニシテ決シテ
 憂フ可キコトニ非スト何トナレハ一國若シ饑饉ニ罹ルカ又ハ他ノ變災ニヨリ
 テ人民困難ニ陥リタリトセンニ此場合ニ於テハ奢侈品ヨリ得ヘキ快樂ヲ拋棄
 シテ必需品ヲ需用スルコトヲ得ヘケレハナリ之ヲ換言スレハ困難ノ時ニ當リ
 テハ生活ニ不急ナル物品ヲ捨テ、之ニ急ナル物品ヲ取ルコトヲ得ヘシ若シモ
 最初ニ奢侈品ナカリセハ何ヲ以テカ必需品ノ供給ヲ仰キ以テ一時ノ急ヲ濟フ
 ナ得ンヤ且夫レ一國需用ノ増加ハ供給ノ方法ト相伴フモノナレハ困難ノ場合
 ニハ此生産力ヲ應用シテ以テ必需品ヲ供給スルコトヲ得ヘシ而シテ反對論者
 ハ往々此ニ着眼セサルナリ
 又分業ノ行ハル、時ハ縦へ饑饉等ノ爲メニ奢侈ノ需用ヲ省減セサレハ必要ノ
 需用ヲ充タスコト能ハサル場合ニ遭遇スルモ直ニ之ニ應シテ必需品ヲ生産ス
 ルコトヲ得ヘシ故ニ余ハ需用ノ増加ノ可否如何ノ問題ニ對シテハ多クノ理財
 學者ニ反シ(需用ノ増加シ及ヒ供給「サチス」フアクシヨシ)ノ増加ハ少
 シモ社會ニ弊害ナキモノナリト斷言スルヲ憚ラサルナリ而シテ余ハ茲ニ理財

(再版)十

學上大法則ノ存スルコトヲ認ム即チ第一需用ノ増加ハ供給ノ増加ノ直接原因
 タル第二故ニ生産力カ需用ノ増加ヨリ超過スルコトハ惟一時ニ止マルモノナ
 ルコト是レナリ併シ此等ノ點ニ付テハ疑問ナキニ非サレハ後日之ヲ再論スル
 コトヲ怠ラサルヘキナリ
 余ハ今進ンテ勞力及ヒ勞力ノ有スル生産力ニ關シテ社會ノ組織ヲ論セントス
 而シテ先ツ左ニ其法則ヲ掲シ

- 第一産業組織ハ其存在スル社會ノ情況ニ照合スルモノナルコト
- 第二産業組織ハ社會ノ自由發達スルニ從フテ益ス有力ナルコト
- 第三産業組織ハ社會ニ包含セラル、モノナルコト

(第二回)

第二章 社會組織
第一項 家族ファミリー(Family)

(理財學)

(再版)十一

元始社會ニ溯テ工藝組織オルガニザシヨシ、エムシヨストリエーシヨ(Organisation industrielle)ノ形狀如何ヲ考フルニ其關係スル所ハ實ニ少々ニテ唯一家族ノ間ニ存セシモノ、如シ故ニ此社會ニ在テハ家族ハ甚ダ緊要ナル位置ヲ占ムルモノニシテ即チ一ニハ勸善的運動者ラシヤン、モラリザツィエ(L'agent moralisateur)トナリ一ニハ社交的運動者、ル、フ、ア、ク、ツ、ィ、ル、ン、シ、ヤ、ル、(Le fauteur social)トナリ社會活動ノ原ハ一家族ニ在ルモノ、如ク而シテ家族中ニ家長パーター、フ、ア、ミ、リ、ヤ、ー、ス(Pater-familias)ナル威權者アリテ勞働ヲ其一族中ニ配當シ其向フ所ヲ定メシメ其他凡百ノ事皆ナ其意ノ向フ所ニ由ラサルハナシ即チ家長ノ意思ハ全家族ノ意思ナリ左レハ權利ハ悉皆家長ノ掌握中ニ歸シ而シテ個人財產、フ、ロ、ア、リ、エ、テ、ー、エ、ム、ヂ、ビ、ヨ、ニ、エ、ー、ル、(Propriété individuelle)其跡ヲ絶チテ集合財產「フ、ロ、ア、リ、エ、テ、ー、コ、レ、ク、シ、ヨ、ン、テ、ー、ル、(Propriété collective)ト化シ多少共通財產ノ形狀ヲ存スルト雖トモ之カ處分ハ家長ノ自由自在ナリ又一家族ノ需用ハ其家族内ノ各人ノ勞働ニ由テ充タサル、ヲ以テ之ヲ他ニ求ムルノ必要ナク從テ交易ナルモノハ殆ント絶無ノ有様ナリ蓋シ當時ノ社會ハ重モニ營農家族「フ、ア、ミ、エ、ア、

グ、リ、コ、ー、ル、(Famille agricole)ヨリ成立シ需用甚々僅々ニテ其需用物品ハ唯土地ノ生産物ニ止マリシナリ然レトモ需用ハ漸次其數ヲ増加シ到底内地ノ生産物ノミニテハ充分ナラサルヨリ終ニ供給チ外地ニ仰カサルヲ得サルニ至レリ而シテ其需用ヲ充タスノ方法漸次容易ナルニ從テ其需用益々多キヲ加フルニ至ル是レ自然ノ道理ナリ請フ之ヲ左ニ證明セン

夫レ重要ナル發明アルニヨリテ土地ノ生産ヲ容易ナラシムルハ則チ需用ヲ充タス可キ生産力ニ餘裕ヲ生スルナリ生産力ニ餘裕ヲ生スルニ至レハ從テ需用ヲ増加スルノ道ヲ求メサルヘカラス需用ノ數既ニ増加スレハ從テ供給ヲ外地ニ仰キ以テ已レテ満足セサルヘカラス此最後ノ時期コン實ニ往古家族ノ其跡ヲ絶ツノ日ナリ家長權ノ減少シテ不羈獨立ナル理想ノ湧出シ來ルノ日ナリ是故ニ今日ニ至リテハ家族内ノ工藝組織ハ一變シテ威權ヲフ恐物ノ痕跡タモ留ムルコトナク經濟ノ基礎根本ハ總テ一個人ニ存スルコト、ナレリ其一個人ニ存スルニ至リテ始メテ非常ナル生産力ノ生シ來ルヲ見ルナリ然レトモ此ニ注意スヘキハ家族ハ往古ノ特性ヲ除去シタルトハ云ヘ其社會ニ必要ナルノ一

點ニ於テハ毫モ往古ト異ナル所ナシ何トナレハ家族ハ社會ノ活動ヲ良好ナラシムルニ缺クヘカラサルモノナリ何ヲ以テ之ヲ言フ一方ニ於テハ彼レハ勸善の運動者ナリ彼レ微リセハ急チ社會ノ分離ヲ來タスヘシトハ他ニアラス勸善的ノ運動ハ獨リ家族内ニ於テ實行シ得ルモノニシテ家族外ニ向フテハ之ヲ實行スルノ道ナケレハナリ蓋シ勸善的ノ運動ハ通語ノ所謂家族ノ注意、ソワン、ド、ラ、ファミイ、(Soin de la famille)ト稱スルモノニシテ金錢上ノ注意、ソワン、ネセセール、(Soin mercenaire)ト相對スルモノナリ抑モ兒童カ智識ヲ養生シ勇氣ヲ養成シ後來社會ノ活動ヲ左右シ得ルニ至ルハ是レ果シテ誰レノカンヤ他ナシ家族ノ力ナリ即チ家族ノ汲々トシテ之ヲ養生セルニ意ラサレハナリ而シテ兒童カ成人ノ後チ資産ヲ封殖シ節儉ニ汲々トシテ益々社會ノ繁榮ヲ致スコトヲ希フニ至ルハ是レ又誰レノカンヤ他ナシ亦父母カ教戒ノ然ラシムル所ナリ吾人ハ後ニ資産ノ必要ナル所以ト其社會ニ於テ有スル位置如何ヲ知ルナラン此點ニ於テモ亦以テ家族ノ社會ニ必要ナル所以ヲ覺トリ即チ資産轉帳ノ社會ニ絶ヘサルハ是レ全ク家族ノ成立ヨリ生スル結果ナルヲ知ルヘキナリ今家族ヲ異ニセ

ハ二人ノモノ新家族ヲ組成センカ爲メニ合シタルトセハ其二人ハ共ニ己レノ有スヘキ家族ノ配分資産ヲ集合シ愛ニ一ノ新資産ヲ形成スヘシ是レ則チ資産ノ轉帳ナリ而シテ吾人ハ此資産轉帳ノ方法ハ他ニ擇ンズルヲ見ル他ナシ資産ノ性質ハ之カ爲メニ變スルコトナケレハナリ終ニ臨ンテ一言スヘキハ夫ノ重大ナル相續法モ亦タ家族ノ思想ヨリ流出スルモノナルコト是レナリ
吾人ハ前ニ述ヘタル如ク家族ノ社會ニ必要ナルコトヲ認メタルニモ拘ハラズ或二三ノ理財學者ハ吾人ニ向テ反駁ヲ加ヘ其利害ヲ抽象的ニ論シ剩サヘ家族ハ社會ニ有害無益ノモノナレハ之ヲ絶滅セサルヘカラス而シテ長子權ハ無害ノモノナリ之ヲ存スルモ可ナリト説クニ至レリ然レトモ此説タルヤ事物ノ實際ヲ觀察セサルノ妄説ナリ
猶ホ前キノ説者ニ向フテ一撃ヲ加ヘサルヘカラサルコトアリソハ他ニアラス説者ハ已達事實「フェリアツキ」(Fait acquis)ノ社會ニ有カナルコトヲ認メサルコト是レナリ已達事實ノカニ由ラサレハ萬事皆チ其功ヲ奏セサルコトヲ知ラサルコト是レナリ夫レ然リ家族ハ已ニ古昔ノ位置ヲ去リタリト雖トモ猶ホ工藝組織ノ社



會事變ニ大影響ヲ波及スル以上ハ其社會ニ大關係ヲ有スルコトヲ知ル可ナリ則チ兒童ヲノ後來處世ノ準備ヲナサシムル者ハ家族ナリ立法者ヲ類ハサハルヘカラサル兒童ノ浪費ヲ抑制保持スル者モ亦家族ナリ終ニ既婚婦女カ社會ニ於テ有スヘキ位置ヲ求ムルノ必用ヲ感スルモ亦是レ家爵ノ存スルアレハナリ元始社會ニ於テ存セシ婦女附從ノ關係リアンドラ、デパンダニス(Juan de la deñen-Janes)ハ今日ト雖トモ之ヲ全廢スヘキコアラス夫權ニ對シテ一ノ獨立ナル婦權ヲ創立スル如キハ是レ却テ社會ニ有害ニシテ此二權ノ爭鬪ヨリ終ニハ拾収スヘカラサル混雜ヲ來スニ至ルヤ必セリ然ルニ此點ニ付テハ其國ノ習慣風俗ヲ考察セサルヘカラス常ニ絶對的ノ附從ニ流レサルコトヲ服膺セサルヘカラス是ニ由テ之ヲ觀レハ此問題ハ實ニ重要ニシテ錯雜ナル問題ナリ然リ而シテ此問題ヨリ流出スル要點ヲ示サハ第一婦女ニ附與スヘキ自由ノ度如何第二其所
有財產管理權ノ程度如何第三夫ノ生計ヲ營ムニ拙ナルカ又ハ其行フ所ノ事不徳ナルカ此二者ノ中一ノ存スルトキニ當テハ之ヲ矯正センカ爲メ婦女ニ附與スヘキ方法ノ度如何等是ナリ

政治社會

然レトモ理財學者ハ此等疑問ノ點ニ就キテ其蘊奧ヲ究ムルコトヲ要セス唯一般ノ思想ヲ發揮シテ之ヲ説明セハ可ナリ蓋シ此問題ヲ決定シテ之ヲ實際ニ應用スルハ是レ立法者ノ職務ナリ故ニ吾人ハ茲ニ之ヲ研究セスシテ他日民法ヲ講究スルトキニ於テ詳述セント欲スルナリ
左レハ理財學ニ於テハ徒ニ理論ニ馳スヘカラス須ラシ理論ノ境域ヲ離レテ事實ノ點ニ觀察ヲ下シ以テ難題ヲ決スヘキナリ之ヲ換言セハ事實ノ觀察ハ理財學上ニ於テ必要缺クヘカラサル條件ニシテ此條件ヲ履ムニアラザレハ有益ナル理財上ノ事實ヲ完成スルコト蓋シ容易ナラサルヘシ是ヲ以テ理財學ヲ講究スルニ當テハ必スヤ其之ヲ講究スル所ノ世界ト社會トニ應ノ其方法手段ヲ異ニセサルヘカラス一國ニ於テ可トシ是トスル所ハ必ス他ノ諸國ニ於テモ可ナリ是ナリト云フカ如キハ是レ實際ヲ察セサルノ僻說ニシテ固ヨリ取ルニ足ラサルナリ蓋シ今日ハ昔日ト異ナリ且現在ニ於テ社會事物ノ差異ハ稍ヤ減少スルノ傾向アリト雖トモ未ダ絶無ニ至ラサルノミナラス猶其存スルモノ甚タ多シ即チ一國ノ事實ハ大ニ他國ノ事實ト相ヒ異ナルモノアリ左ニ之ヲ詳述セン

政治社會
組織ノ順

聚
族

移住ノ運
動滯滯ス

(再版)十八

元始時代ニ於ケル人類社會ノ狀態ハ何レノ國モ略其趣ヲ一ニセリ蓋シ政治社會組織ノ第一着手ヲ爲シタルモノハ聚族トリヒ(Tribes)ナリ聚族トハ何ソヤ即チ前文ニ述ヘタルカ如ク一ノ家族カ自領境土ノ狹隘ナルヨリ他領境土ノ資力ヲ假ラサル可ラサルノ必要ヲ生シ遂ニ數家族相聚合シタル一ノ團結體是レナリ夫レ需用未タ夥多ナラス又自領ノ土地ニ產物アリテ能ク其ヲシテ満足セシメタルノ時ニ在テハ家族ハ孤存子立スルモ亦敢テ不便ヲ感セザリシヤ論ヲ竣タサルナリ然レトモ物換リ星移リ家族ハ必要上相聚合シテ一ノ聚族ヲ形成セサルヘカラサルニ至リ從テ其需用一層ノ多キヲ加フルヲ以テ曩ニ採取シテ需用ヲ満足シタル土地モ複其用ヲナスニ足ラサルナリ是ニ於テカ給ヲ外地ニ仰キ以テ其不足ヲ補ハサルヲ得ス是レ吾人カ此聚族ノ益ス増加シ其需用ノ愈ヨ大ナルヲ見ル所以ナルカ

然ルニ漸次相聚合スルノ方針至ク一變シ移住ノ運動ハ稍ヤ滯滯ノ形勢ヲ顯ハシ遂ニ今日ノ如キ定住ノ狀態ヲ呈出スルニ至リタルハ抑モ何故ソヤ此疑問ニ對シテハ正確ノ決定ヲナス能ハスト雖トモ竊ニ然ル所以ノ故ヲ考察スルニ其

一 理
二 理

原因タルヘキモノ蓋シ數多アリ而シテ其原因中最モ大影響ヲ與ヘタルハ果シテ如何ナルモノナルヤ

今一方ヨリ之ヲ考察スルニ聚族ハ人口益ス増加シ其需用モ亦愈ヨ大ナルニ從テ生産ノ諸機械即チ日用什器ノ多キヲ加フルニ至リタルヲ以テ妄リニ移住ノ運動ヲ爲ス能ハス是レ則チ移住運動ノ極點ニ達シタル理由ノ一ナリ

又々他ノ一方ヨリ之ヲ考察スレバ人口ノ増殖シ需用ノ増加シ此ニ日用什器ノ多ヲ加ヘタルハ是レ實タニ一聚族ノ上ニノミ生シタル事實ニアラス必スヤ他ノ數多ノ聚族モ此事實ヲ生シタルナラン然ラハ則チ此等ノ聚族ハ人口ノ増殖ト需用ノ増加トヲ支ヘンカ爲メニ各其封境ヲ開拓シ遂ニ合封境ノ間ニ於テ復尺寸ノ空地タモ存セサルニ至ルヘキナリ此時ニ當リテ假令一ノ聚族カ自ラ其領地ヲ去リテ他ニ移住セント欲スルモノアルモ其勢道ヲ他領ニ假ルニアラスンハ其目的ヲ達スル能ハス而シテ假ルハ固ヨリ容易ノ事ニアラスシテ爲メニ屢ハ抗抵ハ難ニ遇ヒ一大修羅場ヲ現出スルコトモアルヘシ故ニ若シ強ク移住ノ目的ヲ達セント欲セバ豫メ攻戰ノ用意ヲ爲シ成敗ヲ天ニ聽カサルヘ

(理財學)

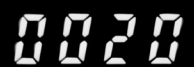
(再版)十九

言語ノ差異

度ニ至ルマテ各聚族互ニ其趣ヲ異ニスルハ是レ自然ノ道理ナリ今ヤ吾人ハ各
國事物ノ差異アル所以チ知リタルヲ以テ更ニ一步ヲ進メテ其差異中最モ吾人
ノ耳目ヲ擊刺スベキモノハ則チ言語ノ差異ナルコトヲ開陳セン
夫レ聚族ノ未タ民族ヲ組織セザルトキニ當テヤ聚族ハ個々孤立ノ位置ヲ保テ
他ノ聚族トノ相交通スルカ如キハ極メテ稀ナリ故ニ其言語モ亦互ニ混合スル
コトナク依然トシテ舊風ヲ存セリ甚シキニ至リテハ言語ノ形狀ノ同一ナルハ
勿論其根源モ亦同一ナルニモ拘ハラズ各其意義ヲ異ニスルノ結果ヲ生スルコ
トアリ是レ實ニ社會組織ノ當初ニ於テ遭遇セサルヘカヲサル現象ナラン
然リト雖トモ之ヲ以テ言語ハ悉皆不同ナルモノニシテ決シテ類似スル所ナキ
モノト考フヘカラス否ナ吾人ハ最古ノ文字ニシテ同意義ヲ有シ尙ホ各國ノ國
語間ニ使用サルモノアルヲ見タリ例ヘハ父母兄弟等文字ノ如キ是レナリ
此文字ハ實ニ數多ノ歲月ヲ閱ミ多少文字ノ狀ニ變遷スル所ナキニシモアラ
スト雖トモ其意義ハ毫モ異ナルコトナク依然トシテ今日各國ノ國語間ニ使用
サルハナリ左レトモ此類似ハ根源ヲ同フスル國語間ニ於テ偶之ヲ見ルニ過キ

理財學ノ研究ハ國
ニ由テ其
方方法異ナ
ラサルヘ
カラス

全ク其根源ノ相異ナル國語間ニ於テハ絶ヘテ見サル所ナリ
以上ハ是レ聚族ノ個々分立セシ當時ニ溯テ觀察セシ事ナリト雖トモ其聚族ノ
相聚合シテ定住ノ形狀ヲ現出シ終ニ今日ノ社會トナルニ及テハ其變形ハ當テ
ニ言語ノミナラサルナリ蓋シ社會變遷ノ結果ナルニヤ萬般ノ事物國ニ由テ異
ナリ即チ甲國ハ甲國ノ好尙グー (Taste) アリ乙國ハ乙國ノ思想イデア (Idee) アリ
丙國ハ丙國ノ感懐アスピラシヨ (Aspiration) アリ從テ其前益モ亦タ國ニ由テ各
異ナラサルヘカラスナルナリ是故ニ吾人ハ左ノ言ヲ吐露スルノ當然ノ道理ナル
ヲ知ルナリ
甲國ノ利益ハ乙國ノ利益ト相違セリ故ニ社會ノ利益ニ關スル理財學ハ
國ニ由テ異ナラサルヘカラス必スシモ一般ノ方法手段ヲ以テ各國ノ理
財ヲ論スヘカラスナルナリ
其レ然リ然ラハ則チ吾人カ理財學ヲ講究スルニ當テハ必スヤ之ヲ講究スル世
界ト社會トニ着眼セサルヘカラス蓋シ或社會ニ於テハ他ノ社會ノ有セサル所
ノ特種ナル權力ノ元素ヲ有スルナラン即チ之カ國民高權スープレーステーナ



種々ナル
發見

得ルナリ
以上ニ陳述シタル所ハ是レ實ニ一國人民カ内富強ヲ致シ外勢威ヲ振フノ大元
素ナリ而シテ余ハ又之ニ加フルニ言語ノ同一ト云ヘル一要素ヲ以テセント欲
スルナリ
國固ヨリ此ノ如キ富強ノ元素ヲ有スト雖トモ今日ニ至リテハ又更ニ有力ナル
元素ノ發生スルアリソハ他ニアラス種々事物ノ發見サル、コト日一日ヨリモ
多ク從テ工藝會社ニ非常ナル進化ヲ來シ人ヲシテ其變化ノ窮マリナキニ驚カ
シムルカ如キ是レナリ抑モ國ハ膜離孤立シテ存スル者ニ非ス必スヤ他國ト交
通ノ路ヲ開キ以テ他國ノ發見ヲ利用セサル能ハサルナリ然レトモ其發見タル
必シモ完全ナリト云フヘカラス故ニ人智ノ力ヲ假リテ之カ改良ヲ計ラサルヘ
カラス是レ實ニ國ニ必要缺クヘカラサルノ事業タリ之ヲ換言スレハ今日奇異
ナル發見ノ踵ヲ接シテ出テ來ルハ是レ實ニ交通貿易ノ盛ニ行ヘルハノ賜ナリ
蓋シ交通貿易ノ盛ニ行ル、カ故ニ甲國ニ於テ發見サレタル思想モ忽チニシテ
乙國ニ移リ丙國ニ擴マリ終ニハ世界一般ノ共有物ト爲ルニ至ルナリ交易ノ利

交通貿易
ノ必用

益モ亦大ナラスヤ
之ヲ要スルニ人類ハ互ニ事物ノ發見ヲ交換シテ以テ自己ノ利益ヲ圖ラサルヘ
カラサルモノナリ惟タ其レ此關係ノ存スルアリ故ニ之ヲ成就シ易カラシメン
カ爲メニ商業條約ニ關スル問題ノ生スルアリ貨幣一致「ユニオン、モネテール」
(Union monétaire)ニ關スル問題ノ生スルアリ郵便電信ノ一致「ユニオン、ポストール」
(Union postale et telegraphique)ニ關スル問題ノ生スルアリ
者曰ク貨幣一致トハ例ヘハ佛國ニテ「フラン」ノ價アル貨幣ハ其貨幣一致同盟
國ニ於テハ其何レノ處タルチ問ハス「フラン」ノ價ニテ通用シ得ルト云フコト
ナリ又タ郵便電信ノ一致トハ例ヘハ佛國ヨリ外國ヘ發送スル所ノ郵便稅ハ總
テ五錢ナリトモ他ノ同盟諸國ヨリモ同シク五錢ノ郵便稅ヲ以テ佛國ヘ發送
スルコトヲ得ル等ノ一大利益アリ我日本ニ於テハ未タ此同盟ニ加入セサルヲ
以テ外國ヘ發送スル所ノ郵便稅ハ甚タ多額ヲ要スルナリ
然リト雖トモ此ニ注意スヘキハ此點ニ就キ其信用ノ度ヲ過コスヘカラサルナ
リ其度ヲ誤リテ假リニモ各國間ノ區分線ヲ斷絶シ得ヘシト信スヘカラサルナ

リ其故何ソヤ蓋シ國ニハ各特別ナル權カノ元素「エレマン、ド、ラ、ホルス」(Éléments de la force)チ有スルモノニシテ此權力ノ元素タル實ニ各國ヲ分離割域スルノ基ナリ而シテ各國カ此權力ノ元素ノ爲メニ分割セラル、事實ハ夫ノ二三學者カ妄信スル所ノ絶對的世界共通論「ラ、コン、ミ、ユ、ノ、イ、テ、ア、ソ、リ、エ、イ、エ、イ、モン、ド」(La communauté absolue du monde)ナル論鋒ノ前ニ横ハレル一大城壁ナリ夫レ然リ故ニ彼ノ絶對的世界共通論者ノ思想ヲシテ十分ニ貫徹セシメント欲スレハ必ス先ツ此城壁ヲ破壊セサル可ラス即チ人民各自ノ大望心ヲ掃滅シ勝ヲ好テ相競争スルノ思想ヲ断絶スヘキノミナラス猶ホ又言語氣質好尚ノ殊別ヲモ消滅シ去ラサルヘカラサルナリ然ルニ此ノ如キコトハ到底人力ノ爲シ得ヘキ限ニ非サルナリ是故ニ吾人ノ宜ク務トスヘキ所ハ各國間ノ區分線ヲ断絶スル如キ思想ハ之ヲ遠ク去リ世界ヲ現在ノ儘ニ存シテ以テ力ノ及ハシテ限リ事ノ爲シ得ヘキ限リ社會ノ事務ヲ改良シ社會ノ文明ヲ進歩セシムルノ外ナキナリ吾人カ一度一國ノ國境ヲ漫遊スレハ則チ人口分配ノ甚タ平等均一ナラサルヲ感スルナラン他ナシ都府ニ入テハ家屋ノ稠密ニシテ炊烟ノ盛ニ起リ人馬雜沓

シテ往來織ルカ如キチ見ルモ路ヲ轉シテ村落ニ出ツレハ其狀況ハ一變シ樹木ハ鬱蒼トシテ林野ニ繁茂シ菜穀ハ青々トシテ田園ニ生殖シ而シテ草舍茅屋ノ三々五々所在ニ散點スルヲ見ルノミ此ノ如ク人口分配ノ平等均一ナラサルハ理財學上ニ於テ喜フ可キ現象ナルカ將タ惡ム可キ現象ナルカ吾人チ以テ之ヲ見ルニ是レ物數ノ然ラシムル所ニシテ惡ム可キ現象ニ非ルナリ蓋シ人民ノ都府ニ雲集スルハ數多ノ人力ヲ要スル工産ニ必要缺クヘカラサルコトニシテ固ヨリ喜フヘキ現象ナリ

(第四回)

都府ノ分配ニ至テハ人口ノ分配ト同シカラサルモノニシテ吾人ハ其平等均一ナラシムコトヲ願フナリ何トナレハ都府ノ分配平等均一ナルトキハ國土ノ分割モ亦自ラ平等均一ナルヘク國土ノ分割平等均一ナルトキハ都府ト必要物產出地トノ距離自ラ接近スルコトヲ得ヘシ蓋シ都府ト必要物ノ產出スヘキ土地トノ距離遠キトキハ物價ノ高貴ヲ來シ其距離ノ近キトキハ物價チシテ下落セシムルニ足ルナリ

凡ソ物ノ度ヲ超ヘ節ニ過ルハ大害アル者ニシテ人口ニ於テモ亦然リ蓋シ人口多キニ過ルトキハ物價ノ沸騰ヲ來シ餓季ノ途ニ載ツルヲ見ルニ至ルヘシ是レ人口ノ過多ナル都府ニ於テハ其物價ノ不廉ナルコト之ヲ人口多キニ過ルトキハ其需用モ亦タ得テ多カラサルヲ得ス然ルニ其供給ニ限アリ縱令ヘ供給ニ限ナシトスルモ到底之ヲ接近ノ産地ニ仰クヘカラス必スヤ之ヲ遼遠ナル産地ヨリ仰クニ至ラン苟モ遼遠ナル産地ノ供給ヲ伸カサルヲ得ストスレハ其運輸費ノ増加スルヲ以テ物價ノ騰貴スルハ當然ノ理ナリ

夫レ人口分配ノ平等均一ナラサルハ物數ノ然ラシムル所ナレハ之ヲ如何トモス可ラサルナリ否ナ強テ其ヲシテ平等均一ナラシメントスルハ實ニ容易ノ業ニアラサルノミカ却テ社會ニ大害ヲ及ホスヘキヤ必セリ余ヲ以テ之ヲ見ルニ人口分配ノ不平均ナルハ都府ニマレ村落ニマレ社會一般ニ利益ヲ與フルモノナリ何ヲ以テ之ヲ言フ他ナシ農夫ハ村落ニ於テ食料ニ充ツヘキ物品ヲ產出スルカ爲メニ耕作ニ從事シテ食料ノ生産者ナリ故ニ食料ハ之ヲ他ニ求ムルノ必

要ナシト雖トモ其需用品ハ食料ニ止マルヲ得ス必スヤ工産物ノ必要ヲ感シ之カ供給ヲ他ニ乞ハサルヘカラス而レテ工産物ノ産地ハ都府ナリ都府ハ人口不平均ノ結晶體ナリトセハ人口ノ不平均ナルハ是レ村落ニ利益アルモノト謂ハサル可ラス

以上ニ陳述シタル所ヲ論結センニ其都府タルト村落タルトヲ問ハス凡テ必要ナル物品ノ産地ニ接近スルハ利益アルコト固ヨリ言フ待タサルナリ何トナレハ一方ヨリ云ヘハ都府ハ食料ノ供給ヲ他ニ仰カサルヘカラス而シテ食料ノ産地ハ村落ナリ今之ニ接近スルトキハ運搬ノ便利ナル運費ノ低減スル等都府ニ利益アルコト一ニシテ足ラサルナリ又タ之ヲ他ノ一方ヨリ云フモ工産物ノ産地ハ都府ナルヲ以テ村落カ之ニ接近スルノ利益ハ亦猶ホ都府カ村落ニ近接スルカ如キナリ

茲ニ一大問題ノ在スルアリ一國ノ工産ハ之ヲ保護セス私力ヲ以テ外國工産ノ侵襲ニ應スヘキヤ將タ公力ヲ假リテ其振興擴張ヲ計畫スルノ必要アルヤ是レ實ニ自由貿易「リーナル、エキヤンタ、リ、Libre échange」ト保護貿易「プロテクトシヨ」

(Protection)トノ是非得失ノ一大問題ニシテ自由貿易論者ト保護貿易論者トノ相
 分カル、論點ナリ
 此問題ハ至テ重要ナルモ其論難辯明チ他日ニ讓ラント欲スルヲ以テ今此ニ之
 カ是非得失ヲ議セサルヘシ然レトモ此問題ノ決定如何ハ大ニ工業ノ問題ニ關
 係ヲ及ホスヘキヲ以テ日ナラスシテ之ヲ講究論定スルノ必要ヲ感スルニ至ル
 ヤ必セリ
 餘事ハ姑ク之ヲ置キ茲ニ一言以テ諸君ノ注意ヲ提起セサルヘカラサルモノア
 リツハ地ニアラス工業社會ニ於テハ可及的完成物アロシユイ、パルフェー、ウー
 アシユエー ([Produit purfait ou achevé] 產出セサルヘカラス完成物ヲ產出スルハ
 是レ工業社會ノ繁昌スル所以ニシテ又其安全ナル所以ナリト云フコト是レナ
 リ完成物ト何シヤ完成物トハ工藝變化ノ方法ヲ爲シ盡シ消費物トモテ既ニ
 商品ト化シタルモノヲ云フ故ニ例ヘハ靴ノ如キハ完成物ナリ何トナレハ既ニ
 工藝變化ノ方法ヲ爲シ盡シテ一個ノ商品ト爲リ今ヤ人ノ使用ヲ待ツモノナレ
 ハナリ

完成物
 產出スル
 ハ社會ニ
 大利アリ

如何ナル故ニ完成物ノ產出ハ工業社會ニ必要ナルヤ又如何ナル故ニ工藝社會
 ノ繁昌シ且安全ナルハ完成物ヲ產出スルニ因ルト云ヘキヤ是レ他ナシ完成物
 ノ產出セサル國ハ必スヤ外國工業ノ力ヲ假ルモノナレハナリ之ヲ換言スレハ
 生産變化ノ一部ヲ外國ノ工業ニ委任スルモノナリ從テ外國工業社會ノ運動ハ
 自國工業社會ノ運動ト相牽聯スルヲ以テ彼ノ工業社會ノ不幸ハ一ニ我工業
 社會ノ不幸トナルナリ例ヘハ外國ニ戰爭ノ起ルカ若クハ凶歎ノ臻ルコトア
 レハ則チ其影響ノ波及スル所大損害ヲ蒙ラサルヲ得ス何トナレハ戰爭ノ起リ
 凶歎ノ臻ルハ則チ工業社會ニ取リテハ猶ホ惡疫ノ流行スルト一般ニシテ工業
 社會ハ之カ爲メニ其運動ヲ停止セサルヘカラサルナリ是故ニ一國ノ工業社會
 ニシテ外國ノ工業社會ト相ヒ牽聯シテ毫モ完成物ノ產出ニ從事セサルトキハ
 彼ノ國ノ戰爭凶歎ノ爲メニ我國ノ工業社會ノ運動ヲ中止セサルヘカラサルモ
 ノナリ
 夫レ然リ然ラハ則チ國ニシテ苟モ工業社會ノ安寧ヲ圖リ秩序ヲ整ヘ以テ其繁
 昌ナランコトヲ欲セハ理財學上外國事變ノ爲メニ影響ヲ蒙ラサル様計畫セサ

ルハカラス外國事變ノ影響ヲ蒙ラサラント欲セハ宜ク外國トハ牽聯ノ關係ヲ絶テサルヘカラス而シテ此關係ヲ絶ツノ方法手段ハ他ナシ獨リ工業社會ヲテ大ニ完成物ノ産出ニ從事セシムルニアルノミ完成物ノ産出ニ從事セスシテ此大害ヲ去ラント欲スルハ猶ホ木ニ縁テ魚ヲ求ムルカ如キノミ何ソノ其功ヲ奏スルコトヲ得ンヤ

（第五回）

第二項 國家ノ工産ニ付キ生スル諸説

（Chimées de l'Industrie Nationale）「ニステーム、ド、ラ、ン、ジ、ス、ト、リ、ー、ナ、シ、ヨ、ナ、ー、ル」

吾人ハ今ヨリ更ニ數歩ヲ進メテ工藝組織ニ關スル萬般ノ事項ヲ講究辯明セント欲スルナリ先ツ第一ニ講究セサルヘカラサルモノハ現今ノ社會ノ形態ヲ變

第一ノ惡現象

更シテ之ニ代フルニ善長ナル工藝組織ヲ以テセントスルノ一大主意是レナリ吾人ハ熟ラ現今社會ノ狀況ヲ觀察スルニ工藝組織ノ甚タ不完全ナル不整頓ナルトシテ吾人ノ胸中ヲ煩悶セシメサルモノナク洵ニ慨嘆ニ堪ヘサルモノアリ乞フ之ヲ左ニ開陳セン

一方ヨリ之ヲ云ヘハ今マ茲ヨリ人アリ勞働シテ其賃銀ヲ得以テ我生計ヲ營マント欲スルモ之ヲ採用シテ賃銀ヲ給與スルモノナク縦令ヘ之アルモ極メテ希ナルト如何セシ然ルニ賃銀ハ勞働者ニ取リテハ必用缺クヘカラサルモノニシテ之ニ由テ以テ衣食ヲ足ラシ之ニ由テ以テ妻子ヲ養フ之レ微リセハ一日ト雖トモ生活ヲ營ム能ハサルナリ而シテ其勢此ノ如クハ將タ朋蒼生ヲ如何センヤ蓋シ機械ノ發明日一日ヨリモ多ク機械ノ効用其範圍ヲ擴張シ一機械ノ力能ク千萬人ノ筋力ニ代用スルヲ得ヘキ世界トナルヲ以テ漸ク手工ノ勢力ヲ減削シ去ルニ至レリ故ニ消費ノ漸次増加シテ需用ノ益多キヲ如フルニモ拘ハラス勞働者賃銀ノ減少スルハ勿論其職業ヲ求メント欲スルモ亦容易ノ業ニアラザルナリ

第二ノ惡現象

凡ソ人生レテナカニ生活ヲ營ムハ手段トシテ勞働スルノ權利アリ故ニ之ヲ裏
面ヨリ云ヘハ人ハ勞働シテ以テ己レカ生計ヲ營ムハ權利アルモノナリ然ルニ
今日ノ如キ状態ヲ呈出シ人類勞働ノ需用甚タ少シ是レ豈ニ人類天賦ノ權利ヲ
損スルモノニ非ラスヤ
又他ノ一方ヨリ之ヲ云フモ今日ノ工藝組織ニ於テハ勞働者ノ數甚タ多クシテ
遙カニ需用ノ數ニ超過スルヲ以テ賃銀ノ減少スルコト實ニ甚タシク爲メ工
者ノ生計ヲ營ムニ十分ナラサルニ至レリ是レ固ヨリ需用供給ノ法則ヨリ流出
セル自然ノ結果ニシテ如何トモスル能ハサルト雖トモ工者ノ爲メ社會ノ爲メ
長大患セサルヘカヲサルナリ
以上ニ陳述シタル所ハ是レ今日ノ工藝社會ニ於テ呈出セル二個ノ惡現象ニシテ
苟モ之ヲ除去スルニアラスンハ其社會ノ害スルコト果シテ幾何ナルヲ知ル可
ラサルナリ是故ニ吾輩理財學者ヲ以テ自ラ任スルモノハ宜シク之ヲ正理ニ實
シ此大害ヲ変除シ去リ以テ社會ヲ匡濟スルノ道ヲ講究セズンハアル可ラサル
ナリ

(再版) 三十六

社會問題

或學者ハ大膽ニモ吾輩ヲ攻撃シテ曰ハク現今社會ノ弊害ヲ変除スントスル夫
ノ社會問題ケツツシヨシ、ソシヤール(Question social)ノ如キハ實ニ一ノ妄想問題
ニ過ギスシテ之ヲ決定スル能ハザルハ勿論ノ事ナリ然ルニ強テ之ヲ決定セン
ト試ムルハ愚モ亦甚シカラスヤト此攻撃ハ果シテ其當ヲ得タルモノナルヤ余
ハ斷然之ヲ反駁シテ其蒙ヲ啓發セント欲スルナリ蓋シ論者ヲシテ此ノ如キ疎
忽ノ言ヲ爲サシメタル所以ノモノハ此社會問題ノ甚タ錯雜ニシテ數多ノ疑點
ノ其中ニ伏在スルアルガ故ナリ即チ論者ガ細心考察シテ其疑ヲ解カザルノ罪
ナリ此錯雜ナル問題ヲ輕卒ニ觀察シ去リタルノ罪ナリ決シテ此問題ヲ以テ決
定シ得ベカラザルモノナリト云フベカラザルナリ何トナレハ現今社會ノ弊害
ハ人民ノ糊口ニ窮スルニアリ故ニ人民ヲシテ食料品ノ供給ニ充分ナラシメバ
毫モ其弊ヲ見ザルベシ而シテ食料品ノ生産ハ甚タ饒多ニシテ決シテ人々ノ數
ト不平均ヲ生スル如キコアラザルナリ

(第六回)

若シ夫レ天下ノ土地ヲシテ斤齒確克蕪不毛ニシテ生産力ニ乏キガ爲メ消費

(理財學)

(附版)

三十七

社會問題
ハ必竟分
配問題ノ
ミ

テ輸入スルノ容易ナラザルガ爲メニ非スヤ故ニ他ニ生産力ノ餘裕アル國アル
モ恐クハ其利益ヲ受クルト能ハザルベシト
此反駁論モ未タ吾人ノ説ヲ破ルニ足ラザルナリ蓋シ全世界ヲ通シ全世界ニ於
テ産出スル生産品ヲ各人民ニ平分セハ何ノ不都合カゾアラフ且ツ現今ノ形
ヲ觀察スルニ土地生産力ノ引用未タ必シモ終テ告テザルナリ否ナ耕耘ノ方
ヲ改良シ以テ之ヲ土地ニ應用セハ其生産力ハ必ス前日ニ倍蓰スルニ至ルヘキ
ナリ
此ノ如ク土地ニハ富饒ナル生産力ノ存スルアリ工産社會ニハ工産力ノ餘裕ア
リトセハ社會ニ於テ吾人カ決定スベキ問題ハ唯一ニ歸スルノミ其問題トハ何
ゾヤ他ナシ分配問題ケシヨンドラレバ爾チシヤン(Question de la répartition)是レナリ
夫レ吾人ハ消費力ノ生産力ニ超過スルヲ見ルノ日ハ決シテ近キニ非スト確定
シ之ヨリ進テ此分配問題ニ就キ講究辯論シテ其真理ヲ發揮セザル可ラザルナ
リ
尙又豫メ諸君ノ注意ヲ促シ置クベキ事アリ何ソヤ蓋シ吾人カ將ニ講究辯論

(再版) 四十

社會問題
ハ一般
的決定ス
ルヲ要ス

セントスル所ノ問題ハ實ニ社會問題ナルヲ以テ此問題ニ付テハ一般的ニ之カ
決定ヲ下サバムベカラズ即チ決シテ一國ヲ限リシテ之レカ觀察ヲ下スベカラ
ザルト是レナリ(譯者曰十七頁及廿三頁ニ於テ講師ハ理財學ノ講究ハ國ニ由
テ其方法手段ヲ異ニセザルベカラズ故ニ甲國ニ於テ可トスル所ハ必スシモ乙
國ニ於テモ可ナリトスベカラザル旨ヲ述ベタリ然ルニ今茲ニハ一般的ニ決定
ト下スベシト斷言セリ故ニ外面ヨリ之ヲ見ルハ講師ノ言語前後矛盾スルモ
ト、如シ然ルニ是レ大ニ深意ノ存スル所ナリ蓋シ講師カ前ニ甲國ニ於テ可ト
スル所ハ必ズシモ乙國ニ於テモ可トスベカラズト論シタルハ是レ甲乙ノ二國
理財上相牽連スル問題ナキニアラサルト示シタルナリ即チ前説ハ廣ク理財
學者ノ注意ヲ呼ビタルモノニシテ後説ハ狭ク理財學者ノ注意ヲ促カシタルモ
ノナリ讀者幸ニ之ヲ諒ヒヨ蓋シ社會問題トハ全世界ニ通スル一般の問題ケシ
ヨシ、ユニベルセル] (Question universelle) ノ謂ナレハ之ヲ觀察スルニモ亦一般
ナラザル可ラス否ラスンハ何等ノ功ヲモ奏セサルナリ然ルニ世人ノ此點ニ注
目シ能ク其理ノアル所ヲ知ルモノ誠ニ少クシテ曉天ノ晨星モ留ナラサルハ吾

(理財學)

(再版)

四十一

八が大ニ遺憾ニ堪ヘサル所ナリ
抑モ吾人カ社會問題トシテ決定スベキ要點ハ一般ニ労働時間ヲ減少スルノ方
法ヲ考求スルニ在リ労働賃銀ノ最低額ヲ決定スルニ在リ此點ニ付キテハ他日
辨明スル所アルヘキヲ以テ此ニ其説明シ止ムト雖モ尙ホ一言以テ諸君ノ注意
ヲ促シ置クヘキトアリ何ンヤ他ナシ一般のニ之ヲ考求決定スルニ非レハ社會
ニ害惡ヲ流スコト必ス太甚クシカルベシ今假リニ甲國ヲ尺寸ノ基トシテ労働
時間ヲ減少スルノ方法ヲ考出シ労働賃銀ノ最低額ヲ決定シ之ヲ甲國ニ適用シ
タリトセハ理財上果シテ如何ナル現象ヲ呈出スベキヤ労働賃銀ノ額之レカ爲
メニ騰貴シ從テ物價ノ騰貴ヲ來タスベキナリ
夫レ然カリ然ラバ即チ甲國ノ工業社會ハ他國工業社會ト共ニ俱ニ競争ノ地位
ニ立チ勝ヲ制スル能ハサルナリ何トナレハ他國ニ在テハ労働ノ時間ヲ減少セ
ズ労働賃銀甚ク騰貴セス從テ物價大ニ低廉ナル可レハナリ且ツヤ他國工業忍
チ侵入シ來リ甲國ノ需用ハ悉ク彼レカ掌中ニ歸シ去リ剩サハ財本ノ減失ヲ招
クヤ必セリ是レ則チ國家ヲシテ萎靡滅亡セシムルノ手段ニアラスシテ何ゾヤ

(第七回)

故ニ此等ノ問題ハ宜シク一般のニ觀察シ之ヲ一般ニ適用スベキ様決定セザル
ベカラザルナリ
之ヲ要スルニ社會問題ハ絶對的ニ論スヘシ關係のニ論スヘカラザルナリ蓋シ
之ヲ關係的ニ論スルハ其社會ニ利益ナキハ勿論之カ實行ニ困難ヲ感スル
アルヘシ苟モ理財學ヲ講究セント欲スルモノハ宜シク此ニ注意シ一般のノ感
覺ヲ一時モ腦中ヨリ分離シ去ルヲアルヘカラザルナリ
工業組織ノ改良ハ目今ノ一大急務ニシテ一日モ之ヲ忽諸ニ附スヘカラザルモ
ノタリ然ルニ反對論者ハ之ヲ顧ミス妄リニ攻撃ヲ試ムルハ是レ實際ノ事情ヲ
鑒ミザルノ弊ナリ蓋シ反對論者ハ吾人ト同シク目アリ耳アリ故ニ今日現出セ
ル工業社會ノ不公平ヲ見聞スルヤ必セリ其不公平アルヲ知リナカラ之ヲ免除
スルノ方法ヲ講セサルハ時レ豈ニ無智ノ甚シキモノニ非スヤ且ツヤ論者ノ説
ノ如クセハ吾人ハ今日ノ積弊ヲ將來ニ存留シ數千載ノ後ト雖モ復タ公平適正
ナル工業組織ヲ視ルヲ得ヘカラザルニ至ルヘキナリ況ンヤ此工業組織ヲ改



勞働ノ自由

長シ以テ今日ノ不公平ヲ去除シ去ルノ甚タ難カラザルヲ前ニ述ヘタルカ如キニ於テオヤ
第一 個人主義エンシビジュエアリスム(individualisme)ト云フニ個人主義ヨリ生スル第一ノ原則ハ勞働ノ自由リベルター・チエー・ト・ライバイエ(Liberty or Love)是レナリ此勞働ノ自由ナル原則ニ付キテハ學者間大ニ議論アリト雖トモ未タ人ヲ強制ノ之レニ勞役ヲ科シ若クハ之レニ他人ノ勞役ヲ使用セシムヘキカ如キ事ヲ論スルモノアルヲ聞カサルナリ蓋シ勞働ノ自由ハ之ヲ社會ニ適用スルノ必要アルカ故ナリ

吾人ハ前段ニ於テ社會改良問題ノ要點ハ分配問題ノ一ニ歸スル旨ヲ開陳セリ故ニ此勞働ノ自由ニ付キテモ分配ノ點ヨリ之カ觀察ヲ下シ以テ其是非得失ヲ講究セザルヘカラザルナリ然レモ吾人ノ信スル所ヲ以テセハ荷モ工藝組織ヲ改良シ以テ分配ノ公平ヲ保タント欲セバ縱令此勞働ノ自由ヲ獎勵シテ之ガ法則ヲ定ムルモ決シテ之ヲ禁止スル如キコトアルヘカラザルナリ

自由競争

自由競争
ヲ主張ス
ルモノハ、
言

駁論

concurrentia) 是ナリ其説ニ曰ク自由競争ハ物價ヲシテ下落セシムル理財上ノ法則ニシテ大利アルモノナリ何トナレハ物價ノ下落スルハ是レ則チ消費者ノ需用ヲ満足シ易カラシムル所以ナリ消費者ノ需用ヲ満足シ易カラシムルハ則チ是レ工藝組織ヲ改良シタル所以ナレハナリト
此説タル之ヲ皮想上ヨリ觀察セハ一理アルニ似タリト雖モ其實ハ未タ以テ完全無缺ノ説ナリト爲ス可ラサルナリ其故何ゾヤ蓋シ論者ノ辯シタルカ如ク自由競争ハ物價ヲ下落スルノ功アルニ相違ナシト雖トモ今日ノ事情ニ由テ之レヲ觀レハ物價ノ下落ハ必シモ消費者ノ需用ヲ満足シ易カラシメサルナリ否ナ物價ノ下落シテ或ル消費者ハ大ナル便利ヲ得ルニモ尙ハラス夥多ノ貧民ハ身ヲ蔽フニ衣ナク口ヲ糊スルニ食ナクシテ路頭ニ迷ハザルヲ得ザルハ慘狀ヲ見ルニ至ルヘキナリ是故ニ物價ヲ下落スルノ方法ヲ講究スルハ決シテ今日ノ急務ニアラス今日ノ一大急務トモ謂フベキモノハ他ナシ不公平ナル工藝組織ヲ改良シテ以テ一般人民ヲシテ衣食ニ不足ナカラシムルノ好方便ヲ探求スルニアリ夫レ然リ故ニ物價ヲシテ下落セシムルハ工藝組織ヲ改良スル所以ニ非ザル

0031

ト雖モ地球ニ含有スル水量ハ同一ナレハナリ今保護税ハ間接ニ内國人民ノ負擔ニ歸スルヲ以テ國力ヲ疲弊スヘシト爲スモノハ何ソ一歳雨雪ノ多少ヲ以テ地球ノ水量ヲ輕重スルニ異ナラン夫レ保護税ハ成程消費者タル内國人民ノ負擔ニ歸スト雖モ之ヲ利スルハ政府ナルヲ以テ政府ハ保護税額ノ多少ニ應ジテ他ノ税額減少スルナルヘシ然ラハ一國消費者ガ負擔スル税額ハ差引同等ニシテ始メヨリ保護税ヲ設ケサルト異ナルコトナシ是レ保護税ヲ設クルモ毫モ國力ヲ疲弊セシメサル所以ナリ

(第八回)

然ルニ茲ニ一ノ注意ヲ要スルヲアリ何ソヤ凡ソ直接税(エンボータレク)〔Impot direct〕ハ之ハ間接税(エンボータレク)〔Impot indirect〕ノ錯雜ニシテ手數ヲ要スルモノニ比スレハ理財上大ニ優サル所アリ故ニ政府ハ人民ニ課スルニ可及的直接税ヲ以テシ間接税目ヲ減少スヘキナリ然ルニ保護税ハ間接税ノ部類中ニ入ルモノナレバ安リニ之レカ應用ヲ擴メテ得損相償ハサルノ結果ヲ生スヘカラス故ニ之レカ應用ヲ爲スヘキ生産品ノ種類ヲ確定シ其範圍外ニ超

保護税ノ
限度ヲ定
ムルノ必
要

出スベカラザルナリ是ニ於テカ精細ナル調査ヲ要スル一問題ノ生スルアリ即チ如何ナル物品ニハ保護税ヲ課スルノ必要アリヤ此問題タル甚タ緊要ニシテ之ヲ講究セサルベカラズ而シテ之ヲ決定スルモ亦甚タ難キニ非ズ蓋シ保護税ヲ課スベキ物品ハ内國工業ノ生産スルヲ得ヘキ種類ノモノタルハ勿論内國ノ工業ト相競争スルニ堪ユヘキ力ヲ有スルモノヲラサルヘカラズ例ヘハ内國ニ於テ鐵ヲ産シ而シテ其産出ノ力外國ノ輸入スル所ト匹敵スルニ足レハ則チ外國ヨリ輸入スル所ノ鐵ニ海關稅ヲ課スルカ如キ是ナリ

以上述ヘタル所ヲ要スルニ保護税ヲ外國輸入品ニ課スルハ一國工業社會ノ繁榮ヲ來スノ方法ニシテ之ヲ以テ有害無益ノモノナリト爲スカ如キハ近世ノ實利ニ注目セサルノ妄説ナリ然レモ之ヲ課スルニ或ル一定ノ限度ヲ設クベシ決シテ必要外ニ推擴スベカラズ苟モ然ラスシテ保護税必要ノ度ヲ絶對的ニ推量シ之ヲ一般ノ工業ニ適用セハ其結果ハ果シテ如何ナルヘキヤ必ス言フ可ラサルノ弊害ヲ醸生スヘキナリ

「主張ス言ヲ換ヘテ之ヲ云ヘバ如何ナル工産ニテモ政府ヨリ保護注意ヲ與ヘス各個ノ自由ニ委スヘシト蓋シ此原則ハ畢竟前ニ陳ヘタル自由競争ノ實用ニ過キサルナリ而シテ吾人ハ此原則ヲ賛成スル能ハス何トナレハ若シ論者ノ説ヲ貫カント欲セハ政府ハ諸般ノ建物ヲ造築スヘカラス國家ノ保存ニ必要ナル物品ニ其善惡ハ一國ノ興亡ニ關スルカ如キモノト雖モ之ヲ生産ス可ラス是レ個人主義第三ノ原則ヨリ産出スル自然ノ結論ニシテ此主義ヲ奉スル論者モ亦自ラ公言スル所ナリ抑モ此ノ如キ結論ヲ以テ個人主義第三ノ原則ヨリ流出スルモノト爲スハ何ンヤ他ナシ建物ヲ造築スルモ國家ノ保存ニ必要ナル物品ヲ生産スルモ皆是レ政府ガ工産社會ニ關涉ナシタルニ相違ナケレバナリ洵ニ此結論ノ如クスルハ果シテ工産社會ヲ盛昌ナラシムル所以ナルカ吾人モ亦政府ハ一般ニ工産者タルヘカラサルコトヲ確信スルモノナリ蓋シ經驗ニ由テ之ヲ觀ルニ政府ノ生産ニ係ル物品ハ之ヲ人民ノ生産シタル物品ニ比スレバ其價格ハ必スヤ幾分か高貴トナル可キヲ以テ政府ニ於テ之ヲ生産スルノ利益ナキハ勿論物價ノ騰貴ヨリノ社會全體ニ大害ヲ流スノ恐アレハナリ然レ

此論定テ推擴シテ絶對的ニ考察ヲ下シ遂ニハ政府ニ於テ建物ヲモ造築スベカラス國家ノ保存ニ必要ナル物品ヲモ生産スベカラスト斷言スルニ至リテハ吾人ハ大聲疾呼シテ其妄誕ヲ辨拆セサル可ラス抑モ政府ノ建物ヲ造築スルハ果シテ何ノ目的アルニ由ルヤ亦唯國民技藝ノ資産タル工産ヲ保護全存セント欲スルカ爲メニアラズヤ即チ此工産ニ付テハ人民ノ利益少キヲ以テ之ヲ人民ハ自由ニ委スレバ其極終ニ絶滅スルニ至ランコトヲ忠フルカ爲メニアラズヤ且又政府ガ此工産ニ關係シテ建物ヲ造築スルモ其費用タル誠ニ僅少ナルヘキヲ以テ差シタル影響ヲ國庫ニ波及スベキニアラス是レ亦論者ノ宜シク服膺シテ忘ル可ラサル所ノモノナリ

次キハ國家ノ保存ニ必要ナル物品即チ軍器ノ如キモノ、生産ニ就キテハ如何吾人ハ斷然之ヲ政府ニ委任スヘキモノナリト信ノ毫モ疑ハサルナリ今假リニ政府ノ關涉ヲ斷絶ノ之ヲ人民ノ製造ニ一任スルハ果シテ十分ニ國家ノ安寧秩序ヲ保維スルコトヲ得ベキカ吾人ハ以爲ラク其結果タル恐クハ國家ノ安寧秩序ヲ紊亂シ去リ復之ヲ收拾スルコト能ハサルニ至ランコトヲ何トナレハ一私人ハ同

時ニ二物ノ爲メニ牽制セラル、ヲ免レサレハナリ即チ一方ニハ利益ヲ圖ラサル可ラス又一方ニハ義務ヲ盡サ、ル可ラス利益トハ何ゾヤ自己ノ生計ヲ立ツル爲ニ要スル所ノ資本是レナリ義務トハ何ゾヤ國家ノ保存ニ十分ナル物品ヲ製造セサルベカラサルコト是ナリ而ノ自己ノ生計ヲ營マント欲スレハ國家保存ニ十分ナル物品ヲ製造スル能ハズ國家ノ保存ニ十分ナル物品ヲ製造セント欲スレハ自己ノ生計ヲ營ムニ由ナシ此ノ如ク義務ト利益トノ二物カ一身ヲ牽制ナスルニ當リテハ輕重孰レニ傾クヘキヤ必スヤ一般ノ人情トシテ自己ノ利益ノ爲メニ眼目ヲ眩マサレ國家ノ義務ヲ顧ミルニ遑ナシ終ニハ重大ナル國家ヲ犧牲ニシテ輕小ナル自己ノ安全ヲ圖ルニ至ルヤ必セリ是レ吾人が個人主義ヲ奉スル論者ノ主張スル所ノ關涉斷絶說ニ同意スル能ハサル所以ノ一大要點ナリトス

若シ夫レ吾人ノ主義ニ從ヒ政府ヲシテ或ル必要ナル區域内ニ於テ關涉セシメシカ其結果トシテ國家ヲ泰山ノ安キニ置クヲ得ヘキナリ蓋シ政府ニ在テハ其保存ニ必要ナル物品ヲ製造スルニ當リ毫モ損失ヲ招クヲ恐ル、事ナク唯其生産品ノ善良ニシテ堅固ナランコトヲ欲スルノミ故ニ巨萬ノ資本ヲ投シテ金城湯地ヲ築鑿スベク巨砲鐵艦ヲ製造スベク堅甲利兵ヲ鑄冶スヘク賴テ以テ國家ノ安寧幸福ヲ保全スルヲ得ヘキナリ然レモ前ニ述ヘタルカ如ク政府ノ關涉ハ或ル區域内ニ止マル可キモノニシテ即チ建物ノ築造ト國家ノ保存ニ必要ナル物品ノ製造トノ二者ヲ除クノ外ハ率チ政府ノ關涉ヲ絶チ專ラ人民ノ生産ニ放任スルニ若カザルナリ例ヘバ道路ノ開設又ハ鐵道ノ敷設等ノ如キ是ナリ

(第九回)

個人主義ノ論者ハ又說ヲ爲シテ曰ハク人類ハ上下貴賤ノ差別ナク皆平等均一ナラザル可カラス縱令完全ナル平等均一「エガリター、コンプレート」(Egalité complète)トナルハ吾人人類ノ希望シ得ザル所ノモノナリトスルモ其識見ノ深淺ト其心智ノ銳鈍トニ恰當シタル平等均一「エガリター、アプロクシマチー」(Egalité approximative en intelligence et en éducation)ハ必スヤ之ヲ存スルヲ要スルナリ言ヲ換ヘテ之ヲ云ハハ人類ハ同

反對論ノ
原則ナル
平等均一
及其駁論

等ニ幸福ナル運命中ニ生存スベキモノナリト此説ヤ畢竟スルニ言フベクシテ
 行フベカラサルノ空理ニシテ取ルニ足ラザルナリ是レ吾人ヲシテ個人主義ヲ
 評シ其説ヤ奇ナルモ其實ナク而シテ其結果ヤ恐ルヘシト言ハシムル所以ナリ
 吾人ハ既ニ個人主義ヲ奉スル所ノ論者ガ主張スル諸説ノ大畧ヲ講述シ而シテ
 其説タル率子虛妄ニシテ吾人社会ニ實行スルノ價値ナキヲ論破シタルヲ以
 テ今ヤ更ラニ一步ヲ進メテ社会主義ノ梗概ノ陳述シ終ニ其詳細ニ入りテ丁寧
 反覆講究スル所アラントス

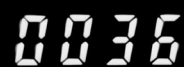
第二社会主義 [ソシヤリズム] (Socialisme)

社会主義ノ説ニ曰ク人類ハ孤居子立シテ生活シ得ヘキモノニアズ必スヤ聚
 合一致シテ相生シ相養ヒ然ル後ニ始メテ其生ヲ全フスルヲ得ルモノナリ故ニ
 苟モ其同类ノ排斥スル所ト爲リ膜離獨立スルニ至ラハ最早社会一般ノ刺撃ニ
 抵抗スルノ力ナク人事ノ終極ニ達シタルモノト謂フ可キナリ畢竟スルニ親和
 力ハ人類社会ニ至要ナルモノニシテ之レナクレハ一日ト雖モ人類ノ生活ヲ保
 ツテ得ス從テ社会ノ保存ヲ望ムベカラザルナリト

個人主義
 社会主義
 異義トシテ
 差

競争ハ人
 生ノ目的
 ナラズ
 社会ノ改良
 ハ競争ニ
 由ラスシ
 テ完成シ
 ナリ

前ニ述ヘタル個人主義ノ説ニヨルニ人類社会ヲ一大競争場ト爲シ軋轢睚眦ノ
 繼續スルヲ以テ社会ノ福祉ヲ増進スル所以ナリトス之ニ反シテ社会主義ニ於
 テハ軋轢睚眦ヲ以テ社会ヲ毒害スルモノト爲セリ則チ反對主義ノ論者ガ唱フ
 ル所ノ射利ノ爲メニハ人皆讐敵ナリト云フカ如キ惡思想ヲ撤去セサルベカラ
 サルコト主張セリ
 其説ニ曰ク人生ノ目的ハ競争ニアルカ將タ禮讓ヲ守リテ互ニ親睦ナル交際ヲ
 結ビ以テ社会ノ幸福ヲ増進スルニアルカ吾人ハ以爲ラク人生ノ目的ハ決シテ
 競争ニアラス必ス禮讓ヲ守リテ親睦ナル交際ヲ爲シ以テ社会ノ幸福ヲ増進ス
 ルニアルナリト蓋シ反對論者カ競争ヲ以テ人生ノ目的トナスニ至リタル所以
 ノモノハ競争ニアラザレハ人類社会ノ貧困ヲ消滅シ能ハスト妄信シタルニ墮
 スルノミ反對論者ト雖モ少シク眼ヲ現今社会ノ實際ニ注カハ必ス親和力ノ社
 会ニ必要ナル所以即チ社会ノ幸福ヲ増進スルノ根本ハ一ニ親和力ニアリテ競
 争ノ力ヲ假ラサルモ人類社会ノ貧困ヲ消滅シ得ヘキコトヲ發見セン夫レ今日ノ
 生産力ハ以テ社会一般ノ需用ニ供給スルニ足ラサルカ決シテ然カラス生産力



ノ活潑ニシテ益々強盛ニ赴クヤ其勢宛モ建瓶ノ如シ土地生産ノ度ハ今日ノ現
 狀ヲ以テト定スベカラスシテ今ヨリ後種々ナル新奇良好ノ方法手段ヲ發明シ
 使用シテ之レカ耕耘ニ從事シタランニハ必スヤ物品生産ノ度今日ニ倍蓰スル
 ニ至ラン工藝ノ生産ニ於テモ亦タ然リ益々機械ヲ發明シ方法ヲ改良シテ生産
 ニ從事シタランニハ其生産力ハ非常ナル發達ヲナシ終ニ社會一般ノ需用ニ應
 スルモ尙ホ餘裕アル程ノ物品ヲ生産スルニ至ルベキナリ
 吾人熟ラ今日工藝社會ノ狀況ヲ觀察スルニ生産ノ方法大ニ往昔ト異ナリ即チ
 機械ノ整備セル勞動ノ分配セル等一々吾人ヲシテ工藝進歩ノ顯著ナルニ驚カ
 シムルニ足ルナリ即チ機械ノ整備セルト勞動ノ分配アルトテ以テ今日工者勞
 動ノ價值ハ前日ニ倍蓰スルヲ見ルナリ一人ノ工者ハ力能ク六十人ノ需用ヲ滿
 足スヘキ物品ノ生産者タリ夫レ一人ノ工者ハ必ズ六十人ノ需用ヲ満足スルニ
 足ルトセハ一人ノ工者ハ其供給ノ報酬トシテ六十ノ特種ナル需用ヲ満足スル
 ヲ得ベシ是レ他ナシ甲ナル工者カ乙ナル工者ニ對シテナシタル供給ハ則チ
 乙者カ甲者ニ爲スヘキ供給ノ原因ナリ甲乙二者ノ間ニ於テ既ニ然リ他ハ推シ

テ知ルヘキナリ苟モ此ノ如クナレハ社會ニ生息スル人民ハ各自其職ニ就キ自
 己ノ勞動ヲ以テ六十人ノ需用ニ供給シ而シテ之レカ報酬トシテ六十人ヨリ八
 毎ニ一ノ報酬ヲ得ヘントセハ社會ニ貧者ヲ見ント欲スルモ亦得ヘカラサルニ
 至ラン縱令今日ニ於テハ此ノ如キ幸福ヲ望ムヘカラストスルモ安ソ百載ノ後
 此現象ヲ呈出セサルヲ知ランヤ夫レ然リ故ニ吾人ハ社會改良問題ヲ非難スル
 論者ニ反對シ其希望ノ久シカラスシテ遠スルトヲ得ルヲ認定スルモノナリ蓋
 シ天然ト人類ノ勞動トハ常ニ饒多ナル生産力ヲ有シ只タ今日ニ於テ吾人カ決
 スルヲ要スルモノハ分配ノ一點ニアレハナリ然レモ亦タ還ヘリテ之ヲ考フル
 ニ抑モ人々個々ノ間ニ今日ノ如ク不公平不正確ノ現出スルハ如何ナル理由ニ
 本クヤ他ナシ之レ人類ノ一大弱點ニシテ之ヲ治スルニハ必ス政府ノ關涉ヲ假
 ルノ必用ヲ感スヘキナリ人類カ自カ以テ此弊害ヲ排除セント欲スルモ望ムヘ
 カラサルノ事タリ左リトハ云ヘ此思考ヲ推續シテ妄リニ政府ノ關涉ヲ横メ之
 レカ爲メニ人類ノ勇膽才智ヲ増進スルノ道ヲ塞クヘカラサルナリ必スヤ政府
 關涉ノ主義ト人類自由ノ主義ト二者ヲ相合シ其中庸ヲ取リ一方ニ偏スル

アルヘカラサルナリト

(第十回)

以上ニ開陳シ來リタルハ之レ社會主義カ得意願ニ主張スル所論ノ要點ナリト
ス余ハ之レヨリ社會主義カ個人主義ニ向テ加フル攻撃ヲ一々明示シ而シテ其
攻撃ハ果シテ理ヲ得タルモノナルヤ否ヤヲ探究セント欲スルナリ
第一ニ社會主義ハ個人主義ヲ攻撃シテ曰個人主義ハ競争ヲ以テ有益無害ナリ
トスルモ之ニ絶對的ノ自由ヲ附與シタルナラハ其害ヤ知ルヘキナリト夫レ社
會主義カ競争ヲ以テ社會ノ大害物ト見做シ剝サヘ之ヲ社會ヨリ排除シ去ラン
トスルハ是レ恰モ個人主義カ競争有利說ノ極端ニ走リタルト彼此競争ヲ輕卒
ニ看過シタルノ點ニ於テハ何レモ相異ナルトコロヲ見ス凡ソ天下ノ事其中ヲ
得サレハ止ム競争ニ於ケルモ亦然リ個人主義カ主張スル如ク競争ノ利益ヲ極
端ニ認可シ絶對的ノ自由ヲ附與セント欲スルハ之レ尤モ不可ナリ然レトモ又
社會主義ノ如ク競争ヲ絶對的ニ有害視シ之ヲ以テ社會ノ毒蛇ナリト唱道スル
ニ至リテハ吾人甚ク嘆息ニ堪ヘサルナリ然リ自由競争ノ原則ハ之ヲ今日ニ全

ク實行スヘキモノニアラス然レモ此說ヲ極端ニ推廣シ政府關涉ノ度ヲ進メテ
政府ハ時機ニ應ジ或一種ノ工業ヲ人民ニ課スルノ權利アリト論定スルヲ得ヘ
キヤモシ果シテ此論定ヲ爲スヲ得ヘシトスレハ政府ノ關涉ハ却テ社會ヲ害シ
工業一般ノ衰頹日ナラスシテ來ルヘキヤ必セリ其故何ンヤ今茲ニ一人ノ工者
アリ或一定ノ業務ニ勉強シ今ヤ社會場裡ニ入りテ之ヲ實行セントスルニ當リ
偶マ政府ノ嚴令飛ヒ來リ斯ク斯クノ業務ニ従事スヘシト而シテ其工者ハ新業
務ニ付テハ寸毫ノ經驗智識ヲモナシトセハ其結果ハ果シテ如何ナルヘキヤ斯
ノ如キ無道非理ナル權利ヲ政府ニ附與スヘカラサルハ勿論政府モ亦此ノ如キ
權利有スヘキノ理由ナキナリ
然レモ吾人ハ之ヲ推測スルニ社會主義カ如何程政府關涉說ニ心醉スルトハ云
ヘ以上ニ開陳シタル程マテニ競争有害說ヲ固守スルモノニアラサルヘキナリ
何ントナレハモシ此ノ如キ程度マテ進ミタルトセハ社會主義カ眼目トスル所
ノ社會改良ノ奏功ヲ望ムヘカラサルノミカ却テ社會ヲ壓制專横テフ俗風ノ中
ニ沈メ現時社會ニ數等ヲ讓ラシムルノ結果ヲ生スルニ至ルヘシ之レ決シテ社

會主義ノ目的ニ非ラサルナリ

第二ニ社會主義ハ個人主義ニ反撃ヲ加ヘテ曰個人主義ノ自立ノ結果トシテ流出スル弊害ハ何ソシ他ナシ生産ヲ偶然ニ放却シ置クノ弊ナリ即チ之ヲ再言セハ政府ニシテ甲種ノ生産ヲ制限スルノ必要ヲ感スルモ之ヲ制限スルテ得ス又乙種ノ生産ヲ振興セント欲スルモ之ヲ振興スルヲ得テ甲種ノ生産甚タ多キニ過キ乙種ノ生産甚タ少ナキニ失スルモ政府ハ之ヲ望觀シテ如何トモスルヲ能ハス之レ實ニ個人主義カ主張シテ止マサル自由競争ヨリ生スル一大弊害ナリトスト

ソモ此社會主義ノ反撃ハ個人主義ノ銳鋒ヲ挫折スルニ足ルノ力ヲ有スルヤ吾人ナリ以テ之ヲ視レハ此反撃ハ實ニ薄弱ニシテ根據固カラス如何テカ以テ個人主義カ説ヲ攻撃スルノ價値アラシヤ是レ蓋シ論者カ事物ノ實理ヲ考覈セサルノ罪ニシテ又之ヲ如何トモスルニ由ナシ何カ故ニ事物ノ實理ヲ考覈セサルト云フヤ他ナシ論者ハ理論的ニ生産ヲ偶然ニ放却スルノ害アルヲ視テ未ダ生産社會ノ繁榮ヲ致シ國家ノ富強ヲ見ル所以ハ即チ生産ヲ偶然ニ放却スルニ

アルヲ知ラサルナリ良シヤ論者ニ一步ヲ讓リテ生産社會ノ盛昌スル所以ハ生産ヲ偶然ニ放却スルニアラサルトスルモ生産ヲ偶然ニ放却シテ之レニ一點ノ關涉ヲ加フルトチ爲サスシテ未ダ社會ノ理財ニ凶荒ヲ來シ生産ノ萎靡衰頹スルトアルヲ聞カサルナリ抑モ生産社會ニ在テハ奇妙不思議ニモ一個ノ聯結線ハ存スルアリテ各國生産ヲ聯結シ其盛衰興亡チ一ニ其線上ニ支配ス從テ或ル一種ノ生産即チ之ヲ例セハ靴ノ生産ニ於テハ之カ生出高チ増加スルノ必要アレハ此聯結線ノ力由ニリテ増加スルニ至ル又之ヲ減少スルノ必要ヲ感スレハ自然ニ其減少スルニ至ルヲ視ル之レ決シテ政府關涉ノ能クスル所ニアラサルナリ否ナ政府ノ關涉ヲ用井テ以テ之ヲ左右スヘキモノニアラサルナリ此故ニ生産ヲ偶然ニ放却スルモ決シテ社會ニ害惡ヲ流出スルノ患ナク生産ハ恰モ智囊身體ヲ備フル一ノ活動物ニ異ナラス又タ社會ノ「コム」ナリ奇ナルカナ活眼ヲ開キテ今日工業社會ノ實際ヲ觀察セハ又奇ナルカナソモ社會ニハ消費者アリテ生産物ヲ消費ス然レモ是ヲ供給スルモノナケレハ其需用ヲ満足シテ自己ノ消費力ヲ支フルニ由ナシ之レ此供給ニ從事スル商賈ノ存ス

ル所以ナリ即チ之ヲ裏面ヨリ云ヘハ物品ヲ生産スルモノ、生シ又之ヲ賣ルモノ、出ツルハ之レ消費者ノアルアリテ其供給ヲ頼ヘハナリ然ラハ則チ生産者ヨリ消費者ニ至ルマテハ間ニ一ハ關係ノ必存スルヲ知ル其必存ノ關係トハ何ソ蓋シ物品ノ購求者アリテ之ヲ賣ルモノ生シ之ヲ生スルモノ出ツ唯ダ夫レ然リ之ヲ購求スルモノアラザレハ商賈ハ之ヲ生産者ニ乞ハサルヘシ從テ生産者モ其生産ノ必用ナラサルヲ知リ之ヲ中止シ他日需用ノ來ルヲ俟ツナルヘシ以上ハ之レ需用供給自然ノ一大原則ニシテ工業社會ニ必存スヘキ一ノ關係ナリ生産ノ盛衰興亡ヲ左右スル一ノ聯結線ナリ故ニ政府ノ關涉ト雖モ又之ヲ如何トモスヘカヲサルモノナリ否ナ政府ノ關涉ヲ假リテ此ノ如キ其形狀ニ至ラシムルノ必要ヲ感セサルナリ何トナレハ自然ノ法則上知ラス識ラス此形狀ニ傾向スルアレハナリ此形狀ヲ呈セザラント欲スルモ天則ノ許サ、ル所ナレハナ

論者或ハ云ハン然リト雖モ或一種ノ生産ハ此法則ニ循ハサルヲ如何センヤト嗚呼何ソ論者ノ言ノ盲目者流ナルヤ吾人カ理財學ニ於テ研究スヘキモノハ

例外的ノモノニアラザルコトヲ知ラザルカ吾人カ目的主義ハ則チ一般的ニ考察ヲ下シ理財ノ原理ヲ探ラント欲スルニ非スヤ

以上ニ列述シタルハ二個ノ反撃ナリ之レ實ニ社會主義カ個人主義ニ對シテ爲ス所コロノ妄誕議論ナリ吾人ハ一々之ニ付キ是非得失ヲ激論シ且ツ其反撃ノ薄弱ニシテ無根ノ架空論タルコトヲ免レサル旨ヲ開陳シ了レリ今ヤ社會共通主義コンミニスム「Communism」ニ移ラント欲ス然レモ熟ラ之ヲ案スルニ社會共通主義ハ社會主義ト名義コン異ナレ其實ハ大同小異ナルモノナリ之ヲ個人主義ヨリ區別スルノ必要アルモ特ニ之ヲ社會主義ヨリ分別スルノ必要ヲ感セサルナリ言ヲ換ヘテ之ヲ云ヘハ社會共通主義カ社會改良ノ一大手段トスル所コロノモノハ取リモ直サス社會主義カ最重要手段トスル彼ノ政府關涉ノ主義ニアルナリト故ニ吾人ハ之ヲ社會主義ト區別シテ說クヲ欲セス又說クノ必用ナシ何トナレハ社會主義ニ付キ說述シタル事ハ凡テ社會共通主義ニ付キ正サニ說カサルヘカラサルノ事ナレハナリ

社會共通主義ハ社會主義ナリ

第三フリーリエー主義フリーリエリスム(Fourierisme)

「フリーリエー主義ハ實ニ今世記ノ初メフリーリエーノ發明シタル一新主義ニノ一時非常ナル聲名ヲ天下ニ博シタルモノナリ之レ一ニハ其説ク所ノ事甚タ巧妙愛スヘキニ由リ又一ニハ此主義發生ノ日尙ホ淺キニ由ルナルヘシ

其説ニ曰抑モ吾人カ今日勞動「トラヴァイユ」(Travail)ニ對シテ如何ナル觀念ヲ有スルヤ一般ノ論決チ下セハ則テ勞動ハ人生ノ不快物ナリ須ラク之ヲ社會ヨリ芟除セサルヘカラス此故ニ社會ニ勞動セサルモノ生スル勞動セザレハ口ヲ糊シ體ヲ蔽フヘカラス何ントナレハ社會ハ黃金街ニアラス又々黃金街トスルモ坐シテ生計ヲ營マントスルハ之レ天法ノ許サ、ル所ナレハナリ唯タ夫レ勞動セザレハ一日モ社會ニ生存スヘカラス故ニ貧者ノ絡々トシテ生出シ來リ其跡ヲ絶ツコトナキヲ見ル夫レ吾人社會改良ヲ以テ自任スルモノ、目的ハ何ソヤコレ他ナシ社會ヲ改良シテ貧者ヲ救ハントスルニアリ今貧者ヲ救ヒ吾人ノ目的ヲ達センニハ如何ナル方法カアル則チ人生ノ不快物ト見做サル、勞動ヲシテ愉快物ト變化セシメテ以テ人類ノ好嗜心ヲ招クニ非スシテ何ソヤ然レモ此結

フリーリエー主義ノ第一論點

第二ノ論點

右ヲ收ムルニハ又々其方便ナルヘカラス則チ如何ナル方法ヲ用キテ吾人ノ目的ヲ達シ得ルヤ吾人ハ信ス其方便ハ各人ニ勞動ノ業務ヲ選擇スルノ自由ヲ附與スルニアルコトヲモシ果シテ此ノ如クンハ各人自由ニ自己ノ利益ヲ生出スヘキ業務ヲ選擇シテ之レニ從事シ以テ自己未來ノ愉快ヲ買ハンコトヲ期スルヤ必セリト以上ハ之レ「フリーリエー主義」カ唱フル所ノ第一ノ論點ナリトス

其第二ノ論點ナリト云フヲ聞クニ曰人各其能力「アプテチュード」(Aptitude)ト好尚トヲ異ニス此ニ千八百人ノ人アレハ彼此各其能力ト好尚ヲ異ニシ甲乙其權ヲ同シウスルヲ甚タ稀ナリ故ニ吾人ハ千八百人ヲ以テ一ノ集團體ヲ作クリ此集團體ヲ名ツケテ「アラランジュ」(Phalange)ト云フ而シテ「アラランジュ」ハ「ランジユ」全員ノ理財ヲ圖リ他ノ「アラランジユ」ト理財ノ關係ヲ絶テハ社會又貧者ヲ見サルヘシ蓋シ「アラランジユ」ハ異種ノ能力ヲ有スル人ヨリ組織サルレハナリト

第三ノ論點

第三ノ論點ハ第二ノ論點ヨリ生スル自然ノ推論ニ尤モ奇ナルモノナリ其説ニ曰ク前陳ノ如ク吾人ハ社會ニ數多ノ「アラランジユ」ヲ設置スルカ故ニ貨幣ノ如

駁論

ルモノハ只ターアルノミ則チ世人ノ嫌厭スル所ノ勞動ニシテ之レアルハ社會
又他ニ必用物アルヲ見ス故ニ各人社會ニ生存スルノ義務トシテ此勞動ニ從事
シ一ハ以テ社會ノ同類ヲ益シ一ハ以テ自己カ生計ヲ營マサルヘカラスト
今マ吾人ヲシテ此フリーリエー主義ニ批評ヲ下サシムレハ則チ謂ハシ其說ヤ巧
妙ナリ危激ナリト他ニ又々之ヲ評シ之ヲ議スルノ點ナシ其說シトコロ巧妙ナ
リ危激ナリ故ニ之ヲ實地ニ行フニ至レハ甚タシキ困難ヲ生シ其說ノ實際的ノ
議論ニアラスシテ理論的ニ説下シタル架空説タルニ過キサルヲ知ルヘシ第一
ニ彼レフリーリエーハ無造作ニモ業務ヲ選擇スルノ自由アレハ勞動ハ人生ノ愉
快物ナリト云フモ此論決ハ一時ノ勞動ニ適用スヘキモノニ各人ハ勞動ニ付
キ交易ノ運動者ハ社交上又々之ヲ設クルノ必要ヲ感セサルナリ社會ニ必要ナ
キ謂フヘカラサルハ安説タリ何トナレハ一時愉快ナル勞動モ各日ノ業務トナ
レハ竟ニ倦厭ヲ生スルハ之レ蔽フヘカラサル事實タレハナリ第二ニフリーリエ
ーハハランジュヲ作りテ各人ニ勞動ノ分配ヲ爲セハ可ナリト云フモ此幾數千
萬人ノ衆ヨリ組織サルハ社會ニ於テ如何シテ勞動ノ分配ヲ爲スヘキヤ又々如

フリーリエー主義ノ長點

何ナル權力者ヲ設定シテ此分配ノ支配者トナスヘキヤ之レ實ニ吾人ガフリー
エーニ向テ大ニ問ハサルヘカラサル一點ナリトス吾人ハ實際上必ス之レカ
應答ヲナスニ苦シカレヘキト信スルナリ
然レモ吾人フリーリエー主義ニ向テ大賛成ノ意ヲ表シ聊カ一ノ贊辭ヲ呈セサル
ヘカラサル事アリソハ他ニアラス實際的又タ理論的ニ適合スル論決ニシテ則
チ社會ニ集合團體ヲ組織スルノ之レナリ蓋シ吾人ハ初メヨリ此集合團體ハ社
會ニ必存セサルヘカラサルヲ信シ大ニ之ヲ組織サレントラ欲シテ止マサル
モノナリ

第四 「サン・シモン」主義 (Docteurine Saint Simonisme)

「ドクトリーヌ・サン・シモンニエンク」

「サン・シモン」主義ハ今世紀ノ初推想サル、ニ至リタル社會改良ノ一新主義ニシ
テ「サン・シモン」ハ實ニ之レカ鼻祖タリ是ヨリ先キ此主義ノ現出スルヤ學者社會
ノ形狀恰モ一變シ曩キニ個人主義又ハ社會主義ヲ主張シタル學者輩モ一奔シ
テ此說ヲ唱道シ終ニ種々ナル學派ヲ創立スルニ至ル蓋シ此等ノ學派ハ必竟サ

ン。シモン主義ニ表裏左右ヨリ多少ノ變更ヲ加ヘタルニ過キスシテ取モ直サズ
サン。シモン主義ノ分派ナリ之ヲ換言セハ其根據トモ云フヘキ原則ハ則チサン。
シモン主義ノ原則ニシテ只々其之ヲ説述スルニ當テ幾分ノ増減ヲ加ヘタルモ
ノナルノミ

サンシモ
ン主義ニ
個ノ原則

抑モ「サンシモン」主義ハ二個ノ原則ヨリ成ル第一ノ原則ハ「集○合○團○結○ノ○原○則○」
「シッパ」ド。ランシヤシヨ」Principe de l'association)之ナリ此原則ハ「吾人カフーリ
エ」主義ヲ開陳スルニ當リテ之カ必用ヲ論辯シ賛成ノ意ヲ表シタルモノナリ
第二ノ原則ハ「權威」ノ原則「アランシッパ」ド。ロートリアー」(Principe de l'autorité)之ナ
リ

サンシモ
ン主義ノ
説

「サンシモン」ハ説ヲ爲シテ曰夫人類終極ノ目的ハ何ソソ則チ生計ヲ安全ニ又幸
福ニ營ムニアリ而シテ生計ヲ安全ニ又幸福ニ營ミ以テ其終極ノ目的ヲ達スル
ノ方法ハ何ソソヤ之レ他ナシ世界ヲ集合團結シテ一大會社ヲ組織スルニアリ
モシ果シテ此ノ如クソハ世界一般ノ努力ノ功勞ニ集合飯着シ各人民ハ會社ノ一
社員タルノ資格ヲ有シ又義務ヲ負フ此故ニ各自生産ノ増殖スルコトニ之レ

勉メ又懈怠ノ念ヲ生スルコトナカルヘシ何ソソナレハ會社ノ利益ハ各自ノ利
益トナリ又會社ノ損失ハ各自ノ損失トナル利益ヲ得ルモ各個社員ナリ損失ヲ
負フモ各個社員ナルヲ以テナリト

此説大ニ理アリ吾人ハ大聲疾呼シテ社會人士ノ此ニ注意アランコト乞ハサル
ヘカラス否ナ吾人ハ進ンテ此原則ノ適用ヲ博フセント欲シテ止マサルモノナ
リ然レトモ吾人竊ニ疑フサンシモンハ此原則ヲ適用スルニ當テ如何ナル方法
手段ヲ採用セント欲スルノ意ナルカ「サンシモン」ハ此疑問ニ應答スルニ威權ノ
原則ヲ以テシ威權ニ由テ以テ此集合團結ノ原則ヲ適用セント欲スルト雖モ之
レ甚太ク不完全ナル應答ニシテ第一原則ノ適用ハ果シテ之ニ由テ成就シ得ル
ヤ吾人ハ大ニ疑ヲ容レサルヲ得ス

然リ論者ノ言ノ如ク集合團結ノ原則ハ洵ニ社會ノ繁盛ヲ臻スノ根本ナリ左
トモ此贊辭ハ此原則ヲ適用スルコトヲ得ヘキ方法手段ノ現存シタルノ時ニ下ス
ヘキモノニシテ未タ其方法手段ノ確定セサルニ當テ云フヘキノ語ニアラス語
ヲ換ヘテ之ヲ云ヘハ集合團結ノ原則ハ之ヲ一ノ原則トシテ見レハ一文ノ價値

第二原則
ハ第一原則
則チ適用
スルノ手
段トスヘ
キ

一 駁

タモナキモノナリ左レ共之ヲ實際ニ適用シタル結果ヨリ觀察セハ甚太ク緊要タルモノナリ之レ吾人カ確信シテ一點ノ疑ヲモ容レザル所ノ事ナリ然レモ惜ムヘシ吾人ナシテ此贊辭ヲ論者ニ向テ呈スルコト能ハサル事實ノ存スルアリ論者ハ輕卒ニモ之ヲ適用スルノ方法トシテ權威ノ原則ヲ以テスルト雖之レ一ノ推測臆斷ニ過キス何トナレハ實際果シテ適用スルコト得ヘキモノナルヤ否ヤヲ證明セス又テ洵ニ之ヲ證明スルコト得ヘキヤ甚ク疑ハシ蓋此社會集團結ノ原則ハ前陳シタル社會共通論ト稍ヤ其趣ヲ同スルモノナリ故ニ吾人カ社會共通論者ニ向テ駁撃ヲ加ヘタル數點ハ又此社會集團結論者ニ向テ加フヘキモノナリ則チ集團結ハ社會ノ原理ニアラスシテ變則ナリ己ニ之ヲ以テ一ノ變則ナリトナス以上ハ何ソ論者ノ企望ヲ違スルヲ得ンヤ何ヲ以テカ爾カ云フカ抑モ人類ハ生テカラニシテ天赋ノ自由ヲ有スルモノニシテ他ヨリ強制サレ又ダハ束縛サルノ義務ナク却テ他ノ強制束縛ヲ受ケザルノ權利ヲ有スルモノナリ夫レ然リ故ニ假令社會ニ一大會社ヲ組織シ各人民ヲシテ之レカ社員タルノ責任ヲ負ハセント欲スルモ之レカ社員タルト否トハ各個

(再版) 七十

二 駁

自由權内ニアリ如何テカ之レヲ強制シテ其社員タルシムルヲ得ンヤ可シヤ論者ニ數百歩ヲ譲リテ此集團結ハ社會ニ望ムヘキモノナリトスルモ其望ムヘキハ社會一小部分間ニシテ全社會ヲ通シテ一大集團結ヲ組織セントスル如キハ之レ實ニ達スヘカラサルノ空望ナリ甲國人ノ性能ハ乙國人ノ性能ニアラス丙國人ノ氣象ハ丁國人ノ氣象ニアラス乙國ニハ乙國固有ノ性能アリ丁國ニハ丁國特占ノ氣象アリ各國此ノ如ク特別ナル元素ヲ有ストセハ如何ソ此等共通集結ノ妨害物ヲ去ラスシテ世界ノ團結ヲ企望スヘケンヤ

三 駁

又論者ニ數百歩ヲ譲リテ假リニ世界集團結ノ事業ヲシテ成就スルニ至リタルトスルモ是レ一瞬時ノ事ニシテ永續ノ望ミアルヘキモノニアラス倏忽ニシテ其破滅シ去ルノ日ヲ見ルヘキナリソモ論者カ所謂權威ノ原則トハ如何ナルモノタルン權威ハ誰ニカ之ヲ屬セントスルノ意ナルヤ誰レカ指揮權ヲ左右シテ此一大會社ヲ保維スルモノナルヤ則チ之ヲ換言セハ如何ナル方法手段ニ由リテ人民間ノ爭訟ヲ決セント欲スルノ意ナルカサンシモノハ輕卒ニモ此疑問ニ答ヘタリ曰吾人ハ徒ラニ第一原則ノミテ發言シテ其適用方法ヲ考出セザル

(理財學)

(再版) 七十一

「サンシ
モン」權
威原則ノ
適用方法

モノニアラス吾人ハ已ニ前説ニ於テ其適用方法トシテ權威ノ原則ヲ指摘セリ然ルニ今反對論者ハ吾人ニ問フニ其權威ハ如何ナル方法ニ由リテ之ヲ行フヤヲ以テセリ吾人敢テ之レカ應答ヲ試ミントス則チ吾人ハ一ノ社長ヲ撰擇シテ之ニ權威ヲ委セント欲スルモノナリ之レニ會社維持ニ必要ナル百般ノ處分ヲ爲スコトヲ許シ又各社員ニ對シテハ最上權ヲ附與シ其是トシ可トスル所ニ從テ各社員ヲ指揮命令シ且ツ之ニ相當ノ業務ヲ與フルノ權利ヲ有スルモノトスルナリ而シテ社長撰擧ノ方法ハ社員ノ多數決ニ由ラントス是レ吾人カ有スル所ノ思想ナリ反對論者宜シク此ニ之ヲ諒セヨト

吾人ハ「サン・シモン」論者ノ言ヲ聞イテ其輕佻粗末ナル空論ニ一驚セサルヲ得ス論者ハ容易ニモ權威ヲ以テ集合團結ノ一大利刀トシ堅城鐵壁トナサント欲スルモノ一般社會ハ果シテ論者ノ言ヲ宥スヘキヤ否ヤ此一大利刀此堅城鐵壁ヲ實際ニ用ユルコトヲ首肯スルヤ否ヤ是レ實際的ノ最重要ナル議論ニシテ論者ハ如ク輕々ニモ理論的ニ論下シ去ルヘキモノニアラサルナリ

之ヲ要スルニサン・シモン主義ハ之ヲ理論上ノ主義トシテ見レハ甚太々巧妙ニ

シテ善良ナル議論ヲ吐露スル一主義ナリ然レドモ之ヲ實際ノ事實ニ照シ以テ其説ノ是非眞偽ヲ判別セシムレハ又々取ルニ足ラサルノ淺薄議論ナリ

第五 「ルイ・ブラン」ノ勞動組織ニ付テノ主義シズタームド・ロルガニサシヨンジュー・トラヴァイイド・ルイ・ブラン」(Crisme de l'organisation du travail de Louis Blanc)

前陳サンシモン主義ハ理論ヲフ外見裝飾ノ機械ヲ使用シテ巧妙ニモ其論旨ヲ表明シ去リタリ故ニ之ヲ皮想上ヨリ視レハ其巧妙奇異ナル人ヲノ轉々之ヲ以テ技術家ノ行力ト怪マシムルナリ然レドモ翻ヘリテ之ヲ實際上ヨリ觀察ヲ下セハ其説ノ淺薄ナル拙劣ナル又々視ルニ忍ヒサルモノアリ然ルニルイ・ブランノ主義ハ之ニ反シテ其論説ヤ巧妙ナラス又々奇異ナラス之ヲサンシモンノ主義ニ比スレハ稍ヤ外見ノ光澤ヲ缺クトハイヘ其論議ノ堅固ナル盤石モ管ナラス其議論ノ實際的ニシテ精密ナル便宜ナル他ニ其例ヲ見ルコトナシ蓋其ノ説ク所ノ事皆ナ事物ノ道理ヲ極メ毫モ理論ノ極端ニ駛シルコトナケレハナリ

「ルイ・ブラン」ハ其主義ノ基礎トシテ勞動ノ權利(Droit du Travail)

(理財學)

(再版) 七十三

「ドロワデユト」ラバイユナル原則ヲ君戴ス則チ之ヲ再言セハ八類各個ハ生レナカラニシテ天赋ノ權利トシテ社會ヨリ勞動ノ業務ヲ受ケ其勞動ノ報酬トシテ社會ニ生存スルノ權利アルモノナリ社會ハ其義務トシテ各個人カ生存ヲ保持スルカ爲メニ勞動ノ業務ヲ各個人ニ附與シ而シテ其勞動ノ報酬トシテ營生ノ方法手段ヲ給スルコトヲ要スト云フニアリ

此ルイブランノ原則ハ洵ニ其當ヲ得タルモノニシテ一點ノ疑雲タモ亦タ之ヲ蔽フコトアルヲ見ス然レモ此原則ノミニテハ未タ以テ完全無缺トナスヘカラスモシ「ルイブラン」ノ主義ヲシテ只タ此原則ヲ表明スルニ止マラシムレハ吾人ハ敢テ前陳諸主義ト區別シテ之ヲ賞賛スルノ價值ヲ見ス則チ吾人ハ「ルイブラン」ノ主義ハ原則表明ノ一主義ナルノミト評シ去ラント耳ミ何ソノ喋々之ヲ辯スルノ必要アラシヤ

蓋人類各個ニ勞動ノ權利アルコトハ之レ實ニ吾人カ確認シ又タ確認セサルヲ得サル所ノ原則ナルニモセヨ其之ヲ實際ニ適用スルニ至テハ吾人カ大ニ講究討論ノ勞ヲ取ラサルヘカラス所ノモノナリ抑モ人類ハ生ナカラニシテ勞動ス

ルノ權能ヲ天ヨリ稟ク故ニ其勞動ノ報酬トシテ社會ヨリ營生ノ方法手段ヲ附與サル、ノ權利アルモノナリ而シテ其權利ハ絕對的ノ權利(Droit absolu)ドロワ、アブソリー「ナラサルヘカラス何ソトナレハモシ其權利ニシテ絕對的ノ權利ナラサリセハ此權利ヲ有スルノ効能アルヲ見サレハナリ或ル二三ノ學者ハ此明々白々タル道理アルニモ拘ハラズ人類ニ社會生存ノ絕對的權利ヲ認メシテ人類ハ勞動シテ始メテ此世ニ生存スルコトヲ得ルモノナリ則チ之ヲ要言セハ人類ニハ關係的ノ生存權利アルモ絕對的ノ權利ハ之ヲ附與スルコト能ハサルナリ

譯者曰此絕對的ノ權利ト關係的ノ權利トノ區別ハ絕對的ノ權利ハ甚太タ該博ナル權利ノ謂ヒニシテ關係的ノ權利ハ狹隘ナル權利ヲ云フモノナリ此場合ニ於テ絕對的ノ權利ト云ヘハ永世ニ人類ハ社會ヨリ生存ノ方法手段ヲ受クルノ權利ヲ有スルモノニシテ假令ハ一時疾病若シタハ他ノ事故ノ爲メニ勞動セサルモ社會ノ之ヲ保護スルノ點ニ至テハ他日ト異ナルヘカラス則チ之ヲ換言セハ人類ハ勞動ノ權能ヲ有スルコト以テ

對人類之生存權利承認之理由

其○自○然○之○結○果○トシテ○社○會○ハ○之○レ○ニ○其○生○活○ヲ○營○ム○ノ○方○法○手○段○ヲ○附○與○セザ
ル○ヘカラス○其○一○時○勞○動○セザル○ト○否○ト○ハ○毫○毛○之○ニ○關○係○スル○所○ナキ○モ○ハ
リ○關○係○的○ノ○生○存○權○利○ニ○至○テ○ハ○則○チ○然○カラス○人○類○ハ○勞○動○ノ○權○能○ヲ○有○ス
故○ニ○勞○動○スル○ノ○權○利○アル○ト○同○時○ニ○勞○動○セザル○ヘカラス○ノ○義○務○アリ○人
類○ニ○勞○動○セザル○ヘカラス○ノ○義○務○アリ○故○ニ○社○會○ハ○其○報○酬○トシテ○之○ニ
營○生○ノ○方○法○手○段○ヲ○給○與○ス○夫○レ○然○カリ○故○ニ○人○類○ニシテ○其○義○務○ヲ○行○ハスシ
テ○勞○動○セザレハ○社○會○モ○亦○タ○其○義○務○ヲ○行○フ○ニ○及○ハサル○ナリ○之○ヲ○要○スル○ニ
前○者○ハ○一○般○ニ○人○類○ノ○生○存○權○ヲ○認○定○シ○後○者○ハ○勞○動○トシテ○生○存○權○トシテ○關○係○的○ニ
論○シタル○モノ○ナリ

(再展) 七十六

然レモ吾人ヲ以テ之ヲ見ルニ此論旨ノ現社會ノ實際カ許サ、ル所ノ説タル
ヲ免レス見ヨ活眼ヲ開ライテ今日社會ノ實況ヲ見ヨ論者ノ言ハ一ノ妄誕論ナ
リ一ノ過激説ナリ夫レ疾病若シクハ他ノ事故アルニ由リテ勞動スルヲ得サル
ハ抑モ其人ノ罪ナルカ否ナ決シテ其人ノ罪ナラサルナリ之レ偶然ノ事變ニシ
テ其人ニ向テ悲哀ノ情慈惠ノ心ヲ表スヘキモノタリ已ニ之ヲ以テ其人ノ罪ト

「ルイ」ノ
人類ノ
労働ノ
原理ヲ
適用ス

ナサ、ル以上ハ社會ハ其義務トシテ之ヲ救済スルヲ要ストト謂ハサルヘカ
ス○之○レ○親○易○キ○道○理○ナリ○今○假○リ○ニ○論○者○ニ○一○步○ヲ○讓○リ○テ○此○道○理○ヲ○以○テ○眞○理○ニ○非
ストスルモ今日ノ實際ニ於テ論者ノ言ヲ許サ、ルヲ如何セン○餓○寒○ノ○眼○前○ニ○在
リテ○死○ニ○瀕○セントスルヲ見テ○誰○レ○カ○惘○然○ノ○情○ヲ○起○サ、ラシ○如何ナル○豪○勇○慍○悍
ナル○モ○ハ○ナリ○正○然○トシテ○救○助○スル○ノ○情○ヲ○興○スヤ○必○セリ○之○レ○則○チ○同○類○親○愛
ノ○情○歎○ナル○モノ○ナリ○果○シテ○然○リトセハ○人○類○ノ○集○合○體○ナル○社○會○ハ○其○分○子○タル○人
類○カ○情○歎○ヲ○承○認○シタル○ナリ○又○タ○承○認○セザル○ヲ○得○サリシナリ○蓋○此○同○類○親○愛○ナ
情○歎○ノ○社○會○ニ○存○在○セザル○モ○ハ○社○會○ハ○爲○メ○ニ○亂○暴○ノ○修○羅○場○ト○ナリ○一○日○ト○雖○正○太
平○無○事○ノ○時○ヲ○見○サレヘキナリ是レ果シテ文明開化ノ社會ト云フヘキヤ
以上陳述スル如キヲ以テ吾人ハ「ルイ」プラント共ニ絶對的ノ權利ヲ人類ニ認ム
ルモノナリ然レモ其之ヲ適用スルニ當テ「ルイ」プラントハ如何ナル方法ヲ取リシ
ヤ之レ亦タ吾人カ「ルイ」プラントニ向テ問ハサルヘカラスルモノナリ
其適用方法トスル所ヲ聞クニ曰若シ夫レ私ノ工ト(Industrie privee)「エン」ジユスト
リ「ブリベール」ミニテハ以テ人類各體ニ勞動スルニ足ラサルモハ政府ハ之ニ關

(理財學)

七十七

シテ其補助ヲ計ラサルヘカラス而シテ其方法ハ他ナシ私ノ工産ニ對シテ公ノ工産(Industrie Publique)ヲシテストリー・ビューブリックヲ起スニアリト

(第拾貳回)

吾人ハ前文ニ於テ左ノ言ヲ吐露セリ

「ルイブラン」主義ノ人類ニ勞働權ヲ認可スルヤ良シ然レモ吾人ハ此認可ノミニテハ満足ノ意ヲ表スル能ハザルナリ何ントナレハ此認可ハ單ニ勞働權ナル原理原則ノ社會ニ生存スルコトヲ確定シタルニ過キスシテ之ヲ實行スルノ方法手段ハ未タ講究決定スルニ至ラサレハナリ

今ヤ吾人ハ「ルイブラン」主義カ實行ノ方法手段ナリト稱スル所ノモノヲ聞クヲ得タリ此方法手段ハ果シテ勞働權ヲ人類ニ實行セシムルコトヲ得ルヤ吾人ハ不幸ニモ其不完全ナルト其不道理ナルトヲ視テ善諾ノ意ヲ表スルニ躊躇セサルヲ得ス是蓋シ「ルイブラン」カ此方法ヲ用ユレハ必ス之ニ伴フ所ノ弊害アルヲ知ラサルノ罪ニ坐スルノミ其弊害ニ「ルイブラン」主義ノ說ニ從テ政府自ラ工産者ノ地位ニ立ツトセンカ其結果ヤ恐ルヘシ公力ハ大ナル終ニ私ノ工産ヲ濫

政府ノ工
産ハ社會
ニ害ナキ

工産ノ個
人的ノモ
ノ工業ハ
公ニシテ
事業ハ社
會ニ害ア
リ

滅スルニ至ラン是レ弊害中ノ其一ナリ可シヤ斯ノ如キ弊害生セサルトスルモ政府ハ到底私ノ工産ヲ滅失スルハ必要ヲ感スルナルヘシ何ントナレハ勞動者カ私ノ工産ヨリ受クル賃銀ハ未タ以テ口ヲ糊シ身ヲ暖ムルニ足ラサレハナリ從テ政府ハ賃銀ヲ高メ私ノ工産ヲシテ對抗スルニ苦シマシメ一日モ早ク其跡ヲ絶タンコトヲ祈ル之ニ應シテ私ノ工産モ亦畢生ノ力ヲ盡シテ政府ト競争場裡ニ立ツニ至ルヘシ其結果ヤ恐ルヘシ賃銀ノ高騰ト共ニ物價ノ騰貴ヲ來スヘキナリ是レ弊害中ノ其二ナリ

吾人ヲ以テ之ヲ視ルニ「ルイブラン」主義ト雖モ此弊害アルヲ知リツ、之ヲ認可スルモノニアラサルヘキナリ蓋シ私ノ工産ハ社會ニ必要缺クヘカラサルモノニシテ其之ヲ滅失スル如キハ社會ノ進歩ヲ斷絶スルモノナリ社會工産ノ改良又望ムヘカラス抑モ私ノ工産ニハ私ノ利益ナルモノアリテ存ス之レ商業タルト其何タルトヲ問ハス凡テ私ノ興業ニ係ルモノニハ必ス存スヘシ則チ之ヲ再言セハ私ノ工産ハ一人ノ起業ニ係ルヲ以テ自ラ進んで競争場裡ニ立チ萬全ノ利益ヲ射ラサルヘカラス然リ而シテ射利ニ最良ナル方法ハ實ニ工産ノ改良

(理財學)

ヲ計リ益良好ナル物品ヲ生産スルニアリトセハ私ノ工産ハ實ニ社會一般ノ工
産ヲ進歩セシムルノ一大利益ナラスヤ
之ヲ要スルニ工産ハ元ト國家的ノモノニアラスシテ個人的ノモノナリ故ニ或
特別ナル場合ニアラサレハ政府之ニ關涉スルノ要ヲ見ス然ルニ此原理ヲ顛倒
シテ工産ヲ國家的ノモノト爲サント欲スルモノアリルイブラン主義是ナリ是
レ其當ヲ得タルモノト謂フヘキカ
夫レ天下貧者ノ多キ其數幾千萬人之ヲ算スルニ遑マアラス之ヲ救治セントス
ルハ洵ニ難イカナ今マ假リニルイブランノ言ニ從テ政府ヲシテ此等無數ノ貧
者ヲ救治スル爲メ或ル數多ノ工産ヲ起サシメタリトセヨ吾人ヲ以テ之ヲ觀ル
ニ勞働請求者絡繹トシテ來リ其跡ヲ絶タス五百萬人ノ豫想ハ千萬人トナリ千
萬人ノ豫想ハ五千萬人トナルヘシ其極終ニ生産力消費力ノ上ニ超越シ政府ハ
工産ヲ中止セサルヲ得サルニ至ルヘシ蓋シ之ヲ中止セス生産物ノ需用ニ超加
スルヲ觀過シ去ルトセハ此生産ハ必竟社會ニ無必用ナルモノトナリ之レカ爲
メ公庫ノ損失ヲ來シ終ニ財政困難ノ慘域ニ陥ラサルヘカラス

此故ニ政府ハ心ナラスニ生産力過剩ノ治愈手段トシテ此工産ヲ中止シ之ニ代
フルニ他ノ工産ヲ以テゼサルヘカラス然レ此變更ハ果シテ社會ヲ害スルナ
キヤ此變更ノ爲メニ勞働者ハ非常ナル困難ヲ負フニ至ラサルヤ吾人ハ信ス一
人ノ人ニシテ種々ナル工産ヲ爲シ得ルモノニアラサルコトヲ
夫レ然リ此ルイブラン主義ハ之ヲ貧者救助ノ永久策トスヘカラス只以テ一時
ノ假定策トナシ得ルノミ則チ之ヲ通言セハ一時ノ凶歉疫癘ニ當テ貧者ヲ救治
スルノ方法トスルコトヲ得ルノミ其說ヤ之ヲ他ノ諸說ニ比スレハ大ニ寛大ニシ
テ柔和ナリ其適用方法ノ可ナラサルヲ憾ムノミ

第六 結論

吾人ハ既ニ數十葉ノ紙片ヲ費シテ社會改良テフ問題ニ關スル諸主義ヲ列叙シ
而シテ各主義ニ就キ其是非得失ヲ考究討論シ去リタリ故ニ此點ニ付テハ又遺
憾アルヲ見ス今ヤ更ニ一步ヲ進メテ吾人カ正サニ社會改良ヲ達成スヘキト信
スル所ノ宿說ヲ陳述シ以テ聊カ諸君ノ清聽ヲ煩ハサントス
天地蕭條只タ聞クモノハ愁嘆ノ聲ノミトハ是レ洵ニ今日理財社會ノ現狀ヲ寫

シタルモノ乎天雪降ルニ非ス然レモ不平至ノ霏々トシテ散亂シ來ルヲ如何セ
 ン又雷鳴スルニ非ス然レモ苦情神ノ轟々トシテ四方ヲ激動スルヲ奈何セン之
 ヲ防キ之ヲ制スルハ果シテ大難事トナスカ之ヲ防キ之ヲ制スルノ難易ハ其源
 因根元ヲ究メタル後ニ非ラサレハ知ル能ハス今日ノ社會ニ在テ不平ヲ鳴シ苦
 情ヲ喚フモノアルハ抑モ何故ツヤ其組織當ヲ得サルニ由ルカ而シテ人其不平
 苦情ヲ制止スルコトヲ得サルハ何故ツヤ其之ヲ制止スルノ方法ナキカ將タ其方
 法アリトスルモ之ヲ適用スヘカラサルカ然リ社會ノ組織未タ其當ヲ得サルナ
 リ從テ今日ノ社會ハ不完全ナル社會ナリ又之ヲ去ルノ方法ナキニアラス只其
 方法ヲ實地ニ運用スルコトヲ得サルノミ

不平苦情ノ熾點ハ則チ多數人ニ向テ勞働ノ欠缺スルコトナリ又勞賃ノ常ニ減少
 ニ傾向スルコトナリ之ヲ要言セハ一般人民ニ向テ勞働ナキノミナラス其勞働ヲ
 得ルニハ勞働者間ニ一ノ競争ヲ爲サ、ルヘカラス而シテ其競争自然ノ結果ト
 シテ勞働ハ些少ノ賃銀ヲ請求スルモノニ落ツヘキヤ必セリ故ニ勞働賃銀ノ減
 少ハ日一日ヨリ多キヲ見ル然ラハ則チ此弊害ヲ除去スルノ治療策ヲ計畫セサ

機械ノ發明
 シテ禁止
 ノ勞働
 欠乏
 救フヘキ

ルヘカラス前述シタル諸主義中ニ於テ個人主義ニマレ社會主義ニマレ「サンシ
 モン」主義ニマレ「ルイブラン」主義ニマレ其立言ノ狀ニ至テハ各異ナルモ社會改
 良テフ一點ノ要領ニ至テハ毫モ差異アルヲ見ス之レ實ニ各主義議論ノ要點ニ
 シテ其決定ノ相異ナルノミ則チ各論據ヲ定メ其論據ニ由テ以テ社會改良ノ方
 法手段ヲ講究シタリ只タ其方法手段ノ未タ以テ社會ヲ改良スヘカラサルヲ憾
 ミシノミ是ヲ以テ吾人モ亦タ吾人カ論據ニ籍テ以テ社會改良ノ一大問題ヲ決
 定シ去ラント欲スルナリ

夫レ機械ノ發明アル毎ニ筋力必用ノ度ヲ減スルコト其幾何タルヲ知ラス故ニ或
 論者ハ大早計ニモ機械ノ發明ヲ有害視シ剩サヘ法律上之ヲ禁止シ之レニ代フ
 ルニ筋力ヲ以テシ筋力必用ノ度ヲ百倍スルニ若カスト放言スルニ至レリ嗚呼
 何ソ論者ノ言ノ無頓着ナルヤ是レ所謂一ヲ知テ二ヲ知ラサルノ議論タリ抑
 モ理財學ノ目的ハ何ソ論者之ヲ知ルヤ他ナシ一方ニハ人類ノ勞働ヲ有用ナ
 ラシメ他ノ一方ニハ人類ノ勞働ヲ減少シ其効力ハ却テ前日ニ蕃茂セシムルニ
 アリ然ルニ夫ノ機械ナルモノハ實ニ此目的ヲ達セシムルモノハナルニ非スヤ則

機械ノ發明ハ、理、財、上、ノ、進、步、ヲ、代、表、ス、ル、モ、ハ、ナ、ル、ニ、ア、ラ、ス、ヤ、然、ラ、ハ、一、時、機、械
 發明ノ爲メニ筋力必用ノ度ヲ縮減スルコトアリトスルモ理財上ノ進歩ノ代表者
 タル機械ニ一步ヲ讓ラサルヘカラス況ンヤ機械發明ヲ禁止スル如キ迂濶手段
 ヲ取ラスシテ他ニ筋力必用ノ度ヲ増加スルノ方法アルニ於テオヤ
 夫レ然カリ機械ノ發明ヲ獎勵振興スルコソ理財學ノ目的ニ適スルナレ決シテ
 之レヲ禁遏セントシ又タ之ヲ禁遏センニ政府ノ威力ヲ假ラント欲スル如キハ
 理財學者ノ一大妄誕ナリ一大耻辱ナリ何ントナレハ此ノ如キノ議論ハ全然理
 財學眞實ノ目的主眼ニ背馳スレハナリ
 公力以テ機械ノ發明ヲ禁止シ是ニ由テ以テ勞動ノ欠缺ヲ救ハント欲スル如キ
 ハ到底一ノ大謬説タルヲ免ヌカレス然ラハ如何ナル方法ニ由リテ之ヲ救ハン
 ト欲スルヤ之ヲ治スルノ方法只、タ、一、アル、ノ、ミ、他、ナ、シ、勞、働、時、間、ヲ、節、減、ス、ル、コ、ト、是
 レ、ナ、リ、今、マ、或、鋼、鐵、製、造、所、ニ、二、百、人、ノ、勞、働、者、ア、リ、テ、一、日、十、時、間、勞、働、シ、テ、二、百、貫
 ノ鋼鐵ヲ製造スルト假定セハ吾人ハ其十時間ナル勞動時間ヲ半減シテ五時間
 トナスノ法令ヲ發スヘシ然ルニ生産ノ程度定マレリ今日二百貫ノ鋼鐵ヲ製造

スルノ必要アレハ此禁令ヲ得タルカ爲メニ百貫ト減スヘキニアラス又三百貫
 ト増加スルモニアラス否ナ増加ハ吾人カ常ニ好望シ止マサル所ナリ何ニハ
 トモアレ之レカ爲メニ差シタル増減ヲ來スコナキヤ必セリ故ニ必用上更ラニ
 二百人ノ勞動者ヲ雇ヒ入レサルヘカラス何トナレハ二百人ト雖モ一日五時間
 ニテハ二百貫ノ鋼鐵ヲ製造シ得ス二百貫ノ鋼鐵ヲ製造センニハ必ス新タニ二
 百人ノ勞動者ヲ雇入レサルヘカラサレハナリ此方法ヲ工業一般ニ適用セハ其
 結果ハ如何則チ一般的ニ筋力必要ノ度ヲシテ前日ニ倍蓰セシムルニ至ラン歟
 然ラハ勞動ノ欠缺其跡ヲ掃ヒ又前日ノ患ナカルヘシ

(第拾三回)

吾人ハ前文ニ於テ勞動ノ欠缺ヲ救助スルノ方法ハ則チ勞動時間節減ノ一法ニ
 アル旨ヲ陳述シタリ更ニ一步ヲ進メテ社會改良ノ第二回タル勞動賃銀ノ高騰
 シ勞動者ノ生計ヲ裕ナラシムル方法如何テフ議問ニ移ラントス夫レ此議問ヤ
 容易ニ決スヘキニアラス輕々ニ確定シ去リテ無責任ノ論說ヲ吐露スヘキニア
 ラス必竟此問題ハ紙面机上ノ單純ナル問題トスヘキニアラサルナリ然レモ吾

人ヲ以テ之ヲ視ルニ前、述、勞、働、時、間、節、減、法、ハ、實、施、コ、ツ、實、ニ、勞、働、賃、銀、ヲ、高、騰、セ、シ、ム、ル、ノ、第、一、着、方、法、ト、シ、テ、之、レ、他、ナ、シ、勞、働、時、間、節、減、法、ハ、勞、働、ノ、欠、缺、ヲ、救、フ、ノ、方、法、ナ、リ、又、欠、缺、ヲ、救、フ、ノ、方、法、ト、シ、テ、設、定、シ、タ、ル、モ、ノ、ナ、リ、故、ニ、之、ヲ、一、般、的、ニ、實、施、セ、ハ、一、般、的、ニ、實、施、ス、ヘ、キ、コ、ソ、フ、法、律、上、命、ジ、タ、ル、ナ、ラ、ハ、社、會、ニ、於、ケ、ル、勞、働、者、必、用、ノ、度、果、シ、テ、前、日、ニ、蓓、菴、ス、ル、ニ、至、ラ、サ、ル、ヘ、キ、カ、一、步、ヲ、讓、テ、前、日、ニ、蓓、菴、ス、ル、ニ、至、ラ、サ、ル、ト、ス、ル、モ、多、少、必、用、ノ、度、ヲ、高、上、ス、ル、ニ、至、ラ、サ、ル、ヘ、キ、ヤ、吾、人、ハ、確、信、ス、勞、働、者、必、用、ノ、度、ハ、之、ヲ、前、日、ニ、比、ス、レ、ハ、稍、ヤ、高、上、セ、ン、コ、ソ、フ、惟、タ、夫、レ、然、カ、リ、然、カ、ラ、ハ、需、用、供、給、ノ、法、則、(Loi de l'offre et de la demande)「ロ、ワ、ー、ド、ロ、フ、ル、エ、ー、ド、ラ、ド、マ、ン、ド」ハ、勞、働、ノ、價、格、ヲ、シ、テ、依、然、ト、シ、テ、舊、位、ヲ、守、ル、ヲ、許、サ、ル、ナ、リ、否、ナ、自、然、ニ、價、位、ヲ、高、騰、シ、テ、勞、働、者、營、生、ニ、必、須、ナ、ル、材、料、ヲ、得、ル、ニ、至、ル、ヘ、キ、ヤ、必、セ、リ、以、上、ノ、結、論、ハ、是、レ、管、ニ、第、一、回、ノ、結、論、ヨ、リ、演、繹、シ、タ、ル、ニ、過、キ、ス、請、フ、左、ニ、救、治、法、ノ、萬、全、策、ヲ、縷、述、セ、ン

然、ラ、ハ、其、完、全、無、欠、ナ、リ、ト、云、フ、勞、働、賃、銀、改、良、ノ、萬、全、策、ナ、ル、モ、ノ、ハ、何、ソ、ヤ、之、レ、他、ナ、シ、賃、銀、ノ、最、低、額、ヲ、鞏、定、ス、ル、ト、是、レ、ナ、リ、此、最、低、額、ニ、法、律、上、ノ、制、裁、ヲ、附、ス、ル、ト、是、ナ、リ、則、チ、之、ヲ、詳、説、セ、ハ、勞、働、者、ハ、其、財、主、ヨ、リ、最、低、額、以、下、ノ、賃、銀、ヲ、受、ケ、取、ラ、サ、ル、ノ、權、利、ア、リ、之、ニ、對、シ、テ、財、主、ハ、其、義、務、ト、シ、テ、勞、働、者、ニ、最、低、額、以、下、ノ、賃、銀、ヲ、與、フ、ヲ、得、ス、ト、法、律、上、嚴、正、ナ、ル、制、裁、ヲ、以、テ、財、主、ノ、手、足、ヲ、抑、壓、ス、ル、ニ、ア、リ、今、ヤ、財、主、賃、銀、ヲ、低、落、セ、ン、ト、欲、ス、ル、モ、其、自、由、權、內、ニ、ア、ラ、サ、ル、ナ、リ、口、低、落、説、ヲ、唱、フ、レ、ハ、何、萬、人、ノ、勞、働、者、其、權、利、ヲ、主、張、ス、ル、ヲ、如、何、セ、ン、事、已、ニ、實、行、セ、ハ、嚴、罰、忽、チ、來、リ、テ、我、手、足、ヲ、縛、シ、我、カ、財、囊、ヲ、減、ス、ル、ヲ、如、何、セ、ン、モ、シ、果、シ、テ、此、ノ、如、シ、ハ、勞、働、者、ノ、地、位、ハ、實、ニ、安、全、ナ、リ、有、藝、者、ハ、自、己、ノ、藝、術、ヲ、顯、ハ、ス、ノ、媒、妣、ヲ、得、テ、好、地、位、ヲ、占、メ、ン、無、能、者、ト、雖、モ、自、己、ニ、相、當、ナ、ル、勞、働、ヲ、爲、セ、ハ、其、賃、銀、最、低、額、ヲ、下、ル、ノ、患、ナ、カ、ラ、ン、上、下、俱、ニ、安、泰、ニ、シ、テ、又、賃、銀、減、少、ノ、患、ヲ、視、サ、ル、ナ、リ、咨、嗟、怨、憤、ノ、聲、此、ニ、其、跡、ヲ、絶、タ、ン、休、養、生、息、之、レ、ヨ、リ、望、ム、ヘ、ケ、ン

且、ツ、夫、レ、此、最、低、額、ノ、確、定、ヤ、大、ニ、力、ヲ、勞、働、ニ、與、フ、ル、モ、ノ、ナ、リ、則、チ、勞、働、者、ニ、勇、氣、ヲ、一、層、増、加、ス、ル、ニ、至、ル、ヲ、見、ル、ヘ、シ、此、故、ニ、需、用、供、給、ノ、法、則、上、賃、銀、ノ、倍、高、騰、ス、ル、ヲ、見、ル、ニ、至、ル、ヤ、必、セ、リ、然、ラ、ハ、勞、働、者、ノ、幸、福、倍、大、ナ、リ、ト、謂、フ、ヘ、シ

以上陳述シタル所ヲ要スルニ勞働ノ欠缺ヲ救治スルニハ勞働時間ヲ節減スル

ノ法律ヲ發シテ嚴重ナル制裁ノ下ニ財主ヲ拘束スルニアリ而シテ第二回タル
 勞働賃銀ノ改良ハ賃銀最低額ヲ確定シ嚴罰以テ其最低額ヲ破ラサラシムル
 ニアリ是レ吾人カ社會改良問題ニ對シテ有スル所ノ思想ナリ之ヲ適用シテ果
 シテ良功ヲ奏スヘキヤ否ヤ吾人ノ淺識未タ答フル能ハサルナリ
 然レモ以上ノ二結論ハ是レ實ニ吾人カ胸中ノ思想ニ過キス故ニ之ヲ實行スル
 ニ當テハ此二結論ノミニテハ完全ナラサルナリ之カ實行ハ到底希望スヘキ所
 ニ非サルナリ是ニ於テカ必要上之ニ對スル種々ナル事務所ヲ組織セサルヘカ
 ラス今マ之ヲ例示セハ第一ニ勞働者募集記録所ナルモノヲ設定スルノ必要ヲ
 感スルナルヘシ蓋シ此所ニ來リテ勞働請求者ハ其募集ニ應スル旨ヲ記録シ又
 タ之レニ對スル勞働需用者ハ同シク其勞働者ノ入用ナルコト之ヲ雇入ルコト等ヲ
 記録登載シ後日ノ混雜ヲ防クニアリモシ然カラサレハ財主ハ安リニ賃銀ヲ減
 少シ又タ勞働時間ヲ増加スルノ恐レアリ所說秘密契約ヲ合成スルノ患アリ
 第二ニ要スヘキ組織ハ則チ退隱保護(Caisse de retraite)「ケースドレイト」是
 レナリ退隱保護寮ナルモノハ老者及ヒ不具者カ其疾病若クハ衰弱ノ爲メニ勞

働スルコトヲ得サルヨリ終ニ其營生ノ道ヲ得ス爲メニ糊口蔽衣ニ窮迫セルモ
 ノヲ救助スル所ナリ是レ實ニ文明國ニ於テ大ニ獎勵セサルヘカラサルノ事業
 タリ然ラハ此退隱保護寮設置ノ方法如何即チ之ヲ再言セハ如何ナル道ニ由リ
 テ退隱保護寮ノ理財ヲ計圖スヘキヤ此問題ハ實際上尤モ大切ナリ然レモ吾人
 ハ之ヲ講究スルヲ欲セス何ントナレハ吾人ノ研究甚シキ遠路ニ背馳スルノ恐
 レアレハナリ
 嗚呼何ソソ社會問題ヲ決定スルノ甚太タ容易ナルヤ皮想上之ヲ視レハ混亂錯
 雜ニシテ之ヲ決定スルノ方法手段モ之ヲ求ムルニ容易ナラサルヘシト信シタ
 ルニ何ソ圖ラン其混亂錯雜ナル問題ハ數葉ノ紙片能ク之ヲ水解スルコトヲ得
 タリ吾人ハ其甚太タ簡易單純ナルニ驚カサルヲ得ス唯タ夫レ然カリ故ニ吾人
 ハ少シク歩ヲ進メテ各國人智ノ進歩ノ點ニ付キ講究スル所アラン蓋シ人智ノ
 度ハ理財學ニ大關係アルモノナレハナリ
 夫レ一國人智ノ進歩ハ其國文明開化ノ反照ナリ而シテ其文物制度ハ即チ人智
 進歩ノ反照ナリ既ニ文物制度ヲ以テ人智進歩ノ反照ナリトセハ一國ノ法律行

何故ニ社
會改良ノ
先鞭ヲ取
ルノ國ナ
キヤ

政教育理財ハ其國人智ノ進歩ニ由テ定マラサルヘカラス否ナ人智進歩ノ高低ハ各國ノ法律行政教育理財ヲシテ各其趣ヲ相異セシムルモノト夫レ然カリ故ニ吾人カ純然タル真理(Terita)ベリテ「ナリト信スルモノモ或ハ習慣教育ノ臆斷ニ由リ或ハ社會ノ正義ナリトノ推想ニ由リ或ル多數人士ノ爲メニ妄誕視セラル、ヲ見ル此理ヲ推シテ各國間ニ付キ考覈スルニ甲國ノ人智ハ之ヲ眞理ナリト是認スルモ乙國ノ人智ハ未タ之ヲ是認スルヲ許サ、ル事アリ之レ乙國ノ人智進歩ノ度未タ甲國ニ及ハサルノ證ナリ是故ニ社會ノ事凡テ絶對的ノ好結果ヲ望ムヘカラス豈ニ嘆スヘキノ至リナラシヤ

人或ハ怪ミテ問ハン何故ニ人智ノ最進國ニシテ理財上ノ結論ヲ實地ニ行ハサルヤト論者ノ言一理アリ然レ而前ニモ屢説明シタル如ク社會問題ハ即チ一般的ノ問題ナリ絶對的ニ之ヲ決定シ之ヲ實行セサルヘカヲサルナリ決シテ之ヲ關係的ニ結論シテ特定人民ニ實行スル如キヲアルヘカヲサルナリ故ニ假リニモ或人民アリテ理財上ノ先鞭者トナリテ輕卒ニモ其結論ヲ實行スルコトアリトセハ其人民ハ倏忽チニシテ理財上ノ凶荒ニ陥ルヘキヤ必セリ蓋シ貧銀最低額

ノ確定ニマレ、勞動時間ノ節減ニマレ、之ヲ世界全般ニ實行シタルナラハ其効力必ス大ナルヘシト雖、而之ヲ或一國ニ限界シテ實行シタルナラハ其結果果シテ如何ナルヘキヤ吾人ヲ以テ之ヲ推想スルニ其直接ノ結果トシテハ物價ノ騰貴ヲ來サン其間接ノ結果トシテハ外國ニ對スル競争ヲ中斷セシ

然リ禁止的ノ税目(Droit prohibif)「ドロワー」プロイビチ「フヲ設ケテ外國輸入品ニ課シテ以テ外國生産ノ侵入ヲ防弊セハ秋毫モ内國生産ニ影響ヲ波及スヘキコトナキニ似タリト雖、而此手段ハ大ニ危險タルヲ免ヌカレス何ントナレハ外國トノ商業上ノ交際之レカ爲メニ破裂スレハナリ抑モ國ハ孤立朦朧シテ以テ其成立ヲ保持スヘキニアラス必スヤ外國ト交際ヲ締結シテ親睦ノ意思ヲ表シ有無相通スルノ利便ヲ授受シ災時相救助スルノ徳益ヲ交換シ而シテ後チ天下安穩タルヘク國家太平タルヘシ是故ニ今日ノ形狀ニ依テ之ヲトスルモ過去ノ形跡ニ依テ之ヲ徵スルモ文明倍々進歩スルニ從ヒ各國ノ關係益親密トナリテ相團聯スルノ形狀ヲ呈スルナルヘシ然ラハ一國交際ノ必要モ亦大ナリ

且又タ一國輸出品ノ多少ハ其輸入品ノ多少ニ應スヘキモノニシテ輸出品ヲ多

クシテ輸入品ヲ減少スル如キハ理財上不可ナルノミナラス又自然ノ法則上許サ、ルナリ故ニ輸入品ト輸出品ト其高ヲ同等平一ニシテ相調和スルハ之レ理財上尤モ喜フヘキノ事タリ此調和ヲ得ヘキノ方法如何他ナシ内國ノ生産品ヲシテ外國ニ輸出シテ商業競争場裡ニ立ツヲ得セシムルニアリ而シテ此目的ヲ達スルハ物價ノ下落ニアリトスレハ物價ノ高騰ハ洵ニ輸入品ト輸出品トノ調和ヲ破壊スルノ機具ニアラスシテ何ソヤ

吾人カ社會問題ノ結論ヲ實行スルニハ非常ナル困難ニ遭遇セサルヘカラサルトハ是之レヲ云フ此困難アリ故ニ其實行ノ舉在再シテ終ニ今日ニ至レリ吾人ハ斷言ス將來此改良ヲ目撃スルノ幸福ヲ得サルコトヲ蓋前述セシ如ク此社會改良ヲ實行センニハ世界一般ニ向テ爲サ、ルヘカラス然レモ到底望ムヘカラサルノ事タリ人智ノ差異政畧ノ理由境域ノ廣漠等皆此企望ノ障礙ヲ爲スモノタリ世界一般ニ之ヲ實行スルコト已ニ不可ナリ然ラハ或境域ヲ限界シテ實行センカ物價ノ騰貴ヲ生シ外國ノ商業社會ニ競争ノ權能ヲ失シ其極終ニ外國交際ヲ破裂スルニ至ル豈ニ謹マサルヘケンヤ

(第拾四回)

第三章 現今社會ノ顯象

第一項 會社 (Association) 「アソシヤション」

吾人カ長カ長カシクモ前文ニ於テ論述シ來リタル所ノモノハ是レ決シテ今日ノ實際ニ在ラサルナリ只タ精神ノ光輝ト腦髓ノ活力トヲ藉リテ將來ノ社會ヲ推想シタルニ過キス故ニ利アリト云ハ、利アリ益ナシト云ハ、亦益ナキナリ今ヤ此推想的ノ議論ハ之ヲ措キ敢テ今日ノ實際ニ入り思想ヲ現在ノ事實ニ轉用シ以テ社會ノ理財ヲシテ最モ福利アル地位ニ在ラシムルノ方法ヲ講究セントス

勞働ノ自由ナル原理ハ之ヲ一般のニ考察ヲ下セハ眞實無瑕ナル原理タリ然レモ之ヲ精理緻密ニ考究スルモ其社會ニ利益アルト同時ニ亦タ大害毒ヲ社會ニ醸スノ患アリ此故ニ此原理ハ之ヲ社會ニ採用スルコトヲ得ヘキト雖モ當局者ハ其禍害ヲ未然ニ防遏スルノ注意ナキ能ハサルナリ此點ニ付テハ前日陳述シ

タル所アルヲ以テ今此ニ養スルヲ止メン

抑モ今日ノ社會ハ何ソツ殖産興業ノ社會ナリ東方鐵道事業ヲ企ツルモノアレハ西方採鐵ノ事業ヲ圖ルモノアリ南人農事ニ從事セハ北人工業ニ没々たり或ハ蠶業ニ或ハ製糸ニ或ハ製鐵ニ其盛昌ニシテ進歩ノ迅速ナル今日ヨリ劇シキハナシ然レモ突然此ニ至リタルモノニアラス必スヤ其此ニ至ラシメタル源由ナキ能ハス其源由ハ他ナシ實ニ會社ノ組織今日ニ現存スルアレハナリ會社ハ則チ人類ノ目的企望ヲ發揮セシムルノ媒介タリ人類ノ躊躇心ヲ裁斷スルノ利及ナリ尙ホ更ラニ一步ヲ進マテ之ヲ云ハハ今日ノ社會ヲシテ殖産興業ノ社會タラシメタルモノハ會社ナリ今日労働ノ組織上理財學者ノ腦漿ヲ刺撃スルモノハ會社ナリ

宜ナリ或理財學者ハ大膽ニモ會社集合團結ナル原理ヲ以テ社會改良ノ一大原理ナリト認ムルニ至レリ然リト雖トモ是レ少シク會社熱ニ浮カサレタルモノニシテ會社必要ノ程度ヲ誤認シタルヲ免カレス取テ取ルニ足ラサルノ論說ナリトス左リトハ云ヘ是ニ由テ以テ今日會社ノ社會ニ必要視セラル、所以ノ一

斑ヲ知ルニ足ルヘシ會社ノ社會ニ必要視セラル、今日ニ於テ已ニ此ノ如シ今日ヨリ數十載ノ後ニ至レハ其勢力ハ果シテ如何ナルヘキヤ吾人ノ想像ノ到底及ハサル所ナラン遂ニハ個人的労働(Effort individual)(エフォール、エンジゼツエール)「個人的ノ労働トハ數多ノ労働者團結セシメテ一人獨立シテ職務ヲ行フヲ云フ」蹂躪シテ其跡ヲ絶タシムルニ至ルヘキナリ

今マ夫レ社會ノ勢力ヲシテ驅テ今日ノ形狀ヲ以テ進マシメンカ數十載ノ後ニハ會社ノ數非常ニ増殖シテ工産上ノ會社商業上ノ會社兩ツナカラ社會ニ充滿シ爲メニ社會ハ會社ノ世ノ中トナルヘシ此ノ時ニ當テハ會社軍ノ強勁ナル百萬ノ小工産者アリト云ヘモ千萬ノ小商業者アリト云ヘモ事已ニ終レリ兵ヲ交ユルモ亦タ蛇足ニ屬セサルヲ得ス早ク疲兵ヲ集メ弊器ヲ斂メテ降ヲ納ル、ニ若カサルナリ小工産者ノ爲メ小商業者ノ爲メ實ニ惘然ノ至リナラスヤ是ニ於テカ一大問題ノ生スルヲ見ル曰

會社ハ社會ニ善良ナルモノナルヤ將タ害惡ナルモノナルヤ
公平無私ナル眼力ヲ以テ之ヲ觀察セハ會社ハ社會ニ善良ナルト同時ニ害惡ナ

會社ハ社
ナリ善良

ルモノナリ故ニ其社會ニ善良ナル點ヲ認ムルト共ニ害惡ナル點ヲ排セサルヘ
カラスソモ會社ノ有益實利ナル果シテ其比ヲ見ルヤ否ヤ其已ニ社會ニ大功ヲ
奏シ又將サニ其功ヲ奏セントスルモノ擧ゲテ數フ可カラス凡テ全世界ニ必須
ナル大事業ヲ企圖スルニ至ラシメタルモノハ彼レ會社ナリ彼レ微リセハ何ヲ
以テカ夫ハ有益ナル蘇士運河事業ノ完成スルヲ見ルヲ得ン其今日ニ航海ノ一
大便利ヲ與フルヲ思ヘハ會社ノ利益モ亦大ナリト謂ハサルヲ得ス
會社ノ一大利益トモ謂フヘキモノハ他ナシ巨額ナル資本ヲ集合シテ其各社員
ヲシテ事業ノ責任ヲ分擔セシムルニアリ故ニ縱令其事業ハ不安全ナルニモセ
ヨ一人ヲ以テ企ツルニ比スレハ其責任ノ度大ニ鮮少ニシテ且ツ寡額ノ資本ヲ
投シテ以テ一大事業ヲ完成シ又得ル所ノ利益大ナルヲ以テ人ヲシテ事業企圖
ノ躊躇心ヲ大ニ薄弱ナラシムヘキナリ是レ會社ノ勢力日一日ヨリモ多ク如何
ナル事業モ皆ナ會社ノ力ニ由ラサルナキニ至ル所以ナリ
鐵道事業日ニ盛昌スルヲ見ルモ會社アルナレハナリ航海會社 (Compagnie de naviga-
tion)「コンパニエ」ナビガシヨシノ設立スルモ此會社ナル原理ニ其本ヲ汲ム

會社ノ區
別

アレハナリ今日ヨリ漸次進歩シテ其極終ニ内外交通全般ノ方法ヨリ社會ニ必
要欠クヘカラサル大事業ニ至ルマテ此社會ノ力ニ依テ創始發達スルヲ見シ
終リニ會社ハ勞動分配ノ原則ヲ適用スルノ一大便利アリ蓋シ會社ハ小工産者
ト異ナリテ數多ノ機械ト幾千ノ工者トヲ使用シテ以テ其事業ヲ營ムモノナル
ヲ以テ組織上自カラ工者ニ勞動ノ分配ヲ爲サルヘカラサレハナリ
會社ハ之ヲ二様ニ區別スルコトヲ得ルナリ
第一會社ハ作業共同 (Cooperation)「コーペラシヨシ」ノ組織ヲ以テ現出スルコトアリ
作業共同トハ勞動者ヲシテ財本ト勤勞 Main-d'oeuvre「マンドウーブル」トノ損益ヲ
財主ト相共ニセシムルニアリ則チ之ヲ換言セハ財主ト勞動者トノ利害ヲ一途
ニ出テシメ勞動者ヲシテ各自其營業ノ盛衰ニ隨ヒ直チニ損益ノ其身ニ及フヘ
キ情意ヲ起サシメ大ニ勞動ヲ獎勵スルニアリ蓋シ善良ナル組織ナリ
第二會社ハ通常ノ所謂結社ナリ數多ノ人士相集合シ各自ノ才能ニ由テ其職務
ヲ頒チ以テ結社企業ノ目的ヲ達成スルニアリ
其利害得失ノ如キハ後ニ之ヲ論セン

會社ハ害
惡ナリ

數年以來會社ノ勢力大ニ皇張シ其極終ニ會社熱ナルモノヲ醸成スルニ至レリ
爲メニ會社ノ組織サルヽト非常ニ夥シク工産ニマレ商業ニマレ會社ヲ組織シ
以テ起業ノ目的ヲ達セサラント欲スルモノ洵ニ寂々寥々トシテ曉天ノ晨星モ
管ナラズ盛ト云ハンカ刷ト云ハンカ吾人ハ其熱ノ酷熱ト變化シ去ランコヲ懼
ルヽナリ

會社ノ勢力既ニ此極端ニ駛レリ故ニ社會ノ理財ヲ害スルコト鮮少ニ非ス既ニ社
會ノ理財ヲ害スルコト鮮少ナラストセハ會社モ亦タ社會ノ害惡物タルコトヲ免ヌ
カレサル歟今日ノ形狀ヲ以テ之ヲ視ルニ巨萬ノ財本ハ一點ニ凝集セリ財本ノ
個々分離スルコアルハ甚タ稀ニ見ル所ノ事タリ一點ニ凝集スルトハ何ゾ則チ
數多ノ財本ヲ集合シテ一大商店ヲ作り其商店ニテ各自特有ノ商業ヲ營ムニア
リ或ハ靴ヲ賣リ或ハ紙ヲ賣リ或ハ書籍類或ハ洋酒類等一度足ヲ此店中ニ入ル
レハ千種万別ナル商品目前ニ陳列シ欲スル所トシテ有ラサルハナク好ム所トシ
テ無キハナシ其利便ナル實ニ大ナリト謂フヘシ况ンヤ其賣價ハ之ヲ他ノ小店
ニ比スレハ甚タ廉下ナルニ於テオヤ買客此ニ幅轆シ小店ニ足ヲ留ムルナキニ

至ルモ亦タ宜ナリト謂フ可シ蓋シ此等大商店ニ在テハ全体ノ費用(Trans censeaux)
「ブレ」ゼ子ロー「納税金」工人雇料家屋ノ賃料等ハ巨額ナリ然レモ之ヲ各財主ニ
分配シテ而シテ之ヲ一ノ小店カ要スル費用ニ比スレハ其費用ハ遠ク小商店ノ
下ニ出ツヘシ之レ賣品數常ニ多キヲ以テ差引純利高モ從テ大ナルヲ以テナリ
以上ノ如キヲ以テ商品ヲ廉下ナラシムルモ毫モ損耗ナク却テ客ヲ呼フノ機具
トナルナリ是レ則チ大商店ノ日々盛榮繁昌ニ赴ク所以ニシテ小商店ノ漸次閉
戸ノ惡運ニ向フ所以ナリ

夫レ斯ノ如ク會社熱ノ倍々度ヲ加フル今日ニ在リテハ小工産小商業ノ日々零
落ニ沈淪スルヲ見ル又タ將サニ沈淪スルヲ見ントス吾人ハ之ヲ見之ヲ聞キテ
轉タ慨嘆ニ堪ヘサルナリ故ニ慨嘆ノ中ニモ之ヲ救済スルノ方策ヲ講究セント
欲スルナリ蓋シ之ヲ看過シ去ルモ漸ク小工産小商業ノ成立ヲ滅殺シ其結果
トシテ勞動者ノ増加シ財主ノ減少スルヲ見ルハ患アリ其故何ソヤ他ナシ其
始メ小工産若クハ小商業ノ財主タリシモノモ到底工産會社若シクハ商業會社
ノ勢力ニ抗抵スルノ力ナキヲ以テ財本ヲ收メテ自己ノ營業ヲ中止シ會社ノ勞

動者トナラサルヲ得ス又勞動者ト成ルノ利益アリ是故ニ勞動者ノ増加シテ財
主ノ減少スルハ自然ノ道理ナリ
然ラハ勞動者ノ増加スルハ社會ニ害アリト云フヤ曰ク然リ抑モ大財本ノ小財
本ヲ滅殺スルハ即チ財主ヲ減少ノ勞動者ヲ増加スル所以ナリ而シテ財主ヲ滅
少シテ勞動者ヲ増加スルノ社會ニ害アリト云フハ何ゾ蓋シ今日理財學者ノ其
思想ヲ焦カシ其腦髓ヲ勞ノ其研究ニ汲々タルハ則チ勞動者救濟ノ一點ニアル
ナリ理財學者ハ一人ト雖モ勞動者ノ減少センコトヲ欲スルモノナリ勞動者ノ増
加センコトヲ之レ恐ルハモノナリ然ラハ勞動者ノ減少コト社會ニ好マシケレ其
増加ハ理財上決シテ喜フヘキコトニ非ラサルナリ夫レ然リ故ニ今ノ時ニ當リテ
會社ノ勢力ヲ滅殺スルハ理財上甚タ必要ナラスンハアラス之ヲ滅殺スルニ
ハ結社ノ自由ヲ多少束縛制限スルニ若カサルナリ然カラサレハ其進歩ヲ遏止
セント欲スルモ亦タ難キカナ
然レモ翻ヘリテ再タ考フルニ會社ハ洵ニ社會ニ樞要ナルモノナリ苟モ國家ニ
シテ理財上他國ト拮抗シテ最大有利ナル地位ヲ占メント欲セハ會社ヲ振興皇

張スルノ他ニ方法ナキナリ之レ他ナシ會社ハ商業ニ工産ニ萬般ノ競争場裡ニ
立チテ外國ノ侵襲ニ應スルノ力ヲ有スレハナリ
譯者云秋風飄々トシテ落葉ヲ飛ハシ月光影幽カニシテ西山ニ落チナシ
トスル憂愁無聊ナル境遇ハ之レ實ニ今日我理財社會カ沈淪セル境遇ナ
リ金融必迫シ米價暴騰ス一トシテ吾人カ喜悅ノ感情ヲ催フセシムルモ
ノナン日本銀行ハ金融ニ活路ヲ與ヘントシ已ニ其救濟策ニ就事セリ或
ル二三ノ理財學者ハ米價暴騰ニ付キ熱心汲々其治療法ヲ講セリ此狀況
ヲ以テ進歩セハ數月ノ後ハ必ス百花芬々ノ香ヲ放チ黃鳥春歌ヲ弄スル
ノ好境域ニ遭遇スルニ至ルヘント雖モ然カモ此等ノ現象ハ實ニ理財學
實地研究ノ一大材料ヲ爲スモノナリ然ルニ吾人ハ譯シ去リ譯シ來リテ
偶マ會社熱ノ社會ニ大害アルヲ知ルニ及ンテ此金融必迫ノ原因モ亦彼
レ會社熱ニアルコトヲ發見シタリ豈ニ奇怪ナラスヤ抑モ今日ノ金融必迫
ハ其ノ由テ來ルコト久シク其由來スル所ノモノモ亦多シ然レモ其最モ近
接セル源由ハ之ヲ尋ヌルニ一ニ歸スルノミ其源由トハ何ンソ他ナシ會

(理財學)

社熱[○]是[○]レナリ蓋シ一時非常ニ會社熱ヲ興シ殖産興業ノ新事業大ニ盛大
 ヲ極メタリ今日ノ必[○]迫[○]ハ則チ其結果ナリ言フ換ヘテ之ヲ云ヘハ資本ノ
 高[○]ヨリモ事業ノ方[○]遙[○]カニ其[○]度[○]ヲ[○]超[○]過[○]シタルニ依[○]リ其[○]資[○]本[○]ト[○]事[○]業[○]ト[○]相[○]當[○]
 合[○]スルヲ得[○]サルノ結果ヲ生[○]ス此結果コソ實[○]ニ今日ノ困[○]弊[○]ヲ來[○]シタルナ
 レ是ヲ以テ之ヲ觀ルニ今日金融ノ必[○]迫[○]ヲ來[○]セシハ會社熱過度ノ結果ナ
 ルヲ知ルヘシ是レ譯者カ私言ニ非ス或ル一二ノ有力ナル理財學者ノ主
 張スル所ナリト聞ク譯者ハ只タ會社熱ノ實ニ恐ルヘキモノナルヲ講師
 ノ陳述シタル如キヲ陳辨スルノミ讀者之ヲ諒セヨ

(第拾五回)

第二項 生産 Production 「プロヂュクシヨント
travail 「トラバインウトノ關係

勞動ハ其結果トシテ役務 Service「セルビス」若シクハ富 Richesse「リシエス」生ス
 而シテ之レカ交換 change「チェンヂュ」ヲ爲スニ當テヤ或ハ富ヲ以テ富ニ換ヘ

或ハ役務ヲ以テ役務ニ換ヘ或ハ富ヲ以テ役務ニ換フ

人アリ金錢ヲ以テ或ル物品ヲ購フハ之レ富ト富トノ交換ナリ之ニ反シテ金錢
 ヲ以テ役務ヲ求ムルハ之レ富ト役務トノ交換ナリ役務ト役務トノ交換ニ於テ
 モ亦タ然カリ

富ト富トノ交換ハ是レ今日通常ニ見ル所ノ状態ニシテ最モ實際ニ行ハル、所
 ノモノタリ富ト役務トノ交換ハ之ヲ前者ニ比スレハ稍ヤ常態ニアラストスル
 モ同シク實際ニ行ハル、所ノモノタリ之ヲ例ヘハ醫士若シクハ狀師カ依頼人
 ノ依頼ニ應シテ或ハ診断調合ノ術ヲ行ヒ或ハ判定辨論ノ勞ヲ取り其謝禮 (honoraire)
 「オノレール」トシテ金錢上ノ報酬ヲ受ク之レ富ト役務トノ交換ヲ爲シタル
 モノニシテ醫士狀師ノ診断調合ノ術ヲ行ヒ判定辨論ノ勞ヲ取りタルハ則チ依
 頼人ニ向テ診断若シクハ辨論ナル役務ヲ供給シタルナリ而シテ依頼人ノ報酬
 ヲ爲シタルハ則チ醫士狀師ノ役務ニ對シテ富ヲ提供シタルナリ夫レ然リ故ニ
 此場合ニ於テハ富ト役務トノ交換アルヲ知ルヘシ役務ト役務トノ交換ハ實ニ
 稀有ノ事ニシテ通常引渡 (transaction)「トランザクシヨン」ノ目的トナルコトナシ余

公務私務

諸君ニ約シテ曰諸君モシ余カ家ヲ守レハ其報トシテ余ハ或商店ニ到リ諸君ノ欲スル所ノモノヲ購求シ來ルヘシト之レ役務ヲ以テ役務ニ換フル適例ナリ
 役務ハ之ヲ區別シテ二種トス一ヲ公務 (Service Public)「セルベース・プブリック」ト云ヒ一ヲ私務 (Service Privé)「セルベース・プリベール」ト云フ此二者ハ性質上之ヲ區別セサルヘカラサルノミナラス報酬ノ方法ヲ異ニスルヲ以テ此點ヨリモ亦區別スルノ必要アリ何ヲ以テカ性質上之ヲ區別セサルヘカラサルト云フヤ他ナシ私務ハ個人間ニ交換スヘキモノニシテ其目的トスル所ハ管ニ個人ノ利益ニ止マルナリ公務ハ直接ニ無形團體 (unite morale)「ユニテ・モラル」ニ供スル役務ニシテ公衆一般ノ利益ヲ爲スモノナリ何ヲ以テカ報酬ノ方法上之ヲ區別スルノ必要アリト云フヤ他ナシ私務ハ其報酬ヲ直接ニ享利者ヨリ受クルモ公務ニ至テハ其報酬ヲ授クルモノハ享利者ノ代表者タル無形團體ナリ
 尙更ラニ之ヲ明細ニ區別セハ左ノ如シ
 第一ノ差異 公務ハ單リ私益ニ關スルモノニシテ必竟公益ニ關スルモノニアラス公務ハ之ニ反シテ萬民其利益ニ參加スヘキモノニシテ必竟公益ニ關ス

公務私務
トノ間ノ
差異

ルモノタリ

第二ノ差異 公務ハ之ヲ授クルモノト之レカ利益ヲ享クルモノトノ間ニ直接ノ關係存在スルモノナリ然ルニ公務ハ授與者ト享利者トノ間ニ無形團體ナル介入者アリテ常ニ間接ノ關係ヲ保有ス

第三ノ差異 公務ノ授與者ハ直接ニ享利者ヨリ報酬ヲ受クルヲ常トス公務ハ之ニ反シテ授與者ハ其報酬ヲ介入者ナル無形團體ヨリ受クルナリ

抑モ役務ノ價格ハ何ヲ基礎根本トシテ定ムルヤ之レカ標準トスヘキ槩アルヤ否ヤ一般ノ原則ヲ云ヘハ其標準ハ之ヲ得ルノ難易ト之ヲ求ムルモノ、多寡ニ

役務ノ價
格ヲ定ム
ルノ標準

依テ確定スルモノナリ決シテ其役務ノ要用如何ヲ顧ミルノ必要ナシ此ニ於テカ二個ノ原則ノ發生スルヲ見ル役務供給者ノ多數ナルハ其獲得スヘキ報酬ヲ低○落○ス○之○ニ○反○シ○テ○役○務○需○用○者○ノ○多○數○ナル○ハ○其○獲○得○ス○ヘ○キ○報○酬○ヲ○右○二○個ノ原則ハ車輪羽翼ノ關係ヲ保有スルモノニシテ二者相待テ其運動ヲ實行スルモノナリ故ニ甲ノ原則行ハレテ乙ノ原則行ハレサル如キコアラサルナリ
 役務ハ種々ナル性質ヲ有ス有形的ナルコトアリ無形的ナルコトアリ補助的ナルコ

(理財學)

役務ハ需用價
格ニ依テ配
給スルハ則
供給ノ支
出ニ依テ
例ハ外ニ
アル

アリ有形的ノ役務トハ則チ醫士カ病者ニ對シテ行フ役務ノ如キ又ハ狀師カ訴
訟人ニ對シテ行フ役務ノ如キヲ云フ無形的ノ役務トハ則チ才能的ノ役務ニシ
テ教師カ教課ヲ生徒ニ與フル如キ之レナリ補助的ノ役務トハ則チ生産ヲ補助
スルノ謂ニシテ工士カ其財主ニ向テ爲ス役務ノ如キ是レナリ
凡ソ役務ハ其有形的タルト無形的タルト又タ補助的タルトヲ問ハス常ニ交換
ノ普通法則ニ支配サル、モノタリ而シテ其所謂交換ノ普通法則ナルモノハ交
換物品カ需用供給ノ多寡強弱ニ依テ其價格ヲ確定スルト云フ一大法則ヨリ流
出セル細則ニ過キサレハ役務報酬ノ價格モ亦此需用供給ノ法則ニ由テ巡環ス
ルモノタルコトヲ知ルヘシ是レ通常ノ狀態ナリ一般ノ原則ナリ從テ其變體例
外トモ云フヘキモノナキ能ハス其實例ハ則チ著述發明ノ役務是ナリ著述家發
明家ハ新思想ヲ發出シテ果シテ正當公平ナル報酬ヲ社會ヨリ享クルヤ否ヤ抑
モ著述發明ノ事業タルヤ事業トシテハ大ニ貴重スヘキモノナリ社會ヲ今日ニ
將來ニ裨益スルコト其幾何タルヲ知ラス社會ノ著述家發明家ニ對シテ恩徳ア
ル山ヨリモ高ク河ヨリモ深カラシ故ニ理論上ヨリ之ヲ論スレハ其報酬ハ最モ

著述發明
ヲ保護ス
ルノ必要
アリ

洪大ナラサルヘカラス社會ハ之ニ巨萬ノ賞ヲ供スルモ未タ以テ足レリトナサ
サルナリ然ルニ今日ノ狀況ヲ以テ視レハ著述家發明家ハ斯ノ如キ貴重ナル位
置ヲ有セサルナリ社會カ著述家發明家ヲ尊敬スルコト此ノ如ク大ナラサルナリ
其報酬ノ如キハ洵ニ微々トシテ五斗米モ管ナラス夫レ是ヲ以テ著述家發明家
ニ對スル義務ヲ盡シタルモノナリト云フヘキヤ其報酬ハ正當公平ナリト謂フ
ヘキヤ吾人ハ怪訝ニ堪ヘサルナリ
夫レ然リ若シ著述家發明家ヲ保護スルノ法律アラズンハ著述家發明家ノ思想
ハ彼等著述家發明家ニ對シテハ何等ノ利益タモアラサルナリ其新思想ハ發明
サル、ヤ否ヤ倏忽チ汎濫シテ全世界ノ共用物ト化シ其利益ハ悉皆富家者ノ掌
中ニ落ツヘシ是レ法律ノ之ニ關涉スルノ必要アル所以ナリ一定ノ期限間著述
家發明家ヲシテ其發明ノ思想上ニ所有權ヲ有ヒシムルノ必要アル所以ナリ
此點ニ付キテハ一時種々ナル主義ヲ生シタリ然レモ其云フ所ハ皆ナ立法者ノ
保護ヲ要スルトノ一點ニ飯シタリ其主義中最モ公平ノ明ヲ保チ簡單ニシテ實
際ニ適シタルモノハ「ブルベ」主義ナリトス

役務ヲ抑
制スルノ
必要

夫レ吾人カ今日依テ以テ福祉ヲ増進シ利益ヲ享有スルハ何物ノ賜ナルヤ自由
權發揮ノ賜ナリ自由權ハ則チ文明進歩ノ一大美果ニシテ如何ナル方隅カ此氣
氛ノ胚胎セサル所アラザラン然レ此自由權ハ濫用ニ陥ルヘカラス却テ爲メ
ニ禍害ヲ招クノ恐れアレハナリ又タ公益ノ爲メ一步ヲ屈ケサルヘカラス私益
ハ公益ニ勝ツ能ハストハ法理上ノ原則ナレハナリ役務ヲ交換スルニ當テモ亦
タ然リ其役務ヲ交換スルト否トハ專ハラ交換者ノ自由權内ニアリ左リトハ云
ヘ此自由權ハ公益ノ爲メ一步ヲ讓ラサルヘカラサルナリ若シ此制限ナクハ
公益ハ私益ノ爲メニ侵凌スル所トナリ其極終ニ公共ノ安全ヲ害スルノ恐アル
ヘケレハナリ是レ法律カ醫士、藥師、屠師、建築家等ノ役務ヲ固ク制限シテ特別
ナル能力ノ要件ヲ設定シタル所以ナリモシ此制限ナクシテ如何ナルモノニテ
モ醫士トナルコトヲ得タリキセハ醫士ハ恰モ人ヲ生カスニ非スシテ人ヲ殺スノ
媒介者タランノミ豈ニ怖ルヘキニ非スヤ
役務ノ社會ニ必要ナルヤ一點ノ疑ヲ容レズ然レモ増殖其度ヲ失スルハ理財上
甚太タ好マシキコニアラス需用供給ノ二者ハ必シモ其平均ヲ保持セサルヘカ

必然ノ公
務無必然
ノ公務

ラス故ニ役務ノ生産者ニシテ需用ノ度外ニ出ツルハ既ハヤ生産者ニ非スシ
テ純然タル消費者ニ過キサルナリ是レ恰モ富ノ生産者カ或物品ヲ生産シタリ
シテ需用ナキニ依リ其生産物ヲ破壊シ若シクハ朽腐ニ附セシムルト同一ナリ
公務ハ私務ト異ナリテ國府縣市町村等ノ如キ無形團體ニ供給スルモノナルヲ
以テ行政機關ノ運用ヲ圓滑ニシ社會公共ノ安寧秩序ヲ維持スルニハ緊要ナル
モノタリ左レモ其供給ヲ必要度外ニ超越セシムヘカラス必シモ需用ト供給ト
ノ間ニ平均ヲ保全セシムハアラサルナリ
公務ハ之ヲ區別シテ必然ノ公務 (Service Public essential) 「サルビス・エッセン
シャル」トシテ必然ノ公務 (Service Public non essential) 「サルビス・ビ
ン・エッセンシャル」トシテ無必然ノ公務トシテ必然ノ公務ハ其語ノ表
イブリック、ノン・エッセンシャルトノ二トナスコトヲ得ヘシ必然ノ公務ハ其語ノ表
明スル如ク必然存セサルヘカラスシテ一日モ之レト分離スヘカラサル公務ヲ
云フ無必然ノ公務ハ之ニ反シテ其存否ハ毫モ公益ニ關係ナキモ又社會ニ有益
ナル公務ヲ云フ
公務ノ必然ノ公務ニ存スルヤ將タ無必然ノ公務ニ存スルヤハ之ヲ知ルコト容易

(理財學)

(再版)

ナラスト雖也或ハ二三ノ公務ハ一日瞭然其何レニ存スルヤヲ判定スルコトヲ得
ヘキモノアリ設例ヘハ國民保護ニ關スル義務(血稅ノ義務)如キ國家財政ニ關
スル義務(納稅ノ義務)如キ若クハ公共ノ教育ニ關スル義務ノ如キ一見シテ其
必要ノ公務タルコトヲ知ルヘシ

然レモ此最後ノ點ニ付テハ學者間大ニ議論アリテ一定ノ結論ヲ見ス又之ヲ絶
對的ニ論決スヘカラサルモノ、如シ之レ他ナシ其國ノ國狀若クハ人智ノ程度
等ニ由テ大ニ論決ヲ異ニスヘキノ點アレハナリ果シテ然ラハ日本ニ於テハ如
何吾人ノ見解ヲ以テセハ教育ハ之ヲ行政機關ニ委シ而シテ其監督ヲ人民ノ與
論ニ任スルニ若カサルナリ是レ教育進歩ノ捷徑ナリト信スルナリ

(第十六回)

第三項 生産的勞動ノ結果

勞動ノ其
義及ヒ其
範圍

抑モ勞動トハ如何ナルモノナルヤ之レカ定義ヲ下セハ勞動トハ物品ノ形狀ヲ
變更シ若クハ其場所ヲ移轉スルノ作用ヲ謂フ即チ甲種ノ物品ヲ變シテ有用ナ

ル乙種ノ物品ト爲シ又ハ甲地ヨリ需用多キ乙地ニ移ス如キハ之レ實ニ勞動ノ
結果ナリ蓋シ皮想上ヨリ一見スルトキハ人或物品ヲ創造スルコトヲ得ルカ如
シト雖モ事理ノ真相ニ就テ考セハ如何ナルモノト雖モ人ノ創造ニ係カル
モノナク其創造セシ如ク見ユルモノハ取リモ直サス物品ノ形狀ヲ變更シ若ク
ハ其場所ヲ移轉シタルニ外ナラサルナリ唯々其形狀ヲ變更シ若クハ其場所ヲ
移轉スルノ方法ニ至テハ千變萬化ニシテ或ハ智識才能ノ力ニ依リ或ハ確實ナ
ル事實ノ力ニ依リ以テ其運動ヲ試ミサルヘカラス然リト雖トモ其運動ノ主人
タル物品其者ニ至リテハ一トシテ生産者ノ手ヨリ成リシモノニアラス自然
創造ニ係リシモノタルニ過キサルナリ而シテ其千變萬化ナル方法ニ依テ自然
ノ創造ニ係ル物品ノ形狀ヲ變更シ又ハ之レカ場所ヲ移轉スル運動ハ之ヲ勞動
ト云フナリ

(理財學)

(再版) 百十一

富ノ發生

若シ夫レ物品ニ勞動ヲ投用センカ物品ハ其形狀ヲ變更シ若クハ其場所ヲ移轉
スルニ至ル物品其形狀ヲ變更シ若クハ其場所ヲ移轉センカ物品ハ一ノ必用物
ト化シ人類ハ所有權内ニ入り其用役ニ供セラル、ニ至ルヘシ此最終ノ時コソ

物品ノ個性
特質ナリ

實ニ富ハ發生ヲ見ルハ日ナリ

物品所有
ノ行為

凡ソ物ハ之ヲ其個々物々ノ状態ヨリシテ觀察ヲ下セハ一時ニ一般ノ人類ニ對シテ利益ヲ附與シ幸福ヲ増進スルヲ能ハサルナリ蓋シ物品ハ各個特ノ性質ヲ備フルモノニシテ甲ナル物品ハ甲ナル物品一個アルノミ乙ナル物品ハ乙ナル物品一個アルノミ故ニ甲ナル物品モ乙ナル物品モ各個々物々ノ關係ヲ有シ二個ト之ヲ得ント欲スルモ得ル能ハサルナリ夫レ然リ故ニ其利益ヲ附與シ幸福ヲ増進セシムル所ノモノモ亦一人ニ止マラサルヲ得ス即チ其物品ノ所有者タル特定人ニ非ラサルヨリハ之ヲ利用セント欲スルモ到底能ハサル所ノモノナリ然レモ物品ノ所有者タラシニハ物品ヲ所有スルハ所爲(アプロプリヤシヨン)(Appropriation)ヲ行ハサルヲ得ス物品所有ノ處爲ハ所有者タルニ必用欠ク可カラサルノ要件タリ然ラハ物品所有ノ所爲トハ何ソ他ナシ即チ或レ特定人ヲシテ他人ヲ排斥シテ或物品ヲ利用スルヲ得セシムルニアリ抑モ此物品所有ノ思想タルヤ今日一般ニ法律ノ確認スル所トナリ其所爲ヨリシテ生スル權利ハ之ヲ所有權(財産)ト云フ故ニ所有權トハ立法者カ物品所有ノ所物ニ附與シタル

(再版) 百十二

ル制裁(サンクシヨシキエードンチーパール。ル。レジスラツツール。ア。ラ。プロ。ブリヤシヨ) (Sanction qui est donnée par le législateur à l'appropriation) ヲ謂フ

以上陳述シタルカ如ク物品ハ勞働ニ由テ人類社會ノ裨益者ト化シ終ニ或レ特定人ノ所有ニ皈スルモノナルヲ以テ此物品所有ノ事タル實ニ人類進歩ノ一大結果ニシテ又掩フ可カラサルノ事實ナリ蓋シ人類進歩ノ結果ナリト謂フハ他ニアラサルナリ人類ハ他ノ活物ト異ナリテ一種特別ナル傾向ト性能トヲ有スルモノナリ故ニ其未タ開化セサルノ暗黒時代ニ在リテハ他ノ活物ト異ナルコトナク其特別ナル傾向ト性能トヲ十分ニ敷衍スルコト能ハサルヲ以テ此所有權ノ思想ヲ湧出セサリシト雖トモ降りテ漸ヤク野蠻ノ俗風ヲ脱スルニ及ンテハ此傾向ト性能トノ力能ク所有權ヲ成立ヲ人類社會ニ誘接保全スルニ至ラシメタルナリ之レ吾人カ所有權ヲ成立ヲ以テ人類進歩ノ一大美果ナリト云フ所以ナリ

抑モ吾人カコ、ニ喋々辯スル所ノ財産(財産)ハ前陳所有權ノ意ナリ以下此語ヲ用ユ何トナレハ所有權ト云フヨリハ財産ト云フ方甚タ明白ニシテ此二者ノ

(理財學)

(再版) 百十三

個人財產

(再版) 百十四

間ニ毫モ差異ナケレハナリハ個人財產ノ義ニシテ集合財產ニ非ラサルナリ何トナレハ集合財產ハ之ヲ一ノ財產ト云フハ寧ロ一ノ物品ノ集合ト云フノ勝レルニ若カスシテ且ツ財產ヲシテ財產タルノ性質ヲ消滅スルニ至ラシムルモハナレハナリ加施集合財產ハ未開蝨爾タル蠻民ノ集合体タル元始社會ニ於テ其威力ヲ逞フシタルモノニシテ人類ノ進化ハ此害惡物ノ永存ヲ許認セサルナリ否ナ今日ニ至リテハ最ハヤ其痕跡ヲ止ムル非ラサルナリ(十二頁參考左レハ個人財產ナルモノハ人類進化ノ結果トシテ自然ニ集合財產ニ紹キテ發生シタルモノニシテ人力ノ能シタル所ニ非ラサルナリ然リト雖トモ其今日ニ勢力ノ炳然タルハ之レ集合財產ヲ殫シテ己レ自カラ社會ニ發生シタルノ故ニ非スレテ人類社會ニ必要缺ク可カラサルカ故ナリ何故ニ必要缺ク可カラサルモノタリト謂フヤ他ナシ渠レ個人財產ハ人類ヲシテ其筋力ニ智識ニ之ヲ用テ勞動スルニ當リテ倦厭ノ氣ヲ起サシメス倍ス進取勇敢ノ氣力ヲ培養セシムルモノタレハナリ而シテ此進取勇敢ノ氣力コソ實ニ人類社會進步ノ運動ヲシテ圓滑ニ繼續セシメテ遂ニ今日ノ文明開化ヲ視ルヲ得セシメタルモノナリ果シテ然

個人財產
必要財產
理由

何故ニ個人
財產ノ進
取勇敢ヲ
力ヲ失フ
會ニ喪失
取力ヲ進
會ニ喪失
由タルヤ

財產不侵
ノ原則

リトセハ個人財產ノ社會ニ必用視セララル、モ亦宜ナリト謂フ可シ
若シ夫レ人類社會ニシテ此緊要ナル個人財產ヲ消失シタリトセンカ進取勇敢ノ氣力ハ今日ノ振起興張ニ引キ換ヘテ緩漫不振ノ姿ト成リ奮然勇ヲ鼓シテ勞動ニ從事シ敢テ財產ヲ増殖スルノ計畫ヲ回ラスモハナク饑ヲ凌キ渴ヲ救フノ資アレハ以テ足レリトシ各日ノ需用ヲ供給スルニ足ルモノアレハ又手泰然トシテ願ミサルニ至ルヘシ其故何ソヤソモ社會ニ個人財產ナキハ則チ社會ニ物品ノ所有者ナキノ義ナリ物品ハ一個人ノ所有物ニアラス共通ニ有スルモノナリ己レノ勞働シテ得タル果實モ己レ一個人ノ之ヲ有スルヲ得ストセハ誰レカ進ニテ勞働シテ以テ美果ヲ收メント欲スルモノアラソヤ必ス退イテ安眠ヲ貪ホリ他人ノ供給ヲ埃ツニ若カスト思考スルモノアルニ至ルヘキナリモシ果シテ此ノ如クンハ人類ノ進取力ハ消滅シ後チ天下ノ生産力減少スルニ至ルヤ甚太タ親易キ道理ナリ是レ果シテ喜フヘキノ事ナルカ社會ノ繁榮ハ踵ヲ廻ラサスシテ跡ヲ絶チ殘念ナカラモ禽獸界ト遠ク去ラサル野蠻未開ノ昔日ニ還ヘラサルヲ得ス此故ニ個人財產ノ基礎ヲ確定シテ之ヲ安全不侵ノ地ニ置キ以テ

(理財學)

(再版)

百十五

右ノ原則ハ絕對的ニ許容スベキヤ

財産ノ所有者ヲ保護シ他人ノ侵凌ヲ防衛スルノ餘地ヲ與ヘサルヘカラス今日立法者カ個人財産ノ地位ヲ法律上鞏定シ各個權利ノ尊敬スヘキヲ示シタルモ此理ニ由リタルニ外ナラサルナリ
左リトハイヘ此財産不侵ノ原則ハ其適正ナルコトノ争フヘカラサルト同時ニ又タ之ヲ極端ニ推擴シテ剩サヘ財産ハ絕對的ニ不侵タリトノ説ヲ爲スヘカラサルナリ蓋シ此説タルヤ實際ノ事實ニ背戾セルノ説ニシテ財産ヲ安全不侵ノ地ニ置カント欲スル所ノ立法者其人ト雖此ノ如キ精神ヲ有スルモノニアラス故ニ立法者ハ此原則ニ多少ノ制限ヲ附スルノ必要ナルコトヲ認メ種々雜多ノ拘束ヲ加ヘタリ第一納税ノ義務ノ如キ是レ國家カ其活動ヲ維持スルカ爲メニ各個人ニ賦課スルモノニシテ必竟各個人ノ財産上ニ一ノ拘束ヲ加ヘタルニ過キス立法者ハ其財産不侵ノ原則ニ違反スルヲ知ルト雖トモ必要上免ヌカルヘカラサルヲ以テ之ヲ法律ニ規定シ何等ノ財産ト云ヘトモ此義務ヲ免ヌカルヘカラサルモノトセリ相續贈與若シツハ有價名義ノ凡テノ讓與ニ關シタル課税則チ凡テノ所有權移轉税ニ於テモ亦タ立法者カ財産不侵ノ原則ヲ絕對的ニ認

或者ノ説

駁論

ムヘカラサルモノトシタルノ一斑ヲ知ルニ足ルヘシ
論者或ハ云ハシ凡ツ賦税ハ其如何ナル部類ニ存スルヲ問ハス。私人間ニ於テ或一人カ他ノ一人ヨリ一ノ權利ヲ得タルノ報酬トシテ他ノ一人ニ一ノ新ナル權利ヲ與ヘサルヘカラサルト同一ナル理由ニ本キシモノニ外ナラス故ニ政府ヨリシテ之ヲ云ヘハ賦税ハ個人保護ノ報酬ナリ一私人ヨリシテ之ヲ云ヘハ政府ノ保護ヲ得ルノ機關ナリ則チ言ヲ換ヘテ之ヲ云ヘハ納税ノ義務ハ個人保護ノ義務ト互ニ法律上所謂相殺ヲ爲スモノタリ唯タ夫レ納税ノ義務ハ保護ノ義務ト相殺ス故ニ之ヲ以テ財産ヲ侵犯スルモノナリ財産不侵ノ原則ニ背反スルモノナリトスヘカラス財産ハ絕對的ニ不侵タルコト々昭トシテ明カナリト以上ハ之レ財産不侵ノ原則ヲ以テ絕對的ニ認メサルヘカラサルモノトスル論者ノ説ナリトス吾人ハ之ヲ聞キテ轉々論者ノ誤謬ノ域ニ沈淪セルヲ嘆セサルヲ得ス論者ハ一私人間ノ權利義務ト公私間ノ權利義務トハ同一ナリト見做シ剩サヘ義務相殺ノ法則ヲ以テ納税義務ノ發生セル基礎根原ナリトナスト雖此之レ一私人間ノ關係ト公私間ノ關係ト大ニ異ナル所アルヲ知ラサル妄誕説タ

ルヲ免ヌカレサルナリ抑モ一私人カ國家ニ對シテ負擔スル所ノ義務ハ以テ國
 家ノ保護ニ對スル報償トナスヘキヤ吾人ヲ以テ之ヲ視ルニ性質上之ヲ以テ一
 ノ報償ト見做スヘキモノニアラス他ナシ報償ハ義務者ニ十分ナル思考ノ餘地
 ヲ與ヘ必シモ其故意ヲサレヘカラサルモノナルニ此場合ニ於テハ秋毫ノ自
 由タモ與フルコトナク殆ント抑制的ノ手段ニ出ツルモノナレハナリ尙ホ之レヲ
 詳言セハ一私人間ニ於テハ義務ヲ約スルト約セサルトハ全然其自由權内ニ存
 シテ何人ト雖モ強制壓抑ノ手段ヲ以テ義務ヲ承諾セシムルコトヲ得ズ否ナ此ノ
 如キ義務ハ義務トナラサルナリ義務者ハ裁判所ニ訴ヘテ其義務ヲ免ヌカレ、
 コトヲ得ヘシ然ルニ一私人ト國家トノ關係ニ至テハ大ニ然カラサルモノアリテ
 存セリ國家ノ賦課シタル義務ハ必ス之ヲ賦從セサルヘカラス之レニ對スル國
 家ノ役務ヲ如キハ之ヲ輕重大小スヘカラサルナリ果シテ然カラハ一私人間ノ
 權利義務ハ之ヲ公私間ノ權利義務ト區別セサルヘカラサルナリ唯タ夫レ之ヲ
 區別セサルヘカラス故ニ租稅ノ義務ハ政府保護ノ義務ト相殺スルモノナリト
 云フヘカラス已ニ租稅ノ義務ハ政府保護ノ義務ト相殺スルモノニアラストセ

ハ賦稅ハ財產不侵ノ原則ニ背反スルモノニアラスシテ何ゾヤ賦稅ハ已ニ財產
 不侵ノ原則ニ背反スルモノタルコト明ナル以上ハ此原則ヲ以テ絕對的ノ原則ト
 認ムルコト能ハス否ナ立法者ノ精神ハ飽クマテモ之ヲ絕對的ノモノタラシメン
 ト欲シテ終ニ止ムヲ得サルニ出テシモノナルヲ知ルヘシ

(第十七回)

以上論スル如クナルヲ以テコ、ニ一ノ問題ヲ生セリ社會ヲ代表スル國家ハ稅
 率ノ比例ヲ變更シテ特ニ或ル一種ノ私有財產上ニ重稅ヲ賦課スルヲ得ルヤ否
 ヤ是レカ適例ハ相續權上ニ課スル稅率ノ増加是レナリ此點ニ就キテハ別ニ異
 論ノ生スヘキコトナク社會ハ死者ニ向テ其遺存セシ財產ノ一部ヲ沒收スルノ
 權アリト謂フコトヲ得ヘシ蓋死者カ財產ヲ蓄積スルニ當テハ必スシモ自己ノ
 經驗才識節儉等ノ力多キニ居ルト雖トモ抑モ亦タ社會カ其最大威力ヲ以テ保
 護的ノ手段ヲ行フニアラサレハ自由安全ニ其蓄積ノ方法ヲ實行スルコト能ハ
 サリシヤ知ルヘシ然ラハ即チ社會ニ相續權上ニ特種ナル重稅ヲ課スルノ權ナ
 キト云フテ可ナラシヤ左レハ社會ハ道ヲ此點ニ假リテ須ラク天下ニ充塞スル

重稅ヲ
 續上ニ課
 スルヲ得
 ヘキヤ



不平等不正理ヲ除去シ以テ民衆ノ貧富ヲ正中タラシメヌンハアルヘカラサルナリ
 人アリ難シテ曰モシ夫レ此ノ如クンハ一私人ハ其財産ヲ後ニ遺存シテ之ヲ其子孫ニ傳與スルノ利益ヲ失フカ故ニ其生存中財産ヲ貯積スルノ計ヲ爲サ、ルヘシ故ニ個人財産ナルモノハ其跡ヲ絶ツヘシ之レ果シテ理財上可ナリトナスカト
 右ノ非難ハ其實根據ヲ欠クモノト云ハサルヘカラス他ナシ若シ社會ニシテ相續財産ノ全部ヲ沒收スル如キコトアラハ或ハ論者カ杞憂セル如キ恐ナキニシモアラスト雖トモ吾人ハ決シテ此ノ如キ極端ノ議論ヲ爲シタルモノニアラサルナリ惟タ其財産ノ或一部分ヲ沒收スルハ社會ノ權限内ニ必存スルモノナリト云フニ過キス果シテ然カラハ論者ノ駁論ハ一文ノ價値ナキモノト謂ハスシテ何ツヤ
 然リ而シテ此社會ノ沒收權ハ常ニ消長伸縮ノ運動ヲ行フモノナリ即チ其沒收スヘキ部分 portion (ポルシヨ)ノ度ハ其財産ヲ相續スヘキモノ、等親ノ遠近

(proximité de degré en parenté)ノロクシニテI. F. D. グレリー. アン. パランテールニ由テ短

長アルモノナリ其相續者ニシテ死者ト最モ親近セルモノナルトハ其相續スヘキ財産ノ部分最モ大ナルヲ以テ社會ノ收得スヘキ部分ハ甚太タ僅少タルヘシモシ又之ニ反シテ其相續者最遠ナル等親ノ地位ニアルトキハ其得ル所ノ相續財産最モ小部分ナルヘキヲ以テ社會ノ收得スヘキ部分ハ稍ヤ大ナルヘキナリ抑モ財産ハ財本 Capital「カピタル」ノ根本ナリ換言セハ財本ハ財産ノ一部分タリ而シテ財本ハ富ヲ生産スルニ最モ樞要ナル要素ナリトセハ財産ノ肝要ナルコト昭々トシテ明カナリ然レトモ其富ヲ生産スルニ至ルニハ單リ財本ノミニテ足レリト謂フヘカラス加旂人類ノ才能技藝ナル一要素ヲ以テセサルヘカラス

節儉 (épargne)「エ. バル. ニ. ヌ」ハ財本ヲ生出スルノ源ナリ然リト云ヘ正其意義ノアル所ヲ誤解シ理財學ノ目的外ニ出テ所謂吝嗇ノ範圍内ニ流入スルコアルヘカラサルナリ今節儉ナル字義ノアル所ヲ探クレハ則チ必要の需用ヲ満足シタル後ニ留存セル餘裕ヲ云フモノナリ故ニ必要的の需用ヲ満足スルニアラサル

ヨリハ節儉ハ決シテ成立セス吝嗇ノ部内ニ入ルヲ免ヌカレス蓋節儉ノ吝嗇ノ部内ニ入レハ却テ其人ヲ益スルコトナク甚シキハ理財社會ヲシテ消費力ヲ減縮シ其極終ニ生産力ヲシテ緩慢ナラシムヘシ豈ニ慎マサルヘケンヤ
財本ハ之ヲ金錢ト混スヘカラス金錢ハ實ニ財本ノ一部分ニシテ財本ノ兩輪トモ稱スヘキ流通ノ運動者タルト雖モ之ヲ社會一般ノ財本上ヨリ觀察セハ實ニ僅々タル部分ヲ占ムルモノタルニ過キサルナリ然レモ他ノ一方ヨリ考察セハ金錢ハ甚太社會ニ緊要ナルモノニシテ商業貿易ノ緩慢逼迫ハ一ニ其流通高ノ過不及ニ職由スルモノナリ然ラハ其部分ハ小ナルモ其必要ノ度ハ最モ大ナリト云フヘキ歟

財本ハ之ヲ大別シテ二トス一ヲ生産的ノ財本 (Capital de production)「カピタル」ド「プロジクシヨント」云ヒ一ヲ射利的ノ財本 (Capital de profit)「カピタル」ド「ロヒー」ト云フ生産的ノ財本ハ其語辭ノ指示スル如ク其性質上生産的ノ運用ヲ爲シ富ヲ増殖スルモノヲ云フ射利的ノ財本ハ之ニ反シテ富ヲ増殖スルコトナク管タニ利益生出ノ根源トナルニ止マルモノヲ云フナリ

財本ハ尙ホ之ヲ小別セハ動産上ノ財本ト不動産上ノ財本トスルコトヲ得動産上ノ財本トハ其財本ノ動産ニ係ルコトヲ云ヒ不動産上ノ財本トハ其財本ノ不動産ニ係ルコトヲ云フ

第四項 生産ト消費 Consumption「コンソマンシヨント」ノ關係

義生産ノ定
義生産ノ定

生産トハ人類カ採收セント希望スル利益ヲ物品ニ附與スル理財上ノ行爲(或ハ事實) (Fait économique qui donne aux choses l'utilité que l'on en attend et que l'on veut se retirer) ヲ云フ消費トハ人類ガ生産ニ由テ得タル利益ヲ物件ヨリ採收スル理財上ノ行爲 (fait économique correspondant qui consiste à retirer de la chose l'utilité que l'on lui a donnée) ヲ云フ

左レバ生産ト云ヒ消費ト云ヒ其間ニ必ス循環ノ運動存在スルモノニシテ生産アリテ而シテ後チ消費アリテ消費アリテ而シテ後チ生産アリ即チ生産ハ消費ノ源由ニシテ消費ハ生産ノ源由ナルガ故ニ二者互ニ車輪羽翼ノ關係ヲ有シ相合

生産ト消
費トノ
關係

消費ノ
意義

(再 題) 百二十四

同團繫スルニ非スルハ其運動ヲ行フ能ハザルベシ實ニ一度消費ノ境域ニ入りタル物品ハ消費ノ作用ニ由テ形狀ヲ全變シ已ハヤ舊狀ヲ現存スルコトナキト雖其新形狀ヲ現出スルニ至リタル物品ハ則チ他ノ物品ヲ生産スルノ原因トナルモノナリ今マ薪木ヲ燃燒セハ薪木ノ形狀ハ全變シテ灰炭トナルモ其灰炭ハ更ラニ他ノ物品ヲ生出スルノ源由トナルヘシ之レ觀易キノ道理ナリ蓋理論上ヨリ論下スルトハ如何ナル物品ト雖モ減失スルモノニ非ス其減失スル如ク見ユルモノハ則チ其形狀ヲ變更シ微妙ノ間ト雖トモ隱存スルモノタルナリ然ラハ其形狀ノ變シタル物品ハ再々更ラニ他品ノ生産ヲ起生スルモノニ非ラザルヲ知ランヤ然リト雖モ此ニ注意スヘキハ消費ノ現象ハ之ヲ生産ノ現象ニ比スレハ甚タ迅速ニシテ殊ニ之ヲ天然ノ生産 production naturelle「プロジクシヨ」ナチユレールト比較スル如キニ至ラハ管ニ雲泥ノ差ノミニ非ラサルナリ

今茲ニ消費ナル語ノ意義ノ存スル所ヲ探究スルニ二個ノ反對ナル意義ヲ有スルモノナリ

第一ノ意義 生産物ヨリ利益ヲ採收シ盡スノ處爲

第二ノ意義

生産物ヨリ利益ヲ採收スルニ非ラズシテ只々其形狀ヲ變更シテ他ノ物品ヲ生産スルニ至ラシムル處爲

第一ノ場合ハ明々白々ニシテ通常行ハル、所ノ意ナルヲ以テ致テ説明ノ勞ヲ取ルノ必用ナシ第二ノ場合ニ至リテハ變例トモ云フヘキモノナルカ故ニ之ヲ例説セハ靴工師ノ靴ヲ作クルニ當テ皮ヲ用ユルハ所謂第二ノ消費ナリ何トナレハ此場合ニ於テハ皮ナル生産物ヨリ利益ヲ採收スルニ非スト雖モ其形狀ヲ變更シテ他ノ物品ヲ生産セントスレハナリ

若シ夫レ人類ノ勞動ヲシテ全然生産的ノモノトラシメント欲センカ其方法手段ハ生産ト消費トノ間ノ關係ヲシテ圓滑確實タラシムルニ他ナラサルナリ蓋生産ノ度非常ニ過クルトキハ理財社會ノ秩序紊亂シ生産消費ノ相互間ニ隱存セル夫ノ循環ノ運動ヲ滯滞タラシメ之レカ爲メ其生産品ハ大ニ價值ヲ喪失セサルヲ得ス需用供給ノ法則ハ生産者ヲシテ其生産物ノ價值ヲ保持スルヲ許サ、ルナリ今假リニ數百歩ヲ讓リテ生産者ハ時機ノ到來スルコトヲ待ツヲ得ルトスルモ必竟損失ヲ蒙ムルノ點ニ至テハ之ヲ免ヌカ、ヲ得サルヲ如何セ

(理財學)

(再 題)

百二十五

シ其免ヌカルヘカラサル損失トハ何ツヤ第一目前ノ損失ハ生産品ニ由テ代表サル、所ノ財本ノ利子ナリ何ントナレハ財産ハ生産品ニ代表サレツ、アルカ故ニ財本ヲ使用シ以テ利益ヲ收メントスルモ得ヘカラス從テ財本ハ不動物トナリテ恰モ死物ト異ナラサレハナリ第二ニ蒙ムルヘキ損害ハ生産物ノ損壞之レナリ蓋多少ノ時間中倉庫若シクハ店頭ニ藏置セラレ、ニ於テハ鼠蟲ノ齧痕ヲ生スル如キハ有リ勝テノ事ナレハナリ若シ又反之生産非常ニ衰頽シテ消費大ニ増加シ需用ニ應スルニ足ラサルトセンカ需用供給ノ法則ハ倏忽チ物價ノ暴騰ヲ來サシムヘシ

以上ヲ要スルニ工業タルト商業タルトノ間ハ平常ニ生産ト消費トノ間ノ關係ヲ平均圓滑ナラシメサルヘカラス此關係ニシテ反對不等ノ形態ヲ呈セントセシカ忽チ理財上ノ兎荒ヲ來シ生産ノ過剩ハ貴重ナル物品ヲシテ價値ヲ失墮セシメ其極終ニ貴重管ナラサル贅物タラシムルニ至ルヘシ又之ト同シク消費ノ過剩ハ下賤ナル物品ヲシテ遠カニ暴騰セシメ爲メニ憫然ナル貧者ノ流涙ヲ催フセシムルニ至ラン

第五項 生産力

生産力ニ付テノ一般ノ學說

一般ノ學說ニ由レハ生産力ヲ分チテ三種トセリ第一土地若クハ天然力第二財本第三勞働即チ是ナリ然リ而シテ論者ハ說チナシテ曰ク今ヤ世界ノ狀態ヲ觀察スルニ第一如何ナル生産物カ其源チ土地若クハ天然力ニ發セサルハアラス必スヤ多少自然ノ生産力ト相ヒ連絡シテ互ニ因果ノ關係ヲ有スル者ナリ諸君之ヲ見スヤ紙ハ木皮若クハシッホンニ歐洲古代ノ紙ヲ製スル爲メニ用井タル獸皮ノ名ナリニ其本ヲ發スルモノニシテ其木皮其シッホンニ物ノ性質コソ異ナレ皆土地ヨリ生シタルモノナリ是ヲ以テ之ヲ見レハ一般ノ生産力ハ皆其本チ自然ノ生産力ニ發スルト謂ハスシテ何ソヤ之ヲ要スルニ土地及ヒ自然力ハ生産物ノ起點ニシテ又同時ニ終極タルモノナリ又第二ニ如何ナル物品ト雖トモ財本アラサレハ生出スルモノニ非ス必スヤ一ノ物品ヲ生産スルニ至ルマテニハ幾何カノ財本ヲ使用シタルニ非サルハナシ抑モ勞働ハ生産ニ必要缺クヘカラサ

ルモノナリ之ヲ使用スルニ非スハ土地アルモ財本アルモ何等ノ用タモ爲サ
 スシテ徒ラニ一ノ無用物タルニ過キス然リト雖トモ勞働アレハ財本ハ必要ナ
 ラサルカ生産ニハ勞働及ヒ自然ノ生産力ノ存スルアレハ他ニ必要ナル要素之
 レ無キヤ吾輩ハ其然カラサルヲ確ク信スル者ナリ其故何シヤ他ナシ財本ハ勞
 働ノ支配者ニシテ勞働ノ存スルハ報酬アルカ爲メナリ蓋シ報酬ナケレハ人敢
 テ勞働ノ辛苦ヲ嘗ムルヲ欲セシヤ坐シナカラ樹菓ヲ食シ風光月花ヲ弄シテ安
 樂ノ生活ヲ送クニ若カサルナリ縦シヤ一步ヲ讓リテ報酬ハ生産ノ完成スル
 後ニアルヲ以テ生産後ニ非サレハ其要ヲ見ストスルモ財本ナケレハ生産者ハ
 其勞働中何ニ由テ生計ヲ營ムヘキヤ俚言ニモ云フ如ク世ノ中ハ萬事金力ニシ
 テ金錢アレハ何事ナリトモ達シ得ヘシト雖トモ若シ金錢ヲ失フニ當テハ人ハ
 恰モ木ヨリ落チタル猿猴ノ如ク一日ト雖トモ社會ニ生存スル能ハサルナリ果
 シテ然リトセハ金錢ハ生産ニ必要欠クヘカラサル要素ナリト謂フ可シ然ルニ
 此金錢タルモノハ實ニ財本ノ一分子タリトセハ一般ノ財本ニ付テハ推シテ其
 生産ニ必要タルコトヲ知ルヘキナリ第三ニ勞働ハ生産ニ必要ナル要素ナリ此

學者ノ議
論ハ是ナ
ルヤ

事タルヤ詢ニ明々白々タル事實ニシテ又一點ノ疑ヲ其間ニ容ルヘキモノニア
 ラサルナリト
 以上ハ之レ一般ノ學者カ口ニスル所論ノ梗概ナリトス吾輩ハ今ヨリ若々論者
 ノ議論ヲ左ニ評論シ去ラントス
 吾人ヲ以テ之ヲ見ルニ學者カ議論ハ一ノ妄説タリト謂フヘカラス何トナレハ
 生産社會ニ於テ以上三個ノ事ヲ個々別々ニ論下シ去ルトキハ各々其生産ニ有
 益ナル所アレハナリ左リトハ云ヘ之ヲ必要欠クヘカラサルモノナリヤ否ヤト
 云ヘル點ヨリシテ論スルトキハ或ハ必要ナリト云フヘキモノアリ或ハ必要ナ
 リト云フヘカラサルモノアリ即チ勞働ハ絶対的ニ必要欠クヘカラサル生産ノ
 要素ナリト雖トモ自然ノ生産力及ヒ財本ハ之ヲ以テ生産ニ必要ナル一ノ要素
 ト見做スノ要チ感セサルナリ蓋シ此二者ハ勞働ヲ有益ナラシムル一ノ媒介タ
 ルニ過キサレハナリ
 夫レ然リ然ラハ則チ土地及ヒ財本ハ勞働ヲ有益ナラシムル方便タルニ過キサ
 ルヲ以テ敢テ之ヲ生産ニ必要ナル一ノ要素トスルノ價值ナキヤ明カナリ然リ

ト雖トモ何故ニ土地及ヒ財本ハ勞働チ有益ナラシムル一ノ媒介物タルニ過サ
ルヤ之チ生産ニ必須ナル一ノ要素トスルノ價值ナキヤ是レ論者カ吾人ニ向テ
爲ス所ノ反駁ナリト雖トモ之ニ答フルハ實ニ易々タル事ナリ土地ヲ以テ一ノ
要素トスルノ價值ナシト云フハ蓋土地ハ世界ニ生存スルモノナル事近古掩フ
ヘカテサルノ事實ニシテ勞働ノ如ク供給者アルチ要セサレハナリ即チ之チ詳
言セハ如何ナル勇力者ト雖モ土地チ湮滅スルノ力ナク天然ハ吾人類チシテ
暗々裡ニ其葉チ收メシメント欲スレハナリ又財本チ以テ生産チ助クル一ノ
方便トシ一ノ要素トスルノ價ナシト云フハ他ニアラス財本ハ生産ニ必要欠ク
ヘカテサルモノニアラサレハナリ今ヤ元始社會ニ溯テ之チ考フルニ此社會ニ
於テハ財本ナルモノモ一モ存在セサルモノ、如ク又其存在スルノ必要チ感
セサルモノノ如シ實ニ此社會ニ在リテハ社會理財ノ法未タ整頓セサルハ勿論
家内ノ一小區域ニ於ケル理財ト雖モ條理整然タラサリシナリ只タ人類ハ自己
ノ勞働以テ生活ノ料チ保存シ營生ノ道チ立テタルナリ然リト云ヘトモ其食物
チ生産スルニ當テ財本チ必要トセシカ否ナ財本ノ必要チ感セサルノミナラス

必要ト價
格ノ關係

本タルモノノ形跡タモ存セザリシナリ然ルニ人類大ニ進歩シ文明ニシテ開化
セル優美社會チ組織スルニ及ンテ財本ハ生産ニ有益ナリト云フ感想チ惹起
其極終ニ或學者チシテ財本ハ生産ノ一要素ナリトノ妄説チ醸生セシムルニ至
レリ沿革上已ニ此ノ如キ理由アリトセハ財本ノ必要視セラハモ亦タ無理ナ
ラズ次第ト云フヘシ

勞働ハ前陳二個ノ物ニ反シテ其供給ハ或ハ斷絶スルモノナルモ必ス供給サレ
サルチ得サルモノナリ即チ之チ再言セハ勞働チケレハ社會ニ富ノ生スル理由
ナキチ以テ富ナル思想ノ湧出スルハ勞働ノ生存スルカ故ナリ故ニ生産ノ眞平
タル運動者ハ只タ勞働ノ一アルノミ土地ノ如キ又タ財本ノ如キハ勞働チ有益
ニ使用スル媒介タルニ過キサルナリ

(第十九回)

人或ハ生産物ノ必要 Utilityニチリテ一ナル事ト其價格 Value「ヴァール」トチ混
合シテ必要ナル物品ハ必ス價格アルモノト信シ價格アルモノハ必ス必要ナル
モノト認ムルニ至レリ是レ實ニ誤謬ノ甚シキモノニシテ一般ニ此ノ如キ恰當

ナル關係ヲ保有スルモノト謂フヘカラス今一言此二者ノ關係ヲ陳述スレハ價格アルモノニ必要ナルハ事物ノ原理ナリト雖モ實際此法則ニ支配サレサルモノ甚タ鮮少ナラサルナリ此故ニ山野ニ自生スル藥草ノ如キ其片葉ヤ以テ不治ノ疾病ヲ癒スルノ効アルモノナリト雖モ其價格ニ至テハ一文ノ價ナキモノ在々ニシテ之レ有リ又々之ニ反シテ「ダイヤモンド」如キ其片塊ヤ巨萬ノ貴ヲ價スルト雖モ人ヲ益スルノ點ニ至テハ甚タ微々タルモノナリ是レ蓋シ其物品ノ生産カ多寡難易ニ職由スルモノニシテ亦タ掩フ可カラサル事實ナリト謂フ可シ

次キニ注意スヘキ事ハ生産物ノ必要ト勞苦トノ關係ヲ過マルヘカラサルナリ即チ之ヲ詳言セハ必要ナル物品ハ必スシモ甚シキ勞苦ヲ用ヰタルモノト云フヘカラサルト同時ニ非常ナル辛苦ヨリ成リシ物品ハ必スシモ非常ニ必要アリト謂フ可カラサルナリ左リトハ云ヘ理財學上ヨリ論下スルキハ此二者ノ恰當密接スルハ甚タ願ハシキ事ニシテ辛苦ヨリ成リタル物品ヲシテ必要外ノモノタラシムル如キハ理財ノ一大缺點ナリト謂ハサルヘカラス

第一款 土地及ヒ自然力

吾人カ上文ニ於テ陳述シタルカ如ク土地及ヒ自然力ハ以テ一ノ生産力ト見做スノ要ナシト雖トモ其生産ニ有益ナルノ一點ニ於テハ之ヲ觀過スヘカラサルナリ蓋シ理財上生産ノ方針ヲ決シ而シテ後チ生産増殖ノ方法ヲ求ムルニ當リテハ必ス目チ土地若クハ自然力ノ位置作用如何ニ注射セサルヘカラス故ニ一ノ工業事業ヲ企圖セント欲セハ先ツ第一ニ其地方ノ氣候ヲ考查セサルヘカラス氣候ノ寒暖ハ大ニ生産力ヲ伸縮増減スルモノニシテ工業ノ目的ニ由テ異同アルモノナレハナリ第二ニ其地方ニハ木材獸類等天然物ノ生産多キヤ否ヤヲ調査セサルヘカラス何ントナレハ生産ニ供用スル物品ナキハ如何テカ事業ノ完成ヲ望ムヘケンヤ又可シヤ他方ヨリ輸入シテ不足ヲ補フノ便アリトスルモ輸入費増加スルカ爲メニ生産物ノ價格ヲ高貴ナラシメ從テ賣口非常ニ惡シカルヘキヲ以テ到底他ノ同業者ト共ニ競争スル事能ハサルヘキナリ又一國ノ理財ヨリ論スルモ可成の價ノ下落スルハ望マシキ事ナルヲ以テ生産ノ

高貴ハ之ヲ排セサルヘカラス故ニ事業ハ之ヲ供用物多キ土地ニ於テ爲スノ可ナルヲ知ルヘシ
 終リニ注目スルヲ要スルモノハ加働力ノ便否是ナリ運送交通ノ便否是レナリ
 加働力ハ實ニ生産ニ必要ナルモノニシテ人類ノ筋力ニ代ハリテ生産力ヲ倍從
 強大ナラシムルモノナリ今日一般ノ工産物ニ於テ概テ水力ヲ河川ニ藉リ以テ
 人力ノ脆弱ヲ補助スルノ要ニ供セリ之レ理財上ノ一大進歩ニシテ人類ノ進歩
 ハ倍自然力ヲ益用シ數千載ノ後ニ至テハ終ニ其極マル所ヲ知ラサルナリ又々
 運送交通ノ便否ハ大ニ其生産ニ關係アルモノニシテ若シ運送交通ノ便大ニ開
 クルトキハ其生産物ヲ驅リテ數千里ノ外ニ輸送シ巨萬ノ利ヲ一攫スルコトヲ
 得ヘシ

第二款 勞働

勞働トハ直接又ハ間接ニ人類ノ需用ニ應スヘキ物品ヲ生産スルノ目的ヲ以テ爲ス所ノ外形的若クハ智識的ノ動作ヲ云フ即チ之ヲ詳言セハ理財上所謂勞働

勞働ノ定
 義

ナルモノハ甚々狹隘ナル意義ヲ有スルモノニシテ前陳ノ意義ヲ有スルニ非サルヨリハ之ヲ以テ勞働ト稱スヘカラス故ニ結局ノ目的カ物品ヲ生産シ而シテ之ヲ消費ニ供スルノ點ニアラサルノ行爲ハ廣義ノ勞働ナルモ理財上所謂勞働ニアラサルナリ
 又々前陳ノ定義ニ由レハ智識的若クハ外形的ノ動作ト云フカ故ニ勞働ハ單ニ外形的ノ行爲ノミニ止マラス抑モ亦タ智識的ノ行爲ヲモ含有スルモノナルヲ知ルヘシ

凡ソ外形的ノ勞働ニ二種アリ一ハ筋力ニシテ一ハ機械力ナリ筋力上ノ勞働トハ他力ノ補助ヲ受クルト否トヲ問ハス主トシテ人ノ天然力ヲ使用スルモノヲ云フ機械力上ノ勞働ハ之ニ反シテ人力ヲ假リテ機械ヲ運用シ其運用ニ依テ物品ヲ生産スルモノナリ故ニ筋力上ノ勞働ハ純然タル外形的ノ勞働ニシテ一點ノ疑ナシト雖ヘモ機械力上ノ勞働ニ至リテハ之ヲ外形的ノ勞働中ニ入ルハ甚々至當ナルヲ見ス然ルニ之ヲ一種ノ外形的ノ勞働ナリトシタルハ蓋シ機械力上ノ勞働ハ多少外形的ノ勞働ヲ使用セサルヲ得サル所アレハナリ夫レ社會ハ

筋力上ノ勞働
 機械力上ノ勞働

機械ヲ非難スル論者ノ説

宛ナカラ、活物ノ如シ、常ニ進ム、止ム、時ナシ、一進百化、究極スル所ヲ知ル能ハス、而シテ機械力上ノ勞力ハ、社會ノ進歩ニ伴フテ、其力ヲ得漸ク、筋力上ノ勞動ヲ擊破スルノ傾アリ、發明家、機械ヲ發明スル日ハ、一日ヨリモ、多ク爲メニ、筋力ノ必要ハ、漸次減少シ、機械ノ勢力ハ、今ヤ、旭日ノ狀ヲ呈セリ、然レモ、此社會ニ顯出スル豹變、萬化ナル現象ハ、吾人ヨシテ、機械ハ、社會ニ善良ナルモノナルカ、將タ、害惡ナルモノナルヤノ疑問ヲ生セシメタリ、

抑モ、此疑問ハ、古昔ニ在リテハ、甚太ク、實用多キ問題タリシナリ、其理由ハ、愚昧ナル人民等ハ、機械ノ効用ヲ知ラス、只管其筋力ノ必要ヲ減少スルノ不可ヲ唱ヘ、終ニ暗殺トナリ、騒亂トナリ、公力ノ之ヲ抑制スルノ必要ヲ感スルニ至リタレハ、ナリ、然レモ、今日ニ於テハ、機械ノ必要ナル事ハ、一般ニ是認サレ、之ヲ非難スルモノ、僅々ニシテ、指ヲ屈スルニ過キス、

機械ヲ非難スル論者ノ説ニ曰ハク、機械ハ、筋力上ノ勞動ヲ減縮スルノ大弊アリ、昨日マテ、自己ノ筋力ヲ以テ生計ノ道ヲ求メタル勞動者ニシテ、今日突然機械ノ發明サレタルカ、爲メニ、其道ヲ奪ハレタリトセハ、後來如何シテ、其生計ヲ營ムヘ

キヤ思ハレテ、憫レナル次第ナリ、故ニ機械ハ、人類生路ノ障礙物ナルヲ以テ之ヲ除去セサルヘカラス、又タ之ヲ他面ヨリ論スルモ、機械ノ社會ニ有益ナラサルハ、明々白々タル事實ナリ、他ニシテ、機械ノ生産ニ係リシ物品ハ、概シテ粗惡ニシテ、人類ノ天然力ヲ用キテ作リタル物品ノ堅緻細密ナル事は、レナリト、吾人ヲ以テ之ヲ見ルニ、第一ノ反擊ハ、其基礎稍ヤ堅固ナリト、謂フ可シ、何ントナレハ、機械ハ、生産ヲ増加スルカ、故ニ從テ消費ヲ増加シ、供給ヲ倍蓰スルノ必要ヲ感ス可シト、雖モ、然カモ、生産、消費トノ間ニ存スル關係ハ、機械發明前ニ要シタル筋力ト發明後ニ要スル筋力トノ間ニ存スル關係ト、其趣ヲ同セサルナリ、尙ホ其之ヲ詳言セハ、例令ヘ、生産増加シテ、消費力生産力ノ度外ニ、背馳スルトスルモ、其消費力ハ、未タ以テ發明前ノ如ク、數多ノ勞動者ヲ必要トセサルナリ、モシ發明前ノ如ク、數多ノ勞動者必要トスルニ至ルニハ、必スヤ、數多ノ歲月ヲ閱ミ、サハルヘカラス之レ、洵ニ、觀易キノ道理ナリ、更ラニ、一步ヲ進メテ論スレハ、數多ノ歲月ヲ閱シ、稍ヤ筋力ノ必要、其本然ノ勢力ヲ恢復シタルトスルモ、人智發明ノ力ハ、此形狀ヲ繼續スル、トナシ、許サハルナリ、否ナシ、新機械ノ發明ハ、再タ筋力ノ必要ヲ減殺シ

(理財學)

去リ、消費力ノ増加ト云ヘ、何ノ効タ、モナキニ至ラン、

(第二十回)

然リト雖トモ又タ之ヲ他ノ一方ヨリ觀察スレハ機械ノ發明ハ今日ニ於テハ寧
ロ人類ヲ毒スルニ似タリト雖トモ一般ノ原則トシテ云フキハ機械ハ有益ナ
ルモノニシテ社會進化ノ眞乎タル誘導者ナリ若シ假リニ機械ノ發明ナキトセ
ハ人類ハ果シテ如何ナル不幸ノモノタルヘキヤ今日ノ世界ハ混沌タル暗黒時
代水草ヲ逐フノ蠻民ト何ソノ異ナラン左レハ論者ノ只管其弊害ヲ見テ毫モ之
レカ利益之レカ長所ヲ究メサルハ誤謬モ亦タ極マレリト謂フヘシ乞フ之レカ
利益ヲ左ニ列示セン

- 第一 機械ハ生産ヲ容易ニナラシムルカ故ニ物品ノ生産高チ増加シ從テ
需用力ヲ増加スルノ利アリ
- 第二 機械ノ力ニ由テ物品ヲ生産スル時ハ其整理確實ナルカ爲ニ無用ノ
費用ヲ省クノ利アリ
- 第三 機械ハ人類ノ辛酸苦勞ヲ減殺スルノ利アリ

機械ノ利

智識的勞働ノ形

以上三個ノ事項ハ實ニ機械ノ利益ニシテ第三ノ利益ノ如キハ其最タルモノナ
リ蓋シ理財學ノ主要タル目的ハ此一點ニ歸スルト云フモ可ナレハナリ
或極端論者ハ機械ノ利益ヲ安信シ一般ノ物品ヲシテ悉皆機械ノ作用ニ由テ生
産セシメント欲シ爲メニ諸般ノ生産ニ應スヘキ機械ヲ發明シ以テ人力ニ代用
スヘシトノ誤説ヲ唱フルニ至レリ
今假リニ論者ニ數十歩ヲ譲リテ誤謬説ニ非ストスルモ實際其實行ハ甚タ容易
ナラサルチ如何セン此希望ヲ達成センニハ必然社會改良ノ一大事業ヲ企テス
ンハアルヘカラス之ヲ他ニシテハ財本ノ勢力ヲ增長スルニ止マリテ剩サヘ人
類勞働ノ威光ヲ絶對的ニ斷滅シ其結果トシテ終ニ人類ノ貧窮困苦ヲ増スニ至
ルヘシ左レハ此機械ノ問題ハ吾人カ前章ニ於テ詳述シタル社會問題ニ大關係
アリト謂フヘシ
勞働ハ之ヲ區別シテ二種トナシ一ハ智識的ノ勞働ト云ヒ一ハ有形的ノ勞働ト
云フ前者ハ人ノ才智藝能ヲ働カスモノニシテ後者ハ筋力若シクハ機械ノ運用
ヲ云フ生産場裡ニ在リテハ此二者ハ前後相連絡スルモノニシテ一トシテ之ヲ



放却スヘカラス其故如何トナレハ前者ハ生産ノ方針ヲ掌定シ其方針ニ順進スルヤ否ヤヲ監督スル等凡テ生産ニ有益必須ナル働キヲ爲スノ効アルト同時ニ後者ハ其方針ニ從テ機械ヲ運轉シ自己ノ天然力ヲ使用シテ生産ノ生産タル美果ヲ生スルノ効アレハナリ是ヲ以テ之ヲ見レハ此労働ノ區別ハ必竟夫ノ労働ヲ分配ナル法則ヨリ生スル自然ノ結果ナルヲ知ルヘシ夫レ労働ノ分配ハ緊要ニシテ生産ヲ増加シ物品ヲ良好ニシ有益ナル發明ヲ提出スルノ大効アリ此故ニ之ヲ一般ノ生産ニ利用シ博ク智識的ト有形的トノ分配ヲ爲シ一人ニシテ智識的ト有形的トノ兩者ヲ兼ヌル如キ事アルヘカラス之レ理財學ノ一大原則ナリ然リトハ云ヘ此原則ヲ濫用スヘカラス或區域内ニ於テ實行スルニ非サレハ何等ノ利益タモナク却テ無益ノ浪費ヲ爲スニ至ラン夫ノ小生産者ノ如キ素ト財本寡額ニシテ目的トスル生産高モ自カラ少量ナルヘキヲ以テ敢テ労働ヲ分配シテ多額ノ費用ヲ爲スノ要ナク退イテ自カラ一方ニハ智識的ノ労働者トナリ他ノ一方ニハ有形的ノ労働者トナリ以テ無用ノ費用ヲ省クニ若カサルナリ否トナ一般ノ分配法ヲ實行スル如キ事アラハ費用ハ勿論差引何等ノ利益ヲモ得ル

事ナク却テ大損耗ヲ醸スヘキヤ必セリ之レ分配法ノ原則ニハ出ツ可カラサル區域アリト謂フ所以ナリ

第三款 財本

財本ノ區

財本ハ之ヲ數多ノ異ナリタル點ヨリ種別スル事ヲ得ヘシ

第一 生産的ノ財本得利的ノ財本

此區別ノ由テ生産スル所ハ各自其性質ト其用法トヲ異ニスレハナリ生産的ノ財本ハ其目的主眼トスル所物品ノ生産ニアルヲ云フ故ニ製造場裡ニ安置セル機械ノ如キハ隠レナキ生産的ノ財本ナリ何ントナレハ其性質上ハ勿論其用法上ト雖其目的主眼ハ則チ生産ニ存スレハナリ之ニ反シテ得利的ノ財本ハ其目的生産ニアラスシテ賣買ノ如ク與ヘテ利得ヲ得ルヲ主眼トスル所ノモノナリ此區別ハ定義ニ從ヒ數多ノ例ヲ参照セハ之ヲ捉フルト容易ナリ而シテ此ニ注意スヘキハ或ル場合ニ於テ生産的ノ財本タルモノモ他ノ場合ニ於テハ得利的ノ財本トナルモノニシテ一言ヲ以テ其區別ヲ論スレハ此區別ハ必竟一ノ物品

ナ、上下表裏ヨリ觀察シタルモノナルカ故ニ、一般ノ生産物ハ、各生産的ノ財本トナリ、又、得利的ノ財本トナルヲ得、シ夫ノ機械ヲ見ヨ其賣店ニ露ラサルノ日ハ其賣店ニ所有スル得利的ノ財本ナリ誰ナリト雖モ之ヲ買フコトヲ得、シ何トシレハ其目的ハ之ヲ賣却シテ利得ヲ得ントスルニアレハナリ然レモ其機械ハ偶々製造場ノ爲メニ買ハレ製造ノ用ニ供セラル、ニ當テハ其性質ハ全變シテ生産的ノ財本トナルヘシ故ニ此生産的ト得利的トノ區別ハ之ヲ要スルニ絶對的ノ區別ニアラスシテ關係的ノモノタルヲ見ルヘシ

第二 固定財本流通財本

凡財本ハ生産ニ固定シテ常久ノ用ヲナスト否トニ由テ固定財本トシ、又ハ流通財本トスルモノナリ

之ヲ例ヘハ不動産ノ如キ機械ノ如キ鐵道ノ如キ實ニ純然タル固定財本ナリ何ントナレハ其性質上又其用法上固定シテ幾遍之ヲ使用スルモ同一ナリト云フ事ヲ得ヘケレハナリ之ニ反シテ生産物ノ元素トナル物品ハ流通財本ナリ何ントナレハ其性質變化シテ新ナル一ノ物品トナリ舊形ヲ存セス之ヲ固定セシメ

大工産ノ創立

テ永久ノ用ニ供セント欲スルモ能ハサレハナリ

此固定財本ト流通財本トノ豫備ノ配置ハ如何即チ之ヲ換言セハ二者其配置ヲ同等ニスヘキヤ將タ何レカニ重キヲ置クヘキヤ之レ理財上ノ一大問題ナリ左レト吾人ノ信スル所ヲ以テセハ固定財本ト流通財本ト其配置ノ分量ニ差異アルヘカラス必スヤ平等均一ノ法ヲ守ラサル可ラス蓋流通財本ノ増加スルニ從テ固定財本ノ必要甚シキヲ感シ固定財本ノ増加ハ亦タ流通財本ノ増加ヲ促セハナリ

夫レ財本ニハ其性質ニ從テ多少交換力ヲ有スルモノナリ然レモ何レカ尤モ之ヲ所有スルノ必要アリヤト云ハ、交換力ノ多キモノヲ有スルニ若カス何ントナレハ交換力ノ薄弱ナル物品ハ之ヲ他物ト交換セント欲スルモ甚タ得難ク又可シヤ得タリトスルモ其交換シタル物品ハ甚タ價值ナキモノナルヘケレハナリ

一大工産ノ創立スルハ財本ノ生存與テ大ニ力アリ否ナ財本ノ存スル微セハ安ソノ一大工産ノ創立スルヲ見シヤ左レハ此款ニ於テ大工産ノ社會ニ與ル利

(理財學)



益及ヒ弊害ヲ講究シ而シテ大工産ノ是非得失ヲ決定シ去ラントス大工産ヨリシテ生スヘキ大弊害ハ則チ小工産ヲ湮滅スルノ弊之レナリ大工産ハ取リモ直カス非常ナル財本集合ノ異名ナルヲ以テ其勢力ハ遂ニ小節儉ノ効用ヲ失墜スルニ至ル之レ大工産ヲ非議スル論者ノ口實ナリトス又タ翻テ其利益如何ト云フニ至テハ其數指ヲ屈スルニ違アラス故ニ其重要ナルモノヲ學クレハ第一生産物ノ價格ヲ廉ナラシムルノ効アリ蓋大工産ハ非常ナル生産ヲ爲スモノナルヲ以テ差引非常ナル利益ヲ得ヘシ故ニ大工産ハ小工産カ僅々ナル勞力財本ヲ使用シテ生シタル生産物ノ如ク高價ニ之ヲ賣却スルノ必用ヲ感セサルヤ必セリ之レ生産物ノ價格ノ減少スル所以ナリ第二ニ大工産ハ勞働分配法ヲ實行スル事ヲ得又勞働ノ分配ヲ爲スカ故ニ生産ニ有益ナル發明ヲ爲スノ媒介トナリ同時ニ勞働ヲ容易ナラシムルノ利アリ

(第二十一回)

今ヤ一步ヲ進メテ大工産ノ是非得失ヲ決定セサヤヘカラス然リト雖モ吾人ノ所見ヲ以テセハ大工産ノ利益ハ其弊害ニ數歩ヲ讓ルノ感ナキニアラサルナリ

其故何シヤ蓋シ前陳シタル如ク實ニ大工産ハ無數ノ利益アリト雖モ其利益タルヤ一トシテ特ムニ足ラサルモノナリ之ニ反シテ夫ノ小工産ヲ湮滅スルノ弊害ノ如キ其社會ノ理財ヲ害スル果シテ如何シヤ其弊害ハ瞬時ノ間ニ第二ノ弊害ヲ生シ又タ甚シキニ至テハ第三ノ弊害ヲ醸生シ爲メニ一般ノ理財社會ヲシテ紊亂駁雜セシメ收拾スルニ由ナカラシム夫レ吾人理財學者カ今日汝々汲々トシテ講究スル所ノ燒點ハ果シテ那邊ニ存スルヤ他ナシ勞働者社會ニ他ナラサルナリ勞働者ヲ減縮スルノ點ニ外ナラサルナリ即チ之ヲ再言セハ勞働者ヲ救済センニハ其方法數多アリテ或ハ勞働時間ヲ減少シテ以テ勞働ノ欠缺ヲ治スルヲ得ン或ハ勞働賃銀ヲ増加シテ其營生ノ道ヲ授クルヲ得ン然リト雖モ此ノ如キ種々ノ彌縫策ヲ講セサルヲ得サルニ至リタルハ抑モ勞働者ノ數非常ニ多キカ故ナリトセハ勞働者ヲ減少スルハ理財學者ノ一大義務理財學者ノ一大目的ナリト謂ハサルヘカラス然カラハ則チ勞働者ノ増加スルアラハ理財學者ノ義務トシテ理財學ノ目的トシテ之ヲ根治セサルヘカラス然ルニ大工産ハ此大弊ヲ醸生スルノ根源タリ即チ大工産アルカ爲メニ大工産ノ湮滅ヲ來シ小工産

(理財學)

溼○滅○ス○ル○カ○故○ニ○勞○働○者○ノ○増○加○ス○ル○チ○見○ル○勞○働○者○増○加○ス○ル○カ○故○ニ○需○用○供○給○ノ○法
 則○ハ○來○テ○勞○働○者○社○會○ノ○貧○困○辛○苦○ヲ○テ○増○成○セ○シ○ム○果○シ○テ○然○ラ○ハ○大○工○産○ハ○理○財
 學○ノ○目○的○ニ○悖○戻○セ○ル○大○害○物○ニ○非○ス○テ○何○ン○ゾ○ヤ○又○之○ハ○一○方○ヨリ○觀○察○ス
 ニ○大○工○産○ニ○ハ○物○價○ヲ○下○廉○ナ○ラシ○ム○ル○ハ○利○益○ア○ル○モ○之○ニ○附○從○シ○テ○來○ル○所○ノ○大○弊
 ア○リ○ツ○ハ○他○ニ○ア○ラ○ス○物○品○ノ○方○成○至○テ○善○良○堅○固○ナ○ラ○サ○ル○事○之○ナリ○是○又○社○會○ヲ○害
 ス○ル○ト○少○ク○ナ○ラ○サ○ル○ナリ
 之○ヲ○要○ス○ル○ニ○大○工○産○ハ○理○財○學○ノ○目○的○タル○細○民○救○濟○ノ○道○ニ○背○反○ス○ル○結○果○ヲ○生○ス
 ル○カ○故○ニ○社○會○ニ○善○良○ナリ○ト○云○ハ○シ○ヨリ○ハ○寧○ろ○害○惡○ナリ○ト○論○決○セ○サ○ル○ヘ○カ○ラ○サ
 ル○ナリ
 財本ニ付キ生スヘキ一大問題ハ何ソ他ナシ財本ハ果シテ社會ノ活動ニ必要ナ
 ル一ノ要素ナリト謂フ可キヤ否ノ問題はナリ夫レ吾人ハ財本ヲ以テ適正ニシ
 テ有益ナル者ト斷言スルモノナリ何カ故ニ適當ナリト謂フ可キ蓋シ財本ハ個
 人財産ニ制裁ヲ附シタル者ニ外ナラス而シテ個人財産ハ幾變遷ノ後自然ニ社
 會ニ現出シ人類ノ需用ニ應スルモノナリ故ニ其正理ニ適シ天道ニ合スルヲ明

ケシ果シテ然ラハ財本ト雖モ個人財産ト同シク適正ノモノナリト謂ハサルヲ
 得ンヤ何カ故ニ有益ナリト謂フヤ蓋財本ハ授受ニ至便ニシテ報酬ノ方便ハ財
 本ノ他ニ之アラサレハナリ然リト雖モ以上ノ斷言ハ未タ以テ本問題ヲ決シタ
 ルモノト謂フ可カラス然ラハ論題ノ主旨論題ノ決シ易カラサルノ點ハ何處ニ
 アレヤ思フニ其主要ノ點ハ則チ財本カ今日有スル所ノ地位ハ正當ナルヤ換言
 セハ財本ハ生産場裡ニ於テ今日ノ如ク必要視セラレハノ價値アルモノナルヤ
 ノ一點ニ返スルナリ故ニ此問題ノ主眼ハ今日ノ現狀ニアラスシテ理論上其論
 決ヲナスニアリ

夫レ今日日眸ヲ放テ千態萬狀ナル社會ノ現象ヲ觀察センカ實ニ奇怪ニ絶ヘサル
 モノ、我目前ニ横ハルヲ見ル左リトハ云ヘ特ニ吾人ノ精神ヲ刺撃スルモノハ
 夫ノ財本ナリ財本ハ獨リ賃銀ノ根源タル勞働ヲ發生スルノ基礎根本ニシテ之
 レ無ケレハ現今社會ニ在リテハ勞働スルモノ絶滅シ如何ニ殖産興業ヲ振興セ
 ント欲スルモ如何ニ社會ノ福利ヲ増進セント欲スルモ水泡ニ歸セサルヲ得サ
 ルカ如シ夫レ然リ然カラハ今日ノ社會ト事變ハリテ生産ニ財本ノ必要ヲ感セ

サルト云フ一ノ社會ヲ想像スルコトヲ得サルヤ天地ノ純理ハ此ノ如キ斬新奇
 ナル社會ノ創設ヲ許サ、ルヤ否ヤ夫レ社會ニ必須ナル數多ノ事業ハ財本ヲ必
 要トセルト云ハ、必要ナリト云、眞ニ必要欠クヘカラサルモノト爲スニ非ズ財
 本ナケレハ財本無キ様ニ取計ヒ得ルナリ抑モ事業ハ財本ヲ用井スシテ其
 者ニ勞働相應ナル報酬ヲ與フル事ヲ得サルヤ即チ之ヲ再言セハ勞働ハ賃銀ナ
 ル價值ヲ生スルモノナレハ其價值ヲ代表スル有價紙ヲ發行スルヲ得サルヤ若
 シ之ヲ發行スルモノトセハ何ントツ財本ノ必要ヲ減スル所カアラシ此明々白々
 ナル純理ハ其程度ヲ超越スヘカラス制限處分ハ甚タ之レニ必要欠クヘカラサ
 ルモノタリ蓋有價紙ノ流通其度ニ過クルトハ其極途ニ有價紙ノ價值ヲ失墜ス
 ルノ恐レアレハナリ是レ此點アルカ故ニ有價紙ノ發行ハ理財上尤モ困難ナル
 問題ナリ

然リ而シテ有價紙ノ發行ニ伴フテ必要ナル處分アリ他ナシ有價紙總體カ含有
 セル價格ヲ社會ニテ豫メ備具セサルヘカラス此處分ヲ行フニハ或ハ死者ノ節
 儉蓄積ニ係ル一個人ノ財産上ニ賦稅ヲ爲シ或ハ特ニ有價紙發行ノ報酬トシテ

別産業ノ種

課稅ヲナスニアリ然レトモ有價紙ト社會現有ノ價值トノ平均ヲ保持スルモノ
 ハ特ニ紙幣及ヒ紙幣ニ類似スルモノ之レナリ

第四章 産業

第一項 産業ノ種別

産業ハ其事業ノ性質上ヨリ區別シテ五個トス

第一採掘事業

第二農業

第三製造業

第四運輸事業

第五商業

採掘事業ハ人手ニ全然觸レサル天然物ヲ採掘スル所ノ産業ナリ例ヘハ採掘事
 業ノ如キ漁獵ノ如キ皆ナ此種ノ産業中ニ入ルモノナリ

(理財學)

農業ハ人カニ、耕リテ、樹木、穀菜、鳥獸等ノ、如キ、人生ニ、必要ナル、天然物ヲ、土地ニ、生
 出セシムルヲ、目的トスル産業ナリ
 製造事業ハ人造物ノ製造ヲ、以テ目的トスルノ業ニシテ、通常世人ノ所謂産業ニ
 シュストリ一ハ即チ此事業ニ他ナラサルナリ
 運輸事業ハ其語辭ノ表明スル如ク、人造若シクハ天然ノ生産物ヲ、運輸スルノ産
 業ナリ

商業ハ必要ナル生産物ヲ、消費者ノ手ニ渡スノ業ニシテ、彼ナケレハ消費者ハ自
 カラ生産者ノ家ニ至ラザルヘカラス、故ニ商業ハ産業中最モ必要ナルモノナリ
 以上ハ工産第一種ノ區別ナリトス、今ヤ第二種ノ區別ニ移ラン、第二種ノ區別ハ
 生産行爲ノ形狀ニ由テ區別スルモノナリ之ヲ分チテ三種トス、左ニ之ヲ列叙セ

第一 不完全ナル生産物ヲ造出スル産業
 第二 機械ノ如キ生産ニ間接ニ必要ナル物品ヲ製造スル産業

第三 完成物ヲ生産スル産業三十二頁參觀

前陳第二種ノ區別ハ之ヲ第一種ノ區別ニ比スレハ、理附上稍ヤ必要ヲ感スルモ
 ノナリ、蓋此第二種ノ區別ヲ一見セハ、容易ニ勞動ノ肝要ナル事即チ産業ノ活力
 ニ非サレハ、生産ヲ望ムヘカラサル事ヲ、感覺スルト同時ニ、諸般ノ産業ハ相協合
 一致スルニ非サレハ、生産社會ノ完全ヲ期ス可カラサルヲ以テ、其間互ニ連絡關
 係スルモノナルコトヲ知ルニ足ルナリ

今日ノ社會ハ宛然殖産興業ノ一大集合場ナリ、如何ナル邊カ殖産興業ノ振起皇
 張スルアラサルハナレ左リトハ云ヘ、此盛大炳然タル今日ノ狀況ヲ呈スルニ至
 リタルニハ、果シテ幾多ノ歲月幾多ノ變遷ヲ經過シタルヤ、知ル可カラス、漸次進
 歩シテ此境遇ニ達シタルモ、モナルヤ必セリ、然カラハ其推移變遷ノ順序如何ト
 云フニ至テハ之ヲ斷言スルコト能ハスト、雖此之ヲ歴史ニ探リ理論ニ質スルハ
 産業ハ凡テ其源ヲ農業及ヒ探掘事業ニ發シタルモノナルヲ知ルヘシ、加旃此
 順序ノ事實タルコトハ農業及ヒ探掘事業カ他ノ諸業ニ對スル地位及ヒ其諸産業
 ノ發生ノ根源タルコトヲ見テモ明カナリ
 實ニ農業ハ産業中第一位ニ置クヘキモノナリ、蓋之ヲ産業中ノ第一位ニ置クヘ



互ノ關係相

キノ理由ハ社會ハ農業ノ範圍内ニ於テ如何程ノ利益ヲ得ルヤ知ルヘカラス而シテ有益ナル諸産業ハ農業ニカテ假ルニ非ラサレハ發生スルヲ得ス故ニ農業諸ハ産業ノ父母ニシテ諸産業ハ農業ノ子ナリト謂フ可ケレハナリ若シ夫レ農産豐饒ナラシカ農産物ノ價大ニ廉下ナルヘシ農産物下廉ナラシカ勞力ノ價大ニ下落スヘキヤ自然ノ道理ナリ夫レ然ラハ則テ農業ノ盛昌スルハ商業ノヲ下落スヘキヤ自然ノ道理ナリ夫レ然ラハ則テ農業ノ盛昌スルハ商業ノ盛昌スル所以ニシテ農業ノ盛衰振否ハ一國ノ強弱ニ關シ人民ノ獨立ハ之ニ由テ堅固脆弱ハ差ヲ生スルモノナリ

今ヤ吾人ハ更ラニ一步ヲ進メテ諸産業相互ノ關係ニ論及セン抑モ百般ノ産業ハ其關係甚太タ密接シテ互ニ連絡シ車輪羽翼ノ關係ヲ其間ニ保有スルモノナリ甲種ノ産業ハ乙種ノ産業ノ源因タリ乙種ノ産業ハ又甲種ノ産業ノ源因タリモハナリ即チ之ヲ再言セバ甲種ノ産業ナケレハ乙種ノ産業生セス乙種ノ産業ナケレハ甲種ノ産業ヲ盛興スルノ必要ヲ感セサルヘシ故ニ農業ナケレハ諸般ノ産業ノ生スル理由ナク又諸般ノ産業ナケレハ農業ヲ盛興スルノ要ナキ

ヤ昭々トシテ明カナリ然リ而シテ此連絡ノ關係タルヤ生産物中諸般ノ變形ヲ要シ種々ノ産業場裡ニ出入セサルヲ得サルモノナル程其關係ノ甚太タ密接ナルコトヲ見シ是ヲ以テ政府ハ諸般ノ産業ノ基本タルヘキ産業ニ關涉シテ之ヲ保護監督スルノ必要ヲ感スヘシ此關涉ハ理財上決シテ惡ムヘキコトニ非ス却テ産業連絡ノ關係ヨリ湧出スル理財上ノ真理タルモノナリ蓋政府ハ産業ノ基本タルヘキ生産物ニシテ内國ニ絶ヘテ生産セサルハ或ハ之ヲ外國ニ仰カサルヘカラス何ントナレハ此種ノ生産物ナキカ爲メニ内國ノ殖産興業ヲ停止蹶蹙セシムルノ大患アレハナリ之レ政府ノ此種ノ産業ニ關涉シテ不時ノ災厄ヲ未然ニ防クノ策ヲ回ラスノ必要アル所以ナルカ

(第二十二回)

茲ニ一大問題ノ生スルアリ他ナシ前回ニ於テ講述シタル諸種ノ産業ハ悉皆生産的ノモノナルヤ即チ之ヲ換言セバ諸種ノ産業ハ純然タル産業其者ナルヤ否ヤ曰ク然リ前陳ノ産業ハ皆ナ生産的ノ性質ヲ備フルモノナリトシテ不生産

(理財學)



運輸事業
ハ生産的
ノ産業ナ
ルヤ

學者ノ説

のノ産業ニ非ザルナリ夫ノ農業ノ如キ採掘事業ノ如キ又ハ製造事業ノ如キニ至テハ其生産的ノ産業タルコト明白ナル事實ニシテ一點ノ疑フ其間ニ容ルヘキモノアルナシ然リト雖トモ運輸事業ノ如キ商業ノ如キニ至テハ稍ヤ前者ト異ナリ理財學者間甚タ喧シキ問題ノ一ナリ

或學者ノ説ニ由レハ運輸事業ハ生産的ノ産業ニ非ス其理由如何トナレハ或物品ヲ或ル點ヨリ或ル他ノ點ニ轉スルニ過キスシテ毫モ物品ヲ生産シタルモノト云フ可カラサレハナリト

學者ノ議論ハ之ヲ理論上ヨリ論下セハ場所ノ轉轉ニ由テ其形狀ヲ變更スヘキ道理ナキヲ以テ或ハ正當ノ議論ト稱スルヲ得シ然リト雖トモ之ヲ實際上ヨリ觀察セハ大ニ不可ナル所ノモノアリテ存セリツハ他ニアラス運輸ハ無用ナル物品ヲ有益ナラシメ又タ消費者ノ手ニ生産物ヲ送りテ其生産物ニ運輸シタル物ケノ價值ヲ附セシムルモノナリ果シテ然ラハ物品ノ性質ヲ變更シタルモノニ非スシテ何ツヤ運輸事業ハ生産的ノ産業ニ非スシテ何ツヤ則チ産業ノ生産的ナルヤ否ヤハ決シテ物體其物ヲ變形シテ大ナラシメ又ハ重カラシメタルヤ

否ヤニ由テ區別スルニ限ルヘキノミニアラス或ハ其物體ヲ有益ナル地ニ運搬シタルカ故ニ大ニ價值ヲ増加シタルトキト雖トモ之ヲ生産シタルト云フナリ

一言以テ之ヲ言ヘハ産業ノ生産的ナルヤ否ヤハ有形的ノ變化ヲ以テ問フト同時ニ無形的ノ變化ニ於テモ同シク之ヲ問フモツタルコトヲ知ルヘシ故ニ此運輸事業ニ於テハ毫モ其外形ノ状態コソ變化セザルト雖トモ無形的ニ其價值ヲ變化シタルヲ以テ見レハ真乎タル生産的ノ産業タルコトヲ知ルヘキナリ

商業ニ於テモ亦然リ其生産的ノ産業ノ一ナルヤ否ハ學者間大ニ議論アリト雖トモ前陳運輸事業ノ所ニ於テ講述シタル理由ヲ以テ之ヲ論スレハ同シク一ノ生産的ノ産業ナリト謂フノ外ナキナリ其故何ソヤ商業ハ或ル一點アリ他ノ一點ニ物品ヲ運送スルコトヲ爲サハルト雖トモ需用者ノ便ヲ計ルコト大ナリ即チ需用者カ遠地ニ行クノ勞ヲ取ラスシテ商店ニ行ケハ直チニ其物品ヲ購求スルコトヲ得ルナリ故ニ需用者ノ勞ヲ省減スルト云フ利益ト商人ノ勞ヲ報フルト云フ利益ヲ生シ其利益ハ其ニ物品ノ價值ヲ増加スルニ至ルヘシ是ヲ以テ之ヲ觀レハ商業ハ無形的ニ物品ヲ生産スルモノナルコト明ケシ巴ニ無形的ニ

(理財學)



物品ヲ生産スルモノトセハ生産的ノ産業ト云ハスシテ何ソヤ
夫レ商業ハ生産的ノ産業ナリ其利益ヲ社會ニ與フルコト幾何ソヤ文明ノ程度
倍ス進歩シ人類社會ノ活動倍ス繁劇錯雜ナルニ從テ其必要ハ倍ス増加シ産業
中重要ナル地位ヲ占ムルニ至ラン左リトハ云ヘ近時商業會社ナルモノノ設立
セラルコト日ハ一日ヨリモ甚シク爲メニ或學者ヲシテ利益減少ノ杞憂ヲ抱カ
シムルニ至レリ何カ故ニ利益減少ノ杞憂ヲ生スルヤト云フニ商業會社ニテハ
其任掛大ナルカ故ニ從テ其取引甚タ盛大ナルヘク其取引甚タ盛大ナルカ故ニ
從テ利益非常ニ大ナルヘシ利益非常ナルカ故ニ其商人仲間ノ間ニ分配スル利
益ハ大ナリ然ルニ通常ノ商人ニ在リテハ此利益ヲ得ルコトナク却テ商賣ノ願
客ヲ奪ハレ憫然ニモ其生路ヲ失フニ至ルヘシ之レ實ニ商業會社ヨリ生スル弊
害ナリ左レトモ之ヲ以テ商業ノ必要ヲ忘ルヘカラス

第二章 産業規則

産業規則ノ問題メルヤ其關スル所廣漠ナリ故ニ必要ナル數多ノ問題ヲ生シ之
ヲ決スルハ一朝一夕ノ能クスル所ニアラス又之ヲ詳細ニ講究スルノ要ナキナ
リ此ニ於テカ吾人ハ其濫與深處ニ入ルヲ止メ只簡其最重要ナル點ヲノミ窺
フニ止メントス

産業規則ハ理財上重要ナル一ノ論題ナリ故ニ學者間種々ナル議論ヲ生シ其取
ル所ノ主義其撰ヲ一ニスルモノアルヲ見ス然レトモ吾人ハ其大體ヲ講究スル
ヲ以テ目的トスルカ故ニ諸主義ヲ臚列スルノ勞ヲ取ラス一奔シテ吾人カ是ナ
リ可ナリト認定スル所ノ結論ヲ左ニ開陳セン

抑モ産業規則ヲ設定スルノ必要ハ那邊ニアルヤ之レカ設定ノ理由ハ果シテ何
處ニアルヤ之レ産業規則ナル文句ヲ知ルヤ否ヤ必ス先ツ吾人ノ頭上ニ浮ハサ
ルヲ得サル所ノ疑問ナリ蓋シ産業規則ノ必用ハ公共ノ安寧若クハ公共ノ衛生
ニ關スル産業ニアリ即チ之レ各個ノ自由ニ放任スルトキハ爲メニ社會ノ安寧
ヲ紊私シ爲メニ社會ノ衛生ヲ損害シ剩サヘ人類ノ肉體精神ニ危害ヲ與フルニ
當テハ政府ハ抑制手段ヲ以テ之ヲ羈束シ危害ヲ未然ニ防カスシハアニス然レ

トモ此患ナキ以上ハ之ヲ抑制スヘカラス各個ノ自由ニ放任シテ殖産興業ノ盛昌振張ヲ計ルニ若カサルナリ何トナレハ關涉其度ニ走ルトキハ其弊ヲ殖産興業ノ衰頹ヲ招キ其極終ニ湮滅ニ飯シ又之ヲ挽回スルコトヲ得サルニ至ルヘケレハナリ

一般學者ノ説ニ由レハ此ノ如ク公共ノ安寧若クハ公共ノ衛生ニ關スル産業ヲ二種ノ點ヨリ區別スルコトヲ得ヘシ

第一 産業ニ用ユル所ノ方法手段カ公共ノ安寧若クハ公共ノ衛生ヲ害スルニ至ル場合

第二 産業自カラカ生スル所ノ物品其物カ社會ノ安寧若クハ衛生ヲ害スル場合

則チ一ハ産業ノ方法カ社會ノ安寧又ハ衛生ヲ害スルヲ以テ之ヲ防クノ必要生スル場合ナリ一ハ産業ノ方法手段ハ毫モ危害ナラサルモ之レヨリ生出シタル物品カ甚ダ危険ナル場合ナリ何ニセヨ此二者中ノ一ニ出テタルトキハ政府ハ之ヲ羈束シ以テ其將ニ生セントスル危害ヲ未發ニ防止セサルヘカラサレハナ

危險的產業之ヲ禁止スヘキヤ

リ設例ハ火藥ノ如キ「ダイナマイト」ノ如キ之ヲ製造スルハ甚太ダ危険ナリ故ニ之カ製造場ハ人家ニ疎遠ナル地方ニ於テ之ヲ營マサルヘカラス又織物ノ如キニ於テモ彩色ヲ爲スカ故ニ毒氣ヲ水中ニ混合スルノ患アリ故ニ此危害ヲ除ク爲メニハ人家稠密ノ場所ニ於テ之カ製造ヲ爲スヘカラサルナリ蓋政府ニシテ以上ノ如キ危険ナル産業ナルニモ拘ハラス各個ノ自由ニ放任シ願ミル所ナクンハ人民安ソ一日モ安堵シ生ヲ營ムコトヲ得ンヤ是ヲ以テ之ヲ觀レハ實ニ産業規則ノ必要ナル昭々乎トシテ明ナリ

左レハ産業ニシテ社會ノ安寧秩序ヲ害スルニ當テハ立法者タルモノハ宜シク之ヲ拘束シ以テ其害毒ヲ遏止スルノ方策ヲ廻ラサルヘカラス之レ實ニ疑フヘクモアラサルノ事タリ然リト雖トモ此點ヲ誤マルヘカラス假リニモ立法者ハ社會ノ安寧社會ノ衛生ヲ保持スル爲メニハ拘束手段ヲ取ラス一步ヲ進メテ禁遏的ニ之ヲ禁止スルコトヲ得ルト信スヘカラサルナリ蓋立法者カ禁遏的ニ其手段ヲ廻ラスヘカラサルト云フハ他ニアラス或ハ其産業ハ社會ニ危険ナルト同時ニ必要欠クヘカラサルモノナルコトアラン否ナ概シテ危険ナル産業ハ

(理財學)



社會ニ必要ナルモノナリ有益ナルモノナリ夫ノ火藥ヲ見ヨ彼レハ實ニ戰時必須ノ寶物ニシテ之レ徹リセハ巨萬ノ勇士アリトモ何億ノ銃銃アリトモ又々何等ノ用タモナサス敵軍一擧ノ下ニ粉塵ニ散ラシ去ランノミ夫ノ織物ヲ見ヨ彼レハ實ニ人類ノ冷寒ヲ去リ又々ニハ人類ノ醜穢ヲ蔽フモノニシテ人類社會ニハ其必要ヲ食品ト相同スルモノナリ然ルニ彼レハ公共ノ安寧ヲ害シ此レハ公共ノ衛生ヲ害スルヲ理由トシテ全然其産業ヲ禁止シ得ヘキヤ吾人ハ其決シテ然ルヘカラサルヲ知ルナリ此ノ如キ無見ノ說ニシテ行ハレ當局者ノ妄用スル所トナリタリトセハ社會ハ果シテ如何程ノ損害ヲ蒙ルヘキヤ火藥ノ製造其跡ヲ絶チテ國家ヲ守ルノ利器ナク織物ノ製作此ニ中止シテ人類ノ生活ヲ保ツノ道ナシ國家危レ人類モ亦々危レ嗚呼此ノ如クシテ天地ヲ如何セシ果シテ以上ノ如クシハ此禁邊の手段ハ社會ヲ保護セント欲シテ却テ社會ヲ破壊スルモノナリ即チ渠レ禁止手段ハ保護的ニ出テ、破壊的ニ終ハルモノナリト謂フヘシ思モ亦甚シカラスヤ安モ亦人ナラズヤ

今ヤ此銳鋒ヲ少シク撓メ禁止論者ニ百歩ヲ譲リテ前陳ノ如キ大患ナギモト

フルモ人類ハ一般ニ自由ニ羈ナルモノナリ故ニ危險ナル産業ニ就スルト就事セサルトハ一ニ其自由權内ニ存ス一ニ其撰擇權内ニアリ然ルニ此ニ願ミルコトヲ爲サス敢テ之ニ就事スルハ則チ危險ナルコトヲ知リツ、爲スモノナリ其自由權ヲ抛擲シツ、爲スモノナリ必スヤ巨利ノ其心ヲ奪ヒ此ニ至ラシメタ

ルモノナルヘシ果シテ然ラハ立法者ニシテ此種ノ産業ヲ禁止シ剩サヘ其跡ヲ剿絶スル如キアリトセハ一ニハ人類ノ自由權ヲ害シ一ニハ其生路ヲ奪フモノナリ何故ニ人類ノ自由權ヲ害スルト云フヤ他ナシ人類ハ此産業ニ就スルト則チ彼産業ニ就スルトハ一ニ其自由權内ニ存スルモノナルニ之ヲ禁止スレハ則チ其自由ニ撰擇シテ就事シタル産業ヲ奪フタルモノニシテ取リモ直サス其自由權ヲ害シタルモノト謂フヘキナリ何ヲ以テ其生路ヲ奪フト謂フヤ他ナシ此産業ヲ撰擇シテ之レニ就事シタル以上ハ其人ハ此産業ニ熟練ナルモノナラシ故ニ之ニ由ラサレハ其生活ヲ營ム能ハサルヘシ然ルニ之ヲ奪フトセハ以後營生ノ道ナク徒ラニ路傍ニ餓死スルノ外ナキナリ之レ吾人カ其生路ヲ奪フト謂フ所以ナリ夫レ然ラハ危險ナル産業ニ於テ其危險ナルヲ理由トシテ之ヲ禁

止セハ二大弊害ノ湧出スルアリ其二大弊害ノ湧出スルヲ知リテ、モ禁止説ヲ唱フルハ愚ナリ妄ナリ論者如何ニ然リト雖トモ此二弊害ノ如キハ大ナリト云ヘハ大ナリ之ヲ救済スルノ策ナキニアラス故ニ以上ノ二個ノ弊害ノミニテハ未ダ禁止説ヲ挫クニ足ラサルノ觀アリ又吾人モ之ノミニテハ敢テ禁止説ノ妄謬ヲ唱道スルヲ欲セサルナリ然ラハ吾人カ此ニ此説ヲ唱道スルニ至リタル所以ハ何ソツ實ニ前陳シタル危險的産業ノ社會ニ必要ナリト云フ一大理由ノ存スルアレハナリ此理由コソ實ニ吾人ノ心ヲ確然タラシメタルモノナリ

唯タ危險的産業ヲ禁止スヘカラサルハ社會ニ必要ナルカ爲メナリ己ニ之ヲ禁止セスシテ保存スル以上ハ其産業ニ就事スルモノ、如何ヲ問フニ逸ナシ否ナ之ヲ問フノ必要ヲ見ス故ニ立法者ニシテ之ニ就事セシムルノ害ヲ發見スレニ於テハ斷然之ヲ禁止スルヲ可ナリトス又禁止セサルヘカラサルナリ設例ハ兒童ノ如キ之ナリ兒童ト雖トモ或産業場裡ニ在テハ大ニ必要ナルコトアリ大人ヨリモ寧ロ兒童ノ必要ナルコトアリ左リトハ云ヘ危險ナル産業ニ至リテハ其

必要ハ弊害ニ劣ルモノナリ何トナレハ弱年ノ爲メニ産業ノ危害ヲ避ルノ能力ナク加旃兒童ハ父母ノ爲メニ強制サル、モノ多キカ故ニ之ヲ保護スルノ必要甚タ大ナレハナリ

以上ヲ要スルニ危險ナル産業ハ之ニ制限ヲ加フルノ必要アルモ之ヲ禁止スヘカラス而シテ之ヲ禁止スヘカラスト云フハ此産業ヲ兒童ニ禁止スヘカラスト謂フニアラサルナリ

(第二十三回)

第一種ノ産業タル危險的産業ハ之ヲ羈束シ其危險質ノ輕重ト其就事者ノ大小トニ由テ制限規則ヲ設定スルノ必要ヲ感シタルコト前述シタルカ如シ之ヨリ

第二種ノ産業ニ移リテ乞フ之ヲ開陳セン

第二種ノ産業ハ第一種ノ産業ノ如ク之ヲ危險ノ點ヨリ制限ヲ加フルノ必要ヲ感スルモノアラス公益上之カ規則ヲ設定スルノ必要アルナリ即チ公用ノ食品ヲ生産スル産業之ナリ此點ニ就テハ學者間非常ナル議論アリテ未ダ確定スルコトナシ蓋シ此問題ハ實ニ産業規則ノ論題中最モ肝要ナル問題ニシテ理財學

上吾人ノ大ニ講究スルヲ要スルモノナリ然ラハ其學者間ニ一定サレサルモ亦宜ナル次第ナリト謂フヘシ
或ル理財學者ノ説ニ由レハ此點ニ於テハ絕對的ニ產業者ニ自由權ヲ付與セサルヘカラス若シ之ヲ拘束スルニ於テハ却テ社會ニ大害ヲ醸スヘキナリト云フニアリ

吾人ハ學者ノ説ニ左袒スルコトヲ得ス政府ノ之ニ關涉シテ幾何カノ制限ヲ加ヘシメ以テ人民ノ營生ヲシテ安全ナラシメサルヘカラス之ヲ絕對的ノ自由權内ニ放任スルカ如キハ吾人ノ夢想ニタモセサル所ノモノナリ何カ故ニ然ルヤ乞フ之ヲ左ニ開陳セン

吾人ハ政府ノ關涉ヲ要スル理由ヲ陳述スルニ先チテ關涉ノ範圍ヲ確然タラシメサルヘカラス其範圍如何曰ハク通常人生ニ必要欠クヘカラサルモノト見做サル、食料品ヲ以テ關涉ノ限界トスルモノナリ故ニ若シ必要欠クヘカラサルモノニアラサル以上ハ之ヲ制限スルノ妄ナク學者ノ所謂絕對的ノ自由權ヲ附與シテ不可ナキナリ己ニ其關涉ノ範圍明白ナル以上ハ何故ニ必要ナル食料品

ハ之ヲ制限セサルヘカラサルヤ吾人ヲ以テ之ヲ見ルニ此問題ハ殊ニ日本國ニ於テ實用尤モ大ナル問題ナリ蓋シ日本國ハ全般ノ物價甚々下廉ニシテ他國ニ其比ヲ見ルコトナシ唯タ夫レ物價甚々高貴ナラサルカ故ニ之ヲ永久ニ保持スルノ策ヲ講セサレハ終ニ高騰スルノ患アリ若シ夫レ物價ニシテ高騰センカ日本國ニ特種ナル美狀モ中絶シテ剩サヘ歐米諸國ノ如ク物價ノ高貴ナル世界ト化シ去ラン之レ決シテ日本國ノ爲メニ喜フヘキコトニアラス一大歎息スヘキノ事ナリ然ラハ此問題ニ付キ大ニ焦心苦腦スルノ價値アリテ存セリト謂フ可シ

今マ歐米諸國人カ一ヶ月間ニ要スル入費ト日本國人ノ入費トヲ比較セハ其間雲泥ノ差異アリ佛蘭西國ヲ例トシテ其統計表ニ徴スルニ一人一ヶ月ノ入費ハ少ナクトモ四十七フラン乃至五十五フランナリ然ルニ日本國人生計ノ費額如何ト云フニ僅カニ二圓五十錢ニテ充分ナルカ如シ之レ諸君ノ知ル所ナラン果シテ然リトセハ比較上佛國ト日本國トノ物價ノ高下ハ殆ント四ト一トノ如ク又タ五ト一トノ如シ其價値ノ高下懸絶スルコト豈ニ亦甚太シキニ非スヤ

前回ニ於テ日本國ト歐米諸國トノ間ニ存スル生計ノ價額ノ大小高下ヲ陳述シ
 タリ今日ハ一步ヲ進メテ何故ニ彼此斯ノ如キ差別アルヤ否ヤ日本國ノ生計カ
 甚太々下廉ナル理田ハ那邊ニ存スルヤヲ講究セン
 凡ソ物價ノ下廉ナラサル所以ハ所有權ノ地位尊重セラルレハナリ工手ノ價値
 上騰スレハナリ即チ此ニ之カ關係ヲ解述セハ物價ト工價トノ間ニハ恰モ一ノ
 循環無限ノ球圓アリテ運動スルモノ、如シ物價高貴ナルカ故ニ工價下廉ナラ
 サルナリ工價下廉ナラサルカ故ニ物價高貴タルナリ之ニ反シテ物價下廉ナレ
 ハ從テ工價下落シ工價下廉ナレハ從テ物價下落スヘシ此循環ノ運動ハ理財學
 上決シテ動カスヘカラサル一定ノ原理原則ニシテ物價ノ高貴ナル球圓ハ恰モ
 歐米諸國ニ比倫スヘク物價ノ下廉ナル球圓ハ日本國ニ比倫スヘシ前球圓ニ仿
 徨スルト後球圓ノ境域ニ胚胎スルト理財上何レカ邦國ノ爲メニ善ナリトスヘ
 キヤ美ナリトスヘキヤ之ヲ諸君ノ良心ニ問ヘハ自カラ解シ去ラン
 夫レ日本國ハ此物價下廉ノ球圓中ニ第一位ヲ占ムル一美邦ニ非スヤ國ノ東西
 ヲ論セス物價下廉ノ一點ニ至テハ日本國ヲ踰越スルモノアルコトヲ聞カサル

ニアラスヤ然ルニ善美ハ去リ易シノ譬アル如ク此國ノ善美ナル狀態モ之ヲ保
 存スルノ注意ナキ時ハ終ニ消散シ去リ千秋ノ憾ヲ遺サ、ルヲ得サルノ時來ラ
 ン

夫レ然リ吾人理財學者ハ驅勉シテ以テ日本國ノ現狀ヲ千億載ノ後ニ保存シ而
 シテ日本國固有ノ美習ヲ將來ニ又々遠國ニ美讀セシメスンハアルヘカラサル
 ナリ然レトモ其之ヲ保存スルハ稍ヤ困難ニ似タルヲ以テ或ル小膽無氣力ナル
 人士ヲシテ此ニ躊躇セシムルニ至レリ此レ必竟其無氣力ノ然カラシムルノ感
 觸ニ過キス吾人ヲ以テ之ヲ視ル時ハ實ニ惘然ニ絶ヘス其困難ナリト云フハ蓋
 シ之ヲ保存スルノ方法手段ヲ探求セサレハナリ之カ方法手段ヲ探求スルノ勞
 ヲ取ラサレハナリ其實之ヲ保存スル如キハ容易ノ業ナリ一朝一夕ノ事ナリ何
 シソ前齡ノ險峻ナルヲ見テ後山ノ危峭ナルコトヲトスルト異ナラシヤ學者宜
 シク此ニ覺悟シテ保存手段ヲ探求スルニ勉ムヘキナリ

抑モ國ハ其獨力ヲ以テ其國人ニ必要欠クヘカラサル物品ヲ供給スルモノナル
 コトハ理財學上掩フ可カラサル一大原則ナリ即チ之ヲ譬ヘハ甲國ハ甲國ノ獨

カヲ以テ其全國民ノ必需品ヲ供給シ乙國ハ乙國ノ獨力ヲ以テ其全國民ノ必需品ヲ供給スルモノトス之レ實際ノ事實ニ照ラセハ其未ダ明白ナリ日本國ニ必要欠クヘカラサル物品ハ何ナルカ云フ迄テモナク米ナラン米ハ實ニ日本國民最重要ナル生産品ナリ然ルニ之ヲ供給スルモノハ何國ナルヤ日本國自身ニ非スヤ他國ノ輸入ヲ仰クコト稀ナルニアラズヤ此ク云ハ、諸君中或ハ疑ヲ其間ニ容レ何故ニ必需品ハ必ス其國自身ニテ供給スルモノナクヤ云ハシ蓋其國自身ニテ供給スルト云フハ他ニアラス必需品ハ其國ニ必須ノモノナリ然ラハ其物品ノ價格高貴ナルヘカラス又產地甚ダ遠サカルヘカラス然ルニ其必需品トスル所ノモノ其國ニ産セスレテ他國ノ輸入ヲ仰クトセハ一國ノ理財ニ關係ヲ及ホスコト大ナリ從テ其始メニ必需品タリシモノモ一變シテ他ノ廉下ナル物品ヲ以テ之ニ代フルニ至ルヘシ是レ天地間自然ノ道理ナリ人力ノ如何トモスル能ハサル所ノモノナリ

然ラハ一國人民カ有スル物價ノ下廉ト云フ善美ナル地位ヲ永久ニ繼續セシムル所ノ方法ハ如何他ナシ多少強大ナル稅率ヲ外國輸出ノ必需品ニ課シ以テ、必要食料品ノ外出ヲ固ク防クニアリ然リト雖トモ此ニ注意スヘキハ吾人カ課稅ノ必要アリト云フハ內國ノ需用ヲ供給スルニ餘リナキモノヲ云フ決シテ生産過剩シ內國ノ需用外ニ出ルモノト雖トモ必需品ナレハ之ヲ外國ニ輸出スヘカラスト云フニ非ラサルナリ之レ蓋シ益ナキ事ニシテ善良ナル物品ヲ地上ニ拋棄スルトモ甚ニ異ナル所アルヲ見ス

然リ而シテ稅率ノ程度如何曰ク商買ヲシテ之ヲ外ニ賣ルモ內ニ賣ルモ其間ニ損得ヲ感セシメサル様ニ爲ルニアリ設例ヘハ米ハ日本國ニ於テ一斗一圓ナリトセハ商買ハ之ヲ外ニ一圓廿錢ニテ賣リ廿錢ノ利得ヲ收ムルコトヲ計ルハシ若シ之ヲ自由ニスルトキハ爲メニ日本國必需品タル米ハ皆ナ外ニ流出シ終ニ非常ナル不都合ヲ感スルニ至ルヘシ此ニ於テカ日本國政府ハ此大患ヲ免除セシカ爲メニ斷然外國輸出稅トシテ一斗ニ付キ廿錢ノ稅率ヲ課スヘシ然ラハ外國輸出ノ利益ナク却テ輸出ノ苦楚ヲ嘗メサルヲ得サルカ故ニ商買ハ外國輸出ヲ中止シ手數ヲ要セサル內國賣買ニ取掛ルヘキヤ必セリ

以上ハ之レ第一ノ方法ナリ第二ノ方法ハ他ナシ(Exchange)稱スルモノナリ

(理財學)

設、ゲ、テ、外、出、ヲ、防、グ、ニ、ア、リ、タ、ク、ス、ト、ハ、即、チ、米、ノ、相、場、ヲ、確、定、シ、政、府、ノ、威、權、ニ、由、テ、其、相、場、外、ニ、米、價、ヲ、出、テ、シ、ム、ル、コ、ト、ヲ、禁、止、ス、ル、ノ、意、ナ、リ、而、シ、テ、其、相、場、ノ、如、キ、ハ、調、査、委、員、ノ、活、眼、ヲ、以、テ、米、ノ、品、質、ニ、由、リ、調、査、セ、ス、シ、ハ、ア、ラ、サ、ル、ナ、リ、然、リ、ト、雖、ト、モ、此、相、場、ノ、確、定、ハ、實、ニ、理、財、社、會、ニ、大、關、係、ヲ、有、ス、ル、モ、タ、リ、其、確、定、ノ、如、何、ニ、依、リ、テ、ハ、社、會、或、ハ、害、ヲ、蒙、ム、ル、コ、ト、ア、ラ、シ、或、ハ、利、益、ヲ、受、ク、ル、コ、ト、ア、ラ、シ、此、故、ニ、當、局、ノ、人、士、ハ、之、ヲ、荷、且、ニ、シ、テ、社、會、ニ、大、害、ヲ、與、フ、ル、コ、ト、ア、ル、ヘ、カ、ラ、サ、ル、ナ、リ、之、ヲ、防、グ、ニ、ハ、諸、地、方、ノ、形、狀、ヲ、描、寫、シ、テ、參、考、書、ヲ、閱、覽、シ、テ、其、誤、謬、ヲ、正、ス、ニ、若、カ、サ、ル、ナ、リ、

然、リ、而、シ、テ、論、議、(第、二、十、四、回) 論、議、書、ニ、於、テ、其、確、定、ノ、意、思、ヲ、明、示、ス、ル、コ、ト、ヲ、得、ヘ、シ、其、參、考、書、中、ニ、ハ、收、獲、ノ、多、寡、價、格、ノ、高、低、等、ヲ、詳、記、ス、ル、カ、故、ニ、足、ヲ、各、地、ニ、出、タ、サ、ル、ト、モ、一、目、瞭、然、タ、ル、ヘ、キ、ナ、リ、此、完、美、オ、ル、數、ア、レ、ハ、各、地、ノ、相、場、ヲ、知、覺、ス、ル、コ、ト、ヲ、得、ル、ヲ、以、テ、此、正、確、オ、ル、價、格、ニ、中、介、者、タ、ル、商、人、ノ、利、益、ヲ、附、加、セ、ハ、則、チ、物、品、ノ、相、場、ハ、此、ニ、確、定、ス、ル、コ、ト、ヲ、得、ヘ、シ、此、相、場、ノ、已、ニ、確、定、シ、タ、ル、後、チ、ハ、

何、人、ト、雖、ト、モ、破、フ、ル、ヘ、カ、ラ、ス、此、相、場、外、ニ、流、出、シ、テ、物、品、ヲ、賣、買、ス、ル、コ、ト、ヲ、得、サ、ル、ナ、リ、若、シ、之、ヲ、破、フ、リ、高、價、ニ、物、品、ヲ、賣、買、ス、ル、如、キ、コ、ト、ア、リ、ト、セ、ハ、之、レ、法、律、ヲ、蔑、視、シ、タ、ル、モ、ノ、ナ、ル、カ、故、ニ、刑、罰、ノ、重、苦、ヲ、蒙、ラ、サ、ル、ヲ、得、サ、ル、ナ、リ、則、チ、之、ヲ、再、言、セ、ハ、刑、罰、ヲ、以、テ、相、場、違、反、ニ、制、裁、ヲ、附、ス、ベ、キ、ナ、リ、

以上、陳、述、シ、來、リ、タ、ル、二、個、ノ、方、法、コ、ソ、實、ニ、生、計、ノ、程、底、ヲ、安、直、ナ、ル、地、位、ニ、置、ク、ノ、方、法、ナ、リ、然、ル、ニ、或、ル、學、者、ハ、相、場、違、反、ノ、制、裁、ト、シ、テ、刑、罰、ヲ、科、ス、ル、ハ、階、ニ、過、ク、ル、ナ、リ、ト、云、フ、ト、雖、而、之、レ、其、實、際、ヲ、知、ラ、サ、ル、ノ、妄、論、ニ、シ、テ、敢、テ、取、ル、ニ、足、ラ、サ、ル、ナ、リ、蓋、シ、論、者、ハ、買、占、人、ナ、ル、狡、猾、ヲ、逞、シ、フ、ス、ル、モ、ノ、ア、ル、ヲ、知、ラ、サ、ル、カ、買、占、人、ハ、實、ニ、社、會、ノ、大、罪、人、ナ、リ、細、民、ノ、大、逆、人、ナ、リ、社、會、ヲ、害、シ、細、民、ヲ、苦、シ、ム、須、ラ、ク、之、ヲ、排、撃、シ、以、テ、其、害、毒、ヲ、消、散、シ、去、ラ、ス、ン、ハ、ア、ラ、ス、何、ント、ナ、レ、ハ、渠、レ、買、占、人、ナ、ル、モ、ノ、ハ、物、品、ヲ、一、時、ニ、買、占、メ、テ、物、價、ノ、高、騰、ス、ル、ヲ、待、ツ、モ、ソ、ナ、レ、ハ、ナ、リ、夫、レ、此、ノ、如、ク、シ、テ、天、下、ノ、善、人、ト、云、フ、コ、ト、ヲ、得、ル、ヤ、

譯者曰吾輩ハ前章會社ノ部ニ於テ會社熱ノ社會ニ大害アルコトヲ知り會社ハ社會ニ肝要ナルト同時ニ其極ニ走ルトキハ却テ社會ニ大害ヲ蒙ルモノタルコトヲ曉レリ而シテ其弊ヲ流レテ終ニ日本國ノ現狀ノ如キ金融必道ノ災ヲ生シ

タルコトヲ取言セリ今ヤ米價ノ高低ヲ論スルニ當リ我國近來ノ米價暴騰ハ一
 大原因ヲ買占人ノ狡猾手段ニ汲ミタリト云フ輿論ノ買アルコト之ヲ禁遏スル
 ニハ刑罰ノ制裁ヲ附スルノ必要アルコトヲ感シタリ之レ講師カ陳述スル所ニ
 由テ明ラカナリ諸君此ニ鑑ミル所アレハ講師ノ一大幸福ナラン歟
 吾輩ハ昔嘗ニ於テ此編ヲ譯シ來リ雨氣ノ未タ散セサルヲ見テ天帝ノ吾輩若生
 ヲ災スルノ酷ナルヲ嘆スルコト切ナリ然ルニ買占人ノ如キ狡猾無仁ノ徒アリ
 テ米價ノ暴騰ヲ助クルモノアルト聞キ切齒扼腕セサルハナシ然レトモ吾輩ハ
 買占人ノ眞ニ今日ニ勢ヲ逞シフスルヤ否ヲ問ハス嚴罰ヲ設ケテ其害ヲ未
 然レトモ我政府ハ其今日ニ存スルヤ否ヤヲ問ハス嚴罰ヲ設ケテ其害ヲ未
 防クノ得策ナルニ若カヤルナリ其政府カ今日マテ設ケサルハ如何ナル理由
 ルカ即チ之ヲ再言セハ反對論者ノ説ク所果シテ如何哉輩ハ之ヲ先輩諸君ニ問
 ハサルヲ得ス

夫レ此必要食料品ニ關スル問題タルヤ之ヲ苟且ニスヘカラサルモノタリ其問
 題ノ決定如何ハ大ニ理財社會ニ關係アルモノナリ蓋シ日本國ニ在リテハ米價
 ノ低廉ヲ保持シ以テ生計ノ程度ヲ恒久ニ保存スルノ必要アルナリ之レ前文ニ
 於テ屢陳述シタル所ニシテ已ハヤ一點ノ疑オモ其間ニ存スルコトアルナシ
 米價ノ高騰ハ實ニ恐ルヘキニ勝ヘタルモノアリ其故何ソヤ其極終ニ米價ヲ

シテ永久ニ高騰ナラシムルノ患アリテ存スレハナリ米價暴騰ス爲メニ土地ノ
 價格高騰スヘシ土地ノ價格一旦高騰スル以上ハ容易ニ之ヲ動かシテ低廉ナラ
 シムヘカラス此故ニ高騰セル地價ハ依然トシテ存スルト同時ニ米價モ亦タ其
 價格ヲ低廉セサルヘシ設例ヘハ米價暴騰ノ當時一坪一圓ノ地面ヲ二圓ニテ買
 ヒタリトセハ其土地ニテ作リタル米ハ二圓ニテ買ヒタル當時ノ價ニテ賣ラサ
 レハ損耗ヲ感スルナルヘシ此ノ如クシテ行クトキハ物價ノ低廉スルコトハ甚
 太々容易ノ業ニ非ラサルヘキナリ

譯者曰此處講師ノ所論甚太々曖昧ニ失シ餘リニ大人氣ナキ議論ナリ或ハ講師
 ノ誤謬ナランカ筆記帳ニ其我趾ヲ止ムルヲ如何セン或ハ小生ノ過失ナランカ
 筆記帳ニ我方ナキコトハ記スヘカラサルヲ如何セン何ニセヨ其曖昧ニシテ面
 白カラサル議論ナルトハ小生ノ信スル所ナリ蓋物價ノ高低騰下ハ常ナリ一旦
 下落シタルカ故ニ常ニ下落スルト云フモノニアラス又タ一旦高騰シタルカ故
 ニ其暴騰ヲトスヘカラス其高低ハ即チ風雨ノ多寡寒暖ノ加減等ニ因テ左右セ
 ラルヘモノニシテ他ニ其源因アルコト甚タ稀レナリ之實際ノ形狀ヲ熟察スル
 人士ノ能ク知ル所ナラスヤ然ルニ講師ハ一旦土地ノ價值騰貴シタルカ爲メニ
 永久ニ米價高騰ナルヘシト斷論スルハ暴モ亦タ極マレリト謂フヘシ今一步ヲ

(理財學)

譲リテ講師ノ言ヲシテ永久ト云フ意ニ非ストセハ此等ノ議論ハ實ニ當然ノ議
論タルハ勿論又之ヲ此ニ唱フルノ必要ヲ感セサルナリ何ントナレハ此邊ノ議
論ハ必竟物價ノ高騰ヲ防キ日本國ノ低廉ナル生計ノ程度ヲ保ツト云フニアレ
ハ永久ニ物價ノ高騰スルト云フ點コソ必要ナレ一時ノ高騰ノ事ナトテ論スル
ニ及ハサレハナリ

以上ヲ要スルニ必要品ノ價格ヲ最低額ニ止マラシムルニハ二個ノ方法アリ即
チ此方法タルヤ社會ノ物價ヲシテ安直ナラシメ其安直ナル物價ヲシテ恒久ニ
維持スルニアリ故ニ此方法ハ社會ノ公安幸福カ命シタル所ノモノナリト云フ
モ過言ニ非ルナリ

然ラハ其方法トハ何ソヤ他ナシ第一ハ食料品ノ外出ヲ禁止スルニ在リ然レト
モ此ニ注意スヘキハ其外出カ社會ヲ害シ爲メニ人民カ物價ノ高騰ヲ蒙ルニ非
レハ此方法ハ用ニ可カラサルナリ而シテ此外出禁止ノ方法タルヤ之ヲ行フニ
ハ即チ輸出税ヲ課スルニ在リ輸出税ヲ課シテ外出ノ關門ヲ杜絶スルニ在リ第
二ハ食料品價格ノ相場ヲ定ムルニ在リ而シテ其相場ノ範圍内ニ非レハ之ヲ他
人ニ販賣スルコトヲ得サラシムルナリ

吾人ハ此點ニ就キ單ニ米價ニ就キ陳述シタルカ如シ然リト雖トモ此事タルヤ
獨リ米價ノミニ限ルコト非ルナリ唯吾人カ米價ニ就キ陳述シタルハ米價ヲ以テ
實例トナシタルニ過キス吾人ノ意トスル所ハ此原則ヲ一般ノ必要ナル食料品
ニ適用シテ一ニハ社會ノ公安ヲ維持シ一ニハ人民ノ幸福ヲ保護セント欲シタ
ルニアリ

此處分方法タルヤ又一ノ補充處分方法トシテ豫メ備具セサル可カラサルモノア
リ其處分方法トハ何ソ他ナシ即チ穀物豐熟セル年ニ於テ豫メ穀物ノ幾分ヲ公倉
ニ具備シ而シテ收穫ノ充分ナラサル年ニ之カ補給ヲ爲スニアリ例ヘハ今年穀
物大ニ豐熟シ殆ント例年ノ四分ノ一ヲ増加シタルトセハ此四分ノ一ヲ公倉中
ニ蓄積シ以テ不時ノ災變若シシハ後日ノ不熟ニ備ヘシムルニアリ

然リト雖トモ今年豐熟セルチ以テ其穀物ノ幾分ヲ蓄積シテ其儘數歳ヲ經過ス
可カラス故ニ毎歲同量ヲ以テ先年蓄積シタル所ノ穀物ニ代ヘサル可カラス蓋
シ數歳ヲ倉庫中ニ經過スルトキハ如何ニ善長ナル穀物ト雖トモ或ハ虫ヲ生シ
或ハ甚シキニ至テハ腐敗スルニ至ルノ恐アレハナリ

以上ノ方法ヲ以テ穀物ヲ蓄積シ而シテ不時ノ災厄ニ備フルハ此レ實ニ必要欠ク可カラサルノ處分ト云ハサルヲ得ス何ントナレハ一朝風雨其度ヲ得ス爲メニ穀物不熟ナル時ニ當テ物價ノ騰貴ヲ見スシテ例年ノ如ク人民廉直ナル生活ヲ營ムヲ得ヘケレハナリ若シ夫レ之ニ反シテ此蓄積ナキトセハ人民ハ如何ナル慘境ニ陥ルヘキヤ吾人ノ豫想シ能ハサル所ナルヘシ其極愍然ニモ物價ノ騰貴セルカ爲メニ營生ノ道ヲ失シ口ヲ糊スルノ資ナク遂ニ道路ニ餓死セサルヲ得サルニ至ルヘシ滿天下若シ如此慘狀ヲ呈シタルトセハ其亡狀實ニ見ルニ忍ヒサルニ非スヤ故ニ當局者ハ此ニ三省シテ苟且ニス可カラサルナリ

去リトハ云ヘ如此慘境ハ一年ノ不熟ノミニテハ見サル所ナラン必ス二年連續シテ此不熟ヲ呈シタル後ニ非レハ斯ク迄ニハ至ラサルヘシ故ニ論者或ハ云ハシ如此二年間不熟ノ連續スルハ實ニ稀有ノ事ナリ然ラハ何シ此蓄積方法ヲ用ユルノ必要アラント吾人ハ此說ニ服スル能ハス何ントナレハ吾人ハ始ヨリ此處分法ハ不時ノ天災ノ爲メニ備ヘント欲シタレハナリ然ルニ不時ノ天災ナルモノハ平常アルヘキモノニ非スシテ實ニ稀有ノ事ナリ然ラハ何シ論者ノ如ク

稀有ナルノ故ヲ以テ此豫備方法ヲ廢スルノ必要アラン況ンヤ此豫備方法ヲ爲スガ爲メニ如何ナル手數ヲ要セサルニ於テチヤ今假リニ論者ニ數歩ヲ譲リテ非常ナル手續ヲ要スルトスルモ此非常ナル手續ハ實ニ人民ヲシテ非常ナル利益ヲ感セシムルモノナリ其故何シヤ實ニ論者ノ言ノ如ク二年間不熟ノ連續スル如キハ甚タ稀有ノ事ニシテ平常見サル事ナリトハ云ヘ是レ即チ天災ナリ人民ヲシテ糊口ノ道ヲ失セシメ道路ニ餓死セサルニ至ラシムルモノナリ果シテ然ラハ非常ナル努力ト費用トヲ有スルニモセヨ貴重ナル人民ノ生命ヲ買ハサル可カラス是レ實ニ人情ノ然ラシムル處ナラスヤ

夫レ此ノ方法タルヤ異常ノ場合ニ備フルモノナリ故ニ之ヲ行フニ異常ノ場合ニ生スルモノナリ之ヲ以テ假リニモ此思想ヲ推延シテ國家ハ總テ國ノ生存ヲ維持スルカ爲メニ食品上ニ保護的ノ處分ヲ行フコトヲ得ルノ權利アリト想像スヘカヲサルナリ唯國家カ有スルノ權利ハ即チ食品中ノ最モ必要ナル物品ニ就キ有リト言ハサル可カラス此權利タルヤ實ニ間然ス可キモノニ非ス一步ヲ進メテ之ヲ論スレバ國家ハ必要ナル食品ニ就テハ保護的ノ處分ヲ行フノ權利

アルト同時ニ又義務アルモノナリ
 以上ニ開陳シタル所ハ實ニ物價ヲ永久ニ廉價ナラシムル方法手段ヲ爲スモノ
 ナリ抑モ物價ノ廉價ナルハ實ニ人生ニ望マサルヲ得サルコトニシテ國家ノ興
 廢存亡ニ關スルト云フモ可ナリ蓋シ物價廉ナル時ハ從テ勞働者ノ賃銀甚タ廉
 ナルヘシ之ニ反シテ物價騰貴ナルトキハ賃銀之ト俱ニ騰貴スルハ必然ノ理ナ
 リ唯夫レ物價ノ廉ナルハ勞働者ノ賃銀ヲ廉ナラシムル所以ナリトセハ勞働者
 ノ賃銀ヲ廉ナラシムルハ又工業的ノ生産物ヲシテ廉ナラシムルノ所以ナリト
 云ツヘシ

(第廿五回)

前文ニ於テ賃銀ノ廉ナルハ實ニ工業的ノ生産物ヲ廉ナラシムルノ所以ナルコ
 トヲ述ヘタリ然ルニ工業的ノ生産物ハ人民社會ニ最モ必要ニシテ又最モ蔓延
 セルモノナリ既ニ工業的ノ生産物ニシテ社會ニ最モ必要ニシテ蔓延セルモノ
 トセハ之ヲ獎勵スルノ必要最モ大ナリ然ルニ之ヲ獎勵スルノ方法ハ勞働者ノ
 賃銀ヲ廉ナラシムルニ在リ而シテ勞働者ノ賃銀ヲ廉ナラシムルノ方法ハ物價

ヲ廉ナラシムルニ在リトセハ物價ヲ廉ナラシムルノ効用又大ナラスヤ
 之ヲ要スルニ物價ノ廉ナルハ實ニ國ヲシテ安全幸福ナル好地位ニ安セシムル
 ノ方法ナリ
 以上ハ第二種ノ産業ニ就キ論述シタルモノナリ今ヤ其大略ヲ陳述シ終リタル
 ヲ以テ論鋒ヲ轉シテ第三種ノ産業ニ就キ討論考究スル所アラントス
 第三種ノ産業ハ之ヲ前陳二種ノ産業ノ如ク製限ヲ加フルノ必要アリ然リト雖
 トモ其制限ノ必要アル點ニ至テハ又前陳二種ト其趣キヲ異ニセリ然フハ之ヲ
 制限羈束スルノ必要ハ何レノ點ニアルヤ他ナシ社會ノ信用ヲ維持スルニ在リ
 或ル數多ノ生産物ハ其價格ヲ分別スルコト大ニ困難ナルモノアリ彼ノ珊瑚ノ
 如ク彼ノ水品ノ如キ其價格ハ一見シテ之ヲ知ル可カラス必スヤ種々ノ試験ヲ
 經タル後ナルカ或ハ鑑定者ノ手ヲ經サル可カラス故ニ人目ヲ眩スモノアリテ
 一圓ノ價植アル物品ヲ十圓ノ價値アリトシテ販賣スルトキハ通常ノ人ハ之ニ
 欺カレ之ヲ買フニ至ルヘシ如此此種ノ物品ハ之ヲ識別スルニ容易ナラサルヲ
 以テ當局者ハ此種ノ物品ノ産業ニ就キ大ニ制限ヲ加ヘスンハアラス若シ此制

限ヲ加フルニ於テハ如何ナル惡人ト雖トモ人目ヲ眩シテ不法ノ利益ヲ射ルコト能ハサルヘキナリ
 果シテ然ラハ國家ハ此ニ干涉シテ其物品ヲ製作スル爲メニ要スル法則ヲ定メ以テ社會ノ信用ヲ維持セサル可カラズ
 是レヨリ吾人ハ少シク童子及ヒ婦女子ノ勞働ニ就キ開陳セン
 抑モ童子及ヒ婦女子ノ勞働ハ之ヲ制限スルノ必要アリヤ否ヤ即チ言ヲ換ヘテ之ヲ言ヘハ此二者ノ勞働ニ就キテ政府ハ干涉主義ヲ取ルノ必要アリヤ否ヤ此問題ニ就キテハ學者間種々ノ議論アリテ各說其軌ヲ同フスルコトアラサルナリ蓋シ此問題ハ理財上緊要ナル問題ニシテ輕ロシク論シ去ル可カラサルモノナリトス故ニ吾人ハ其蓋奧ヲ窮ムルコト能ハサルトハイヘ其大略ニ至リテハ左ニ講究セント欲ス
 此問題ニ就キテハ學者間議論一定セサルコトハ前陳ノ如シト雖トモ之ヲ大別スルトキハ二種ト爲スコトヲ得ルナリ第一說ハ干涉主義ニシテ第二說ハ無干涉主義ナリ而シテ第一說ハ其字ノ言フカ如ク干涉シテ幾何ノ束縛ヲ加ヘ以テ

之ヨリ生セントスル所ノ弊害ヲ防止セントスルニアリ第二說ハ前說ニ反シテ毫モ之ニ制限ヲ加フルコトナク所謂爲スモノハ爲ス可シ爲ササルモノハ爲ササルヘシト云フ放任主義ヲ主張スルニ在リ
 吾人ハ前文ニ列叙シタル所ノ各主義ニ就キ是非得失ノアル所ヲ探究シテ是ナリト思ハ、贊成セン非ナリト思ハ、駁撃セン諸君請フ之ヲ諒セヨ
 第一無干涉主義論者ノ說ク所ヲ聞クニ曰ク論者或ハ童子及ヒ婦女子ハ柔軟無識ニシテ勞働ニ堪ユルノ力ナシ故ニ之ヲシテ勞働社會ニ入ラシムルモ社會ヲ利スルヨリハ寧ロ弊害ヲ與フルコト大ナリト云フヘシ果シテ然ラハ其之ヲ獎勵スルノ利益ハ之ヲ束縛スルノ弊害ニ一步ヲ讓ルモノト言ハサルヲ得スト是レ反對論者カ金城鐵壁トシテ主張スル所ノ說ナリト然リト雖トモ吾輩ナリテ之ヲ見レハ婦女子ト雖トモ又童子ト異ナルコトナク同シク勞働社會ニ必要ナルモノナリ當ニ勞働社會ノミナラス社會一般ニ必要欠ク可カラサルモノト云フモ亦タ可ナリ其故何シヤ曰ク他ナシ此二者ノ勞働ハ以テ家族ノ生計ヲ維持セシムルノ方法トナルモノナレハナリ若シ此二者ニシテ勞働セサル時ハ爲

メニ家族ヲシテ營生ノ道ヲ生セシメサルニ至ル可ケレハナリ然ルニ家族ハ即チ社會ノ分子ニシテ社會ハ家族ナル分子ノ集合一致セルモノヨリナレルモノナリトセハ家族ノ存亡ハ社會一般ノ存亡ニ關スルト云フコトヲ得可キニ非スヤ又一歩ヲ譲リテ家族ノ存亡ハ社會一般ノ存亡ニ關セサルモノトスルモ兒童及ヒ婦女子ノ勞働ハ實ニ生産ヲ廉ナラシムルモノナリ何ントナレハ彼等ノ勞働ハ其賃銀甚々廉コシテ男子ノ勞働ノ比ニ非レハナリ

第二干涉主義論者ノ説ク所ヲ聞クニ曰ク夫レ童兒ノ勞働タルヤ此ヲ制限スルノ必要アリ其理由如何ントナレハ童兒カ青年ニ達スル迄ハ實ニ才智ノ發達最モ盛ナル年ニシテ人生ニ最モ貴重ナル時期ナリ然ルニ此貴重ナル時期ヲ勞働場裡ニ經過スルハ甚々惜ム可キノ至リニ非スヤ之カ爲メニ一生ヲ誤リ勞働社會ニ齟齬トセサルヲ得サルニ至ラシムルハ社會ノ爲メ後來望ミアル童子ノ爲メニ哀ム可キニ非スヤ蓋シ童子ハ恰モ氷ノ如ク自由自在ナルモノナリ故ニ其身體ヲシテ勞働的ノ運動ヲ試マシムレハ遂ニ其精神ノ發達ヲ妨クルニ至リ然ニモ將來チ暗黒界ニ投セサルヲ得サルヘキヤ必セリ

吾人ハ之ヨリ一步ヲ進メテ前二説ノ可否得失ヲ論究セント欲ス然レトモ吾輩ヲ以テ之ヲ見レハ干涉論者ニ左袒スルノ大益アルヲ信スルナリ其理由左ニ之ヲ開陳セン

第一理由 童兒ニ兒童ヲシテ勞働ニ從事セシメ緊要ナル歲月ヲ筋力社會ニ經過セシムルハ兒童ノ爲メ又國家ノ爲メ大害アリト云フヘシ何ントナレハ精神ヲ勞働ニ用ユルトキハ其自然ノ結果トシテ智識的ノ作用ヲ中止スルニ至ル可ケレハナリ

第二理由 若シ夫レ兒童ヲシテ勞働ニ從事セシムルトキハ唯ニ其智識的ノ運動ヲ中止スルノミナラス抑モ又進取ノ氣力ヲ失墜セシムルノ恐アリ蓋シ幼時ハ其氣力甚々盛ニシテ其勢盛火ノ如ク遠ク老年輩ノ及ハサル所ナリ故ニ之カ進歩ノ運動ヲ中止セサルトキハ益々發達スヘキモ若シ之ヲ中止スルニ當テハ忽チ其發達ヲ害スルニ至ルヘシ

第三理由 此理由ハ前陳二個理由ニ比スレハ稍ヤ其勢ヒ大ナルモノナリ其理由トハ他ニ非ス兒童ノ勞働ハ丁年者ノ筋力ヲ無益ヲラシムルニ在リ即チ之ヲ

再言セハ丁年者ヲシテ其筋力ヲ使フノ道ヲ失セシメ營生ノ方法ヲ失ハシムルニ在リ其故如何ントナレハ數多ノ童兒筋力社會ヲ彷徨スルトキハ從テ丁年者ノ勞働ノ必要ヲ減セシムルハ此自然ノ道理ナレハナリ例ヘハ數人ノ童兒一人ノ丁年者ノ勞働ヲ代表スルトヒハ數百千人ノ童兒ハ遂ニ數百千人ノ丁年者ヲ代表スルコトヲ得ヘキナリ故ニ兒童ノ數甚タ多キニ從テ丁年者ノ勞働ヲ減スルノ恐アルト云フヘシ

以上ハ此レ童兒ノ勞働ニ關スル意見ナリ此レヨリ女子ノ勞働ニ就キ觀察セン吾人ノ信スル所ニ依レハ女子ノ勞働モ又兒童ノ勞働ノ如ク社會ニ有害無益ノモノナリ今之ヲ簡單ニ陳述セハ第一婦女子ノ勞働ハ家庭教育及ヒ家内ノ整理ヲ怠ラシムルナリ第二丁年者ノ勞働ヲ減スルナリ第一ノ理由ハ第二ノ理由ト相懸連スルモノニシテ敢テ之ヲ區別スルノ必要ヲ見ス又之ヲ説明スルノ必要ヲ感セサルヘシ

譯者曰ク反譯ノ主トスル所ハ原文ノ意味ニ逆ハサルニアリ反譯ノ要トスル所ハ其文字ニ絆セラレサルニアリト眞正ノ反譯豈ニ難カラヌヤ余カ如

キ淺學無識ノ若年輩叩リニ筆ヲ執リテ本學科ヲ反譯ス安ンツ芋ノ譯述ナキヲ保ス可ケンヤ看客幸ニ恕セヨ

本校佛語法律科生徒 木村誠次郎君 翻譯筆記

(第二十六回)

第五章

第一項 奢侈

奢侈ノ問題ハ理財學上ニ於テ多年學者ノ激ケシク議論セザルモノナリ然レトモ今日ニ至リテハ其攻難敢テ重要ナラス且ツ學者間ニモ稍ヤ一致ノ傾向ヲ來セルニ似タリ

此問題ノ主眼トスル所ハ凡ソ奢侈の物件ヲ生産シ消費スルコトハ一國民ノ一般ノ經濟ノ爲ニ吉事ナルモノカ將タ兎事ナルモノナルカヲ究ムルニアリナリ抑モ奢侈の物件トハ何ソヤ奢侈の物件トハ吾人カ是非必要トスルニ非サル物ト謂フ詳言スレハ吾人カ一ハ需用ヲ感スルニ當リ之ヲ満足ス可キ物ヲ得取シ

而シテ、後チ此需用ヲ避ケ、此物ヲ去ラントスルモ、寔モ吾人ノ身體健康ヲ害フコトナク、容易ニ之ヲ爲シ得ル時ハ、此物ハ設令ヒ如何ナル種類ニ屬スル物ト雖トモ皆チ奢侈的物件ト謂フ可キナリ

此ノ如ク定義ヲ下ストキハ奢侈的ト稱スル物ノ區域ノ茫々漠々タルコト亦タ明クシ世上所謂本來ノ産業ハ大概チ此階級ニ屬スヘキ物件ノ製作ニ從事スルモノナリ然レトモ如何ナル物件カ奢侈的ト稱ス可キカ之カ列舉ハ少シクモ爲サル可シ何トナレハ所謂必要の物件ト雖トモ其使用ノ爲ニ非スシテ只其本質ノ多少優勝ナルカ爲メ又ハ其結構ノ多少巧妙ナルカ爲メ亦タ奢侈的物件トナルモノナレハナリ

世運隆盛ノ域ニ進ムニ從ヒ奢侈的物件モ亦其増加ノ度ヲ尙フルコトハ容易ニ之ヲ識知スルヲ得ヘシ此點ニ付テハ敢テ熟考ヲ要セサルモノナリ一國ノ開化愈ヨ進歩スレハ奢侈的物件モ亦タ益々増加ス何シヤ全時ニ其需用ナルモノ擴張スレハナリ故ニ今日吾人カ必要ト見做ス所ノ物件モ數百年前ノ昔時ニ在リテハ時トシテハ非常ニ奢侈的トシテ見做サレタルナリ

例ハ醵言ノ如キ物ハ今日至ル處トシテ之ヲ着用セサル者ナシト雖トモ或ル階代ニ在リテハ純然タル奢侈的物件ナリシナリ又臘燭ヲ以テ脂燭ニ代エ瓦斯ヲ以テ石炭油ニ代ヘ電氣ヲ以テ瓦斯ニ代エ以テ點燈ニ關シテ親シク起リタルハ進歩ハ今日ニ於テハ實ニ至要ナル改良ナレトモ此改良モ必スヤ其初メニ於テハ等シク奢侈的トセラレタルナリ故ニ一物件ニ付テ言ハントスレハ此物件カ一般ニ社會ニ使用セラレシカモ社會生活ノ必要中ニ入ルトキハ正ニ其奢侈的物件ノ性質ヲ失フタルモノナリ

是ニ由テ之ヲ觀レハ奢侈ノ範圍ハ本然其居チ變スルモノニシテ其境界ハ廣且大ナリト雖トモ然レトモ常ニ移動シテ已ムコトナキモノナリ夫レ然リ然ラハ吾人ハ如何ナル方便ヲ費スモ如何ナル理論ヲ播スルモ奢侈ノ發達チ十分ニ停止スル能ハサルコト猶ホ人類ノ隆運ヲ絕對的ニ障礙スルコト能ハサルト全一事ナルハ疑ウ可ラサル事實ナリト信スルナリ故ニ奢侈ニ關スル問題ニハ只タ關係的問題アルノミニシテ其定解モ亦絕對的チ以テ爲ス能ハサルモノナリ

吾人ハ之ヨリ此問題ニ就テ聊カ考フル所ヲ述ヘント欲スルナリ此問題ニ關シ

テ二個ノ主義アリ
 第一ノ主義ニ曰ハク一國ノ利益ノ爲ニハ奢侈的物件ノ生産及ヒ消費ハ成ル可ク其勢力少カラシコトヲ緊要トス換言スレハ是等ノ物件ヲハ成ル可ク少シク生産シ又消費ス可シト即チ一國人民カ最も必要ナル事物ニ就テ其力ヲ竭スハ實ニ喜悅ニ堪エサル事ト謂フ可シ彼奢侈的物件ノ生産ニ供給スル資本ナルモノハ之即チ必要的物件ノ生産ヨリ剝取シタル資本ナリ然ルニ必要的物件ノ價格(原語ニテアブリ、ド、レ、グ、ア、ン、ト、云、フ、即、チ、製、作、物、カ、價、値、ス、ル、所、リ、)ノ低減ハ實ニ一國ノ經濟上至大ノ影響ヲ及ホスモノナルモ此資本ナキカ爲メ遂ニ遮蔽セララルニ至ル而シテ此資本タル一時沃饒ナル富財ノ原トナル可シト雖トモ其原本真ニ脆弱ナルモノナリ
 今社會上或ル特別ナル位置ニ立テ之カ觀察ヲ下ストキハ此主義ノ眞且ツ正ナルコトハ決シテ輕易視ス可キニ非ス然レトモ今日ノ事物一般ノ情態ヨリ論スルトキハ此主義ハ今日社會ニ發出セル許多ノ現象ニ付テ明案ヲ抱カサルモノト謂ハサルヲ得サルナリ吾人ハ信ス奢侈的物件ノ生産ト消費トハ概シテ至微

○事實ナリト又信ス今日社會人心ノ傾向ハ此種類ノ産業ノ絶ニス發揚セシコトヲ渴望スルニアリト
 實ニ吾人ハ奢侈的物件ノ生産及ヒ消費ノ中ニ於テ貴重ナル救済ノ方法ヲ發見セリ此方法トハ他ニ非ス即チ人類幸福伸張ノ基ヒタル資本融通ノ補助及ヒ一國人民最多數ノ生活狀況ノ改良ヲ圖ル爲ニ最も善ク用ラレ且ツ最も有効ナル方法ハ一チ云フナリ
 吾人ハ資本融通ノ必要ニ付テ一言セサル可ラス吾人ハ苟モ社會現時ノ情態ヲ改良セントスル者アラハ須ラク先此融通ヲ容易ナラシム可キ方法ヲ發見セザル可ラサルコトヲ示サン
 何シヤ若シ此融通ナルモノ無カラシカ一國ノ活動力ハ忽チ挫折ス可ケレハナリ然リ而シテ吾人幸ニ此ノ如キ好結果ヲ生ス可キ方法ノ一ヲ發見セシヲ以テ茲ニ暫ラク説ク所アル可シ
 第一今日必要的物件ノ生産ハ至ク人間ノ消費ノ需用ニ相ヒ應セルコトハ斷シテ疑フ可ラサル事實ナリ然ルニ世間往々己レニ必要ナル物ヲ得ル能ハサル者

ヲリ又已ニ缺ク可ラサル食麵ヲ食スルヲ得サル者アリ今其原因ヲ探スルニ是
 レ全ク生産ノ足ラサルカ爲ニ非ス即チ財貨ノ缺乏セルカ故ナリ何人モ食麵生
 ニ來リテ食麵ヲ求ムルヲ得ヘシ然ルニ之ヲ得ルコト能ハサル所以ノモノハ全
 ク之ヲ購フノ財貨ナキヲ以テナリ
 以上述ヘ來リタル所ノ真理ハ本問ヲ決スルニ當リ基礎トナス可キ原則ナリ故
 ニ本問ヲ決セトモハ必ス此原則ヲ遺失スルコト勿レ何トナレハ一反此原則
 ナ採用スルトキハ若シ奢侈的産業ノ存在アルニ由リ必要的物件ハ生産十分ナ
 ラサランカ奢侈的産業ハ斷然必要的産業ニ一步ヲ讓ラサル可ラサレハナリ
 然ルニ今日ノ情態ハ決シテ然ルニ非ス乃チ複言スラク奢侈的ニ非ル物件ノ生
 産ハ人間ノ需用ノ爲ニ足りテ尙ホ餘リアリト是レ夫レ斯ノ如シ故ニ曰ハク奢
 侈的産業ノ存在ハ資本融通ヲ補助スル偉功ヲ奏ス可キモノナリ其證據ハ現ニ
 吾人カ目撃スル事實ヨリ生スルナリ今日日本ヲ以テ例トナス可シ此國ニ於テハ
 非常ナル廉價ヲ以テ生活ヲ遂クルコトヲ得ヘシ故ニ如何ナル地位ニ在ルノ人
 ト雖トモ敢テ無用ノ濫費ヲ爲スコトナクシテ八十圓ノ金額ヲ以テ一月間安穩

ニ生活スルヲ得ン即チ之ヲ以テ必要ナル衣食住ヲ求ムルニ足ル故ニ今此場合
 ニ於テ奢侈的産業ノ存在スルコトナクシテハ最モ富裕ナル資本家ハ其費用ハ每
 月十圓ニ止マル可シ此ノ如クナルトキハ吾人ノ眼中ハ只彼ノ資本ノ倍ス増加
 シ彼ノ費用ノ依然タルヲ見ルノミ此ノ如ク資本増額ヨリ生スル直接ノ結果ハ
 前キニ融通ヲ助ケタル實力ヲ奪取シテ再ヒ之ヲ放タス加之僅少ノ金ヲ以テ世
 ヲ渡ル者一旦之ヲ放ツトキハ再ヒ之ヲ得取スルノ望ミナキニ至ル可シ夫レ此
 ハ如クハ吾人ハ知ラス識ラズ一國ニ至要ナル財貨ヲ融通セシム可キ泉路ヲ乾
 涸セシムルハ慘狀ヲ見ルニ至ラン
 夫レ奢侈的産業ナルモノ存セストスレハ其依テ生スル所ノ弊害斯ノ如ク大ナ
 リ若シ此産業ヲシテ存セシメハ前ニ述フル所ノ資本家ハ十圓ノ金額ヲ以テ其
 生計ヲ營ムノ他尙ホ五十圓乃至二百圓ノ多額ヲ費シ是レカ爲メニ前者場合ヨ
 リ更ニ五倍乃至二十倍ノ金額ヲ以テ其融通ヲ易カラシムルヲ見ル可シ然リ而
 シテ該資本家カ其生活ノ他ニ使用スル所ノ金額例ハ美服ヲ求ンカ爲メ三百圓
 ナ費シ高閣ヲ築カンカ爲メ一萬圓ヲ擲チ加之各種ノ娛樂ヲ感センカ爲メニ費

所ノモノハ何處ニ行カントスルカ是等ノ金額ハ皆テ勞業者ノ手中ニ止マル
 可シ即チ勞業者ハ一月間生活ノ資金ヲ求ムルヲ得ヘシ
 若シ夫レ然ラスシテ是等奢侈的ノ物件ハ總テ存在セストナサンカ富豪ナル者
 ノ爲ス所ノ費用ハ其有スル所ノ財産ニ相應セサル可ク從テ富ノ流通ニ至リテ
 モ亦タ必要ナル資力ヲ失ウ可キコトハ決シテ疑フ可ラサル事實ナリト謂ヒ
 得可シ
 奢侈的製産ニ對シテ攻撃ヲ目的トスル議論ニ曰ハク奢侈的製産カ附與スル所
 ノ満足ナルモノハ之道德ノ條規ニ違背スルモノナリト此攻撃ノ不正不當ナル
 コトハ先ツ吾人ハ理財學ノ常ニ達セントスル目的ハ即チ最多數ノ人間ノ有益
 ト娛樂ナルコトヲ深ク腦裏ニ存スルニ於テハ直チニ明瞭ナル可シ因テ此議論
 ニ就テハ吾人ハ著シキ意義ヲ附與センコトヲ欲セサルナリ
 吾人ハ奢侈的產業ヲ妨害セサルノミナラス益ス其擴張ノ必須ナルコトヲ信ス
 ルモノナリ何ンヤ此種ノ生産カ其社會全體ニ爲ス所ノ勤勞ハ實ニ最高等ノモ
 ノナレハナリ且ツ吾人ハ今日著シキ進步ノ産業上ニ行ハレタル諸種ノ器械

ノ使用起リタルヲ明知スルヲ以テ彼必要ナル物件ノ生産ノ不足ナル恐レハ毫
 モナカルヘシ
 然リト雖トモ之ヲ理論上ヨリ言ヘハ一國ニ於テ社會當時ノ狀勢カ許ス所ノ凡
 テノ利益ヲ消費者ニ附與センカ爲メ第一ニ勢力ヲ有シテ發達セサル可ラサ
 ル者ハ必要の物件ヲ出ス所ノ産業ナルコトヲ認ムルハ敢テ不可ナキナリ然シ
 乍ラ此場合ニ於テモ尙ホ事物ノ勢カ斯クアラシムト謂フヲ得ヘシ何トナレハ
 生産ナル者ハ本然欠ク可ラサル需用カ未タ欠ク可ラサル程度ニ達セサルニ已
 ニ之ヲ満足セシメントスルハ之自然ノ法則ノ徳ナルコトヲ確認シ得可ケレハ
 ナリ
 之ヲ要スルニ奢侈ノ問題ハ今日ニ於テハ既ニ著シク緊要ナルモノニ非スト謂
 フ可シ何トナレハ該問題ニ與フル決定ト諸種ノ産業カ取り得ヘキ方向トヨリ
 生スル結果ハ已ニ實際ニ於テ恐ル可キニ非レハナリ

第二項 人口

吾人ハ今ヨリ一ノ問題ヲ研究セントス該問題ニ關シテハ學說上好シテ之ヲ困難ナラシメンコトヲ務メタルカ如シ古ヘヨリ該問題ニ就テハ最も激烈ナル議論紛々トシテ起リ今日ニ至テモ尙ホ該問題ハ一般ニ吾人カ不精確ト認ムル處ノ意味ヲ以テ決定セラレタリト謂フモ可ナラン今之ヲ論スルニ當リテ吾人ハ先ツ世人カ之ニ附加シタル難問ハ總テ之ヲ剛除ス可シ吾人ハ極メテ沈博ナル且ツ極メテ簡單ナル點ニ於テ事物ヲ指摘ス可シ而シテ吾人ハ能ク事實ニ符合スト見ユル所ノ決定ヲ以テ本問題ニ與ヘントス

第一 人口カ較著ナル比例ヲ以テ増加スルハ一國ノ爲ニ是ナルカ將タ之ニ之ヲ要スルニ問題全部ハ左ノ如ク畧言スルヲ得ヘシ

第二 一國ノ人口カ増減ナクシテ唯中止ノ有様ニ存スルハ其國ノ爲ニハ衰弱ノ原因ナル可キカ

之ニ關シテ自然ニ二個ノ主義存セリ吾人ハ之ヨリ其二個ノ主義ヲ研究セントス第一ノ主義ハ人口ハ増加ハ有益ナルノミナラス實ニ必須ナルモノナルヲ主張シ第二ノ主義ハ人口ハ増加ハ決シテ必要ナラズト主張スルモノナリ

本問ハ理
論ニ屬ス

第一主義

張シ第二ノ主義ハ人口ハ増加ハ決シテ必要ナラズト主張スルモノナリ
最初ニ一言ス可キコトアリ即チ若シ深ク事物ノ狀態ヲ觀察スルトキニ當リテ
ハ本問題ハ一般ニ實際上大ナル利益ヲ現ハサルニ似タルコト之ナリ何ソヤ
世界ノ存在スルコト實ニ久シ其間人口ハ若干ノ人カ主張スル所ノ規則ヲ以テ
増加スルトセハ地球ハ遂ニ其住民ヲ容ル、處ナキニ至ル可キハ必然ナリ何ト
ナレハ若シ實際ノ有様カ世人ノ主張スル凡テノ確定ニ反對セサルニ於テハ地
球ノ人口ハ數千百億萬ニ達ス可キコトハ數理上簡單ナル計算ヲ以テ容易ニ知
ルチ得可ケレハナリ故ニ人口ノ問題ニ就テ主張セラレタル二個ノ主義ハ之ヲ
理論上ヨリ觀察ス可シ

第一主義 人口ノ増加ハ一國ノ繁榮ニハ有益且ツ必要ナルモノナリト該主義
ヲ維持スル爲メニ唱道セラル、所ノ論據ヲハ之ヲ簡單ニナシ以テ左ノ如ク二
個ノ要略ス可シ

第一論據 一國第一ノ必用ハ其獨立ヲ保存スルニアリ即チ其獨立ハ自ラ其繁
榮ノ基礎トナルモノナリ然ルニ一國カ尤モ有効ニ防衛スルヲ得ルハ軍隊ニア

(理 財 學)



然ルニ軍隊ハ其多數ナルニ隨テ倍ス強盛ナルモノナリ故ニ恐ル可キ軍隊ヲ
 有スルニハ著シキ人口ヲ有セサル可ラス
 第二論據ニ人口増加ノ吉事ナルハ獨リ國土防衛ノ點ニ關シテ存スルノミナラ
 ス又其國ノ經濟的繁榮ニ於テモ亦然リト謂ハサル可ラス實ニ吾人ハ今日世界
 中ノ國民カ互ニ經濟的競争ニ趨ルヲ觀ル而シテ是等ノ國民ハ皆テ自己ノ生産
 物ヲ他國ノ市場ニ輸入セシムコトヲ欲セサルハナシ然ルニ自己ノ生産物ヲ極メ
 テ廉値ニ供給スル國民ハ必ス優勝第一ノ地位ヲ占ム可シ然ルニ極メテ廉値ニ
 生産スルニ至ル方法ノ一ハ生産者カ外國ノ競争者ヨリ極メテ廉値ニ努力ヲ求
 ムルコトヲ得ルニアリ然ルニ人口カ著シキ國ニ於テハ頗ル努力ニ富メリ努力
 ノ富メルコトハ一般ニ兎事ニ非ス故ニ一國ニ於テ其人口夥多ナルトキハ他
 國ニ於ケルヨリ極メテ廉値ニ生産スルヲ得可キコト斯ノ如シ
 之ヲ要スルニ以上二個ノ論據ハ第一主義ヲ維持スル爲ニ唱道セラル、モノナ
 リ吾人ハ第二ノ主義ヲ説明スルト同時ニ右ノ論據ヲ排撃セントス
 第二主義 一般ニ人口ノ増加ハ決シテ必要ナルモノニ非ス何トナレハ荷モ一

第二主義

國ノ繁榮ヲ來タサントセンニハ此規則ニ例外アリ得可キコト明瞭ナレハナリ
 否ナ真ニ之有レハナリ夫レ一國人口ノ増殖ハ敢テ必要ナラサル而已ナラス却
 テ甚クシク不幸ナルモノナリ前主義ノ基礎トシテ唱道スル所ノ第一ノ立論ハ
 毫末ノ價値ヲモ有セサルモノナリ何ソヤヨシ國タルモノハ主トシテ其獨立ノ
 必要アルニモセヨ戰爭ヲ以テ其封疆ヲ鞏固ナラシムル爲メ敢テ人數ノ夥多ナ
 ルヲ緊切トセサルコトハ日ニ益ス其争ヲ可ラサルヲ知ルニ由テナリ見ヨ彼ノ
 軍器ニハ諸般ノ發明アリ又軍隊ノ指揮ニ就テハ種々ノ改良ヲ加ヘタルヲ然リ
 而シテ是等ノ發明改良ハ尙ホ未ダ萌芽ノ態ニ過キサルモノナリ故ニ將來ニ向
 テ吾人カ固ク取テ確實トスル所ノモノハ小數人民ノ奮起勇進ハ能ク十倍若シ
 クハ廿倍較著ナル多數人民ノ有形上ノ力ニ顔頑スルヲ得可キコト之ナリ人々
 少シク思慮スレハ以テ將來尙ホ行ハル可キ進歩ハ如何ナルヘキモノナルガ之
 チ豫知スルニ難カラサルヘシ而シテ最モ架空ノ觀念ハ實地ノ局外ニ跡ヲ留ム
 可キコトハ敢テ茲ニ斷言スル能ハスト雖トモ又之ヲ畧ホ信ナリトスルヲ得可
 シ又一方ヨリ言ヘハ是レヨリ後テ吾人ハ愈戰爭ノ減少スルヲ見シ而シテ又既

(理財學)

ニ爲シタル發明將サニ行ハレントスル發見ハ獸爭ヲシテ恐ル可キ殺戮ノ具ヲ
ラシムルコト彼ノ是非ヲ劍戟ニ訴ヘントスルノ人民ヲシテ一見以テ慄焉タラ
シメ再ヒ其念ヲ生セサラシムルニ至ル可キヲ臆推スルヲ得ン其如キヲ以テ
戰術ノ進歩ハ或ハ其消滅ノ原因トナルナランカト云フノ觀念ハ今日ニアリテ
ハ決シテ目スルニ異端ヲ以テス可ラサルナリ眞ニ吾人ハ全ク劍花彈雨ノ慘狀
ヲ來タス能ハスト云フノ時期ニ遭遇スルハ則未ダシト雖トモ亦テ違キニ非ル
ナリ

右立論ハ實ニ至要緊切ナルモノナリ而シテ社會ノ情勢ハ日ニ益ス如斯ナラン
之ヨリ第二ノ立論ニ移テ説カン

經濟上一國ノ人口カ絶エス播殖スルハ眞ニ其國ノ利益ト謂フ可キカ夫レ人口
ノ多額遙カニ必要ノ度ヲ超過スルノ國ハ其生産物ノ價格ノ貳ニ於テ結構ナル
位置ヲ占ム可キハ決シテ爭フ可ラサルナリ勞力饒多需用外ニ溢ルハノ國ニア
リテハ其缺乏實ニ甚クキ國ニ比セハ之ヲ廉價ニ使用シ得ヘキコト固ヨリ其
所ナリト謂フ可シ然リト雖トモ理財學ノ目的トスル所ハ勞力ヲ犧牲ニ供シ萬

人口増加
ハ却テ害
アリ

已ム可ラサル物ノミチ勞力者ニ給シ以テ極メテ生産ノ費用ヲ節減スルニ有ル
カ抑モ又雇者被雇者ノ利益ヲ均一ナラシムルニ存スルカ苟モ理財學カ真正ノ
途ヲ履マンニハ必ス第二ノ目的ヲ以テ其指針ト爲サル可ラス豈ニ獨リ生産
者ニノミ注目ス可ケンヤ本問題ヲ決定スルニ當テ須ク先ツ輕易視ス可ラサ
ル原則一アリ此原則タル今日ニアリテハ全ク議論ナキモノト謂フ可シ即チ産
業上ニ行ハレタル許多ノ進歩發明ト共ニ現時ノ勞力ハ十分生産ノ凡テノ需用
ニ應スルヲ得ルト云フコトナリ而シテ彼勞動時間制限ノ請求ニ成レル告文ハ
之力役者社會カ傲然トシテ草シタル所ノモノニシテ其主眼トスル所ハ最多數
ノ社會カ其得タル賃銀ヲ以テ自己ノ生活ニ必用ナル實物ヲ購求スルヲ得ンカ
爲メニ其勞力ノ使用ヲ求メシムルニアリ之ニ由テ之ヲ觀レハ人口増加ヨリ生
スル結果ハ果シテ如何ナルヘキカ必スヤ作業ナキ人益多クナルニ至ラン從テ
一般ノ困難ヲ大ニシ且ツ吾人カ親シク管メサル可ラサル經濟紊亂ノ危險ヲ
尙ホ激烈ナラシメン人々又外部ノ現象ノ爲ニ誤ラル、勿レ夫レ現今世界各國
人民間ノ競争ノ點ヨリ見レハ自己ノ生産物ヲ非常ニ低價格ヲ以テ供給シ得ル

(理財學)

所ノ國民ハ最モ優美ノ位置ヲ占領スヘシト雖トモ然レトモ此利益タル全ク瞬
時ノモノナルヲ認メサル可ラス何トナレハ今日ハ一國ニ固有ナル産業ナルモ
殆ント無ク生産ハ益々普及ノ勢アレハナリ故ニ將來ニ在テハ各國民カ其國
内ニ於テ製造セサル所ノ生産物ハ實ニ僅少ナラシテ而シテ從來甲國ニ生産物ヲ
輸入シタル乙國民カ其後チ甲國々産ト競争スルノ日ニ當テヤ自由ナル市場ハ
忽チ關稅ヲ以テ閉鎖セラレ爲ニ競争ハ全ク其勢ヲ失フニ至ル可シ
夫レ人口増加ハ其生スル所ノ國ニハ著シキ利益ヲ爲スモノニ非ルコトハ明カ
ナリト雖トモ亦幼童者チシテ他日社會ニ種々ノ職務ヲ行フテ得セシメンカ爲
メ苟モ人トシテ有シ得キ智能力量ハ悉ク之ヲ具ヘテ以テ壯年ニ區別セシム
ル爲ニ社會ハ爲シ得キ丈ケノ保護處分ハ悉ク之ヲ執行スルノ緊要ナルコト
ハ亦確實ナルモノナリ以上爲シ來リタル研究ニ於テ吾人ハ眞ニ一般廣潤ナル
點ニ立テ觀察シタルナリ故ニ又等閑ニ附ス可ラサル例外アリテ以テ原則ニ予
盾ヲ來タスアリ例ヘハ亞米利加ノ如キハ其封土ノ區域ニ比スレハ人口甚ダ不
足ナリ故ニ此種類ノ國ニアリテハ人口増加ノ善キ結果ヲ生ス可キハ固ヨリ其

所ナリ夫レ人口ノ問題ハ殊ニ理論的ノモノニシテ若シ實際的ヨリ之ヲ見レハ
吾人ハ法律ハ人口ノ増加チ急速ナラシムルコトモ又之ヲ遲緩ナラシムルコト
モ爲シ得可ラスト謂フニ躊躇セサルナリ之本論ノ初メニ已ニ述ヘタル所ナレ
トモ吾人ハ之ヲ茲ニ重複シタルナリ上來吾人カ述ヘタル原則ハ國々ノ風俗ニ
存スルモノナリ而シテ人々開化ノ進歩ト共ニ一私人ノ需用増加スルニ從ヒ人
口ノ増加ハ一般ニ遲緩ニ傾向スルヲ見ルヲ得ヘシ又至ル所最モ多數ナルモノ
ハ殆ント貧窮ノ家族ナルヲ知ル可シ是等ノ家族ニ於テハ敢テ童蒙ノ將來ノ幸
福ヲ慮カラス唯童幼タル者ハ力ヲ勞役ニ費ヤシ之ヲ以テ常ニ其位置ヲ安然ナ
ラシメントスルナリ富裕ナル家族ハ反之其童幼ノ將來チ其幸福其自ラ給スル
満足等ノ點ニ關シテ痛ク苦心セリ而シテ其生活ヲ愉快ナラシムル爲メ之ニ著
大ナル財産ノ額ヲ傳ヘンコトヲ冀望ス故ヲ以テ已ニ一人若シハ二人ノ子ヲ
有スルトキハ人皆十日ク既ニ足レリト何トナレハ數多ノ子ヲ有スル人ハ其資
産ヲ幾個ニ分割ス可ク隨テ各子ノ財産ヲ減殺スレハナリ
一國人口ノ増加ハ其國ニ至大ノ利益ヲ與フルモノナリト云フ説チシテ其勢力

ヲ完カカラシムル爲ニ學者ノ主張スル理論尙ホ數種アリ抑モ是等ノ理論タル
固ト特別ノ階級ニ屬ス可キモノナルヲ以テ吾人ハ特コ之ヲ玆ニ解説セントス
即チ其眼目トスル所ハ人口益々増加スル國ニアリテハ其國ノ勢威ハ政治上ノ
者タルト經濟上ノ者タルトチ問ハス能ク國外ニ擴張スルモノナルカチ論スル
ニアリ其論ニ曰ク初メ吾人カ容易ニ殖民ヲ爲シ移住ヲ爲スチ得タルハ皆ナ人
口増加ノ餘慶ニ出ルモノナリ而シテ遠ク海外ニ其國旗ヲ翻ヒシ其商品ヲ轉賣
シタル所ノ人民ハ其由テ來タル所チ尋スルニ皆ナ其人口カ絶ニス増加シタル
モノナリ移住トハ何ソヤ本國ニ於テ激烈ナル競争ノ爲メ到底財產ヲ収得スル
能ハサルカ故ニ外國ニ赴キ拮据電勉以テ之ヲ獲取セシカ爲メニ其國ヲ辭シ
去ル者ノ擧チ云フナリ故ニ若シ是等ノ人々ニシテ幸ヒニ其志望ヲ達スル時ハ
其所得シタル幾多ノ財產ハ其鄉國ヲ利スルコト常ニ最大ナリト謂フ可シ何ト
ナレハ彼等ハ後チ大概其餘命ヲ其鄉國ニ終ラシメト期スル者ナルヘケレハ
ナリ既ニ然ラハ彼等ノ資本ハ其本國ノ資本ヲ大ニシ隨テ國家富財ノ増加ニ幾
何ノ助力ヲ爲スモノト謂フ可シ然リト雖トモ此利益タル實際重要ナルモノニ

非ス此他尙ホ著シキ利益有テ存ス乞フ之ヲ左ニ指明セン
決然國チ去テ居テ外國ニ移サントスル所ノ者ハ必ス其本國ト無限ニ持續ス可
キ關係ヲ保有スルナル可シ即チ其營業所ノ事業ニ付テハ少クトモ其一部ハ之
ヲ本國トノ取引ニ由テ爲スナル可シ又其實ラントスル商品生産ニ供セントス
ル元物ハ常ニ之ヲ鄉國ニ住スル所ノ生産者ニ求ムルナル可シ而シテ是ニ由テ
新タニ商業上ノ活動ナルモノ生ス之レ實ニ移住者本國ノ爲ニハ至幸ナルモノ
ニシテ移住者ハ益ス卒先シ自ラ例ヲ示シテ以テ己レカ現住セル國ノ商人産業
家ヲシテ自國ノ生産者ト一大取引ニ着手セシムルニ至ラン
經濟上移住ヨリ生スル利益夫レ斯ノ如シ今眼ヲ政治上ニ轉スレハ事務ノ關係
二個ノ國民間ニ存在スルトキハ其間ニ親和ノ關係生スルコト亦甚々容易ナ
ルヘシ而シテ此關係タル等シク國民ニ利益ヲ與フル所ノモノナリ
此點ニ於テ人口増加ノ重キ利益アルヲハ敢テ疑フ可キニ非ス然リト雖モ吾人
熟ラ之ヲ考フルニ以上ノ論ハ之レ數十年前ノ昔ニ於テ其實力ヲ有スルモノト
謂フ可シ加之今日ニテ漸ヤク存在セル所ノ利益モ益ス其度ヲ減シ爾後幾何モ



ナクシテ遂ニ存スルコトナキニ至ル可シ移住者外國ニ於テ能ク其志望ヲ貫徹
スルノ幸運ニ逢遭スルハ世間往々見ル所ナリト雖トモ是レ皆十産業又ハ商業
ノ他ニ競争ナキカ如シ設令之アリト雖トモ實ニ僅少ナルモノヲ持テ來リテ以
テ茲ニ之ヲ營ムカ故ナリ然レテ吾人カ既ニ前ニ述ヘタル如ク今日ニ於テハ
商業産業ハ其種類ノ如何ナルモノタルヲ問ハス普テ四方ニ傳播シ加之移住
者自ラト雖トモ亦其現住セル國ノ人民ニ已レカ行ヒタル商業又ハ産業ヲ教授
スルヲ以テ其之ヲ行フ者ハ皆ナ若干ノ利潤ヲ贏シ以テ漸々普及ノ傾キヲ現ハ
セリ然ルニ原則トシテ經濟上甲國ト乙國トノ間ニ劣等ノ條件ナルモノ存セサ
ルヲ以テ自國ニ守住ノ人民ハ常ニ無限ノ利益ヲ享クルナラン何トナレハ移住
者ト本國人ト其位置均等ノ場合ニアリテハ苟モ其國人民ニ利益ヲ附與セント
欲スルハ之レ國粹ヲ然ラシムル所ナレハナリ

何トナレハ苟モ此舉ヲ企テントスル者ハ各國到ル處トシテ其本國ニ於テ受ケ
サル可ラサル競争ニ抗セザラントスルモ得可カラサレハナリ
人口増加是認論者又曰ク此他人口ノ増加ハ尙ホ植民ノ事ニ付テ甚タ利益アル
モノナリ而シテ此場合ニ於テハ植民ヲ爲ス國ノ爲メニ獨リ經濟上著大ナル利
福ヲ來タスノミナラス政治上非常ニ緊要ナル利益亦タ之ニ伴フモノニシテ即
チ之ヲ舉行スル國ハ莫大ノ勢力ヲ増加スルニ至ルヘシ植民トハ何ゾ幾多ノ人
民其本國チ去リ以テ其番國ニ屬スル外地ニ行キ茲ニ其居ヲ定ムルヲ謂フ故ニ
是等ノ人民ハ其身他境ニ流寓スルニ似タリト雖モ其實猶ホ其本國ノ疆域内ニ
在ルモノナリ之レ即チ植民ト移住ト相異ナル要點ナリ抑モ廣大ナル植民地ハ
一國々民ノ經濟上ノ繁榮ヲ來タス爲ニ最モ切要ナルモノナリ故ニ植民地ナシ
テ能ク此用ヲ竭サシメント欲セハ必ス先ツ國民中勇敢活潑ノ資ヲ具ヒ實務ニ
練達スルノ徒ヲ以テ之レカ住民ト爲サ、ル可ラス然リト雖モ其資性重キヲ托
スルニ足ルコト此ノ如キノ人々カ其現住スル所ノ國ニ於テ其功ヲ奏スル能ハ
サルヨリ遂ニ去リ肯テ其生國ノ植民地ニ移リ以テ其懷抱セル所ヲ果サントス

容易ニ競争ハ人口ノ増加ヨリ起ル

以上ノ論ハ真正ナラス

植民地ハ久シク本國ノ箱制ヲ受ケルモノニ非ス

ルニ至ルハ是等ノ人々ハ皆其國ニ在テ激烈ナル競争ノ衝ニ當ルヲ以テナリ而シテ又此競争カ斯ク植民ノ擧テ瀕繁ナラシメ又之ヲ容易ナラシムルニ至ルハ全ク人口ノ増殖スルニ依ルモノナリ之レ吾人カ既ニ明ニシタル所ナリト本論モ亦其主意正理ニ適歸スルモノナルカ既住ノ時代ヨリ之レカ觀察チ下ストキハ實ニ然リト謂ハサル可ラス然レトモ世運大ニ發達シ開化頓ニ擴伸スル今日ノ如クナルヲ見レハ吾人ハ信ス將來人口増加ニ關シテモ亦タ其所論チ異ニセサル可ラサルコトナリ

今夫レ世人カ第一ニ感誠セサル可ラサルモノハ植民チ爲ス所ノ國カ能ク其植民地チ保チ永ク之ヲ富裕ノ位置ニ存セントスルコトノ日ニ月ニ困難チ加フルコト之レナリ凡ソ如何ナル植民地ト雖モ其土地固有ノ住民ハ主領國ヨリ來タル所ノ住民ニ比スレハ其口數ノ夥多ナル勢力ノ旺盛ナル固ヨリ論チ待タサルナリ加之未來幾數年チ重スルニ隨ヒ固有土着ノ人民ハ倍ス其腦裏ニ獨立ノ志想チ感發シ之ヲ抑制セントスルモ得テ鎮壓スルコト能ハス已ムチ得ス主領國ノ國民ハ植民地ニ向テ有スル所ノ政治上ノ權勢ハ遂ニ之ヲ拋棄セサル可ラサ

移住植民共ニ本國ノ資本ヲ減耗ス

將來ニ向テ人ノ増加ハ不利ナリ

ルニ至ラン十八世紀ノ終期北亞米利加合衆國カ其獨立ヲ得タル如ク今日ノ印度帝國モ亦タ他日英吉利ノ羈絆ヲ脱スヘキコトハ真ニ噉然疑フ可ラサルナリ今論シタル所ハ是レ英吉利ニアリ此他如何ナル國々ニ就テモ亦タ全様ノ說チ爲スチ得ヘク其間決シテ懸隔アラサルナリ然リ而シテ此未必ノ出來事ハ苟クモ植民地ノ過半ニ必然起ル所ノモノニ非ス然レトモ植民地ノ繁榮益ス盛シヨ其進歩愈ヨ著シキニ當テヤ此出來事モ亦必ス及フ可キ丈ケ神速ニ發スルナラ

此故ニ吾人當ニ謂ヘラク人若シ眼チ開キ遙ニ視線チ將來ニ注射セハ如何ニ幽遠ナル時代ノ後ト雖モ人口ノ増殖チ希圖スルハ頗ル政畧上其策ノ得タルモノニ非ス何ソヤ人口ノ増加ハ他日大ナル困弊ノ淵源トナルモノナレハナリ

以上述ヘ來リタル弊害ノ他尙ホ痛言セサル可カサルモノアリ他ニアラス移住ニモアレ又植民ニモアレ苟クモ之ヲ企圖スルニ當テヤ移住者ノ本國又ハ植民チ爲サントスル國ハ屢々若干ノ厄難チ嘗メサルヲ得サルナリ何トナレハ是等ノ事業チ經營スルトキハ一國ノ資本ハ轉シテ他國ニ入り以テ植民又ハ移住者ノ鄉國ノ爲ニ一時窮乏チ釀成スルニ至ルハ勢ヒ已ム可ラサル所ニシテ其窮乏



分業ヨリ
生産物分
配ハ由
ル

交易ハ世
ト推移ス

分業ノ沿
革

價額

バステア
氏ノ定
義

タル間々至大ノ影響ヲ及ホスコトアリ植民ノ事ニ關シテハ殊ニ然リ即チ植民
ニ就テ起ル所ノ進歩ハ之レ取リモトホサス本國ノ資力ヲ犠牲ニ供シタル結果
ニ他ナラス
本學科ノ講義ニ於テ既ニ吾人ハ分業ノ何者タルコトヲ研究セリ分業一度ヒ起
ルトキハ生産物ノ分配亦必ス生ス是レ自然ノ結果ナリ夫レ分業ノ風行ハル、
ヤ人々各其産業ヲ營ムハ皆十特種ノ生産物ヲ製作スルニ限ルヲ以テ苟クモ必
要欠ク可カラサル物ニシテ之ヲ自ラ生産セサルトキハ勢ヒ其供給ヲ他人ノ産
業ニ仰カサルヲ得サルナリ然リ而シテ生産物ノ分配ハ如何ニシテ行フ可キカ
之レ即チ交易契約ニ由テ爲スヘキモノナリ凡ソ交易ノ方法ハ社會開進ノ程度
ニ伴フモノナリトス故ニ開化ノ進歩益々著シキトキハ交易モ亦々愈ヨ其煩繁
ノ度ヲ加ヒ其異態ヲ現ハスヲ見ル可シ吾人顧ミテ遙カニ眼ヲ往昔ニ轉スレハ
當時人民ノ組成セル社會ノ狀態ニ於テハ殆ソト交易ナルモノ、存在セザリシ
ヲ見ル此時代ニアリテハ人民ノ需用ハ實ニ僅々ナルヲ以テ之ヲ滿タスニモ亦

分業ノ沿
革

價額

バステア
氏ノ定
義

タ極メテ容易ニシテ人々各其産業ノミニ依頼スルモ敢テ不足ヲ告ケザリシナ
リ故ニ又其助力ヲ他人ニ要スルノ必要ナカリシナリ其後ニ至リテ分業ナルモ
ノ甫メテ親族中ニ顯出セリ乃チ族人ハ互ニ別異ノ業務ヲ爲シ以テ相共ニ其需
用ヲ充足センコトヲ務メリ爾來人生百般ノ需用ハ常ニ漸々増加ノ度ニ達シ之
ニ加フルニ人々各其産業ヲ特別ニ行フニ當リ其産業ハ殊ニ活發雄勢ニ趣クテ
認知シテヨリ分業ハ遂ニ今日吾人カ親シク目撃スル所ノ狀態ニ移リ來レリ
交易即チ二人若シクハ多數ノ人カ相互ニ其生産物ヲ以テ自ラ製作スル能ハサ
ル物件ニシテ其需用ヲ感スルモノト交換スルノ契約ハ遙カニ分業ノ下ニ位ス
ト雖モ常ニ同一ノ性質ヲ具ヘテ以テ發達スルニ至レリ
交易ノ目的ヲナス所ノ物件ノ間ニ存在セル關係アリ之ヲ價額ト謂フ然レトモ
之ヲ真正ニ論スレハ所謂價額トハ如何ナル者ナルカ
バステア氏ハ以上ニ吾人カ述ヘ來リタル如ク價額ノ定義ヲ下シテ曰ハク價
額トハ交換セラルル所ノ二個ノ役務ノ間ノ關係ナリト
該定義ニ由レハ物ノ有益ハ即チ價額ナリ今茲ニ一ノ交易アリト假定センニ甲

者乙者ニ我物ヲ與フル乙者亦此物ノ有益ニ比較シテ他ノ一物ヲ甲者ニ贈ルル
キハ甲者ノ受クル所ノ物ノ有益ハ取リモトホサス價額ト謂フヘキナリ該定義
ハ條理ニ適合セサルモノアリ主トシテ明晰チ欠キ又十分確實ナルモノニ非サ
ルナリ

カレ
定義

カレ氏又價額ノ解ヲ爲シテ曰ハク價額トハ吾人カ以テ須要トナス所ノ物件
ヲ得ンガ爲メニ屈撓セシム可キ抵抗ノ度ナリト實ニ此定義ノ意味ハハステア
氏ノ所謂價額ノ定義ニ比スレハ餘程廣遠ナリト謂フモ可ナラン
カレ氏ノ定義ヲ見ルニ氏ハ價格ノ何モノタルヲ説クニ主觀的ノ一點ヨリ之
レカ觀察ヲ爲シタルモノナリ詳言スレハ吾人カ取得スル所ノ物ニ就テ吾人カ
感スル所ノ需用其モノニ着目シテ以テ價額ノ意ヲ明カニシタルナリ決シテ交
易ノ目的タル物件ノ客觀的即チ實際ノ價ヲ認メタルニ非ルナリ此定義ニ於テ
ハ物ノ價額ハ其物ニ費シタル所ノ役務ノ度ニ由テ確定セラル、ナリ否ナ事ロ
物ノ製作ニ施爲シタル勞力ニ由リ生産上ニ生シタル價值ヲ認ムルコトナクシ
テ此役務ヲ求ムルノ困難ナルニ由テ確定セラル、ナリ

需用供給
ノ法則ハ
價額ニ存
ス

需用供給
ノ法則ニ
由テ物ノ
價額ヲ定
ム

然ルニ此價額ヲ定ムル場合ニ臨ンテ世人カ殊ニ主トシテ注意ヲ惹キ起サ、ル
可ラサルモノハ即チ勞力ノ價額ニアリヤ否ヤノ點ニ關シテ理財學上極メテ紛
々タル議論起レリ
抑モ該議論タル之ヲ理論上ヨリ觀察スルトキハ最モ有益ニ敷衍スルヲ得ヘク
且ハ最モ反對ナル結論ヲ出ス可キモ生産物ノ價額ヲ確定スルニ際シ決シテ實
地緊要ナルモノニ非ス之レ吾人カ須ラク注意セサル可ラサル要點ナリトス
何ヲ以テ右議論ハ此場合ニ重要ナラサルカ蓋シ此場合ニ於テモ尙ホ巍然タル
一個ノ法則アリテ以テ之ヲ支配セリ抑モ該法則タルヤ曩ニ吾人カ既ニ説明シ
タル所ノ者ニシテ彼需用供給ノ法則即チ之レナリ該法則ハ之ヲ他一切ノ立論
ニ比スレハ其力ノ大ナルコト敢テ辯論ヲ待テサルナリ
今需用供給ノ法則ニ依テ物ノ價額ヲ定メントセハ必ス先ツ生産者ト費消者ノ
間ニ成ル所ノ競ヒヲ以テ基本トセサル可ラス夫レ生産者ハ自己ノ生産物ヲ販
賣スルニ當リテ可及的多額ノ價金ヲ收メント欲シ消費者ハ其必要物ヲ購求ス
ルニ際シテ可及の僅少ノ價額ヲ出シテ以テ不足ナカラシメントテ望ム即チ



義額ノ定

之ヲ以テ物ノ價額ヲ定ムルナリ
 如斯消費者ハ殊ニ生産ノ爲メ要シタル所ノ勞力ヲ認メルコトナク生産者ニ於
 テモ亦タ自己ノ役務ニ重キヲ置カサルヲ以テ吾人ハ價額ノ定義ヲ下シテ謂ハ
 ン價額トハ消費者カ已レニ必要ナル物件ヲ得ンカ爲メ自ら負擔スル所ノ出損
 ナリト
 右ノ如ク價額ノ定義ヲ設クルコトハ將ニ打テ勝ツ可キ所ノ力既ニ成就シタル
 勞ハ全ク同時ニ之ヲ指示スルヲ得ヘシ
 以上述ヘ來リタル所ノモノハ交易ニ關スル概論ナリ吾人ハ永シ茲ニ研究ヲ積
 ムヲ要セス今ヨリ方向ヲ轉シテ貨幣論ニ移リテ説ク所アラントス貨幣論ハ理
 財學中最モ重要ナル部分ナリ此論ニ關シテハ眞ニ著大ノ結果ヲ生スルニ足
 可キ議論ニシテ未ダ普ク世人ノ唱道セサルモノアリ故ニ乞フ本論ニ臨ンテ
 之ヲ指摘セシ

貨幣論

貨幣トハ何ソヤ今其定義ヲ與フレハ貨幣トハ人類社會ノ成立上必ス無カル可

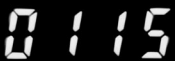
貨幣ノ定

カラサル民事又ハ商事ニ關スル一切ノ取引ヲ爲メ及ヒ諸般ノ交換ヲ行
 爲メニ吾人カ依ル所ノ仲介者ナリト謂フヲ得ヘシ
 凡ソ人ハ貨幣ヲ使用シテ以テ凡百ノ希望ヲ満足セシムルノ權アリ貨幣ハ果
 テ能ク此職使ニ堪ユルモノナリ然リ而シテ貨幣カ其本全ノ効ヲ現ハサンニハ
 又タ若干ノ特質ヲ具備センコトヲ要ス余輩之レヨリ直ニ其特質ノ何タルヲ指
 示セン

通説

爰ニ余輩ノ注意スヘキコトアリ他ニアラス即チ理財學上一般ノ定説ニ據レハ
 以下余輩ノ述ヘントスル貨幣ニ關スル幾多ノ特質ハ金銀貨幣ハ能ク之ヲ具有
 スルモ紙幣ノ如キニ至リテハ決シテ之ヲ保持スルコト能ハスト
 夫レ紙幣ハ世人カ貨幣ニ就テ要求スルトコロノ品質ハ過半之ヲ享有スルモノ
 ナリ而シテ又紙幣ノ具フル性質ニシテ金銀貨ノ帶フル品質ニ比スレハ其度頗
 ル低小ナルモノナリ又彼ニ在リテ全ク是ニ存セサル品質アリ然リト雖モ此等
 ノ品質タル全ク必要ナルモノニアラス故ニ金銀貨幣ハ之レ無キモ敢テ何等ノ
 不都合ナキモノナリ余輩ハ之レヨリ駭々駭々以テ其然ル所以ヲ辨晰セン

紙幣ノ有
スル性質



貨幣ハ交
換價額ヲ
有スルヲ
要ス

紙幣ハ交
換價額ヲ
有ス

貨幣ハ交
換價額ヲ
有ス

凡ソ貨幣ハ能ク其効用ヲ奏センニハ先ツ主トシテ多分ノ交換價額ヲ有セサル可ラス詳言スレハ世人カ此貨幣ヲ以テ等シキ價額ヲ具フル所ノ必要物件ハ容易ニ之ヲ資給シ得キヲ知り直チニ進ンテ此貨幣ヲ受取ルコトヲ緊切ナリトス然レトモ幾輩ノ學者カ唱道スル如ク右述ヘタル所ノ性質ヲ顯ハサンニハ貨幣ハ敢テ實質上ノ價額ヲ有スルヲ以テ必要トセサルナリ即チ貨幣トシテ有スル所ノ交換價額ニ全ク關係ナキ價額ヲ有セシテ可ナリ此故ニ余輩謂ヘラク紙幣ハ全ク何等ノ實質上ノ價額ヲ有セサルモ亦タ能ク交換價額ヲ具フルモノナリト蓋シ此觀念タル學者中最多數ノ意見ト大ニ齟齬スルモノナリ抑モ余輩此ノ如キ觀念ヲ懷抱スル所以ノモノハ何ソヤ夫レ貨幣ヲ組成スル所ノ元素カ貨幣ニ賦與スル所ノ交換價額ナルモノハ等シク單乎タル信用ニ由テ成立スルヲ得ルモノニシテ此信用タル各個人ハ貨幣ノ形体本質等ニ全ク願ミルコトナク自由ニ附スルコトヲ得ルモノナリ加之此觀念ノ眞實ナルコトハ現在日本ニ於テ目撃スル所ニ由ルモ又タ銀行券ノ行ハル、所ノ他ノ諸國ニ於テ視ル所ニ由ルモ以テ容易ニ之ヲ識知スルコトヲ得ヘシ余輩札若シクハ銀行券ヲ閱ス

ルニ其表面ニハ必ス之ヲ發行シ之ヲ融通セシメタル所ノ官廳カ一切ノ請求ニ應ジ以テ該札若シクハ銀行券ノ價額ヲ償フニ金貨若シクハ銀貨ヲ以テセントノ約束ノ記載セラル、ヲ見ルナリ然レトモ如此キ權利ノ成立シアルコトヲ知ラサル者果シテ幾何ソヤ實ニ數フルニ堪ユサルヘシ然リ而シテ此等ノ人々カ札若シクハ銀行券ヲ可ナリトスルハ之ヲ以テ交換ノ具ト爲シ其需用品ヲ隨意ニ他人ヨリ求ムルヲ得ルノ唯一ノ理由ニ基ツクノミ敢テ其嘗テ他ヨリ得タル所ノ紙幣ニ代ユルニ金貨若シクハ銀貨ヲ以テセシメ爲メ行テ之ヲ銀行ニ請求シ得ルノ權利ヲ有スルコトニ注意セサルナリ夫レ人民ノ最大多數ハ右ノ如ク行動且ツ考案スト謂フモ豈ニ經言ト云フ可ケンヤ此故ニ貨幣ノ價額ハ主トシテ信用ニ存スルモノト云フ提論ハ能ク事實ヲ穿チタルモノト謂ヒ得ヘシ此他貨幣ハ其交換價額ノ點ヨリ觀察スルトキハ著大ノ價額ヲ以テ之ヲ輕微ノ重量ト狹小ノ容積トノ下ニ凝聚セシムルヲ得ンコトヲ要ス今夫レ金銀ハ此性質アリトセンカ紙幣モ亦タ等シク此性質ヲ有スルハ智者ヲ待テ後チニ知ルニ非ルナリ何トナレハ紙幣ニ於テハ價額ヲシテ最高ノ度ニ達セシメント欲セハ單ニ之

ナ記載セハ充分ナレハナリ
 第三貨幣ハ同質ナルヲ要ス即チ「チモシェトス」ナラサル可カラス詳言スレハ貨幣
 ハ其之ヲ組成スル所ノ「元物」ヲ「スタンス」ノ發生セル場所ノ如何ニ關スルコト
 ナキ價額ヲ有セサル可カラス
 右ノ品質ハ金銀之ヲ現ハセリ今夫レ金銀ハ「亞細亞」ヨリ產出スルト雖モ或ハ歐
 羅巴ヨリ採取セラル、ト雖モ又ハ之ヲ「亞米利加」ニ發掘スルト雖モ其價額依然
 トシテ毫モ變更ヲ來タスコトナシ
 然リ而シテ此品質タル實ニ至緊至要ト謂ハサルヲ得ス何ソヤ若シ此品質欲ケ
 タリトセンカ則チ吾人カ使用スヘキトコロノ貨幣ハ皆チ吾人カ其真正ノ價額
 ナ確定スルコト能ハサルモノニ止ランノミ果シテ然ラハ一私人カ貨幣價額ノ
 評定「エヴリユアーション」ヲ爲スコト能ハサルニ至ル可キハ正ニ必然ノ結果ト謂ハ
 サル可カラス

夫レ然リ然リト雖モ此品質タルヤ之ヲ貨幣金銀「特有」ノモノト看過スヘカラス
 即チ紙幣モ亦ク等シク之ヲ具有セルモノナリ否ナ紙幣ハ此品質ヲ享クルノ度

遙ニ貨幣ノ右ニ出ツヘント謂フモ決シテ經言ニ非ル可シ何チ以テ是ヲ謂フ蓋
 シ該交換媒介者カ(即チ紙幣ヲ指示スルナリ)其抱持セル價額ノ全部ハ之レ余輩
 カ成立セリト想測スル所ノ「信用」コンフィアンスニ依テ發生スルモノナレハ最早
 貨幣產地ノ問題ヲ研究スルノ要ナカラム
 第四 貨幣ハ自在ニ精鍊シ得可キ(「アライナー」ヨリ元物ヨリ組成スルヲ要ス詳言
 スレハ之ニ附スルニ相當ノ形骸ヲ以テシ之ニ加フルニ不變ノ價額ヲ以テスル
 ノ方法ヲ容易ニ施シ得ヘキ元物ヨリ成ルヲ要ス
 今此處ニ於テ紙幣ハ果シテ此性ヲ有スルヤ否ヲ論究セントスルハ蓋シ無用ノ
 勳作ト謂ハサルヘカラス何トナレハ精鍊ノ方法ハ唯タ單ニ金鑛ニ非サルヨリ
 決シテ之ヲ施コスコト能ハサレハナリ
 然リ而シテ吾人ノ最モ注意ヲ要スル点ハ此方法ヨリ生スル利益チ紙幣ハ獨リ
 自ラ能ク之ヲ生セシムルコト是レナリ
 第五 貨幣ヲ組成スル所ノ元物ハ眞ニ分別シ得ヘキコト之ヲ細分スルモ敢テ
 其價額ニ些少ノ變動ヲモ來タスコトナキモノナルヲ要ス

金銀貨幣ノ此性質アルハ實ニ瞭然タリト雖モ然レトモ紙幣モ亦タ之ヲ有スル
 コトハ等シク疑フ可カラサルナリ
 第六 貨幣ハ之ヲ使用スルモ敢テ能ク其印跡ヲ保有スルニ足ル可キ性質ヲ有
 スルヲ要ス而シテ此印跡タル貨幣カ容易ニ流通シ得ノカ爲メニ須要ナル力「イ
 ンタンシ」ニ之ニ附與セサル可カラサルモノナリ
 紙幣モ亦タ性質ヲ缺クモノニアラサルナリ
 第七 最後ニ須要ナル性質ハ貨幣ハ諸ノ價額ノ尺度「エタロン」タラサル可カラ
 スト云フニアリ之ヲ詳言セハ今一人アリ或ル物ヲ評價セント欲スルトキハ之
 ナ全フスル爲メニ貨幣ニ依歸スヘキヲ要ス
 此點ニ於テ吾人ハ謂ハン紙幣ハ頗ル利益ヲ現ハスモノナリト何ソヤ夫レ金銀
 ハ其本體ヨリ生スル固有ノ價額ナルモノナリ有ス然ルニ貨幣ハ金銀ヨリ成立ス
 故ニ該商品金及ヒ銀ヲ示スカ受クル所ノ價額ノ結果「フリクチニアッションド、グ
 ール」ニ與カラサルヲ得サルハ蓋シ自然ノ理ト謂フ可シ是ニ由テ之ヲ觀レハ金
 銀貨幣ハ皆ナ不變ノ價額ヲ有スルコトナキナリ貴金屬ノ生産倍増加スルニ從

貨幣ノ不
足

ヒ金銀ノ價額亦倍底減スルノ傾向アリ之ニ反シ其生産額ニ遅緩ナランカ金銀
 ノ價額之ニ從テ増加セシムルハ如何ナル實質上ノ價額「グールド、セントランセツク」ヲモ有スルコ
 之ニ反シ紙幣ハ如何ナル實質上ノ價額「グールド、セントランセツク」ヲモ有スルコ
 トナク總テ其有益ヲ唯一ノ信用ヨリ汲ムモノナレハ此信用地ニ墜チサル間ハ
 明カニ同一ノ價額ヲ保存スルナラン然リ而シテ此信用タル善良ナル主義ヲ組
 織シタル曉ニハ永シ失墜スルコトナカル可シ
 以上述ヘ來タリタル所ノ性質ハ是レ即チ貨幣ノ享受セサル可カラサルモノナ
 リ
 (附言)本論ノ原語ニハ性質、品質ノ二字ヲ同一ノ意味ニ用キタルカ如シ故ニ余
 輩ハ譯シテ貨幣ノ第一ノ性質又ハ貨幣ノ第二ノ品質ト云ヒタルモ決シテ異
 意ノモノニ非ス性質ハ「カラクテール」ナル語ヲ譯シ品質トハ「カリテール」ナル語
 ナリ
 今日全世界ニ存在セル金貨「ニメレール、メタリック」ト稱シ紙幣ニ對スル名號ナリ
 ハ其額殆ント六十乃至七十萬億フランニ達セリ即チ十五億萬圓ノ金高ナリ夫



レ此數量タル一見以テ其著大ナルヲ驚クヘシト雖モ熟ラ其實相ヲ觀察スレバ到底社會萬般ノ需用ニ應供シ得ヘキ度ニ達セサルナリ一社會ノ貨幣ノ全部悉ク融通ニ供セラレサルモノアランニハ豈ニ吉慶ノ至リナラスヤ社會ニ貨幣ノ饒多ナルヲ云フ然ラハ何ヲ以テ今日世界ニ存在セル貨幣ノ缺乏ナルヲ知り得ヘキヤ曰ハク唯一ノ方法アリ以テ之ヲ知ルヲ得ン即チ右ノ數量ヲ等分シ以テ之ヲ地球上ノ住民間ニ配當スルニアリ今地球上ノ人口ヲ概算スレハ全數二億萬ニ下ラサル可シ然ルトキハ右數量ノ金額ヲ以テ之ヲ分配セハ平均一人ニ就キ三十フランノ配當アル割合ナリ詳言スレハ各個人ノ需用ヲ供給スル爲メニ各自八圓ノ金額ヲ有スルニ過キサルノミ然リ而シテ其一身上ノ使用ヲ充タサシカ爲メニ曩ニ述ヘタル金額ニ比スレハ四十倍五十倍乃至百倍ノ多キニ過クタル金額ヲ有スルモノ數百萬人アルコトヲ考思セハ敢テ尙ホ著大ナル部分ヲ握有スルモノアルヲ計算セスト雖モ直ニ視ル可キ現象ハ即チ之レカ爲ニ平等ノ分配ニ由テ受ク可キ所ノ少許ノ部分ヲモ有スル能ハサル者實ニ其幾何ナルヲ知サルコト是レナリ

凡百ノ需
要ヲ充タ
スヲ得可
キ富財ハ
即チ貨幣
ノミ

貨幣ノ不足セルコト既ニ斯クノ如シ然リト雖モ余ハ切望ス世人漫ニ貨幣ノ量ニ由テ以テ社會上ノ富財ヲシテツス、ソシヤールヲ評定スルコトナク尙ホ他ノ諸点ヨリ之ヲ伺察センコトヲ加之ナラス人間ノ産業ヨリ成リ自然ノ天工ヨリ生スル凡百ノ富財アルヲ認メンコトヲ例ヲ舉テ之ヲ示サハ家屋收獲ヲ具ウル土地鐵道道路其他生産ノ助ケヲ爲ス所ノ製作物ハ皆ナ然リ然レトモ右ニ述フル所ノ富財ノ如キハ敢テ茲ニ之ヲ論究スルノ必要ヲ見サルナリ何トナレハ吾人ハ貨幣不足ノ問題ハ之ヲ社會上ヨリ觀察シテ論スルモノナレハナリ吾人ハ謂ハサル可ラス今日人間各自ノ需要ヲ補充スルノ用ヲ爲スモノハ貨幣ヲ措キテ他ニ之レナシト例ヘハ今一人壯大ナル家屋ヲ有スルモノアラン此家屋タル數千フランノ價值アル者トセン而シテ此人ノ資産全部ハ即チ此家屋ナリト假定セヨ若シ此人ニシテ其必要ナル米、肉、麵包等ヲ購求スルニ欠ク可カラサル金錢ヲ此家屋ヨリ要求スルコトヲ得スンハ此家屋タル果シテ何等ノ用ヲ爲スモノナルヤ一袋ノ米、一キロノ麵包、一肉ニ換フルニ其家屋ヨリ相應ノ價額ヲ具ウル一部分ヲ取リ以テ之ヲ與フルヲ得ヘキヤ其需要ノ供給者

ニ其代辨ヲ爲サンカ爲メニ此不動産ヨリ一片ノ瓦一個ノ石ヲ取ルヲ得ヘキヤ蓋シ是等ノ供給者ハ決シテ肯受セサルナラン如何トナレハ彼等ハ之ヲ以テ何等ノ使用ニモ供スルコト能ハサルヘケレハナリ

以上述フル所ニ由ラ之ヲ考フルニ社會現時ノ情勢ニ於テハ通用貨幣ニアラサル一切ノ物件ハ人性ノ需要ヲ満足セシムルノ一大能力ナキヤ實ニ一點ノ疑ヲ存セサルナリ天工ニ成リ人技ニ依レル萬種ノ富財各其價額ヲ有スルコト余輩敢テ之ヲ争ハスト雖モ今日ノ社會上ノ組織ニ於テハ是等ノ富財タル能ク之ヲ以テ或ハ資本トナシ或ハ利息トナシ以テ通用貨幣ニ代ユルヲ得ルニ非ンハ決シテ價値アリトセラレサルハ余輩ノ最モ注目セサル可カラサル所ナリ

是レ其レ斯ノ如シ故ニ余輩ノ主トシテ腦裏ニ存セサル可カラサル要點ハ貨幣ナルモノハ決シテ世界中ニ成存スル唯一ノ價額ヅハルルニニアラス然レトモ貨幣ハ一切ノ價額中最大至要ナルモノナリ何トナレハ今日社會ノ關係ハ一ニ貨幣ニ由テ行ハルハモノナレハナリト謂フニアリ此觀念タル真ニ搖カスヘカサルモノナルコトハ余輩ノ斷シテ疑ハサル所ナリ余輩全世界ニ存スル貨幣ヲ

紙幣ノ要

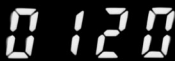
紙幣ノ定

精算スルニ實際日常融通ニ供セラルハモノハ二十億若シクハ二十五億フランニ過キス豈ニ僅少言フニ堪ユヘクシヤ此驚クヘキ少許ノ貨幣ヲ以テ之ヲ全世界ノ住民間ニ配分セヨ然ルトキ平均一人ノ受クル所ノ部分ハ十フラン乃至十五フランナリ詳言スレハ實ニ三圓ノ金額ニ過キサルヲミシテハ固ク不問也

吾人常ニ謂ヘラク社會上貨幣ノ欲乏セルコト以上述フルカ如クナルヲ以テ其結果トシテ視ル可キモノハ社會人民ノ困難ナラン而シテ此困難タル如何トシテモ事物ノ狀跡ヲ變更スルニ非レハ到底之ヲ救済スルノ策ナカラシ識者若シ社會問題ノ決定ヲ取ラシト欲セハ宜シク先ツ今日吾人ノ使用セル所ノモノト全ク異別ナル貨幣ヲ作爲セサルヘカラス此ニ於テカ余輩ハ自然ニ紙幣二千シテ論交スルノ機會ニ遭遇セリ

紙幣ハビエリ、モシチー、目ヤ、野田學、風平ハ各等

紙幣ト銀行券トハ決シテ之ヲ混同スルコト勿レ銀行券ノ後ニハ貨幣ナルモノアリテ何時ニテモ其銀行券トノ兩替ノ請求ヲ爲シ得ヘシ抑モ紙幣トハ何ソヤ紙幣トハ之レヲ組成スル所ノ物件ニ由テ毫モ眞實ノ價ヲ有スルコトナク唯々



多數學者
ノ批難

紙幣ノ利

單ニ一私人カ付與スル所ノ信用ニ由テノミ其價格ヲ取得スル所ノ交換者ヲ謂フ
紙幣ノ性質其レ此ノ如シ即チ貨幣ノ如ク一切ノ實體上ノ價格ヲ有セス故チ以テ余輩カ紙幣ノ爲シ得ヘシト思慮スル所ノ役目チハ理財學者ノ過半ハ古來ヨリ論シテ曰ハク紙幣ハ決シテ右ノ役目ヲ果タス能ハスト而シテ是レ今日ニ於テモ亦タ囂然タル所ナリ然リ而シテ此等ノ理財學者ハ又タ曰ハク凡ソ公衆ノ信用ナルモノハ純然タル名目上ノ價額ナラテハ有セサル所ノ貨幣ハ正ニ之ヲ享受スルコト能ハスト而シテ其例證トシテ往時佛蘭西大革命ノ際ニ現出セル出來事ヲ援用セリ
余輩ハ之ニ應ヘテ謂ハン夫レ紙幣カ其仲介者タルノ役目ヲ果サンニハ嚴正ナル法律壓制ニ陷チ入ラサル法律ヲ指スチ以テ之カ規定ヲ爲サハ何ノ不可カ之レ有ラント然リ而シテ此要件已ニ成就セル上ハ世人雀躍之ヲ承諾セサルハ抑モ何ソヤ夫レ此一種ノ貨幣紙幣ヲ指スタル只タ社會ニ於テ之ヲ採用スルト云フノ一事ヲ以テ能ク現今金銀貨幣カ爲シ得ヘキ所ノ役目ハ總テ之ヲ履行スル

ナラン加之紙幣ニハ奇々意外ノ利益アリ即チ政府ハ社會的需用ノ度ニ應シテ自在ニ之ヲ造出スルヲ得ヘシ然ルニ此利益タル全ク貴金屬金銀ヲ指示ス中ニ存スル能ハサルモノナリ何ツヤ金銀ノ生産ハ其區域ノ狹隘ナルコト固ヨリ自然ノ勢ヒナレハナリ此点ニ付テハ經驗上正ニ其當ヲ得タルモノナルヲ知ル能ハサルカ吾人ハ單ニ信用ノ効果ニ由リ銀行券ヲ其附與セラレタル所ノ價額ノ爲メニ暫クモ躊躇スルコトナク採用スルニ非スヤ而シテ此場合ニ於テハ大抵世人ハ自己ニ此銀行券ヲ以テ相當ノ貨幣ト兩替スルヲ得ルノ權利アルコトニ注意セサルナリ夫レ然リ此權利已レニ屬スルコトヲ知ラサル者實ニ其幾人ナルヲ知ラサルナリ殊ニ日本ニ於テ吾人ハ紙幣ノ使用殆ント普及セルヲ視ルニ非スヤ一圓ノ價額ヲ具フル所ノ紙幣ヲ有スル者ハ之ヲ以テ國立銀行バンクナシヨナルニ至リ同一價額ノ銀貨ト兩替スルヲ得ヘキコトヲ考フ可キカ此紙幣ヲ受取リシ者ノ其際ニ爲シ得ヘキ所ノ立論ハ單ニ左ノ數語ニ過キサレ可カラサルカ則チ謂ハズヤ余ハ此一圓ノ札ヲ以テ余ノ有スル需要ヲ一圓程充足スルヲ得ヘシト眞ニ此ノ如キ思想ハ今日世上ニ現出スル唯一ノ普通思想ニアラ

(理財學)



ナルヘシ然レトモ既ニ此思想ニシテ當ニ能ク此仲介者ガ世人ノ冀望スル所ノ
 役目ヲ實行シ得ルニ充分ナリト云フ可シ吾人カ茲ニ第一ニ置カサル可カラサ
 ル真理一アリ此真理ノ緊要ナルコトハ決シテ之ヲ遺忘スヘカラス如何トナレ
 ハ若シ此真理存セストセンカ既ニ已ニ吾人カ陳述シタル所ノモノニ等シキ觀
 念ヲ實施スルニ方リテ恐ルヘキノ災厄起リ以テ若干ノ規則ヲ嚴正ニ遵守スル
 ニ非スンハ成立スルコト能ハサル主義ヨリ許多ノ危險ヲ來ス可キハ蓋シ一点
 ノ疑ヲ容レサルモノナリ然リ而シテ該主義カ從フ所ノ條規タル若シ之ニ服セ
 スンバ見ル所ノモノハ頽廢ノミ瓦解ノミ該主義ノ

所謂ル真理トハ果シテ何ツヤ是レ即チ紙幣ハ其生産整然確定セラレ判然區劃
 セラレ而カモ付與セラレタル制限ハ敢テ之ヲ超過スルコト能ハスト云フノ條
 件ヲ具備スルニ非サルヨリハ有効ニ成立スルコト能ハスト云フコトナリ
 紙幣ヲ生産スルコト非常ナルトキハ暫時ニシテ其價額ノ減少ヲ來タス實ニ必
 然ノ結果ト云フ可シ而シテ此價額ノ減少タル即チ所謂倒産バンクルト及ヒ
 社會的信用クレシ―ンシヤールノ破壞ニ外ナラス此ノ如キ危險ハ實ニ吾人カ

尊崇スル所ノ主義ノ反對論者カ主張スル所ノ根據ナリ

故ニ此紙幣論ニ就キ吾人カ與フル所ノ説明ニ於テ吾人ハ明カニ想像ス彼ノ官
 廳ノ充分勢力アル頗ル強ク組織セラレタル頗ル其已レカ執ル所ノ役目ノ緊切
 ト必要トニ付テ等シク明カナルモノカ能ク紙幣ノ生産ヲシテ其定メラルヘキ
 分量クアントームヲ超過セシメサランコトヲ務メンコトヲ然レトモ此分量ハ
 之ヲ如何ニシテ定ムルコトヲ得ヘキヤ流通ニ對セシムヘキ貨幣ノ總額ハ之ヲ
 如何ナル元素ニ由テ定ム可キヤ此等ノ諸難問ヲ決定センニハ種々ノ事情ヲ斟
 酌セスンハアルヘカラス先ツ一國ノ人口ノ總數需用ノ増加ヲ注目セサル可カ
 ラス此等ノ情况ハ流通ノ尙ホ一増饒多ナランコトヲ必トシ從テ貨幣ノ尙ホ一
 増多額ナランコトヲ要スルモノナリ

斯クノ如ク決定ヲ與フル上ハ吾人ハ宜シク先ツ此決定ヲ持續スルコトヲ務メ
 サル可カラス夫レ然リ然リト雖モ其製作セラルヘキ紙幣ナルモノハ果シテ如
 何ナル方法ニ由リ之ヲ流通セシムヘキヤ是レ亦タ眞ニ有益ナル一問題ト謂ツ
 可シ故ヲ以テ此問題ヲ研究センコトハ決シテ徒勞ニアラサルナリ抑モ該問題

紙幣ヲ流
通スルノ
最良方法

決定ノ方針トスル所ハ紙幣ニ附與スルニ其他ノ價額若シクハ勞力ト交換スル
コトヲ得可キ真正ノ價額「グアル、レール」ヲ以テスルニ顧慮スルコトナク唯
タ其必要ヲ感スル所ノ者ニ之ヲ交附スルニ非ル可キハ毫モ疑ヲ存セザルナリ
抑モ世人ガ紙幣ニ就テ爲シ得ヘキ最モ善良ナル使用ハ商業ヲ進歩セシメ産業
ヲ發達セシムルコト極メテ易々タラシムルヨリ能ク社會上ノ富財ノ生産ニ助
カスヘキ性質ヲ具有スル公益ノ事業トラバウ、ヂェテリター、プ、ブリック」ヲ實行スル
ニアルナラン

紙幣ヲ流通セシムルノ方法果シテ此点ニ存ストセンカ吾人ハ謂ハン若シ此方
法ヲ以テ紙幣ヲ流通セシメントセバ先ツ勞力アル者ハ其之ヲ有セザル者ニ其
勞力ヲ供給スルヲ得ン流通ノ元素通用貨幣ヲ指スハ是カ爲ニ増殖セン而シテ
是ト同時ニ社會上ノ資産バトリモアース、ツシアルナルモノハ正サニ公益ノ
事業カ代表スル所ノ部分ヨリ増加セラレ、ナラン
紙幣流通ノ方法ニ干スル所ノ問題ハ以上述ヘタル所ニ由リ未タ全ク之ヲ決定
シタルモノニ非ルナリ此問題ニ干シテ世人ノ輕々看過ス可カラサル点尙ホ一

紙幣ハ之
ハ同時ニ
政府ニ回
収ノ處置
ヲナサハ
スルヘカ
ラ

アリ此点タル決シテ真正ナル本問ノ要諦ニ非ルナリ然レトモ此点ニ於テハ吾
人カ今日所有權ニ就テ承認スル所ノ一己人不可侵權「ドロア、アンジヅ、ヴェニエール、
アンヅセララ、ブル」ヲ殆ント絶對ナル性質ハ果シテ所有權ノ特性ナルカ勢ヒ是
ヲ疑ハサルヲ得サルナリ今夫レ紙幣ノ生産ニ附スルニ如何ナル制限ヲ以テス
ト雖モ然レトモ紙幣ガ果シテ世人ノ冀望セル効用ヲ全フセンニハ勢ヒ必ス其
生産ハ比較上著大ナラサル可カラサルコトハ三尺ノ童子ト雖モ猶ホ能ク其當
ニ然ルヘキヲ知ラン然ラバ即チ紙幣ノ生産ハ若シ國家ノ公權起テ等額ナラサ
ルモ少ナクモ著シキ回収ル「ブリーツ」ニ依テ以テ之ヲ買取スニ非ルヨリハ吾人
カ前ニ既ニ生産過度ノ必然タル結果トシテ指摘シタル所ノ危險ナルモノハ數
年ヲ出テスシテ等シク發出スルナラン何ツヤ此生産タル能ク中和ノ度ヲ超越
セスト雖モ愈ヨ已ムナクンバ遂ニ海容山積ノ態ヲ現ハス可ケレバナリ斯クノ
如ンバ則チ紙幣ノ生産ハ非常ニ多カルベシ紙幣ノ價額減少ノ現象ハ當ニ之レ
ヨリ發スヘシ而シテ社會上ノ富財ノ發達ハ到底價額ノ減少ヲ治スルコト能ハ
サルヘシ何トナレバ今日吾人カ目撃セル買占「アッカバールマン」一切ノ商品ヲ一

人ニテ買リ取リ以テ可得的其價ノ騰貴ヲ待テ之ヲ賣ラントスルヲ云フナリハ
猶ホ後日ニ於テモ同一ノ富裕者ノ爲ニ生シ毫モ多數ノ者ニ利益ヲ付與セザル
可ケレハナリ

吾人カ上來論述スル所ニ由テ之ヲ觀レバ社會ノ活動スル爲メニ至要ナル紙幣
ヲ流通セシメントスル國家公權ハ曩ニ述ヘタル過度ノ増加ヲ避ケル爲メ其流
通ニ附スルト同時ニ殆ント等シキ分量ヲ没入センコトヲ務メサル可ラス今茲
ニ吾人ノ考ヲ精確ナラシムルニ充分ナル一例ヲ舉ゲテ之ヲ示サン即チ吾人ハ
該紙幣收出ノ理論ヲ以テ一小池ニ比セン而シテ此小池ニハ一流ノ水通シテ絶
エズ池中ノ水ヲ新鮮ナラヌムルノ用ヲ爲スモノトセン若シ此クノ如ク流水ノ
注入スルモ該小池ニシテ其餘水ヲ噴出スル道ナカラシメンカ幾何モナクシテ
小池ハ滿水シ池水ハ四方ニ潰溢シ而シテ眞ニ洪水ヲ觀ルニ至ラン
前例ニ於テ右ノ弊害ヲ避ケント欲スルカ洪水ナカラシムルコトヲ欲スルカ否ナ寧
ロ池水ノ間斷ナク新鮮ナランコトヲ欲スルカ果シテ然ラハ宜シク除水ノ場所
ヲ附シ以テ新水ヲ導ク所ノ水ト同等ナル分量ヲ排出スルコトヲ務ム可シ然ル

トキハ出ル所ノ水入ル所ノ水ニ等シキヲ以テ池水ノ容量ハ常ニ同一ノ度ニ位
シ敢テ洪水ノ虞ナカラシム

吾人ハ信ズ右ノ例タル能ク善良ナル紙幣ノ主義カ充タザザル可ラサル要件ヲ
説明スルモノナリト前例ニ徴スルニ社會ノ需用ハ小池之ヲ代表セリ紙幣ノ生
産ハ即チ池中ニ注カントスル水流是レナリ而シテ紙幣ノ取戻ハ吾人ガ暴害忌
ムナキノ洪水ニ比較スル所ノ紙幣ノ増加ヲ避ケル爲ニ必要ナル排水ナリ

然リ而シテ此取戻ハ如何ニシテ之ヲ施行スヘキカ租稅ノ固ヨリ此取戻ヲ爲ス
ニ不充分ナルコト言フ待タズ其故何ツヤ一方ヨリ之ヲ觀察スルニ租稅ハ現今
存在スル所ノ事物ノ狀態ヲ毫モ治セザルナラン如何トナレバ吾人ハ本問題ニ
干シテ何等ノ利益ヲモ有セザル租稅ヲ有スレバナリ又々他ノ一方ヨリ曰ハハ
ニ租稅ハ其性質上ヨリシテ吾人カ顧慮スル所ノ一般ノ需用ブゾアンジエチロ
[一]ニ屬セザル需用ヲ充足スル爲ニ之ヲ要スルモノナリ而シテ終リニ租稅ガ吾
人ノ意ヲ傾ケル所ノ点ニ有益ナランニハ租稅ハ著シク増額スルヲ要スルナラ
ン若シ夫レ然ラバ租稅ハ之ヲ負擔スル所ノ人民ニ取リテハ過重過大ノ重任ト

謂フ可キナリ

然ラハ則チ紙幣取戻ノ方法ハ須ラク之ヲ其外ニ探究セサル可カラス吾人ハ信
ス右取戻ヲ行フニ付テ適當ナル方法ハ相續ニ就テ其相續財産ノ幾部分ヲ政府
ニ徴收スルニアルコトヲ而シテ其徴收ノ數量ハ相續人ノ數ト其資格トニ從ヒ
且ツ徴收ヲ爲ス可キ財産ノ額ニ由テ定ム可ク且ツ變更スルモノナリ吾人ハ前
既ニ曰ハク最モ善良ナル方法紙幣ノ取戻ヲ爲スニ付キハ正ニ此所ニ在リト信
ズト而シテ吾人ハ吾人が主唱セル説ヲ維持センカ爲メ左ノ理由ヲ對抗スルヲ
得ヘシ

第一 爰ニ一人アリ或ル額ノ財産ヲ遺留シテ死亡シタルトキハ吾人ハ則チ謂
フヲ得ン曰ハク此人ヤ其貯存シタル財産ハ唯タニ其智識其出精其節儉ニ由テ
之ヲ得タルニ非ス尙ホ社會カ此人ニ提示シタル幸ナル事情社會的組織ヲルガ
ニザツシヨシ、シアールカ此人ニ給付シタル種々ノ便宜ニ類リタルナリト故ニ此
点ヨリ觀察ヲ下セバ彼ハ即チ社會ノ債務者ナリ而シテ此債務タル彼レノ財産
ノ最小部分ヲ代表セスト謂フヲ得ン此財産ハ則チ吾人が全ク同様ノ智識出精

節儉ヲ以テスルニ非レバ取得スル能ハサルモノナリ然ルニ斯クノ如クニシテ
全ク財産ヲ獲得スルコト能ハサルノミナラス尙ホ父母ヨリ傳來シタルモノヲ
モ全ク滅盡スル者アリ是等ノ輩ハ皆ナ一層不幸ナリシ何トナレハ時機ハ彼等
ニ對シテ幸ナラザレハナリ何トナレハ一大戰乱起リタレバナリ何トナレハ經
濟上ノ恐嚇發シタレバナリ此等ノ事變ニ付テハ彼等ハ何等ノ豫防ヲモ施スコ
ト能ハス單ニ其結果ヲ負荷スルノミ

以上述フル所ニ由リ以テ諸ノ出來事ニ歸ス可キ等シキ部分ヲ證スルヲ得ベシ
詳言スレバ各個人ノ財産ノ組成ニ干シテ右ノ出來事ヲ生セシメタル社會ノ與
リ力アルコトノ大ナルヲ知ルヲ得ベシ

第二 我輩ノ主唱スル所ノ説ヲシテ其力ヲ逞フセシムル爲メ我輩ハ尙ホ謂フ
コトヲ得ン則チ反對者ガ我輩ニ向テ鐵壁ノ論據トスル所ノ彼所有權不可侵、ア
ンヴセラヒリテ、ラブロアリエテ、ノ原則ハ其實決シテ存在セザルナリト何
ヲ以テ其然ルヲ知ルヤ今日國家ガ人民ノ財産ニ就キ其幾部分ヲ徴收スルコト
ハ現ニ我輩ノ視ル所ニシテ只々其之ヲ徴收スル方法ノ前ニ我輩カ示シタル所

ト異ナルノミ而シテ國家ハ自在ノ活動ヲ爲サンカ爲メ要用ナル資力ハ凡テ之ヲ租税ニ仰カサルヲ得ス就中相續ハ既ニ租税ヲ負擔セリ而シテ此租税ノ額ニ至リテハ相續人ノ分限ニ從テ變更セラル、モノナリ故ニ我輩ガ其特別ノ性質ヲ有スルヨリ名ケテ *Distatement* (ブレレーヴマン) (全部ヨリ課メ一分) ト稱スル一種ノ租税ヲ徵收スルニ至テハ全ク別異ノ方法ニ從フノミ

第三 上來余輩ノ説明セル主義ニ於テハ右ニ述ヘタル(ブレレーヴマン)ハ絕對的ニ侵ス可ラサル利益ハ一切之ヲ害セサルコトヲ注意セサル可カラズ彼ノ自己ノ力ニ依頼シテ其財産ヲ獲得シタル所ノ者ハ該徵收ヲ行ハル、モ敢テ愁フル所ニ非ルナリ何トナレバ直接ニ害ヲ被ムル者ハ他人ナレバナリ見ヨ此財産ヲ收拾セル者ハ其生涯中自由ニ財産ヲ利益シ已レノ得ント欲スル物必要ナリト信スル物ハ直ニ之ヲ以テ求ムルヲ得タルナリ而シテ國家カ此財産上ニ取上ノ處分ヲ行フハ其世ヲ辭シタル後ニアリ是ニ由テ之ヲ觀レバ死者ノ財産ニ右ノ如キ害ヲ加フルノ影響ヲ感スルコト實ニ甚タシキ者ハ相續人ノ他又タ是レアラサルナリ詳言スレハ此ノ如キ處分ニ利害ノ干係ヲ有スルコト殊勝ナルモ

ノハ獨リ死者ノ財産ヲ受ケタル者ノミ然レトモ彼等ノ愁歎ハ果シテ其當ナリ得タルモノナルヤ今其毫モ自己ノ勞力ヲ施サスシテ取得シタル財産上ニ無制限ナル所有權ヲ冀望スルヲ見レハ彼輩ノ愁歎ハ却テ尋常ヲ出テタルモノニシテ且ツ毫モ價値ナキモノト認ムルコトヲ得サランカ識者若シ眞ニ相續者ノ權利ハ果シテ何レノ點ニ其根源ヲ有スルカヲ探究センカ是レ當ニ彼等ノ身體ニ在ラサルヘク却テ其先人ノ身ニ在テ存セン而シテ該相續者ノ權利タル到底財產取得者ノ權利ニ比肩ス可キニ非ルコトハ世人ノ容易ニ領解スル所ナリ識者能ク此點ニ注意セヨ然ルトキハ取得者ノ權利ハ何等ノ制限ヲ受クルコトナク直ニ單手タル相續人ノ頭上ニ移轉セシムル能ハスト云フ觀念ハ愈ヨ其適切ナルヲ覺ヒン此事タル實ニ一點ノ疑ヲ容レサルモノナリ即チ一財産ノ所有者ハ屢絕對的ニ之カ處分ヲ爲スノ權ヲ有シトシテハ此等ノ相續者以外ノ人々ノ爲ニ單ニ財産ノ一分ノ處分權ヲ掌握スルハ常ニ吾人ノ視ル所ナリ然ルニ取得者カ爲シ得ヘキ所ノモノハ社會カ或ル制限内ニ於テ等シク之ヲ爲シ得サルハ抑モ何ノ故ツヤ夫レ取得者ノ財產集拾ニ干シテ助力セルモノハ即チ社會ニシ

「アレレ
ン」ブマ
ト本來ノ
異租稅ノ差

テ又タ其富財生産ニ干シテ有スル干係ノ時トシテ非希ニ大ナルコトハ本論ノ
始ニ於テ既ニ吾人カ明辯シタル所ニシテ今更ラ喋々ヲ待タサルナリ
以上簡明ニ説キ來リタル所ノ論據タル即チ余輩ノ主唱セル彼ノ「アレレ」ブマン
ノ公正ノ理ニ背戻セサルコトヲ證スルニアリ
此他國家ノ施行ニ係ル「アレレ」ブマン「ア」公正ナルヲ究極スルニ方リ猶ホ據ル
可キノ論據一ニシテ足ラサルナリ然リト雖モ今ヤ余輩ノ擧ケ示シタル數個ノ
論據既ニ其公且ツ正タルヲ審カニスルニ足ラン
個人財産上ニ於ケル國家權利ノ正當ナルコト夫レ斯ノ如シ故ニ是レヨリ學者
タル者ノ宜シク顧慮スヘキ所ノ要點ハ前ニ述ヘタル如キ方法ヲ以テ國家カ取
得セル金額使用ノ方法如何ヲ決スルニアリ然リ而シテ此等ノ「アレレ」ブマン
ト所謂ル本來ノ租稅トハ決シテ之ヲ混同ス可ラズ是レ宜シク注意ス可キ點ナ
リ夫レ此租稅タルヤ國家ニ於テ必ス満足セサル可カラサル必要ニ應給スル爲
メ常ニ緊切缺タヘカラサルモノナリ而シテ「アレレ」ブマン「ア」能ク國家公共ノ
利益ニ干スル許多ノ事業ヲ實施スルニ用キラル、モノニシテ此種ノ事業タル

紙幣ノ問
題ト社會
關係トノ

殊ニ社會上ノ資産ヲ増加シ公共ノ富財ヲ發達スルニ容易ナラシムルモノナリ」
紙幣ニ干スル問題ノ何タルコト及ヒ其決定ノ如何ナルコト斯クノ如シ抑モ紙
幣問題ハ理財學中頗ル重要ナルモノナルヲ以テ該問題ニ關シ余輩ハ世上未ダ
洽チカサル新思想ヲ述フルノ要ヲ感シタリ然リ而シテ此等ノ思想タルヤ大ニ
今日普通ノ思想即チ理財學上ノ輿論ト水炭相容レサルノ有様ナリ然レトモ余
輩ハ信ス眞理發見ノ方法ハ此等ノ思想ヲ措テ他ニ據ル可キモノナキ事ヲ故ニ
理論上少シク考究推理ノ勞ヲ辭セサル者ニ取リテハ以上述ヘタル理論タルヤ
絶對的ニ公正ノ理ニ適シ其明瞭ナル殆ント一點ノ疑ヲ容ル、ノ餘地ナキナリ
是ヲ以テ唯タ憂フ可キ者ハ其之ヲ實地ニ施行スルニ臨ンテ見ル事アルヘキ困
難是レナリ故ヲ以テ吾人理財ノ學科ヲ研究スル者ハ須ラテ全力ヲ此實地施行
ノ側ヨリ竭クス可キナリ加之ノミナラス余輩ノ常ニ腦裏ニ存スヘキ一點アリ
他ニアラス前段幾回述ヘ去リ説キ來リタル夫ノ社會的問題 Question sociale「ケス
チヨン」ン「シャール」ヲ決定スルニ方リ該問題紙幣ノ問題ト唇齒ノ關係ヲ有スル
コト是レナリ夫レ然リ故ニ余輩謂ヘラク第一ノ問題社會問題ヲ決定セント欲

セハ先ツ主トシテ第二ノ問題紙幣問題ヲ實際ニ應用スルコトヲ企圖スルニ非サルヨリハ奚何ソ其偉功ヲ奏スルヲ得ヘケンヤト其故何ソヤ此點ハ緊要ナルモノナレハ重複ノ煩ヲ恐レレス少ク陳述セントス他ナシ蓋シ現今世界上此ノ如ク窮民多キハ其至大至重ノ原因ハ流通貨幣即チ畧言センニ勞力ニ酬ユヘキ金錢頗ル一般ノ需用ニ對シテ不充ナルニアリ然ルニ其不足ナル貨幣ノ流通ヲ治スルノ策ハ已業ニ余輩カ明示セル方法ヲ措テ他又タ有ラサルナリ

單本位複本位ノ問題

余輩前段ニ於テ業既ニ紙幣ノ問題ヲ研究シ來レリ今ヤ步ヲ轉シテ本來ノ貨幣ニ關シテ最モ實際ニ適用多ク且ツ最モ最新ナル一問題ノ何モノタルヘキヲ知悉セン

抑モ貨幣ハ今日ニ在リテハ種々ノ金屬ヨリ組成セラレ、モノナルコトハ余輩ノ熟知スル所ナリ是ヲ以テ貨幣ノ中ニハ金ヲ以テ成ルモノアリ銀ヲ以テ鑄ラル、モノアリ又タ銅ヲ以テ造ラル、モノアリ而シテ銅ヨリ成ル所ノ貨幣ハ本來之ヲ論セハ單ニ補助貨幣 *monnaie d'appoint* 「モチ、ダッポアン」トナルニ過キサ

單本位複本位ノ問題

鑄鐵ハ自由ナラサルヘカラスルカ否

ルナリ

先ツ主トシテ論究ス可キ事項ハ貨幣鑄造 *monnayage* 「モチヒヤージュ」ハ自由放任ノ主義ニ本ツカサル可ラサルカ換言スレハ一切何人ヲ同ハズ苟クモ一ノ貨幣ヲ得ント欲セハ自由ニ其鑄造ニ供スヘキ金屬ヲ以テ貨幣トナサシムルコトヲ許ス可キヤ否ヤノ點是レナリ此問題ニ就キ先ツ第一ニ注目スヘキハ各個人各自ラ貨幣ヲ鑄造スルヲ得セシム可キヤヲ極ムルニ非ルコトナリ夫レ此ノ如キ問題ノ實際存シ得可カラサル事ハ當ニ一點ノ疑ヒナカラム何ソヤ此ノ如キ有様ニ於テ鑄造セラレタル貨幣ハ其之ヲ製作スルニ用ヒタル金屬ノ分量ニ干シテモ或ハ其純分ノ割合ニ干シテモ極メテ不正確不公平トナルヘケレハナリ是ヲ以テ各個人各自ニ之ヲ許スニ至リテヤ人民ハ各其得タル所ノ貨幣ヲ量ルカ爲メニ日常皆ナ秤盤ヲ有セサル可ラサルノ境遇ニ至ルヘシ夫レ然リ然リト雖モ此方法タル未タ決シテ充分ナルモノニアラサルナリ何トナレハ此方法ニ依ルモ未タ必ラスモ貨幣ノ純分ノ割合 *titre* 「チートル」ヲ知得シ能ハサル可ケレハナリ故ニ本問題ノ旨趣ハ貨幣ニ變形セラレサル金銀ノ原料ヲ有スル者ハ政

(理財學)

府ヨリ貨幣鑄造ノ權ヲ允許サレタル公倉銀行ノ如キニ行キ其已レカ掌裡ニ有
 スル所ノ金銀ヲ以テ其要スル所ノ貨幣ト交換セントコトヲ請求スルヲ得ヘキヤ
 否ノ點ヲ知ルニアリ

右述フル如ク本問ノ意味ニ於テ更ラニ疑ヒナシトセンカ余輩ハ直ニ謂ハント
 ス則チ貨幣モ亦タ他ノ物件ノ如ク一ノ商品ニ過キス故ニ此點ヨリ觀察ヲ下ス
 トキハ此權利(金銀ヲ貨幣ト交換スル)ノ正當ナルヲ辯スルコトヲ得ヘキモ此レ
 單ニ理論上ノ空言ノミ實際ニ於テハ決シテ各個人ハ此權利ヲ有スルコト能ハ
 サルナリト因テ此レヨリ余輩ノ唱道スル說ノ當レル所以ヲ説明セン若シ夫レ
 斯ノ如キ權利ニシテ總テ各個人ハ之ヲ行フコトヲ得ルトセンカ著額ノ資本ヲ
 掌握スル者又タ此目的金銀ト貨幣トヲ交換スルヲ以テ成立セル多クノ組合ノ
 如キモノハ貨幣ノ價額ニ干シテ如何トシテモ避ク可ラサル多少重大ナル變更
 ナ來タスコト實ニ望外ニ容易ナルヘケレハナリ然ラハ則チ必スヤ社會上凡百
 ノ事務取引上ニ時トシテハ恐ル可キ紊亂ヲ醸モシ其弊ヤ實ニ言フニ堪ヒサル
 コトアラン實ニ貨幣ハ其之ヲ組成スル所ノ原料ノ性質上ヨリ見レハ亦タ一箇

ノ商品ナリト云フハ或ル限度内ニアリテ蓋シ眞實ナル說ト謂フ可キナリ故ニ
 其結果トシテ此商品貨幣ヲ指スハ勢ヒ需用供給ノ法則ニ支配セラレサルヘカ
 ラス此ニ於テカ該商品ニシテ多ク市場ニ現ハル、トキハ其價值ハ從テ遞減ス
 ヘク又タ反對ニ小數ナルトキハ其價值ハ從テ騰貴スヘシ故ニ若シ一個人一會
 社ニシテ金銀原料ヲ一所ニ幅湊セシムルコトヲ得タランニハ(而シテ此原料幅
 湊(assortment)アカバلمان)ハ敢テ爲シ難キニ非ルナリ何トナレハ金銀ハ常
 ニ融通シテ須臾モ靜止スルモノニ非レハナリ此商品原料)ヲ多少久シキ時間留
 置シ以テ非常ニ其數ヲ少ナカラシメ從テ著シク其價額ヲ騰貴セシメ而シテ此
 際ニ乘シテ貨幣鑄造ヲ要求シ以テ巨額ノ奇利ヲ占メンコトヲ企ツルニ至ラン
 是レ前段ニ於テ余輩カ注目セシ如ク現時社會ノ融通貨幣ハ全額舉テ頗ル尠少
 ナルヲ思ヒハ愈ヨ右ノ如キ弊害ノ生シ易キヲ知ルニ足ラン夫レ今日社會ニ流
 通スル所ノ貨幣ハ大約六十シリヤールニ過キス而シテ一人ニシテ能ク一億弗
 若シクハ二億弗ノ巨額ノ金銀貨幣ヲ有スル者アルハ往々目擊スル所ナリ然ル
 トキハ以上述ヘ來リタル弊害ノ發生スルモ又タ偶然ナラサルヲ知ルヲ得ン夫

レ然リ故ニ此等ノ弊害ヲ除去セントセンニハ先ツ主トシテ保護處分ヲ施シ以テ斯ル危險ノ虞ナカラムルコトヲ企圖セサルヘカラス所謂ル保護處分トハ何ソヤ他ナシ政府若シクハ政府ヨリ認可セラレタル所ノ公舎ニ貨幣鑄造ノ專占權 (monopole du monnayage) [モノポールデモネーヤージュ] ナ悉皆附與スルニアリ然ルトキハ右ニ述ヘタル如キ射利的企計ヲシテ畫餅ニ對セシムルコト掌ニ國家公權ノ力ニアルヘキナリ

今ヤ余輩ハ前段ノ初メニ於テ金銀ハ或ル制限内ニアリテハ一箇ノ商品トシテ看做シ得可キ事ノ眞實ナル事ヲ説述セリ此斟酌ハ決シテ輕易視スヘキ者ニ非ル事ハ余輩ノ信シテ疑ハサル所ナリ加之ノミナラス金銀ハ他一切ノ物件ト等シク絶對的ニ純乎タル商品ニシテ獨リ其價額ヲ其本賦 (Substance) [ブスタンス] ヨリ取り敢テ貨幣鑄造ニ干シテ爲ス所ノ効能ニハ注意セスシテ可ナリト云フカ如キ考ハ決シテ採用ス可ラストハ是レ亦タ余輩ノ意見トスル所ナリ余輩謂ヘラク社會若シ某々ノ理由ヲ以テ金銀貨幣ノ流通ヲ禁止シテ一切之レナカラシメタル曉ニハ此等ノ費金屬タル實ニ其價額ノ最大部分ヲ減削セラルヘキ事

強制流通

單本位複本位ノ問題

瞭然タラント其故如何夫レ貨幣ニハ其市場價額 (Valeur Commerciale) [ヴァール・コンメルシャル] ノ外尙ホ若干ノ分量ヲ具ヒ若干ノ純分ノ割分ヲ有スル某貨幣ニ若干ノ價額ヲ附與スル所ノ一般ノ合意ヨリ生スル所ノ特別ノ價額アリ而シテ此價額即チ假定上ノ價額 (Valeur fictive) [ヴァール・フィクシエール] ノ基礎タル金銀貨幣若クハ何レカ一方ノ強制流通ニ存スルヲ以テナリ

強制流通ハ國々ニ由リ其規定ナリニヒス或ハ之ヲ金銀貨幣ニ附與スルアリ或ハ單ニ金貨ノミニ附スルアリ或ハ又タ銀貨ニ限り之ヲ附與スルアリ而シテ此ヨリ余輩ノ研究セント欲スル所ノ夫ノ單本位複本位ノ問題 (Question du monnaie et du Pluralisme) [クエスチオン・ド・モネー・タリスム、エ・ジ・ビメタリスム] ハ悉ク此等ノ差別中ニ存スルモノナリ抑モ單本位複本位ノ理論ハ殆ント普通一般ノ問題ト謂フモ可ナラン其故何ソヤ蓋シ今日理財學者ヲ以テ自ラ任スル者ハ凡テ該問題ヲ研究セサルコトノナカルヘク且ツ其論決深ク分離スルモノナルヲ以テナリ

此問題ニ關シテ二説アリ一チ單本位説ト曰ヒ一チ複本位説ト曰フ第一説ニ於

テハ苟クモ強制流通ニ附セラルヘキ貨幣ヲ鑄造セシカ爲メニ要スル貴金屬ハ唯一ナルヲ以テ可ナリトセリ否ナ必ス唯一ナラサルヘカラサルコトヲ主張セリ而シテ此說ヲ主張スル論者ノ中一派ノ者ハ金ヲ以テ此利益ヲ享クヘキモノトシ又タ他ノ一派ノ者ハ銀ヲ以テ唯一ノ原料トナスヘシト唱和セリ然レトモ深ク問題ノ根柢ヲ討究スルトキハ金ヲ以テスルモ銀ヲ以テスルモ敢テ重大ノ干係アルニアラサルナリ而シテ此種ノ論者ノ一般可ナリトスルモノハ金貨ノ流通ニアリトス夫レ然リ故ニ該主義ノ說ニ從ヒハ此二個ノ原物ノ中何レヲ取リ以テ貨幣ノ材料トナスト雖モ其依テ以テ鑄造セラレタル貨幣其者ハ必スヤ強制流通ニ服サ、ル可ラス此ノ如ク異論別說ノ發起スルハ單ニ學說上ニ就テノミ然ルニア產ラス實際ニ於テ各國其適用ヲ異ニシ或ハ單本位說ヲ採用スルアリ或ハ複本位ニ歸着スルモノアリ今其一ニサ舉ケンニ例ハ佛蘭西ノ如キハ純然タル複本位主義ヲ取レリト雖モ英吉利ノ如キハ全ク之ニ反シテ單本位ノ主義ニ則ルモノナリ故ニ余輩ハ右兩說ノ論據ノ如何ナルヤヲ研究シ以テ道理ニ近カル可キ決論ヲ爲サントス

單本位派
ノ論據

單本位ヲ是認スル論者ハ曰ハク是レ其最モ重ナル論據ト云フ可シ吾人カ第一ニ貨幣ニ就テ要求セサル可カラサルモノハ或ル限度内ニ於テ其價額ノ變動ヲ生セサル可キコト及ヒ其交換物トノ關係ノ絶エス維持セラレンコト是レナリ今複本位說ニ從ヘハ右等ノ貴金屬ハ商品ナルヨリシテ其價額ハ屢變更ヲ來スヘシ然ラハ則チ金ノ價額依然變動スルコトナキニ銀ノ價額ハ頗ル變更スヘク或ハ正反對ニ銀ノ價額ハ少シモ動搖セサルニ獨リ金ノミ其價額ニ非常ナル高低ヲ來スヘキハ勢ヒ免レサル所ナリ夫レ然リト雖モ貨幣ニハ各名價ナルモノ存スル故ニ流通ニ際シテハ此等金屬ノ間ニ存スル關係ニ著シキ變更ヲ生スルモ敢テ之ヲ認知スルヲ要セサルナリ是レ頗ル經濟ノ理法ニ背戾スルモノナリト謂ハサルヲ得ス何トナレハ其金貨若シク銀貨タルモノハ商業上ヨリ言ハ、全ク其固有ノ價ニ非ルヘキホト其名價下落スルコトアルヲ以テナリ夫レ此ノ如キヲ以テ複本位ヲ取ル所ノ國ハ益ス窮乏ノ慘況ニ陥ラン何シヤ其貿易諸國ニアリテハ各其支拂ヲ最モ貴高ナル原料ヲ以テ組成セラレタル貨幣ヲ以テセラレンコトヲ望ム可ク又タ各自ヨリ其購買ノ價值トシテ與フル所ノ貨幣

ハ其價額ノ劣等ナル者ヲ以テセン事ヲ欲ス可ケレハナリ今爰ニ英佛二國ノ關係ニ就テ其然ル所以ヲ辨晰セン方今英吉利ハ單本位ヲ取ル所ナリ之ニ反シ佛蘭西ニハ複本位ノ制行ハル今二國ノ人民互ニ通商貿易ノ業ヲ營ムト假定セン而シテ銀ノ價額頗ル下落セリト想像セン是レ眞ニ現今ノ有様ナリ必スヤ英吉利人民ハ佛國ノ貨幣ヲ其表面上ニ指示スル所ノ價額ヲ以テ受クルコトヲ肯セサルヘシ其故何ゾヤ夫レ佛國ノ貨幣ハ之ヲ商業上ヨリ觀察スレハ其價額遙ニ其表面上ノ價額ト相ヒ背馳スルモノアレハナリ又タ佛蘭西人民ノ側ヨリ之ヲ視レハ亦タ其銀貨幣ヲ其實質即チ商業上ノ價額ヲ以テ與フルコトヲ屑シトセサルヘシ如何トナレハ此種ノ貨幣ト雖モ等シク其表面上ノ價額ニ應スル物ヲ供シテ以テ取得シタルモノナレハナリ故ニ佛國商人ハ金貨ヲ以テ其仕拂ノ用ニ供スルナルヘシ然ラハ大ニ自己ノ爲メニ有利無損ナルヘケレハナリ以上ハ是レ英國商民カ佛國商人ニ對シテ債權者ノ地位ニ立ツ場合ヲ假定セリ以下余輩ハ佛國商人カ英國商人ニ對シテ債權者トナレル場合ヲ豫想セン此場合ニ於テハ彼レ英國ノ商人ハ必スヤ佛國債權者ニ對シテ銀貨ヲ其表面上ノ價額

ニ由テ評定シ之ヲ以テ自己ノ辨濟ニ充ツ可キコトヲ請求スルナラン商業上ノ市場價額如何ニ拘ハラス佛國商人ノ債權者タルモノハ前シテ之ヲ領承スヘシ何トナレハ佛國ニ在リテハ此銀貨タル交換買賣ノ點ニ就キ金貨ノ具有セル價額ニ相當ノ割合ヲ有スル價額ヲ存スルヲ以テ該佛國人ノ爲メ毫モ損耗ヲ來スコトナカル可ケレハナリ右按用セル所ノ實例ニ就テ熟考スルニ先ツ一方ヨリ佛國人民ハ其辨濟ヲ爲スニ付キ一切金貨ヲ以テ其用ニ充テ英國商人ハ正反對ニ其佛蘭西ニ向テ爲ス所ノ辨濟ハ一切銀貨ヲ以テスルナリ然ルモノハ單ニ銀貨ノ悉ク佛蘭西ヲ出テ、英吉利ニ入り英吉利ヨリ佛蘭西ニ得ルモノハ單ニ銀貨ノミナルコトハ自然ニ流出スル所ノ結果ナリト謂フヘシ是ニ由テ之ヲ觀レハ銀貨ハ其指示セラレタル價額即チ名價ナリニ比シテ遙カニ低下ノ商業上ノ價額ヲ有シ金貨ニ比シテ遠ク其下風ニ立ツコトアリトセハ佛國ハ孤貧零落英國ハ富貴幸榮ノ一演劇ヲ觀ルニ至ラント

以上ハ則チ單本位主張者カ主張スル所ノ論據ナリ是レ頗ル有力ナルモノ、如ク又タ眞正疑フ可カラサルニ似タリ然リト雖モ俯シテ事物ノ眞相ヲ熟觀ス

右論據ノ
批難

レハ此論據タル蓋シ思ヒ半ハニ過タルモノアラン先ツ何等ノ顧慮スル所ナク
 余輩ノ公言シ得ル所ノモノハ單本位論者カ復本位ニ對シテ加フル所ノ攻難辨
 論タル決シテ實際ニ現出セサルコト是レナリ是レ古來久シク英國ニ單本位行
 ハレ佛國ニ復本位用キラル、モ毫モ起ラサル所ナリ而シテ實際佛國ハ金貨ナ
 有スルコト英國ニ讓ラス或ハ却テ其古ニ出ツルモノアラン此ノ如ク實際ノ現
 象能ク理論ニ打テ勝ツ所以ノモノハ如何ン其理由頗ル簡單ナリ則ハテ理論ハ
 最大有力ナル若干ノ事實ヲ輕々看過スルニ之レ因ラスンハアラサルナリ即チ
 曰ハク英國人民カ佛國商民ニ爲ス所ノ仕拂ハ銀ヲ以テ之ヲ爲スナラント然レ
 トモ是レ全ク佛國ノ銀貨ヲ以テスルニ非サレハ到底不可ナル所以ヲ遺忘セル
 モノナリ何トナレハ縱令ヒ佛國人民ト雖モ佛國銀貨ニ非レハ其本國ニ於テ流
 通スルモノナキヲ以テ決シテ英國ノ鑄造ニ成ル所ノ銀貨ヲ受取ラサルコト蓋
 シ一點ノ疑ヲ存スル餘地ナカルヘケレハナリ然ラハ英國人民ト雖モ其佛國銀
 貨ヲ掌握センニハ等シク其名價ニ從テ相應ノ出損ヲ爲サ、ル可カラサルナリ
 故チ以テ今英國商人カ佛國人ニ百弗ノ銀貨ヲ以テ仕拂ヲ爲サントスルニ際シ

其銀貨ヲ獲ンニハ該價額ニ相當スル物量ヲ出スニ非レハ到底之ヲ得ルニ難カ
 ルヘシ夫レ斯ノ如シ故ニ單本位主唱論者ノ論據ニシテ世人ノ唱フル如ク有價
 有力ノモノトナランニハ英國人民カ佛國ノ銀貨ヲ取得センニハ敢テ其名價ニ
 相應スル價金ヲ出スニ及ハス商業上ノ價額ニ因テ之ヲ得ヘキコトヲ想像セサ
 ルヘカラス然レトモ是レ決シテ爲シ能ハサル所ナリ前已ニ述ヘタルカ如ク佛
 國銀貨ノ鑄造セラレタルニ方リ其之ヲ有スル先鞭者ハ蓋シ佛國人民ニ措テ他
 ニ在ラサル所ナリ而シテ該佛國人民ハ其名價ニ劣レル報償ヲ受ケ以テ銀貨ヲ
 與フルカ如キハ萬有ル可カラサルナリ故ニ若シ斯ノ如キ事實有ランコトナ欲
 セハ宜シク英國人民カ自ラ銀ヲ以テ佛國貨幣ヲ鑄造スルヲ得サル可ラス然ラ
 ハ則チ該英國人ハ一個貨幣偽造ノ犯罪者トナラサルヘカラス乃チ佛國刑法ノ
 問フ所トナラサル可カラス乃チ全ク理財學ノ範圍外ニ屬ス可キ事實トナリテ
 終ランノミ

單本位主唱論者ノ據テ以テ重シト爲ス所ノ論據ノ最大ナルモノ大略右ニ述ノ
 ルカ如シ余輩曩ニ該論據タル當ニ實際ニ於ケルノミナラス理論上ニ於ケルモ

單本位ノ
難受クル批

尙ホ世人ノ稱スル如ク重且ツ大ナルモノニアラスト斷言セリ此他余輩ハ該論據モ亦タ余輩カ前ニ序列セル所ノ批難ニ類似セル攻撃ヲ受ケサルヘカラサルコトヲ注目セシムヘシ而シテ其攻撃ハ尙ホ一層甚タシキモノアリ夫レ二種ノ貨幣相共ニ流通スルトキハ其中一種ノ貨幣ハ其之ヲ組成スル原料ノ價額遞減ヨリ其市場價額ヲ減少スルニモ拘ハラズ他一種ノ貨幣ノ存在スルヨリ勢ヒ其減價ノ度ヲ薄カラシム可キコトハ疑ヒナシ何トナレハ此第二種ノ貨幣ハ等シク法律上制定セラレタル價額ヲ以テ其割合(兩者ノ)ヲ變スルコトナク流通ス可キヲ以テナリ而シテ余輩カ攻撃スル所ノ反對論者ノ批難ニシテ眞ニ正確ナラシニハ全ク貨幣鑄造ノ絶對的自由ヲ許サ、ル所ノ場合ニ於テ然ルノミ即チ銀塊ヲ有スル冒險者ハ必スヤ銀ノ價額最モ低下スル時ニ乘シテ之ヲ購求シ以テ貨幣ヲ鑄造セシメンコト圖ルヘケレハナリ是ヲ以テ須ラク貨幣鑄造ハ自由ナル可ラス國家ノ專占ニ爲セシメサル可ラス且ツ其利益ノ源泉ト爲サ、ル可ラス是レ實ニ複本位論者ノ唱和スル所ナリ

余輩是レヨリ單本位論者ノ主唱スル夫ノ唯一貨幣ノ制ヲ行フニ於テハ其結果

單本位ノ
結果

果シテ如何ナルキヤ究明セントス余輩ハ曰ハシ該理論ニ從フモ尙ホ其唯一ノ貨幣タル其低價ノ現象ヲ來タスヲ免レス而シテ此等ノ現象ハ複本位ノ場合ニ於ケルヨリモ尙ホ甚シカルヘシ何トナレハ他ニ貨幣ノ存スルモノナキヲ以テ之レカ對價トナルモノナケレハナリ是レ則チ單本位ノ場合ニ關シテ想像シタルモノナリ然リ而シテ金亦タ銀ト同シク一ノ商品ナリ故ニ他一切ノ商品ト等シク價額ノ變更ヲ免レス乃チ總テノ場合ト同シク此場合ニモ亦タ需用供給ノ法則ノ適用セラル、ヲ視ル今茲ニ金ヲ掘出スル大廣沃饒ナル一個ノ鑛坑ヲ發見シタリトセン貨幣運搬ノ節略ノ用方益ス傳播セリトセン而シテ是ト同時ニ金ノ要求緩慢ニ至レリトセン然ルトキハ此種ノ原料ノ價額ハ益ス減少スヘキナリ然レトモ此ノ如キ價額ノ變動起ルニ拘ハラズ金貨ハ依然其名價ヲ保有スルナルヘシ何トナレハ縱令ヒ一度金屬ノ價額ニ瑣少ノ變動ヲ來タスト雖モ容易ニ貨幣ノ改鑄ヲ行フコト爲シ得ヘカラサルモノナリ是ヲ以テ流通ニ際シ辨濟ニ際シ十弗ト記載シアル所ノ貨幣ハ等シク十弗トシテ受取ラサルヘカラズ而シテ其貨幣ノ實價ハ決シテ十弗ニアラサル故ニ十弗トシテ之ヲ受取ルコト

能ハスト否拒スルヲ得サルナリ此金屬ノ價額低減ヨリ自然ニ流出スル結果アリ交換物件ノ價額ノ増加是レナリ然レトモ此レ全ク本論ノ場合ニ非ルナリ以上説明スル所ヲ以テ單本位其者モ亦タ貨幣ノ價額低減ノ規則ヲ逃避スルコト能ハサルナリ而シテ此場合ニ於テモ尙ホ貨幣鑄造ノ自由主義ヲ行ハシメハ奇利ヲ獲ントスル者ハ自己ノ有スル金塊ヲ貨幣ト爲サンカ爲メ金ノ價額意外ニ下落スルノ時ヲ待ツナラン

以上説述セラル所ニ由テ之ヲ觀レハ單本位ノ主論者カ唱ヘテ以テ復本位固有ノ弊害トナス所ノモノハ實際ニアリテハ等シク兩方ニ共通ナルコト得テ知ルヘキナリ此レ金銀共ニ商品ニ過キサルヲ以テ亦タ他一切ノ商品ト等シク其價額ノ變更定マリナカル可キヲ以テ到底斯ク了ラサル可ラサル所ノ事實ナリト謂ツ可シ故ヲ以テ反對論者カ復本位ニ加フル所ノ批難ハ眞ニ甚タ有力ナルモノニ非サルナリ則チ如何ナル場合ニ於テモ復本位主義ノミ獨リ此批難ヲ被ムルモノニアラサルコトハ余輩ノ前ニ業ニ目撃セル所ナリ然ルニ單本位ニ對シテハ更ニ却テ重大ナル攻撃ヲ加フルコトヲ得ヘシ眞ニ單本位主義行ハルニ於

單本位設
ノ最モ攻
難ヲ受ク
ヘキ點

テハ恐ル可キ一弊害ノ起ルアラン而シテ此弊害タル曩ニ余輩カ貨幣不足ノ點ニ關シテ下シタル所ノ説明ヲ深ク玩味セル後ニアリテハ實ニ輕易視ス可ラサル者ナリ夫レ現今理財學カ其全力ヲ竭シテ以テ治療センコトヲ旨トスル所ノ社會上ノ大疵アリ他ニアラス世界人民多數ノ窮乏(Pauperism)ボーベリスムニ是レナリ而シテ此窮乏ノ一大原因ハ今日流通貨幣ノ稀少ナルニ職由セスンハアラズ何トナレハ現時社會ノ狀態ヲ觀察スレハ貨幣ハ即チ民生日常百般ノ需要ニ應シ之ヲ満足セシム可キ唯一ノ方法ナルヘケレハナリ而シテ是レ余輩已業ニ充分ニ論究セシ所ナリ故ニ余輩ハ方今社會問題ヲ解答スル點ニ於テ最モ必要欠ク可ラサルモノハ流通資本(Capital Circulant)カモタールセルキラン(ナ増加スルニ適當ナル方法ヲ探究スルニアルコトヲ確定セリ是ニ由テ之ヲ觀レハ現今余輩ノ取テ以テ可トスル所ノ説ニ從ヘハ單本位ヲ以テ復本位ニ代ハルニ於テハ余輩果シテ如何ナル情況ニ立ツヲ得ヘキヤ蓋シ單本位獨行スルニ方リテヤ必然ノ結果トシテ生スル所ノ現象ハ流通資本ノ額ヲ著シキ割合ニ減少スルニアルニ非サルカ然ラハ則チ余輩ノ抱持スル所ノ原則ニ違ハセント欲セハ斯

ノ如キ結果ニ導ク所ノ主義ハ先ツ第一着ニ之ヲ排撃スルコトヲ務メサル可ラス反對論者或ハ曰ハン希クハ復本位ノ削除必ス斯クノ如キ結果ヲ生スルモノナリト謂ハサルコトナト又タ曰ハン獨リ單本位ヲ行フモ決シテ願慮スル所ナケン銀貨ハ充分巨額ニ達シ常ニ補助貨幣ノ用ニ位スルヲ得ヘシ加之今日マテノ經驗ニ由レハ單本位ノ制定ヲ取リシ所ノ國ニシテ未タ嘗テ他ノ各國ヨリ一増貧窮ノ境遇ニ陥入リシモノハ有ラサルナリ故ニ余輩ノ指摘スル所ノ危險タル單ニ純平タル皮想ニ過キサルナリト

此論タル實ニ其根柢ノ薄弱ナルモノナリ余輩乃チ左ニ其然ル所以ヲ畧述セシ今一方ヨリ之ヲ論センニ單本位主義ノ結果トシテ銀貨ヲ消滅セシム可ラストハ反對論者ノ主張スル所ナリ此說タル即チ該主義ノ不可ナルコトヲ攻撃スルニ他ナラス夫レ一方ニ於テ貨幣ハ唯一ナラサル可ラスト主張シ同時ニ此貨幣唯一ノ結果ヲ惹起スルノ不可ナルコトヲ唱フル所ノ主義ハ果シテ如何ナルモノナルヤ要スルニ二者何レカ一方ニ歸着セサルヘカラス單本位行ハレンカ即チ貨幣ハ一種ナラサルヘカラス貨幣二種類ナラサル可ラサンカ即チ單本位

實例

存ス可カラサルナリ又タ他ノ一方ヨリ觀察スレバ單本位ノ制ニ基ツク所ノ國ハ敢テ反對ノ主義ニ依ル所ノ國ニ比シテ毫モ貧富ノ隔絶スルモノナシト云フニ至リテハ抑モ又タ眞ナリヤ今一國ノ資産ヲ其總休ノ上ヨリ觀察シ敢テ個人的ノ利害ヲ計營セスンバ夫レ或ハ眞ナラン然リト雖トモ今ヤ一般ノ幸福上ヨリ之ヲ觀察シ普通ノ情態ヨリ之ヲ研究シ元來所謂ル人民ナルモノヲ組成スル所加之ズ以上繰々陳述シ來リタル所ノ正當着實ナルヲ確証スルニ足ルヘキ事實敢テ擧ナシト爲サハルナリ今ヤ余輩ハ爰ニ英吉利佛蘭西ノ二國ヲ比較シ以テ一個ノ迪例ヲ示サン曩キニ余輩カ明言セシ如ク英吉利ハ單本位主義ヲ採用スル所ナリ然ルニ佛蘭西ハ其反對ニ出テ即チ複本位ニ其主義ヲ汲ムモノナリ而シテ余輩ノ目撃スル所ニ由レバ後者ハ前者ニ比スレバ其國人民貧窮ノ度ハ遙カニ渺少ナルコト蓋シ疑フ容レサルニアリ彼ノ英吉利ニ於テハ絶大ノ富ヲ有スル者數多アリト雖トモ赤貧洗フカ如キ可憐ナル人民ハ實ニ枚擧ニ暇アラサルナリ蓋シ窮乏ボーベリスム其破竹ノ勢ヲ逞フシ人ヲ傷ツクルノ莫大ナル實ニ此國ノ特有ニシテ世又タ其類ヲ見サル所ナリ是ニ反シテ佛蘭西ニアリテ

ハ拔群ノ富者頗ル稀レナリト雖トモ中正ノ財產家ノ多數ナルコトハ遠ク英吉利ノ右ニ出ツル所ナリ此故ニ「ボベリスム」モ亦タ至ル所トシテ存セサルコトナキカ如ク佛蘭西モ其害ニ觸ルハト雖トモ英吉利ニ比スレバ其勢ヒ實ニ微弱ヲ極ムルモノナリ然リ而シテ余輩常ニ謂ヘラク此ノ如キ情況ニ佛蘭西ヲ安置セシムル所ノ原因ノ主要ナルモノハ蓋シ該國ニ於テ其流通貨幣トシテ採用スル彼銀貨頗ル巨額ナルニ是レ由ラスンバアラスト夫レ然リ實ニ現今ノ情態ヲ視察スレバ工場ニ勞働スル所ノ職工力夫ハ其報酬トシテ受クル所ノ賃銀ハ大概ネ金貨ヲ以テスルニアラス所謂ル彼等ノ賃銀ナルモノハ一般ニ少許ニシテ金貨ニ依リテ行フ所ノ富財分配ノ方法ニ因リ之ヲ受クルニ足ラサルナリ加フルニ此種ノ階級ニ位スル人民ノ感スル所ノ必要ナルモノ其直接ナルコト其急迫ナルコト實ニ甚タシク到底此種ノ貨幣(金貨ヲ指ス)ヲ貯存シ得ルノ餘裕アルヘキニ非ルナリ然ラバ則チ必然ノ結果トシテ之ヲ貯フル能ハズンバ即チ之ヲ交換セサルヘカラス故ニ苟クモ該交換ニシテ容易ニ爲サントコトヲ欲セバ多少銀貨ヲ多額ナラシメサル可ラス而シテ余輩ガ前ニ指摘セル所ノ單本位主義ヨ

單本位國ノ弊害ノ簿キ所以

リ生スル所ノ弊害ナルモノハ現時ニアリテ其恐ル可キコト何人モ爭ハサルニアリト雖トモ若シ該主義ニシテ世ニ普及センカ乃チ余輩ハ其害ノ一増甚シキモノアルヲ見ン

今日單本位ノ行ハル、所ノ國ニ於テ余輩カ喋々辨スル所ノ諸般ノ弊害ニシテ幾分カ其度ヲ減スル所以ノモノハ蓋シ復本位主義ニ基ツク所ノ國々ニ存スル所ノ凡百ノ情況アルヲ以テナリ何ヲ以テ之ヲ謂フ乎夫レ復本位國ニ於テ銀ガ其價額ヲ保有スルニ方リテヤ勢ヒ必ス此同一ノ貨幣銀ヲ謂之ハ單本位國ニ於テモ亦タ著シク之ヲ保有ス可ク然ルトキハ此等ノ情形ニ由テ縱令ヒ銀ハ其法定ノ價額(Valour légale) ヲアル、レガール)ヲ有セサルモ然レトモ流通上ノ市場價額(Valour marchande) ヲアル、マルシヤンド)ヲ有スルヲ以テ世人ハ容易ニ之ヲ承受スベシ然リト雖トモ將來ニ於テ如何ナル國ニアリテモ一切銀ニシテ法定ノ價額ナカラシメンカ即チ全ク流通セサルニ至ルヘキハ蓋シ瞭然タル事實ナリ

世人謂フコトヲ止メヨ銀ハ常ニ其市場價額ヲ有スルモノナリト今夫レ銀ニシ



テ其法定ノ價額ヲ剝奪セラレンカ其結果未タ必ラスシモ其市場價額ヲ奪フニ至ラサルコトハ或ル限度内ニアリテハ敢テ誣言ニアラサルナリ何トナレハ今其使用上ノ利益ノ點ヨリ觀察スレハ銀ハ常ニ或ル價額ヲ有スルモノナレハナリ然リト雖トモ若シ銀ヲ以テ流通ノ使者トシ以テ其有益ノ點ヨリ觀察スルトキハ右ノ觀念タル絶對的ニ虛妄ナルモノト謂フヘシ世間貴重ノ物品尙ホ一ニシテ足ラサルナリ加之銀ニ比スレハ遠ク其右ニ出ツル所ノ物品亦タ渺ナシトセバ而シテ此種類ノ物品ハ甚タ著大ナル價額ヲ有スレトモ今之ヲ分配セントセバ一交ノ價値タモ有セザルモノナリ例バ金剛石ノ如キ其爭フ可ラサル價額アルニモ拘ハラス其取得ノ著シキ費用ニアルニモ拘ハラス一個人間ノ利益上ノ關係賣買交換等ヲ指スニ於テ何等ノ用ヲモ爲サスト云フヲ得ヘシ凡ソ如何ナル人ト雖トモ自己ノ債權者ニ辨濟スルニ此種ノ價額ヲ以テセントスルノ思想ヲ浮フル者ハ蓋シ是レ有ラサルヘシ然ラハ則チ銀ト雖トモ其法定ノ價額ヲ失シタランニハ其運命敢テ金剛石等ト選ブナケン

加之法定ノ價額ヲ附與スルノ一事ヲ以テスラ勢ヒ銀ハ其市場價額ヲ失フ可キ

コトヲ附言スルハ蓋シ又タ失當ニ非ルナリ何トナレバ既ニ貨幣鑄造ノ一事ノミニ供セントセンカ其有益ノ範圍ハ狹少トナル可ク其使用ハ頗ル頻繁ノ域ヲ脱ス可ク從テ其需用モ制限セラル可ク而シテ需用供給ノ大則ノ迪用トシテ其價額ハ減少スヘキナリ且ツ此他尙ホ銀貨ニ附着セル各價ノ減失ニ相當スル所ノ價額ノ減少アルヘキナリ

以上余輩カ論究セシ所ノ單本位説ノ危險ハ理財學者ヲ分派セシムル此重大ナル問題ヲ決定スルニ當リテ頗ル重大ナル關係ヲ有スルモノタルヲ忘ル可ラス余輩ノ眼中絶對的ニ單本位説ノ不可ナルヲ論駁センニハ理財學者ノ配慮ス可キ要點ハ常ニ爲シ得ヘキ丈ケ適當ノ度ニ於テ社會的問題ヲ決定スル爲メニ用フ可キ最良ノ原素タル流通價額 (Values de circulation) ヲアルールド、シル、キラシヨ、ンヲ増殖スルニ有ラサル可カラサルヲ以テ足レリトス抑モ此目的タル實ニ重大ナルモノナレバ余輩理財學ヲ攻究スル者ニアリテハ常ニ之ヲ遺忘スカラス故ヲ以テ茲ニ重複ヲ願ミス再ヒ之ヲ陳述セリ

總括的沿革的ノ觀點ヨリ單本位復本位ノ大問題ヲ余輩ハ如何ニ認定スルヤ又

三ノ銀價下落原因二

多其金輩カ取ル所ノ趣意ハ何レニアルヤ以上述ヘ來リタルノ諸點ハ即チ其概略ヲ告クルニ足ルモノナリト信スルナリ然レトモ今ヤ爭フ可ラサル一現象ノ有ルアリ他ニアラス銀ハ金ニ比シテ其價額ヲ減少セシコト既ニ久シキコト是レナリ

抑モ此減價ノ諸原因ハ何レニアルカ此等ノ原因ハ頗ル數多ナリト謂ツヘシ故ニ余輩ハ簡短以テ之ヲ指示セント欲スルナリ

第一原因 古ヨリ銀坑ノ產出額ハ金坑ノ產出額ニ比スレバ非常ニ優レリ今夫レ金銀兩鑛間ニ平均ヲ得セシメニハ一「キロ」ノ金ヲ發見スル間ニ二「キロ」若クハ三「キロ」ノ銀ヲ發見セハ可ナリ然ルニ世人カ銀ヲ發見スルコト實ニ著シキナリ而シテ年々歳々採取スル所ノ金鑛ノ總額ハ銀鑛ノ額ニ比シテ甚タ大ナルハ真ニ疑ヒナキ所ナリ然リト雖トモ若シ銀ノ產出ハ金ノ產出ヨリ多キコト十倍ニ達スルトキハ縱合ヒ銀鑛ノ價額廉ナリト雖トモ(金ニ比シテ)今ヨリ數年ノ後ニアリテハ如何ナル結果ニ至ルヘキヤ實ニ豫想ニ勝ヘサルナリ茲ニ余輩ハ廿年間毎年五百「ミリ」ヲン弗ノ金ヲ採掘スト假定セン又タ年々三百「ミリ」ヲン弗ノ銀

ヲ發見スト豫想セン然ルトキハ二十「年」ノ後ニ於テ七「ミリヤール」弗ノ金(六「ミリヤール」弗)ノ銀ヲ有スルニ至ルヘシ今此ヲ重量ニ約セバ三百五十萬「キロ」ノ金ト三千万二「キロ」ノ銀トノ割合ニ至ルヘシ而シテ金ノ重量ト銀ノ重量トノ間ニ存スル此驚クヘキ差異ハ交換市場ニ於テ金ニ比シテ銀ノ價額ヲ著シク減少セシメシ所以ナリ

第二原因 銀ノ價額喪失ノ第二ノ原因ハ吾人日常使用上ノ利益ニ於テ爲ス所ノ金ノ効能ノ點ヨリ觀察スレバ金ハ遙ニ銀ノ右ニ出ツルコト此レナリ最モ少ナキ分量ノ下ニ最モ著シキ價額ヲ含蓄スル所ノ貨幣ハ運搬最モ輕便ナリ故ニ容易ニ流通ニ附スルヲ得ベシ夫レ然リ然リト雖トモ此減價ノ原因ハ敢テ敷演ス可キモノニアラス如何トナレハ今日ノ情態ニ於テハ苟クモ貨幣トナリタル金屬ニシテ辨濟ヲ果サンカ爲メ一國ヨリ他國ニ運搬セラル、カ如キハ實ニ稀有ノ珍事ナルヘケレハナリ普通ニ今日ハ此等ノ辨濟ヲバ簡單ナル書面ヲ以テ行フナリ貨幣運搬ノ勞ハ聊カモ取ルコトナクシテ銀行ガ渡ス所ノ手形ヲ以テ之ヲ行フナリ設令一旦已ムヲ得ズシテ貨幣ノ運轉ナシトセサルモ金銀ノ間ニ其費用ニ關シ敢テ著シキ經濟ナキナリ而シテ實際ヲ顧ミレバ此種ノ物件ノ運搬ハ

其價額ニ依テ定メラレシテ其分量ニ依ルニアラサルナリ故ニ例バ十萬弗ノ銀貨ノ運搬ハ十萬弗ノ金貨ノ運搬ト其費用相ヒ等シク金貨ノ重量銀貨ニ比シテ十六倍ノ下ニアルニ拘ハラサルナリ

第三原因 第三原因ハ銀ノ價額減少ノ最モ重大ナル原因ナリ則チ泰西諸國カ古ヘ東方諸國(小亞細亞ノ方ヲ指ス)ニ輸出セシ巨額ノ銀ハ現今著シク其度ヲ減少セリ此ニ由テ一切此種ノ金屬ハ住時盛ニ輸出セラレタル國土内ニ堆積山ヲ爲スニ至リ其數實ニ夥シク從テ其價額下落スルニ至レリ

銀價下落ノ最要ナル原因斯ノ如シ然リト雖トモ余輩ハ銀價下落ノ現象アルニモ拘ハラス前ニ單本位複本位ノ二個ノ理論ヲ研究スルニ方リテ余輩カ説述セル所ノ觀念ハ余輩飽マテ之ヲ主張セント欲スルナリ人若シ銀ヨリ法定ノ價額ヲ剝奪センコトヲ欲スルカ此ノ如キ術策ニシテ行ハルハトキハ著大ナル損失ヲ來スヲ免レサルヘシ然ルニ實際既ニ之ヲ施行スル所ノ國若干アリ而シテ皆ナ銀價ノ下落ニ因リ重大ナル影響ヲ被リタリ真ニ銀ヨリ法定ノ價額ヲ奪取セントスル所ノ國家ハ銀貨ヲ所持スル所ノ人民ニ價フニ金貨ヲ以テセサル可カラズ然

注 意

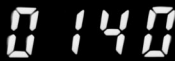
國際商業

自由貿易
ト保護貿易
ト關
スル論ノ
基本

ルニ此金貨タル國家ノ爲メ非常ニ負擔ヲ來タスヘシ何トナレバ銀貨ハ其價額ノ中ニハ純然タル假定的ノ部分若干ヲ包含スルヲ以テナリ是レ前ニ既ニ余輩カ注目セシ所ナリ然リ而シテ銀ノ運命ハ如何世人必ス各種ノ物件ヲ製造スルニ用ユルナラン即チ其有益ノ一大部分ヲ剝奪スルニ至ラン

國際商業(Commerce international)

凡ツ字内ノ各國ハ一トシテ孤立獨存ヲ企圖スルコト能ハズ各國皆ナ相互間ニ商業上ノ關係ヲ保持ス此關係タル或ハ交互ノ利益ノ爲ニシ或ハ其産業的生活ノ傳來ニ因リ或ハ各國消費ノ需用上或ル點ニ於テ多少不足ナル所ノ生産ノ必要其者ノ爲メニ之ヲ繼續スルモノナリ此等諸種ノ原因ハ字内各國ノ間ニ勢ヒ商業上ノ關係ヲ存在セサル可カラサルニ至ラシムト雖トモ然レトモ此等ノ關係タル宜シク其規定ヲ爲サ、ル可カラス是レ則チ外國ノ産業ガ其生産上ニ於ケル迅速ナル進歩ノ爲メ若シクハ本國ノ産業ニ比較シテ優等ノ地位ニ存在スル所ノ粗成品生産條件ノ爲メニ本國ノ産業ト競争ヲ願ミ以テ之ヲ微弱ナラシムカ如キ虞ナカラシカ爲メナリ此結果ニ達センカ爲ニ要スル所ノ方法術策ノ探究ハ



古理論ノ要

即チ自由貿易ト保護貿易トニ關スル一團ノ理論ヲ構成ス
 學理上甚タ緊要ニシテ既ニ非常ナル議論ヲ醸成シタル該理論ハ矢張り實際ノ
 點ヨリ觀察スルモ其重大ナルコト言フ須タス何ツヤ該理論カ惹起ス可キ實際
 ノ結果ハ實ニ喜ブ可ク又タ悲ム可キモノアリ則チ一國立法者カ理財上ノ一制
 度ヲ設定スルニ方リテ其何レヲ基礎トスヘキ其採ル所ノ主義ニ因テ一國ノ繁
 榮衰頽必ス二中ノ一ニ居ル可ケレハナリ
 斯レ夫レ此ノ如シ故ニ余輩ハ右二個ノ主義何レカ優レルヤ聊カ之レカ研究ヲ
 試ミ以テ前段ニ述ヘタル如ク實ニ重大ナル結果ヲ生ス可キ真理ヲ發見センコ
 トヲ務ム可シ

自由貿易

先ツ第一ニ研究スヘキ要點ハ所謂自由貿易トハ何ツヤ自由貿易ハ何ヲ以テ
 組成セラル、ヤ且ツ其歸着スヘキ決論如何ト云フニアリ自由貿易 (libre exchange)
 リーブル、エシャンジ)ハ其名稱ノ指示スル如ク各國間ノ商業上ノ關係ハ絶對的
 ニ自由ナラサルヘカラス如何ナル規定ヲ以テモ此關係ヲ支配スルノ要ナシト
 云フヲ主眼トスルモノナリ此主義ヲ尊崇スル所ノ輩ハ曰ク自然ノ勢ヒニ由テ爲

第一論據

サル、所ノモノハ即チ善ク爲サル、所ノモノナリ而シテ最モ善ク各人ノ需用
 ヲ満足セシム可キモノナリ
 此第一主義ノ論者カ唱ヘテ以テ論據トナス所ノモノニシテ重要ナルモノハ左
 ノ如シ

第一 夫レ人理財學上ニ於テ到達セント欲スルトコロノ數多ノ目的中其主要
 ナリト謂ツヘキモノハ果シテ何邊ニ存スルカ既ニ余輩ガ屢ハ述ヘ去リ説キ來
 リタル所ニ由テ之ヲ視レバ即チ其主要ナル目的トハ社會最多數ノ民生ヲシテ
 可得の其各自ノ需要ヲ完全以テ満足セシムルヲ得セシムルノ點ニ有ルモノト
 謂フベシ然ルニ人其消費ヲ爲スニ方リ必要ヲ感スル所ノ物品愈ヨ廉價ニ購求
 スルヲ得ルトセンカ其力能ク之ヲ取得スルニ堪ユル者亦タ愈ヨ其數ノ倍蓰ス
 ルヲ見ルヘシ是レ實ニ已ムヲ得サルノ勢ヒナリ然リ而シテ其種類ノ何タルヲ
 問ハス苟クモ生産物ヲ賣買スルニ方リ廉價以テ之ヲ購フコトヲ得ルハ自由貿
 易ノ力ナリ自由貿易唯一ノ致ス所ナリ是レ明亮一點ノ疑ヲ容レザル所ナリ眞
 ニ所謂自由貿易トハ如何ナルモノナルヤ蓋シ自由貿易ハ競爭 (concurrence) ナ

キユランス)ノ擴張ニ他ナラサルナリ然ルニ此競争タル當ニ内國生産家間ニ存
 在スルノミナラス尙ホ進ンテ内國生産家ト外國生産家トノ間ニ行ハルヽナリ
 此ニ於テカ外國生産家ハ其競争ノ結果トシテ將來物價ノ低落ヲ見ル可キ所ノ
 市場ニ其生産物ヲ持チ來タスナルヘシ是レ則チ自由貿易ノ利益ナリ此利益タ
 ル實ニ争フ可ラサルモノニシテ且ツ何人モ其重大ナルヲ認ムルナラン何トナ
 レバ其力ニ依テ消費者ハ最モ便宜ナル條件ニ由リ必要品ヲ取得スルヲ得ベク
 以テ其地位生産者ノ右ニ出ツルニ至ル可ケレバナリ然ルニ消費者ハ所謂ル社
 會上最多數ナルモノナリ
 以上ハ則チ自由貿易主論者ガ其持説ヲ維持センカ爲メニ唱道セルトコロノ第
 一ノ論據ニシテ實ニ一錢ノ價值ダモ有セサルモノト謂ツヘシ然レトモ此論據
 タル反對論者カ揚々以テ主唱スル所ノ論據中最モ有力ナルモノナリ加之決シ
 テ争フ可ラサル真理ノ存スルヲモ願ミズ全ク主觀的ニ觀察セラルヽモノナリ
 夫ノ自由貿易ハ消費者ノ爲メニ極メテ便宜ナルモノナリ自由貿易ハ能ク消費
 者ヲシテ可及的廉價ニ其需用物品ヲ取得スルヲ得セシムルモノナリ何トナレ

第二論據

ハ自由貿易主論者ノ謂ヘル如ク彼等ノ主義ハ大ニ競争ヲ擴張盛大ナラシメ而
 シテ其競争ハ物價低廉ノ一大要件ナレハナリ是レ余輩ガ反複説述シタルトコロ
 ナリ此故ニ余輩ハ之ヲ以テ反對主義ノ論據中最優ナリト確信スルモノナリ又
 タ該論據ノ理論的價值ニ付テモ毫モ争ハサルモノナリ然リト雖トモ余輩カ注意
 セシメント欲スル所ハ該論據タル必スシモ抽象的ニ之ガ觀察ヲ下スヘカラサル
 コト是レナリ尤モ余輩ハ此點ニ關シテ茲ニ喋々スルコトヲ爲サヽルナリ加之
 該論據ハ毫モ實益ヲ見ル可キモノニ非ルコトハ後ニ詳論スルヲ待テ知ルヘシ
 今夫レ消費者ヲ其總体ヨリ觀察シ又其一般ノ行爲ヨリ注目スルトキ一二消費
 者ニ他ナラス而シテ亦タ同時ニ生産家ナリ生産家トシテ觀察ヲ下スニ於テハ
 消費者相互ノ關係ハ勢ヒ保護干渉ノ必要ヲ感スルナリ
 第二 自由貿易主論者ノ所謂ル第二ノ論據ハ下ノ如シ曰ク自由貿易ハ之ヲ採
 用スル諸國ノ衰弱ヲ來タスモノニアラス何トナレハ自由貿易ノ行ハルヽニ於
 テハ其犠牲トナルヘキ産業決シテ尠少ナラサルヘシト雖トモ亦タ一方ニアリテ
 ハ産業ノ變更ヲ視ル可キナク乃チ或ル産業ニ於テ從來某々ノ方法ニ由リ利用

セラレタル努力ハ轉シテ他ノ産業ニ入り以テ將來異別ノ方法ニ由テ利用セラルヘキナリ

余輩ハ左ニ一例ヲ舉ケ以テ此論據ノ旨趣ノ存スルトコロヲ容易ニ知悉セシメントス則チ二國相互ニ對立スルモノヲ假想セン例バ英吉利ト佛蘭西ノ如キ是レナリ此中佛蘭西ハ保護貿易ノ下ニ在リテ七フランノ代價ヲ以テ麻布ヲ製シ五フランノ代價ヲ以テ綿布ヲ造リ他國即チ英吉利ハ麻布ヲ製スルニ五フランヲ要シ綿布ヲ造クルニ七フランヲ費サハル可ラズ然ラバ則チ此二種ノ生産品各自ノ價額ハ正反對ヲ爲スモノト謂フ可シ此ヲ以テ人若シ佛蘭西ニ於テ此等ノ物品ヲ購ハント欲セバ綿布ハ五フランヲ以テ之ヲ購求スルヲ得ヘシト雖トモ七フランヲ拂フニ非ルヨリハ麻布ヲ得ルコト能ハサルナリ詳言スレハ此二種ノ生産品ハ共ニ合セテ十五フランヲ價ス可シ是同シク英吉利ニ於テハ麻布ハ僅カニ五フランニ過スキト雖トモ綿布ハ却テ十フランノ價アリ然ラハ則チ其價額ノ總計ハ亦タ等シク十五フランヲ爲スヘシ此總計タル十五フランハ則チ消費者ガ此二種ノ生産品ヲ得ンガ爲メニ支拂ハサル可ラサルモノナリ

今此所ニ自由貿易ヲ應用セバ如何ナル結果ヲ生スヘキカ則チ下ニ説述スヘキ所ノモノ生セン夫ノ英國産出ノ麻布ハ其價五フランニ過キサルヲ以テ佛蘭市場ニ來ルナラン此市場ニ於テハ此種類ノ生産物ハ七フランノ價額ヲ有スルナリ故ニ英國ノ麻布獨リ其勢ヲ逞フシ一舉以テ佛蘭ノ麻布ヲ壓倒スルナラン何トナレバ前ニモ述ヘタル如ク英國ノ麻布ハ其價頗ル廉ナルヲ以テナリ故ニ人必ス英國麻布ヲ購求スルヲ欲セン而シテ此麻布カ英國ニ於テ價スルトコロノ五フランニ運搬手工等ノ諸費用ヲ代表スル所ノ一フラン若シクハ二フランヲ加ヘルトキハ此生産物タル佛蘭市場ニアリテハ六フラン若シクハ七フランノ價額ヲ爲スヘシ而シテ綿布ハ前既ニ述ヘタル如ク其價ハ五フランナレバ消費者ハ此二種ノ生産物ヲバ十一フラン若シクハ十二フランヲ以テ購買スルヲ得ヘシ然ルニ保護貿易ヲ實施センカ曩キニ縷述シタル如ク十五フランヲ費スニ非レバ之ヲ得ルコト能ハサルヘシ

右述ヘタル所ノ事實ト同一ナル現象又タ反對ノ方向ヲ以テ英國ニ發起スルナラン乃チ英國ノ市場ニ於テハ佛蘭産出ノ綿布其全權ヲ有シ英國製ノ綿布ヲ踰

第三論據

セサル可キコト是ナリ

第三 終リニ自由貿易論者ガ自家ノ主義ヲ貫徹センカ爲メニ主張スル第三論據ハ左ノ如シ

各國際上ノ貿易ハ如何ニ之ヲ取扱フ可キカ蓋シ今日ニアリテハ價額ト價額ノ交換ニ依ラスンバアラス而シテ其出捐ノ對價トシテ受取ル所ノ價額タル或ハ既製品ナルアリ或ハ粗製品ナルアリ而シテ其出捐ナルモノハ或ハ他ノ生産物ヲ供與スルアリ或ハ金錢ヲ以テスルアリ蓋シ金錢ハ其物自体ヨリ謂ハハ純然タル商品ニ外ナラス是レ曩ニ余輩ガ述ヘタル所ナリ夫レ然リ故ニ一種ノ價額ニ換フルニ他ノ價額ヲ以テセンカ蓋シ此價額タル異種ニ屬スルモノナル可ケレトモ價額トシテハ同一ノ代價ヲ有スルヲ以テ此レカ爲メニ敢テ貧窮ニ陥井ルモノハアラサルナリ是レ實ニ明々白々ノ事實ナリ唯タ已レ優價ノ物件ヲ出シ肯テ劣價ノ物件ト交換スル輩ハ貧窶亦其所以ナキニ非スト雖トモ然トモ一價額ヲ與ヘ其代ハリニ同等ノ價額ヲ受クル者ハ毫モ窮乏ノ虞ナキナリ

附言 上來屢ハ代價額ノ二語ヲ使用セリ今茲ニ此二語ノ差異ノ存スル處

保護貿易

自由貿易ノ一言センニ價額トハ原語之ヲ (Value) ヲアルールト曰ヒ代價トハ原語之ヲ (Price) プリート曰フ而シテ其所謂價額ハ物件自体ノ價值 (value) 也自由貿易トニシテ代價ハ此價值ノ評定 (Estimation) ヲスチマツシヨ (ン) ナリ故ニ價額ニ價額ハ代價ノ定規 (Measure) レーグルナリト謂フヘシ

以上述ヘ來リタル數個ノ論據ハ自由貿易ヲ主張スル學者ガ其主義ヲ維持センカ爲メニ援引スル所ノ最も重要ナルモノナリ

今ヤ余輩ハ歩ヲ轉シテ保護貿易トハ果シテ如何ナルモノナルヤ及ビ此主義ノ基本トシテ唱道セラル、論據ノ如何ナルヤヲ研究セント欲スルナリ保護貿易ノ制ヲ採用セントナラバ須ラツ先ツ自由貿易主義ノ論據ヲ駁撃セサルヘカラス蓋シ此等ノ論據タル即チ今ヨリ余輩ノ研究セントスル主義ニ對シテ批難ヲ形成スルヲ以テナリ是ニ由テ之ヲ觀レバ保護貿易トハ外國ノ產物ガ或ル國ノ疆域内ニ入ラントスルニ際シ若干ノ稅ヲ課シ以テ國內ノ産業ヲシテ有益ニ外國ノ生産ト競争スルヲ得セシメンコトヲ務ムル所ノ主義ナリ前段既ニ豫シメ

說述シタル如ク保護貿易ヲ主張スル論者ハ決シテ自由貿易論者カ引用スル所

第一論據ノ重要ナルヲ爭フ能ハサルナリ而シテ其所謂第一論據トハ自由貿易ノミ獨リ能ク國民中最多數ヲ占ムル所ノ消費者ニ其需用ヲ満足セシムルニ足ルモノナリト云フニアリ然リト雖トモ保護貿易ヲ主唱スル者此批難ニ答フルコトナキモ皆ナ此點ニ於テ自由貿易ガ與ヘ得ル所ノ幾多ノ利益ハ其主義(自由貿易)ヲ應用スルニ由テ生スヘキ所ノ許多ノ弊害トハ決シテ權衡ヲ得サルモノナリ

自由貿易論者ノ第二ノ論據ハ自由貿易ハ其結果唯タ勞力ノ轉移ニアルノミ決シテ之ヲ消耗スルモノニ非ルナリ即チ幾種ノ産業ハ衰微可憐ノ状態ニ陥ユルモ其爲ニ使用セシ所ノ勞力ハ去テ他幾種ノ産業ニ移リ此等産業ハ頓ニ其勢ノ旺盛ナルヲ觀ルヘシト謂フニアリ此論據タル保護貿易ノ說ヲ唱フル者ノ爲メニ下ノ如ク反駁セラレタリ而シテ此反駁タル頗ル其當ヲ得ルニ近シ乃チ曰ハク今自由貿易ノ制行ハルニ方リテ爲メニ萎微衰滅ニ歸セントスル産業ニ就テ從前利用セラレタル勞力ハ決シテ全ク消失スルカ如キコトナキハ余輩ト雖トモ亦タ決シテ疑ヲ容レサルナリ然ラバ則チ是等ノ勞力ハ當ニ轉シテ他ノ方

針ニ向テ進行スルナルベシ然リト雖トモ之ヲ昔時習熟セル事業ニ使用シタルニ比スレバ其現ハス所ノ有益ノ度果シテ如何ゾヤ實ニ宵壤ノ差アルヘレ加之其得ヘキ所ノ利益ニ至テモ亦タ奚ゾ月籠ノ事ナキヲ保センヤ今日ハ社會問題最モ嚴格ニ發起スルノ秋ナリ可得爲の廣大ナル度ニ於テ勞力ヲ利用セシメントスルハ學者ノ孜孜トシテ達セントスル目的ノ最モ重モナルモノナリ然ルニ自由貿易ニシテ行ハレンカ若干ノ産業ニ於テ勞力使用ノ途ヲ得タル一切ノ勞働者ハ即チ換言スレバ保護貿易ノ爲メニ生計ヲ營ムコトヲ得又勞力者全体ハ勢ヒ必ス他ノ産業ニ其勞力使用ノ方便ヲ求メサルヘカラス然ルニ今日ノ情態ヲ以テ之ヲ觀察スレバ此等ノ産業ハ既ニ其勞力ノ満足ヲ告ゲ其外ヨリ使用セラレンカ爲メ現出スル所ノ勞力ハ業ニ過分ヲ極メ到底其使用ヲ求ムルノ餘地ナキナリ加之此勞力移轉ノ一事ヨリ生ス可キトコロノ損害ナルモノハ實ニ尠少ニアラサルヘシ昨ハ其産業頗ル盛大ヲ極ハメタル産業家モ今ハ其資本ニ供スヘキ元品其産業上ノ種々ノ結構家屋器具等苟シクモ産業上設定スル所ノモノヲ總稱ス不使用ニ因テ一増貧窮ニ陥ユルナラン好シ一步ヲ退ツキ彼等産業

家ハ此ノ如ク貧窮ニ迫マルコトナシトスルモ彼等猶ホ能ク他種ノ産業ヲ創定スルノ力アルヤ否其新ニ産業ヲ企圖スルニ際シテハ彼等能ク其必須ナル智識ヲ具有スルヤ否彼等布帛ノ製造ニ干シテハ頗ル巧妙ナリトスルモ金銀細工師トナルニ於テハ果シテ亦タ巧妙熟練ナルヤ否實ニ余輩ノ疑念百端ナル所ナリ願ミテ勞力者ヲ視レバ其狀頗ル相似タルモノアリ即チ彼等ガ其勞働ヲ爲スニ際シ必要欠ク可ラサル職業上ノ熟練ナルモノハ多少永年ノ習業ニ據ラズレバ決シテ之ヲ得ルコト能ハザルナリ反對論者ハ彼等ヲシテ老年ニ及ンテ再ヒ新奇ノ習業ヲ爲スニ餘義ナクセント欲スルヤ既ニ之ヲ行フト雖トモ彼等眞ニ能ク其新ナル習業ニ於テ前日ト同一ナル熟練ヲ得ンコトヲ必ス可キヤ否是レ亦タ頗ル疑ハシキ所ナリト

以上述フル所ノ諸種ノ疑問ハ則チ保護貿易主義ノ論者ガ對抗スル所ノモノナリ而シテ此等諸ノ疑問ニ對シテ保護貿易主義ノ爲メ頗ル不利益ニ解答セラレルナリ今ヤ世界ノ人民ハ將ニ成ラントスル革命ノ前ニアリ又タ其結果ハ果シテ如何ナルモノナルヤ秋毫モ之ヲ窺伺スルコト能ハサルナリ世人ガ豫想シ得

ル所ノ結果ト雖トモ最モ不祥ナルモノニシテ直接社會上大多數ヲ占ムル所ノ人集ハ其産業ノ解散ヨリ全ク貧窮ノ境遇ニ沈落スルノ慘狀ヲ呈スルニ至ラン加之余輩ノ批難スル證據ニ由レバ幾多ノ生産家ハ其使用スル所ノ職工ト共ニ自由貿易ノ實施ニ因リ衰滅ニ歸セサルヲ得スト雖トモ此等ノ被害者ノ數ハ實ニ尠少ニシテ彼等ノ利益ハ彼ノ消費者ヨリ成ル所ノ多數人民ノ利益ノ下ニ屈セサル可ラスト云フモ此說ヤ決シテ眞正ナルモノニ非ルナリ夫レ生産家ナルモノハ之ヲ其全体ヨリ觀察シ決シテ其執ル所ノ生産業ノ異別ナルカ爲メ互ニ之ヲ孤立分派ス可キモノニ非ルナリ則チ彼等ハ必スヤ得テ分裂ス可カラサル團軀ヲ組織スルモノニシテ其利害ハ常ニ全局面ヨリ觀察セサル可ラサルナリ然ルニ生産家ヲ以テ目ス可キ人民ノ階級ハ如何ニ饒多ナリト雖トモ且ツ最モ緊要ノ地位ヲ占ムルモノナリト雖トモ亦タ同時ニ消費者ナルハ蓋シ一點ノ疑ヲ存セサル所ナリ然リト雖トモ此等ノ人民ヲ遇スルニハ殊ニ生産家ノ資格ニ於テセサル可ラス何トナレバ此資格アルヨリシテ彼等ノ職務ハ最モ有益ナルノミナラス尙ホ最モ保護ヲ受クルノ價值アルモノト謂フヘケレハナリ

終リニ保護貿易論者ハ下ニ説ク所ノ如キ觀察ヲ以テ自由貿易論者ノ第三ノ論據ニ應答セリ曰ハク自由貿易ヲ賛成スル者ハ曰ハク自己ノ要スル所ノ物品ヲ外國ニ購求スル者ハ毫モ貧ニ迫マルノ虞ナケン何ゾヤ是レ單ニ價額ト價額ノ交換ニ他ナラサレハナリト此説タル實ニ薄弱ナルモノニシテ彼等ハ即チ價額Valourナル語ニ笑フ可キ意義ニ干シテ重大ナル誤謬ヲ爲スモノト謂フ可シ凡ソ製造セラレタル物件即チ一切ノ生産物ハ各自相應ノ價額ヲ具有スルハ正ニ明白ナル所ナリ然レトモ彼消費セラル、生産物ハ多クノ場合ニ於テハ純然タル無的ノ價額ヲ有スルモノナリト謂フヲ得ベシ其然ル所以ハ他ナシ人若シ一種ノ生産物ヲ取得スル時ニ存在スル所ノ價額ナルモノハ幾何モナクシテ其物件ノ消費ニ因テ消滅ス可ケレバナリ例ヲ以テ是ヲ審ニセンニ余偶々卷烟草ヲ買ヒリ而シテ其對價トシテ余ノ之ヲ購ウトキニ十錢ヲ拂ヒタリ然ラハ則チ余ハ余ノ掌裡ニ十錢ノ價額ヲ具ウル生産物ヲ有スルヤ疑ヒナシ何トナレハ余之ヲ購ウニ十錢ヲ要シタレハナリ此故ニ余之ヲ有スル間ハ人當ニ或ル點マテ曰フコトヲ得ン余ハ毫モ損失ヲ被ムルコトナシト雖トモ若シ余ニシテ一旦此

卷烟草ヲ喫シ去ランカ又々同日ノ論ニ非サルヘシ余ノ爲シタル消費ハ此價額ノ純乎タル滅失ヲ來タサザル可キヤ然ルニ其對價タル常ニ余カ拂ヒタル貨幣其者ニ存シ毫モ消滅スルコトナク轉遷更ラニ他ノ掌裡ニ歸スルナルヘシ生産ヲ以テ直接ノ目的ト爲サザル彼ノ一般ノ消費ニ供スル生産物ニ就テハ昔ナ前例ニ述ヘタル所ト一般ナリ蓋シ余輩ノ研究スル所ノ論據タル若シ之ヲ他ノ生産ニ要スル所ヨリ消費ス可キ生産物ニ應用スルトキハ若干ノ價值アルハ疑ヒナキ所ナリ例バ勞働ヲ爲スニ必須ナル力ヲ人ニ附與スルカ爲ニ用弗ラル、養生品ノ如キ即チ是レナリ此等ノ生産物ハ其供給ヲ外國ニ仰クモ産業社會ノ人民ニ何等ノ危険ヲモ來タスコトナカラン而シテ彼等ハ其外國ヨリ購買スル養生品ノ價額ハ即チ外國ニ與ウルモノナレトモ彼等ハ此物件ノ力ニ依リ勉勵努力以テ凡百ノ生産物ヲ製造スルコトヲ得ン又々其生産物ハ再ヒ之ヲ同一ノ外國ニ販賣シ其得タル所ノ代金ニ依リ以テ前キニ食物ヲ購ウカ爲ニ要シタル費用ノ還償ヲ得ルノ外尙ホ其勞力ノ報酬ヲモ收ムルコトヲ得ルナラン夫レ然リ然リト雖トモ前段既ニ述ヘタル如ク茲ニ余輩ノ研究スル所ノ論據ノ應用セラル、

ハ管々單ニ此種類ノ生産物ニ限レルコトヲ忘ル可ラズ其他所謂ル消費ガ生産
 ノ爲メ直接ニ何等ノ利益ヲモ與ヘサル所ノ一切ノ生産物ニ關シテハ即チ其消
 費最終ニシテ利益ナキ此等ノ生産物ニ關シテハ人之ヲ外國ニ求ムル毎ニ必ズ
 幾何ノ貸財ノ滅殺ヲ免ル、能ハサルヘシ故ニ此不利益ヲ避ケントナラバ此等
 ノ生産物ニ費ス可カリシ若シ之ヲ外國ニ求メスト假想セバ人力ヲバ少クトモ
 同等ノ利益ヲ生シツ、他ノ方向ニ利用センコトヲ務メサル可カラズ此最終ノ
 觀察ハ余輩前既ニ研究シ解答ヲ爲シタル自由貿易論者ノ第二ノ論據ト對照セ
 サル可カラサルナリ

保護貿易
ノ利

保護貿易ヲ主唱スル學者カ自由貿易主義ノ論據ニ向テ爲ス所ノ應答ハ既ニ上
 ニ述フル如シ今ヤ余輩ハ保護貿易ノ主義ニ特別ナル論據ヲ論究セントス
 說ヲ爲シテ謂フ者アリ曰ハク保護貿易ニシテ一般ニ施行セラル、トキハ社會
 民生ハ可得爲の完全ニ其勞力ヲ利用スルヲ得ヘシ容易ニ其職業ヲ執ルヲ得ヘ
 シト既ニ余輩カ述ヘタル如ク理財學ガ達セントスル直接ナル目的ノ一ハ實ニ
 此勞力使用ノ點ニ存スト謂ツヘシ若シ夫レ此ノ如ク爲スコトヲ得バ一國ノ需

用ハ凡テ其固有ノ産業ヲ以テ満足セラル可ク其希望シ得キモノハ必ズヤ余
 輩各人ノ利益ト重大ナル關係ヲ有スル萬全ノ地位ニアルヘシ

又該主義ヲ唱フル學者ノ說ニ曰ク保護貿易ハ一國人民ニ必須ナル生産物ヲ供
 給ス可キ一切ノ産業ヲ成立セシム從テ其需用ノ供給ヲ外國ニ仰クノ苦痛ヲ免
 レシム蓋シ一國カ助ヲ外國ニ求ムルニ當ツテヤ往々特別ノ情况例ヘハ戰爭ノ
 如キモノカ其交通ヲ遮斷シ爲メニ其需用ヲ満足スルコト能ハサルニ至ラシム
 第三或ル一派ノ保護貿易論者ハ曰ク余輩ノ採ル所ノ主義ニ依レハ廉價ニテ外
 國ヨリ購求シ得ラル可キ幾多ノ生産物ヲ高價以テ取得スルニ至ラシム然リト
 雖トモ此價額ノ倍蓰スルアルモ實際其價額ノ全部タルヤ依然國民ノ掌裡ニ存
 ス可ク從テ其視ル所ノモノハ同一國內各個人間ニ資本ノ流通アルノミ敢テ
 國民富財(La richesse nationale)ノ缺乏スルコトナシ之ニ反シテ自由貿易ノ制ニ依
 レハ消費ノ金錢ハ去テ外人ノ手ニ入ル可ク隨テ國民ノ集合的資産(Le patrimoine
 collectif)ヲ減少スヘシト

右ニ述フル所ハ則チ保護貿易論者カ自家ノ主義ヲ貫徹センカ爲メ好シテ引用

スル所ノ重ナル論據ナリ然レトモ此等ノ論據タル頗ル非難ス可キモノアリ以下之ニ對スル答辯ヲ略述セシ

彼自由貿易ハ價格ト努力トノ利用ヲ得セシム之ニ反シテ保護貿易ハ此ノ如キ効用ナシトノ論據ニ至テハ余輩ハ真ニ其然ルヲ觀ル然リト雖トモ是レ唯タ一定ノ限度内ニ於テノミ敢テ絶對的ニ然ルニ非サルナリ蓋シ保護貿易ハ幾多ノ産業ニシテ成立否ヲ繁榮ナラシムルモ自由貿易ノ下ニ在テハ此等産業ノ全ク活動スル能ハサル可キコトハ何人モ之ヲ認知セサルハ勿ルヘシ抑モ此一事タル之ヲ公益上ヨリ觀察スルトキハ果シテ喜フ可キモノナルカ保護貿易ノ代ハリニ自由貿易ノ制度行ハルハノ曉ニ及ンテハ努力資本ノ右諸種ノ産業ヲ活動セシムルニ用井ラシキモノハ必スヤ無爲靜止スルコトナカルヘク尙ホ一層利益アル他種ノ産業ニ趣クナラン而シテ其最良ノ使用ニ因リ頗ル利潤ヲ見ルナラン

以上ハ則チ保護貿易ノ第一論據ニ對スル答辯ナリ第二ノ論據ニ答フ可キモノハ一國ニ於テ若干ノ産業カ其生存ニ欠ク可カラサルトキハ之ヲ保維持續セシ

メンカ爲メニ必要ナル方法ヲ採ラサル可カラサルコトハ蓋シ疑ヲ容レサルニアリ然リト雖トモ是レ決シテ保護貿易ノ絶對的理論ヲ以テ見ルヲ得サル所ナリ何トナレハ以下余輩カ示スカ如ク眞理ハ自由貿易ト保護貿易トノ正當適切ナル調和ニアリテ存スレハナリ此故ニ國家盛衰ニ至重ノ關係ヲ有スル産業アラシカ宜シク保護貿易ヲ採用スヘシ然レトモ此思想ヲハ度外ニ敷衍ス可カラ

終ニ第三論據ニ依レハ保護貿易論者ノ所謂保護貿易ノ實益ハ資本ヲ國內ニ保存スルニアリ何トナレバ曩ニ余輩カ述ヘタルカ如ク其結果トシテ見ル可キモノハ同一國民各自ノ間ニ其資本流通アルニ過キサルヲ以テナリ然リト雖トモ是レ唯タ相對的ニ眞實ナルノミ何ヲヤ自由貿易ニ於テハ資本ハ出テ國境ヲ離レニ歸ル可ク加之殖産ニ因テ生シタル増價ヲモ携帶スルノ利益アレハナリ是レ蓋シ保護貿易ニアリテハ殆ント見ルヲ得サル所ナリ此ニ於テ乎一般ノ財産ハ依然同様ナルモ其國內流通ノ爲メ何等ノ増價ヲモ來タサハルナリ

余輩カ保護貿易ノ論據ニ向テ爲シ來リタル駁撃ト余輩カ曩ニ自由貿易ニ關シテ諸種ノ弊害トハ共ニ余輩ニ示スニ真理ノ存スルハ決シテ絶對的ニ觀察セザレタル此等兩主義中ノ何レニモ存セサルヲ以テナリ余輩當ニ以爲ラク真理ハ兩主義ノ調和ニ存ス而シテ其困難ナル問題ハ如何ニシテ調和ヲ爲ス可キヤヲ知ルノ一點ニアリトス各國ノ形勢ニ從ヒ其産業ノ狀態ニ由リ其採ルヘキ所ノ方法ハ種々ナラサルヲ得サルヘシ例ハ甲國ニ於テ最モ行ハル可キ者ハ自由貿易ナリトスルモ乙國ニ在テハ保護貿易却テ其要地ヲ占ムルコトナキヲ保セサルナリ製造工業ニ重ヲ委ヌル國民アランカ宜シク自由貿易ヲ採用スヘシ何トナレハ此主義ニ依ルモハ生産ハ之ヲ爲スコト頗ル容易ナル可ク而シテ生産ノ容易ナルハ産業繁榮ノ一要件ナル可ケレハナリ之ニ反シテ農業的國民アランカ若シ其農業上ノ產出ニシテ毫モ外國ノ生産ヲ仰グノ虞ナク却テ自己生産ノ一分ヲ外國ニ輸出スルヲ得ルカ如キ狀態ニ在テハ寧ロ保護貿易ヲ以テ全般ノ樞器ト爲サ、ル可ラス

右ノ如ク一般ニ原則ヲ確定スルヲ得タランニハ自今研究ス可キモノハ各國ニ於テ如何ナル産業ヲ爲スヤ其行ハル、狀態如何又其活動ト維持トハ公共ノ繁榮ニ充分有益ナル可キヤ之レニ反シテ其消滅ハ一分ノ利益ニ妨碍ヲ加フルコトアルモ一般ノ利益ニ對シテ重大ナル結果アラサル可キヤ等ノ諸點ヲ明知スルニアリ深奥ナル研究ニ由リ此等ノ點ヲ知悉スルヲ得ハ則チ第一ノ場合ニ於テハ右所謂産業ハ保護ノ要アル可ク第二ノ場合ニ於テハ其之ヲ要セサルヲ知ル可シ

保護貿易ノ論據ニ答フルニ當リテ余輩ノ述ヘシ如ク目スルニ緊。急。ヲ以テス可キ産業ハ常ニ之ヲ保護セサル可ラサルハ一點ノ疑ヲ容レサルナリ然ラハ則チ如何シテ此思想ヲ實行スルヲ得ヘキヤ自由貿易ヲ採用スルニ方リテハ蓋シ簡短容易ナルヲ覺ユルナリ諸港灣ヲ外人ニ開ケハ則チ足レリ外人ヲシテ自由ニ出入スルコトヲ得セシムレハ則チ足レリ此ノ如クニシテ自由貿易ハ業ニ行ハレタルオリ之ニ反シテ保護貿易ヲ實行センカ此ノ如ク簡易ヲ期ス可ラサルナリ何トナレハ先ツ保護ノ方法中如何ナルモノカ最モ適當ナルヘキヤ之レヲ知ラサルヘカス夫レ産業ニ必要ナル保護ヲ附與スヘキ方法タル蓋シ一ニシテ足ラ

保護貿易
ノ方法

サルナリ

今ヤ余輩ハ此等ノ方法ニ就テ研究スルニアルノミ若シ其研究ニシテ幸ニ得ル所アラシカ余輩ハ將ニ研究ノ歩ヲ止メントス

然リ而シテ其數多ノ方法中特ニ首メニ述フ可キモノハ關稅 (Tariffs) (duties) ナリトス關稅ニ關レテ通商條約ノ各國民間ニ締結セラル、ノ極メテ頻繁ナルハ人ノ能ク知ル所ナリ所謂關稅トハ何ソヤ各種ノ外國生産物、カ、或、ル、國、内、ニ、入、ル、ニ、際、シ、之、ニ、賦、課、ス、可、キ、租、稅、ニ、過、キ、サル、ナ、リ、蓋、シ、此、等、ノ、租、稅、タ、ル、ヤ、保、護、ヲ、要、ス、ル、産、業、ニ、向、テ、政、府、カ、與、ヘ、ン、ト、ス、ル、保、護、ノ、限、度、内、ニ、於、テ、其、額、ノ、増、減、ス、ル、ヲ、見、ル、モノナリ此ニ於テカ此等ノ關稅ハ加重以テ海内商品ヲ苦ムルヨリ遂ニ外國産業ヲシテ全ク内國産業ト顔顔スルコト能ハサルニ至ラシムルコトナシトセス何トナレハ課稅ニシテ加重己ムコトナクシテハ勢ヒ外國生産物ハ必ス高價ヲ以テ販賣スルコトヲ勉メサルヲ得サル可ケレハナリ是レ即チ世人ノ所謂禁止的關稅 (tariffs prohibitive) ナリ抑モ禁止的 (prohibitive) テウ語ヨリ起リ禁止スルテウ語ハ即チ妨碍スル (empecher) 遮截スル (defende) ノ意味ヲ有ス

ルモノナリ重稅ノ實際外國産業ノ競争ヲ妨クルヤ右ノ如シ關稅ハ其組織一般ニハ甚タ簡單平易ナルカ如シト雖トモ實際往々重大ナル難問ヲ惹起スコト甚シトセサルナリ何ソヤ汝ノ爲メニ妨碍セラル、外國ハ又汝ニ對シテ同様ノ手段ヲ用ユ可ク又一國民ニシテ其保護的關稅ニ依リ以テ己レヲ保護スルコト適宜ノ程度ヲ超過センカ外國一切ノ商港ハ亦皆同様ノ關稅ヲ以テ閉鎖セラル可ケレハナリ故ニ幾分ノ輸出的商業ヲ營マント欲スル國々ハ保護的關稅ヲ用フルコト極メテ輕キヲ要スルナリ

内國産業ヲ保護センカ爲メニ應用シ得可キ所ノ第二ノ方法ハ一般ニ所謂産業補助 (primas & Industrie) ナリトス此方法ニシテ一旦實施セラレシカ敢テ又彼保護的關稅ノ力ヲ藉ルヲ須ヒサルナリ又敢テ外國生産物ノ國內ニ入ルニ當リテ之ニ多少高額ナル租稅ヲ課スルノ要ヲ見サルナリ何トナレハ内國生産物ハ其之ヲ生産スル者ニ附與スル補助 (primas) 中許多ノ利益ヲ享クルヲ以テ此等外國ノ生産物ハ内國生産ニ比シテ遠ク其下風ニ在ル可ケレハナリ補助トハ不利益ナラズ狀態ニ在ルカ爲メ到底外國競争ノ衝ニ起チ屹然顔顔スル能ハザル所ノ産業

ニ對シテ政府カ種々ノ方法ニ依リ供給スル所ノ補償ヲ謂フナリ余等カ斯ノ如ク定義ヲ下シテ政府カ種々ノ方法ニ依リ供給スル所ノ補償ナリト爲ス所以ハ現ニ實際各種ノ方法ヲ以テ救助ヲ行フモノナレハナリ今其然ル所以ヲ知ランニハ或ハ生産物ノ分量ニ匹敵ス可キ金額ヲ以テスルコトアリ或ハ生産家ノ爲ニ他ノ産業ノ負擔ニ係ル若干ノ租稅ヲ納ムルノ義務ヲ免除スルコトアリ或ハ政府カ生産家ニ對シテ其産業カ活動セシムルニ充分ナル價ヲ拂ヒ以テ其生産物ヲ要求スルコトアリ蓋シ此等ノ方法タルヤ政府カ或ル生産家ヲ補助スルニ臨ミ依ル可キ所ノ方法中最モ重ナルモノト謂フ可キナリ此他尙ホ幾多ノ方法アリト雖トモ敢テ一々喋々スルノ要ヲ見ス何ツヤ以上余輩ノ述ヘタル所能ク補助ノ何者タルヤヲ明亮ナラシメタル可ケレハナリ此種ノ保護方法ハ前述關稅ニ比シテ有益ナルハ我ト等シク保護的租稅ヲ設立スルナル可キ外國ノ方ヨリ毫モ執復の處置ヲ探ルコトナキニアリ然レトモ又余輩ノ輕々看過ス可カラサル弊害ヲ生スルアリ夫レ補助ノ制ハ一國全体ヲシテ一ノ特權ヲ承認セシメ獨リ二三ノ産業家ノミ之ヲ利スルニ至リ其極ヤ終ニ彼等ノ資産ハ納稅義務者ノ

金錢ヲ以テ組成セラルハニ至ル可シ是レ實ニ不通ノ論ナリ而シテ輿論モ亦其然ル所以ヲ認ムルモノ、如シ財産上ヨリ觀察スルモ公益ハ固ヨリ私益ニ勝タル可カラス然レトモ是レ敢テ補助ノ方法ヲ以テ絶對的ニ非ナリトスルカ爲メニ非サルナリ唯々其之ヲ實行スルニ當リテ頗ル小心翼々タラサル可カラサルヲ明カサシカ爲メノミ余輩謂ヘラク一般ニ政府ノ下附スル所ノ補助ナルモノハ如何ナル場合ニアリテモ其總額タル一般租稅ノ賦課ヲシテ一層著シキ加重ヲ感セシメサルヲ旨トシ生産ノ範圍廣大ナラサル産業ニノミ應用ス可キナリ加之補助ハ必スヤ將來確實鞏固ナル可キ産業ニノミ之ヲ爲ス可シ詳言スレハ僅少ノ歲月ヲ經ハ容易ニ獨立スルヲ得可ク且多年間補助ノ必要ヲ感セスレテ能ク有益ナル情態ニ於テ外國産業ト競争場悉ク馳驅スルヲ得可キ所ノ産業ニ非サレハ之ヲ救助ス可カラサルナリ抑モ此ノ如ク補助ヲ仰クナクンハ到底得テ存立ス可カラサル産業ハ即チ之ヲ補助スルノ要ナキモノニシテ其例外タル可キモノハ唯々公安保持ノ必要ニ關スルモノニ止マル可キナリ

必要ナシニ補助主義ヲ施行セントモハ其因テ起ル所ノ弊害ハ上來余輩ノ叙述

スル所ノ如シ然リト雖トモ該主義ニシテ其要ヤ切ニ若干ノ産業ニシテ其有益ナルヨリ活動スルニ於テハ政府自ラ之ヲ履行シ以テ親シク産業家トナル彼ノ多少禁止ノ性質ヲ具フル賦税ニ依レテ須非ス保護貿易ノ制度ノ良果ヲ取ルルニ付キ尙ホ一ノ方法アリトローバツク主義(Drawback)即チ是ナリ所謂「ローバツク」トハ何ツヤ内國ニ輸入シ以テ土着ノ産業家ノ生産物ト爲サントスル所ノ外國生産物ニ附與スル通行免許ノ種類ナリ但シ此場合ニアリテハ外國生産物ハ着實以テ内國ニ輸入セラレ内國ニ存スルハ唯テ消費セラレンカ爲メノミ若シ一朝海外ノ消費物トナラシカ乃チ直ニ國外ニ輸出セラルハナリ抑モ該主義ノ便益ハ内國市場ニ於テ外國商家ト競争ノ地位ニ起テ深ク保護主義ノ切要ヲ感スル所ノ産業ノ利益トシ外國市場ニ在テ外國生産ト相馳驅シ以テ其ノ勝算ヲ懷クカ爲メ自由貿易ノ必需ヲ知ル所ノ産業ノ利益トヲ能ク相調和スルヲ得ルニアリ是ヲ以テ該主義ハ當ニ左ノ數言ヲ以テ略述スルヲ得ヘシ曰ク内國生産ニ對シテハ宜シク保護貿易ヲ施スヘシ外國生産ニ向テハ須ラク自由貿易主義ヲ行フヘシト若シ該主義ニシテ能ク實行セラレタラシハ眞ニ完

全無瑕ノ美事ト謂フヘシ惜ムラクハ實際全ク斯クノ如クナル能ハス彼國港ニ出入スル生産物ニ對シテ行フ可キ所ノ監督ハ實ニ至難ノ業ナルヲ以テ此理論上頗ル有益ナル可キ主義ノ世人ノ拋棄スル所トナラサルハ幾ント希レナリ蓋シ實際ニ於テハ「ローバツク」ハ左ノ方法ヨリ成ル即チ外國生産物ニ課税スルニ其内國ニ輸入ノ時ヲ以テシ之ヲ取得ス可キ各人ハ皆ナ其税額ヲ納メサル可クナルナリ然リト雖モ單ニ其外國生産物ヲ輸入スルハ全ク一時ニシテ其旨トスル所ハ僅ニ之ヲ修整シ更ニ再ヒ海外ニ輸出スルニアラシカ初メ納附セシ所ノ租税ハ其輸出ノ際政府之ヲ還附ス可ク從テ所謂自由貿易主義ノ狀態トナル可シ

故ニ政府ニシテ右還附ノ職務ヲ果サンニハ主トシテ海外生産物ノ租税ヲ納濟セルコトヲ明ラメサル可ラス從テ納濟シタルモノノ外還附スルノ要ナキコト政府ノ受ケサル金額ヲ與フルニ及ハサルコトヲ知ラサル可カラス而シテ其之ヲ知悉センニハ税關局ニ於テハ諸種ノ計算ヲ爲サ、ル可カラス然リト雖モ此等ノ計算タル凡百ノ生産物ニ關シテ施行スルコトハ殆ント爲シ得サル所ナラ



今二三ノ例ヲ以テ之ヲ示サシニ初メ國內ニ輸入セラル、ニ方リ單純ナル構造ヲ以テ現ハレタル金礦カ後ニ內國產業場ニ於テ種々ノ形狀ヲ受ケタルハ其分量ノ度果シテ幾何ナル可キヤ如何ニシテ其變形シタル生産物ニ輸入セラレタル金礦ノ全量ヲ包含スルヲ知リ得可キヤ若干ノ租稅ヲ徵收セラレタル絹ノ幾量ハ半ハ綿ヲ以テシ半ハ絹ヲ以テスル生産物ヲ製造スルニ當リテ全部使用セラレタル者ナルヤ否還附ヲ要求セラル、所ノ租稅ハ果シテ全部返還セラレタルモノナルヤ否此等ノ諸點ヲ審カニスルハ頗ル至難ノ業ニシテ殆ント超越ス可カラサル障礙ナリト謂フモ可ナラン此ニ於テカ該保護方法タル一時之ヲ行ヒタル者アレトモ爾來全ク之ヲ願ミル者ナキニ至レリ然リ而シテ右ノ計算ニハ往々詐僞ノ患アリ其弊ヤ國庫之ヲ負擔セサル可カラサルニ至ル加之外國市場ニ於テ幾何ノ産業ニ附與シタル所ノ保護ハ全ク無益ニ屬スルコトアリ何トナレハ海外遠征ヲ主張スル所ノ産業家ハ其實內國ニ留マリ外國産出ノ原料ヲ以テ製造セル內國生産物ト相競フカ如キ有様ニ陷ユルヲ以テナリ
以上略論シ來リタル三種ノ方法ハ蓋シ保護ヲ受クルノ要用ナル生産業ヲ保護

スルニ當テ依據ス可キ最重手段ナリ然リト雖トモ最モ簡單ナル且ツ最モ應用セラル、所ノモノハ保護的租稅(*tarifs de protection*)ノ方法ナリトス蓋シ此方法ハ頗ル善良ナル結果ヲ生スルモノニシテ其之ヲ實施センニハ收稅署ハ前ニ余輩カ自由貿易ト保護貿易トニ就テ爲シタル研究中ニ論述シタル所ノ一般ノ觀察ヲ遺忘スル勿クシハ可ナリ

本學科ノ譯述ニ關シテハ余大橋日出生氏ノ後ヲ襲キ奢修ノ章ヨリ以下本紙上ニ於テ屢々讀者諸君ニ相對スルノ榮ヲ得タリ然ルニ敬愛ス可キルヴヒリヨ一先生ハ任滿チテ歸國ノ途ニ上リ爲メニ其擔當部分ヲ完結スルヲ得サルニ至レリ惜ヒ哉然リト雖トモ先生日常從容トシテ曰ク余ハ本講義ヲ爲スニ當リ勉メテ先進著述中ニ列舉セル所ヲ復述セス一意社會問題決定ノ方針ヲ取ル可シ而シテ本講義既已ニ此ニ至ル吾子他日該問題ヲ研究スルニ幾分ノ補裨スル所ナントセンヤト蓋シ社會問題ハ現今歐洲大陸ニ於テ最モ重要ナル活問題トナレリ我國ノ如キ亦將ニ其

發起スルヤ或ハ目隄ノ間ニ迫マルモノアラシト豈ニ識者ノ輕々看過ス可キ所ナランヤ

大橋氏ハ本講義中産業ニ關スル規定(Reglementation des industries)ノ章ニ至テ筆ヲ斷テリ然レトモ該章中餘マス所アリ今之ヲ譯シテ以テ其缺クルヲ補フ

木村 誠次郎 識

婦女ノ勞働

婦女ノ勞働ニ付テハ亦頗ル議論ノ在ルアリ余カ前ニ兒童ノ勞働ノ爲メニ明示シタル所ノ理由ハ此場合ニ於テモ亦存在ス其所謂理由トハ婦女ノ勞力多キトキハ多數ノ男子爲メニ其職業ヲ失フコト是レナリ何トナレハ數多ノ婦女ハ極メテ低廉ナル賃銀ヲ以テ比較上著大ノ事業ヲ成就ス若シ彼等ヲシテ職ヲ執ルコトナカラシメハ其事業ハ皆男子ノ手ニ歸ス可ケレハナリ加之婦女ノ勞働ニ付テハ前段述ヘ來リタル所ヨリ一層有力ナル理由ノ存スルヲ見ルベシ抑モ婦人ハ家族ノ保護ニ從事スルノ必要アリ然ルニ若シ他人ノ爲ニ勞働ニ從事シ一家糊口ノ資ニ供スルトキハ決シテ家内百般ノ事務ヲ料理スルノ任ニ當ル能

ハス故ニ室内ノ洒掃衣服ノ整理薪水ノ勞ノ如キモ彼ヲシテ之ニ從事セシムル能ハス是ヲ以テ夫ハ其業ヲ終リテ家ニ歸ルヤ終日ノ疲勞ヲ忍ビ食料ヲ市場ニ求メ自ラ之ヲシテ調理セサルヘカラス又兒童ハ慈母ノ庭訓ヲ受クル能ハス氣隨ニ成長スルヲ以テ其智徳ヲ發育セシムル能ハス事態斯ノ如クナルキトハ人情轉々冷淡トナリ親族相愛スルノ念日ニ相去リ其慘狀實ニ云フニ忍ヒサルニ至ラシ蓋シ婦女ノ專ラ内政ニ注意スルハ誠ニ肝要ノ職務ニシテ一家ノ福利皆之ニ基カサルハナシ故ニ婦女タル者能ク此職ヲ盡スヲ得バ他復憂フル所ナケン然レトモ此婦女ヲシテ專ラ力ヲ内政ニ用ヒ能ク其ノ本務ヲ完フセシメント欲セハ須ララ之ニ其方法ヲ授ケサルヘカラス若レ之ヲシテ外部ノ勞役ニ服セシメハ如何ニ其本務ヲ完フセント欲スルモ決シテ得ヘカラサルナリ然レトモ婦女ヲシテ外部ノ勞働ニ從事セシメサラント欲セハ充分ノ報酬ヲ得ル業務ヲ執ル能ハサル所ノ者ニ自今補償ヲ與フルノ道ヲ求メサレバ決シテ其目的ヲ達スル能ハサルヘシ即チ一身ノ勞働ニ依リ妻子ノ口ヲ糊スル能ハサル者ニハ一定ノ規則ヲ設ケ其給料ヲ補充スルヲ要ス但シ補充ノ金額ハ家族ノ員數ヲ斟酌シ

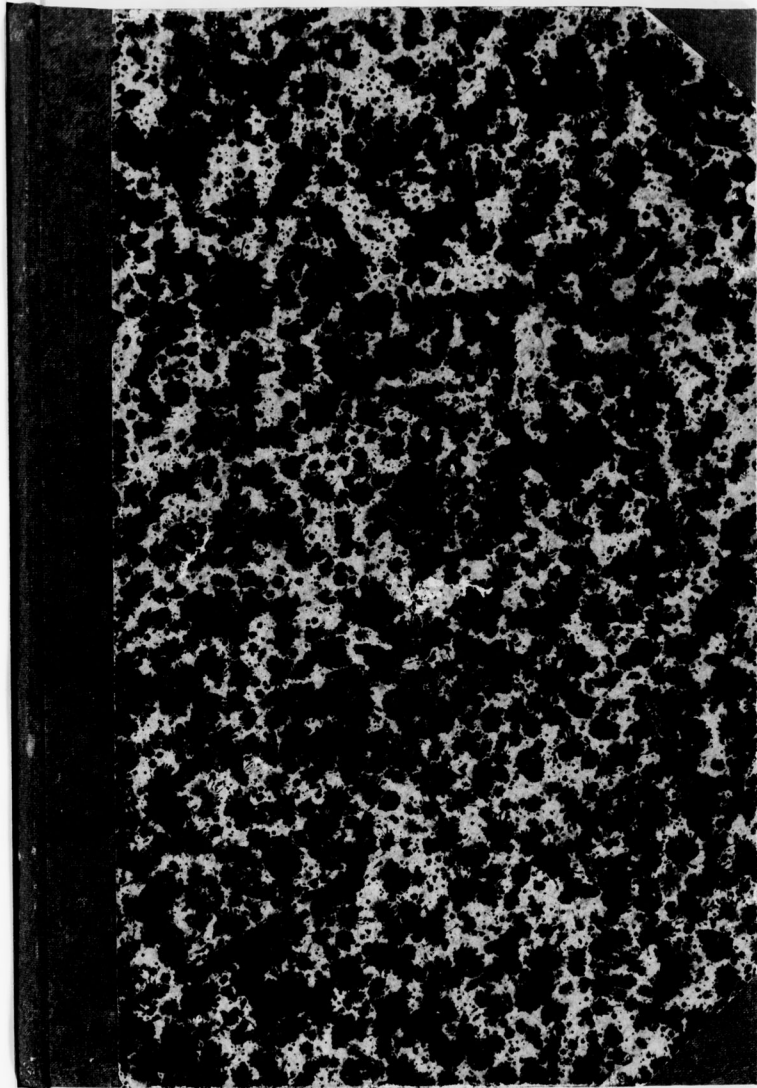
(理財學)

テ之ヲ定メサルヘカラス論者或ハ云ハン報酬ハ勞力ノ多少ニ依テ定ムヘキモ
ノナリ今勞力ノ報酬ヲ定ムルニ關係ナキ事情ヲ斟酌スルハ頗ル道理ニ背クモ
ノナリト然レトモ余ハ敢テ家族ナキ者ノ給料ヲ減少セント主張スルモノニ非
ラス唯數多ノ家族アル者ニ對シ現在ノ給料ヲ増加セント欲スルノミ豈ニ之ヲ
道理ニ背クモノト云フヲ得ン何トナレハ家族ノ責任アル者ハ未婚者ト同額ノ
給料ヲ受クルモ之レト同一ノ満足ヲ得ル能ハサルヲ以テ決シテ同一ノ利益ヲ
得タリト云フ能ハサルヲ以テナリ

理財學講義



0158



0159